

令和6年度「第3回 生態系被害防止外来種リスト
の見直しに係る検討会」

議 事 次 第

日時： 令和6年9月17日（火） 15:00 ～ 17:00

場所： オンライン（Cisco Webex）

1. 開会

2. 議事

- （1）外来種被害防止行動計画の見直しについて【報告事項】
- （2）リスト改定の方角性について【検討事項】
- （3）リスト加除対象候補について
- （4）その他

3. 閉会

検討会参加者名簿

■構成員（五十音順）

安部 哲人	日本大学 生物資源科学部 教授
石井 実	大阪府立大学 名誉教授 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
石橋 徹	いのかしら公園動物病院 院長
岩崎 敬二	奈良大学文学部地理学科 教授
小林 達明	千葉大学 名誉教授
川上 和人	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 野生動物研究領域 鳥獣生態研究室 室長
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員
西田 智子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事（人事・人材育成担当）
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
亘 悠哉	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 野生動物研究領域 鳥獣生態研究室 主任研究員

■農林水産省

古林 五月	大臣官房みどりの食料システム戦略グループ 課長補佐
湊谷 陽太	大臣官房みどりの食料システム戦略グループ 係長
藤井 智久	農林水産技術会議事務局 研究開発官室 研究専門官

■林野庁

津山 藍	森林利用課 花粉発生源対策調整官
藤本 泰樹	森林利用課 森林環境保全班 企画係長
本間 伸一郎	研究指導課 森林保護対策室 計画指導係長
日吉 晶子	森林利用課 森林環境保全班 推進係長

■水産庁

大野 蒼一郎	増殖推進部 漁場資源課 生態系保全室 環境調査班・調査第2係
--------	--------------------------------

■環境省

中澤 圭一	自然環境局野生生物課 課長
松本 英昭	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長
藤田 道男	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐
田口 知宏	自然環境局野生生物課外来生物対策室 係長

配付資料一覧

資料 1 : 外来種被害防止行動計画の見直しについて

資料 2 : 生態系被害防止外来種リストの見直しの検討事項について

資料 3 - 1 : リストの見直しに係る作業方針について

資料 3 - 2 : リスト加除対象の候補種の抽出方法及び選定基準

資料 3 - 3 : リスト加除対象の候補種一覧<動物>

資料 3 - 4 : リスト加除対象の候補種一覧<植物>

参考資料 1 : 生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会設置要綱

参考資料 2 : 生態系被害防止外来種リスト

種一覧 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/list.pdf>

掲載種の付加情報（動物）

https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka_animal.pdf

掲載種の付加情報（植物）

https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka_plant.pdf

補足資料 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/hosoku.pdf>

パンフレット <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/files/list.pdf>

リーフレット（一般向け）

https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/list_ippan.pdf

リーフレット（業者向け）

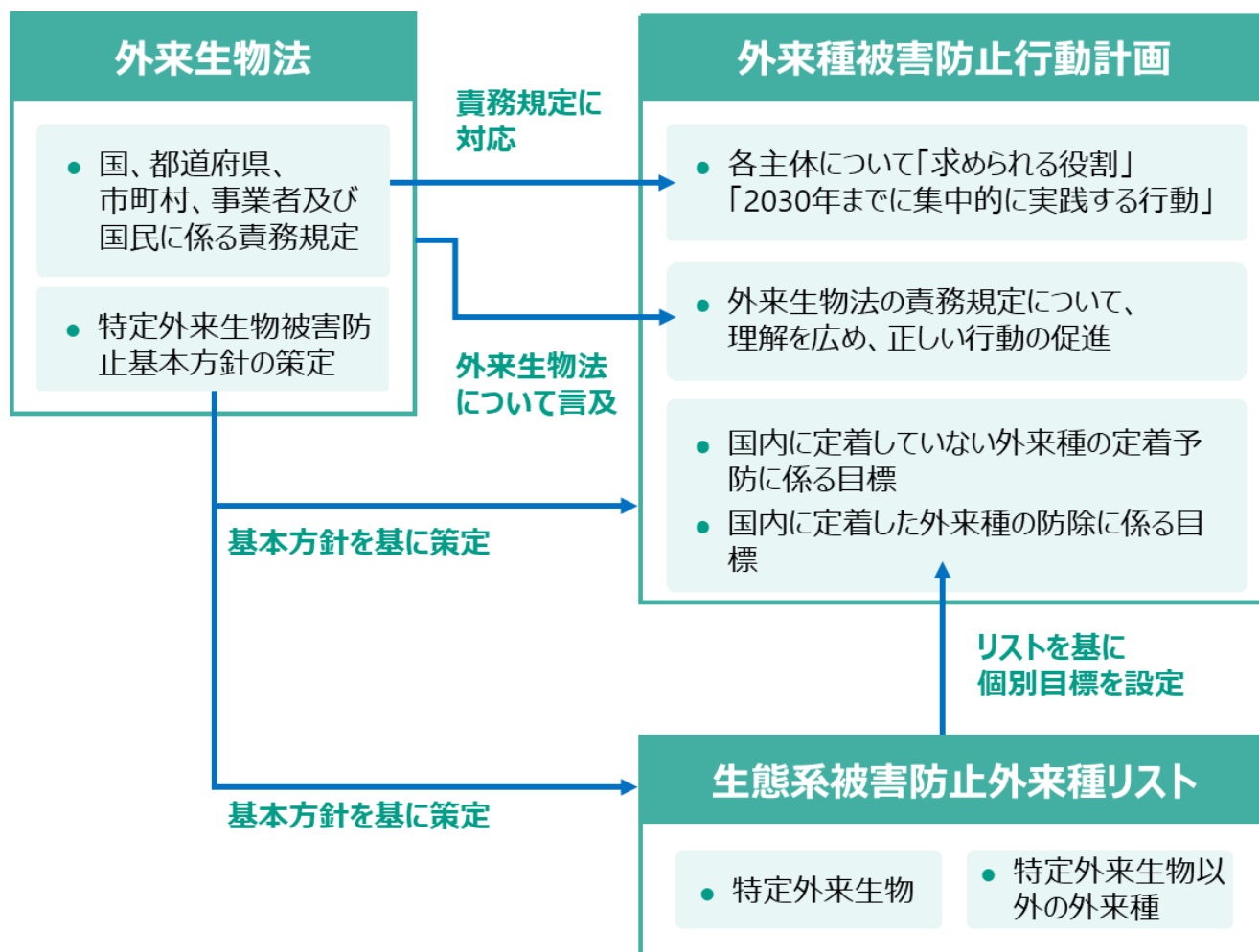
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/list_gyosha.pdf

参考資料 3 : 意向調査の結果概要

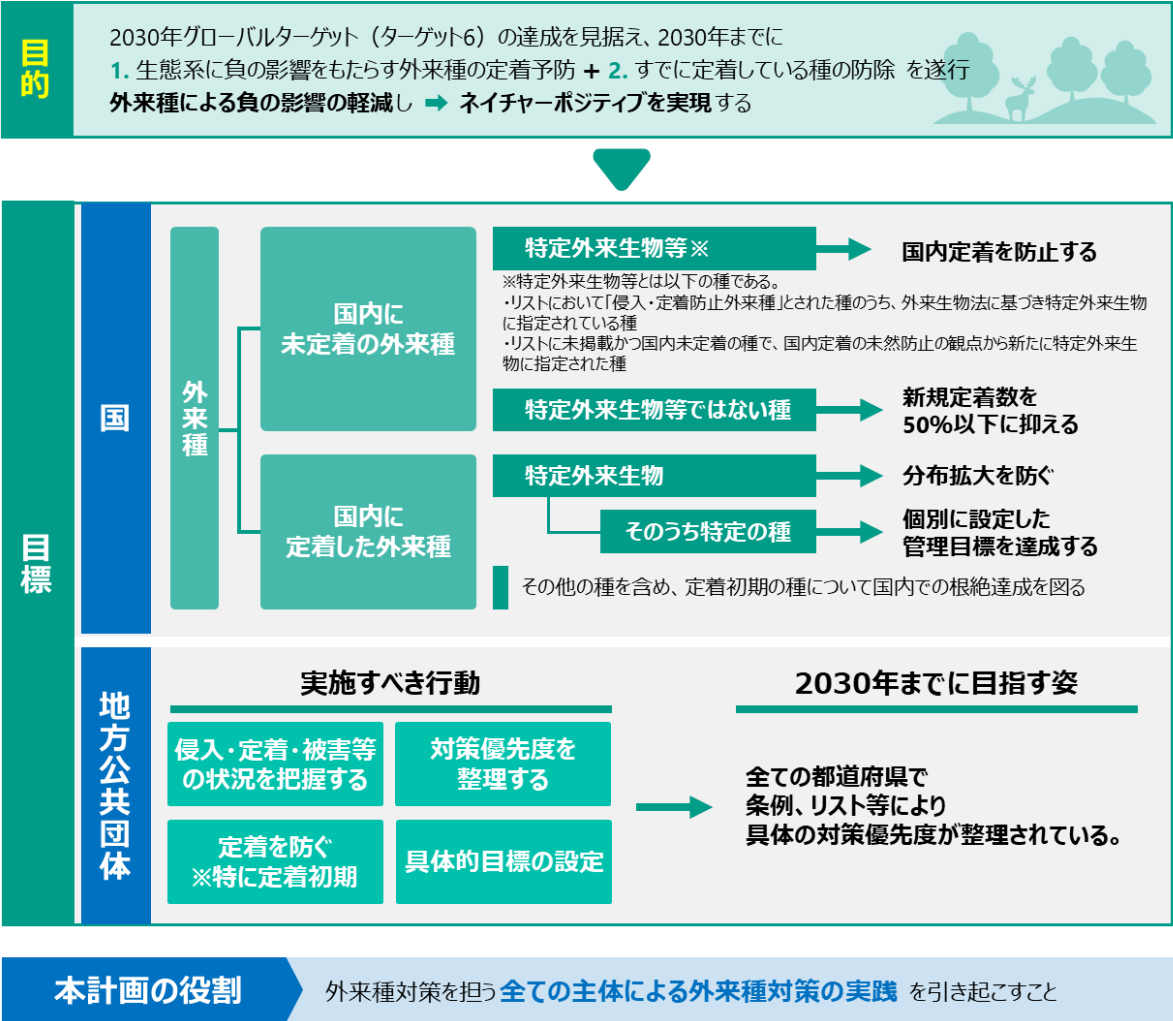
参考資料 4 : 第 1 回魚類 WG 及び植物 WG の議事概要

外来種被害防止行動計画の見直しについて

<外来種被害防止行動計画と生態系被害防止外来種リストの関係について>



＜行動計画の目的、目標及び役割における生態系被害防止外来種リスト＞



※定着の定義は、生態系被害防止外来種リストでの整理に基づくものであり、定着段階は「未定着」、「定着初期/限定分布」、「分布拡大期～まん延期」、「感染症・寄生生物」及び「小笠原・南西諸島」に分類されている。

・国単位の目標

○国内に定着していない外来種の定着予防に係る目標

☑特定外来生物等（※）：国内定着を防止する。

※特定外来生物等とは以下の種である。

- ・新生態系被害防止外来種リストにおいて「侵入・定着防止外来種」とされた種のうち、外来生物法に基づき特定外来生物に指定されている種
- ・新生態系被害防止外来種リストに未掲載かつ国内未定着の種で、国内定着の未然防止の観点から新たに特定外来生物に指定された種

☑「侵入・定着防止外来種」のうち特定外来生物でない種：新規定着数を50%以下に抑える。

$$\frac{[\text{新リスト「『侵入・定着防止外来種』であり特定外来生物でない種」のうち定着した数(2025年3月～2030年末)}]}{[\text{現行リスト「『定着予防外来種』であり特定外来生物でない種」のうち定着した数(2015年3月～2020年末)}]} \leq 1/2$$

○国内に定着した外来種の防除に係る目標

☑特定外来生物：分布拡大を防ぐ。

☑以下の種について、影響軽減に向け個別に設定した管理目標を達成する（表）。

- ・生態系等への影響が特に大きな種
- ・新生態系被害防止外来種リストにおいて「総合対策外来種」とされた種のうち、生物多様性の保全上の重要度が高い地域に定着している種

☑定着初期の種について、国内での根絶達成を図る。

表：個別種目標（一部抜粋）

クビアカツヤカミキリ等	国内で分布が確認されている地域（※全国対象）	・分布拡大の最前線の地方自治体のうち○割の自治体が、防除を実施している。 ・○以上の市区町村において、防除により被害が減少傾向にある
ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイ等	国内で分布が確認されている地域（※全国対象）	・効果的な防除手法の確立を目指す。 ・○以上の市町村において、防除により生育面積が縮小し、その状態が維持されている地区が見られる。

・地域単位（地方公共団体ごと）の目標

○外来種の侵入・定着、被害等の状況を把握する。

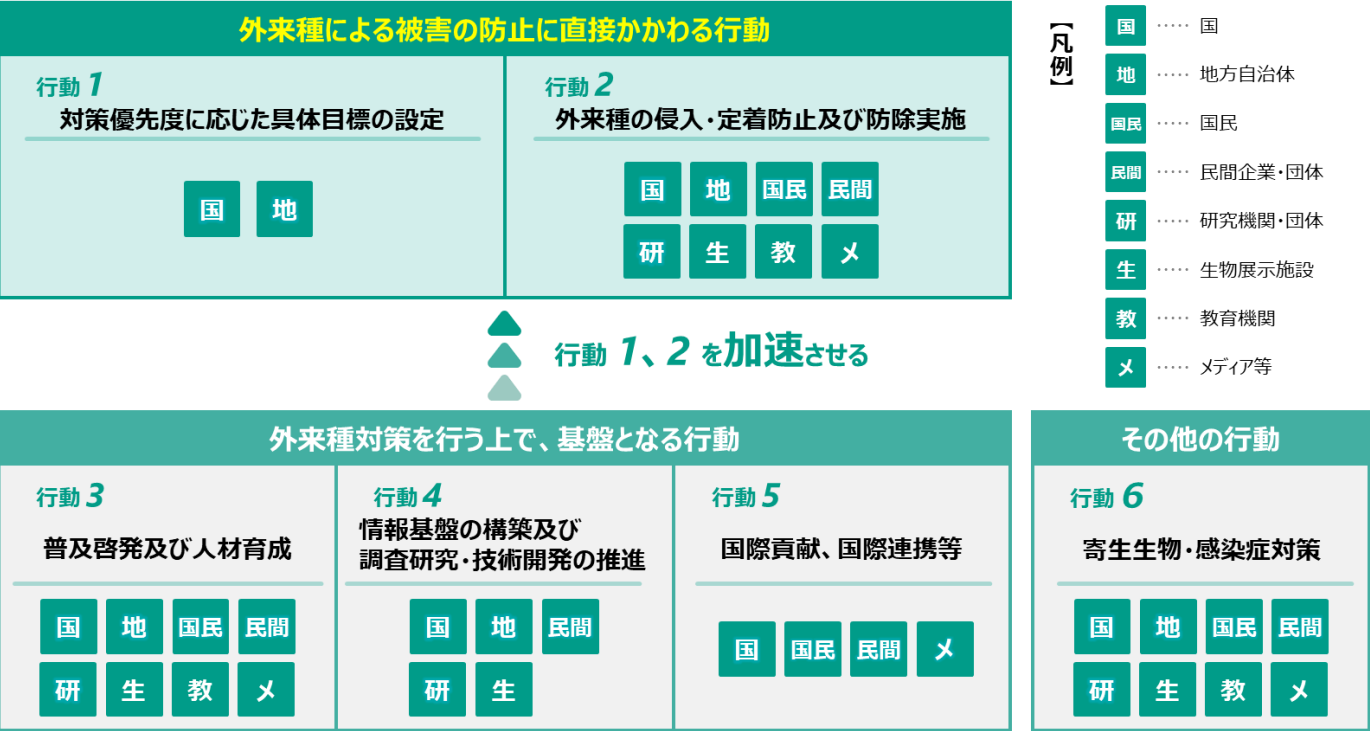
○域内に未定着であり生態系等に被害を及ぼし得る外来種：域内定着を防ぐ。

○域内に定着した種：対策優先度を整理の上、具体的な目標を設定し、その達成を図る。

○定着初期の種については、域内での根絶達成を図る。

○全ての都道府県において、条例、リスト等により具体の対策優先度が整理されている。

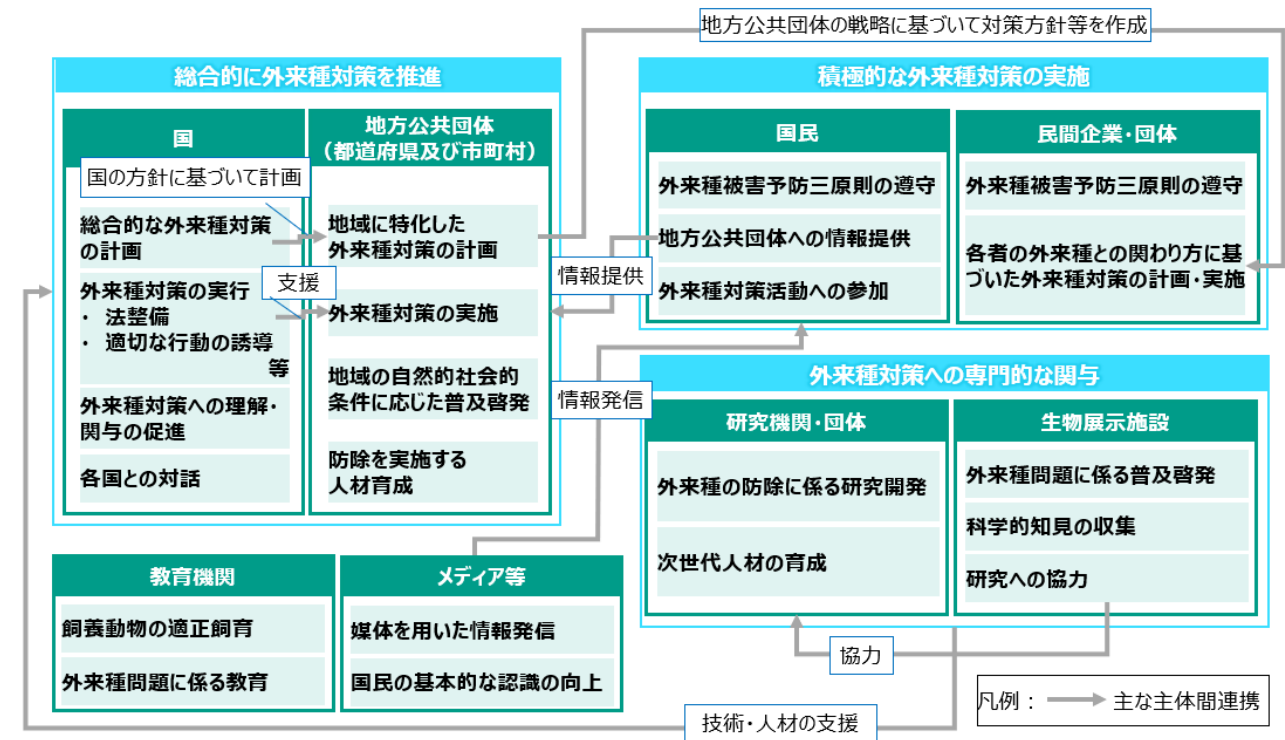
＜目標達成のために実践すべき6つの行動＞



○行動目標4

・生態系被害防止外来種リストのうち防除推進外来種については既存技術の共有、改良、及び新規の技術開発を、防除検討外来種については防除の実施の検討に必要な基礎的な情報の収集を試みる。

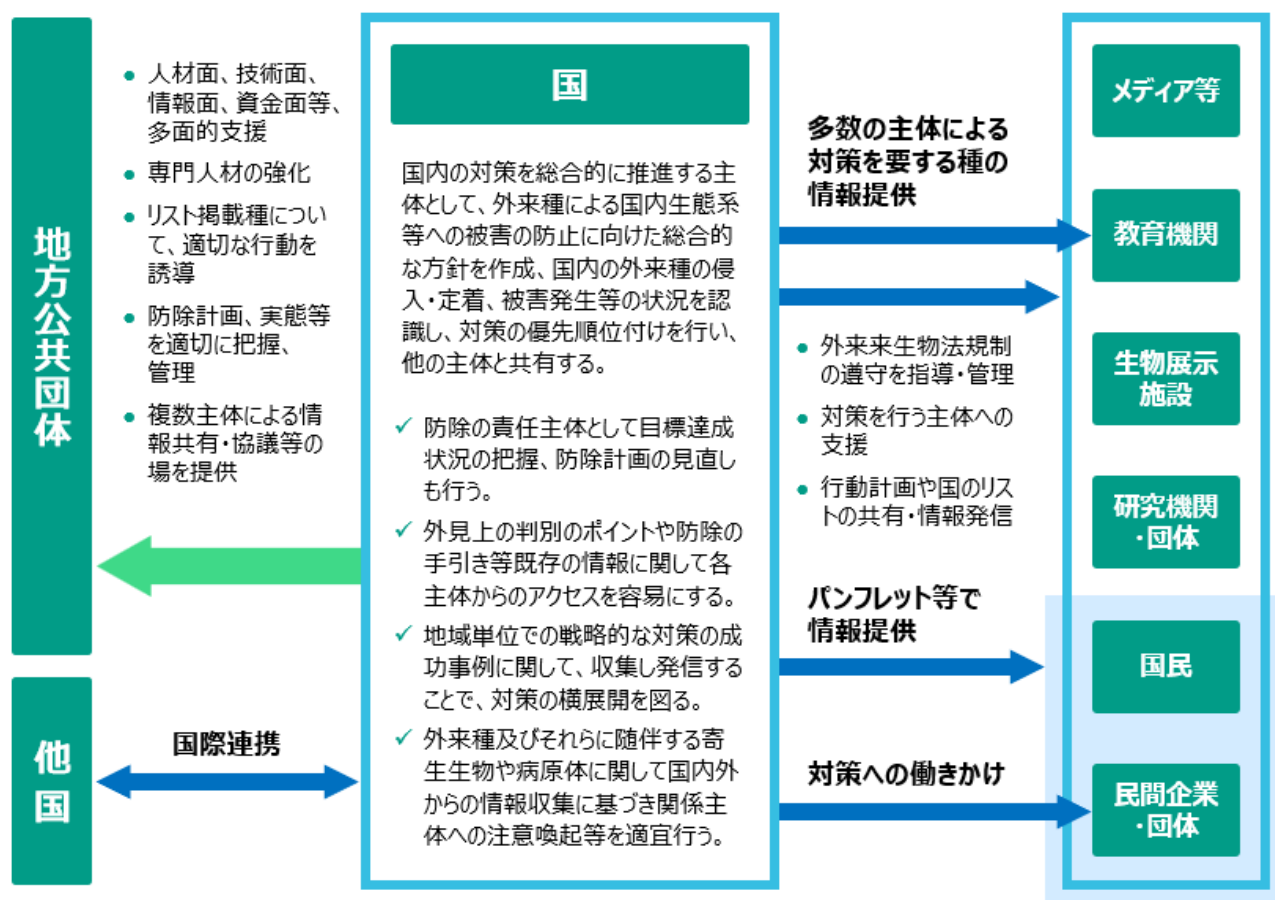
＜各主体の役割と行動＞



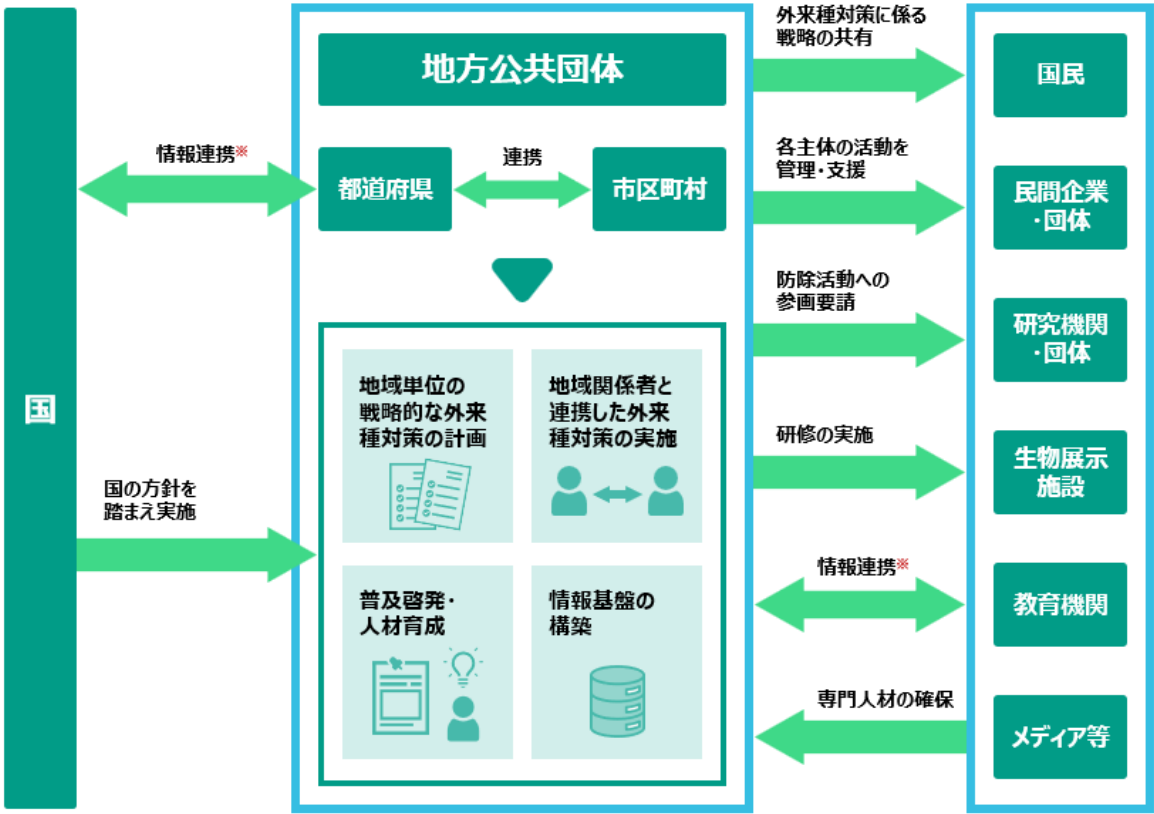
○全主体が共通して取るべき基本的な行動

- ① 特定外来生物、その他生態系等への被害をもたらす外来種を意図的に取り扱う場合には、特定外来生物については外来生物法に基づく規制を遵守し、生態系被害防止外来種リストの掲載種、地域毎のリスト等の掲載種含めて、外来種被害予防三原則に基づく行動を取る。
- ② これら外来種を意図的に取り扱うことがない場合にも、活動地域や関与する可能性のある外来種からの被害の大小に応じて、外来種の導入を未然に防ぐための行動を積極的に行う（例えば、生物多様性の保全上重要な地域への立入りの前後に身体や所有物に外来種が付着していないことを確認し洗浄する、要緊急対処特定外来生物の侵入拠点において定期的に外来種の侵入の有無を点検し、問題があれば関係機関に連絡するというように、立場に応じて実行可能な行動は様々である）。

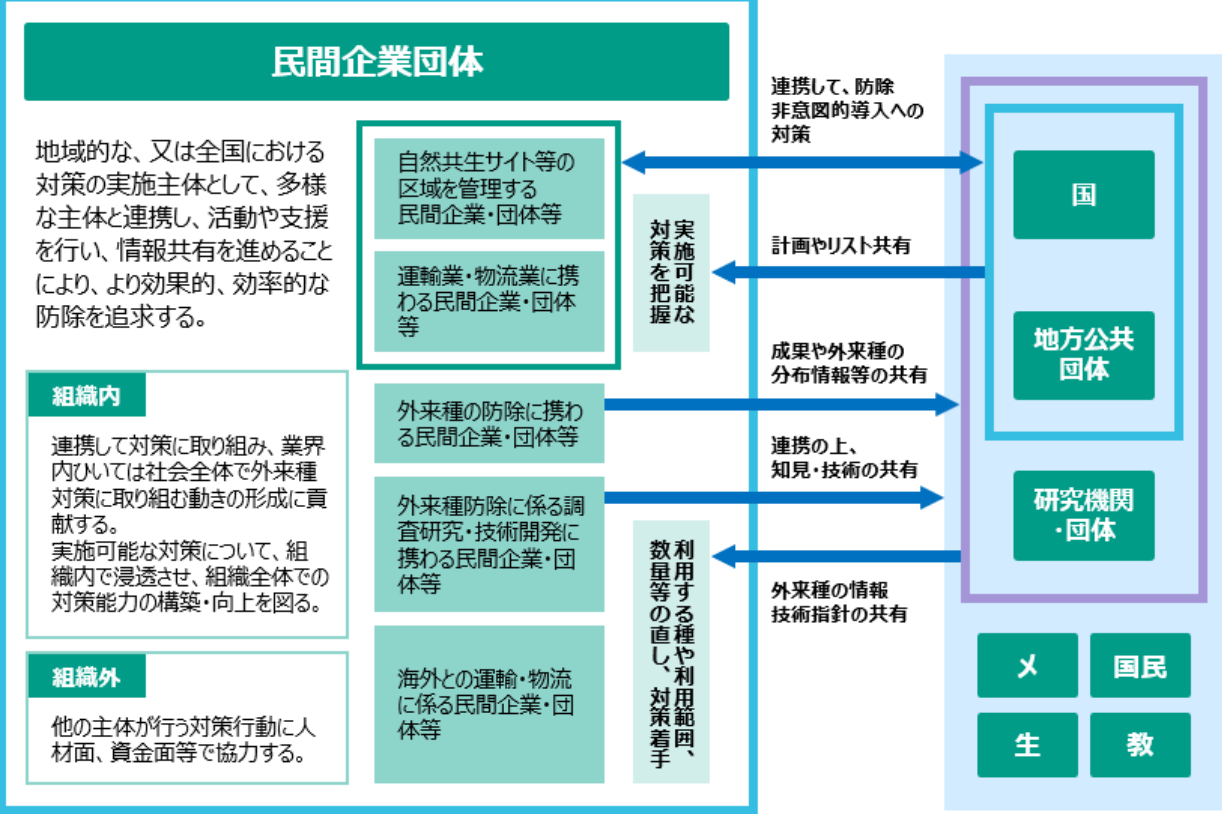
＜国の役割と行動＞



＜地方公共団体の役割と行動＞



＜民間企業の役割と行動＞



(参考) 関連する計画の目標及び指標の比較

	昆明・モントリオール生物多様性枠組	生物多様性国家戦略 2023-2030	新外来種被害防止行動計画
計画 期間	2022. 12～2030. 12	2023. 3～2030. 12	2025. 3～2030. 12
目 標	Eliminate, minimize, reduce and or mitigate the impacts of invasive alien species on biodiversity and ecosystem services by identifying and managing pathways of the introduction of alien species, preventing the introduction and establishment of priority invasive alien species, reducing the rates of introduction and establishment of other known or potential invasive alien species by at least 50 per cent by 2030, and eradicating or controlling invasive alien species, especially in priority sites, such as islands. 【仮訳】外来種の導入経路を特定及び管理し、対策優先度の高い侵略的外来種の導入及び定着を防止し、他の既知又は潜在的な侵略的外来種の導入率及び定着率を 2030 年までに 50%以上削減するとともに、特に島嶼などの重要度の高い場所における侵略的外来種の根絶又は管理によって、侵略的外来種による生物多様性と生態系サービスへの影響を除去、最小化、低減及び、又は緩和する。	汚染の削減（生物多様性への影響を減らすことを目的として排出の管理を行い、環境容量を考慮した適正な水準とする）や、侵略的外来種による負の影響の防止・削減（侵略的外来種の定着率を 50%削減等）に資する施策を実施する。	1．定着していない外来種の定着予防に係る目標 国単位では、 ☑特定外来生物等：国内定着を防止する。 ☑その他の種：新規定着数を 50%以下に抑える。 地域単位では、域内に未定着であり生態系等に被害を及ぼし得る外来種について、域内定着を防ぐ。 2．定着した外来種の防除に係る目標 国単位では、 ☑特定外来生物：分布拡大を防ぐ。 ☑生態系等への影響が特に大きな種及び生物多様性の保全上の重要度が高い地域に定着している種：個別に設定した管理目標を達成する。 ☑定着初期の種について、国内での根絶達成を図る。 地域単位では、域内に定着しており、域内の生態系等に被害を及ぼす外来種のうち優先度の高い種について、対策優先度を整理の上、具体的な目標を設定し、その達成を図る。 また、国・地域で共通して、とりわけ定着初期の種を中心に、集中的な防除に取り組み、国内又は域内での根絶達成を図る。
指 標	・Rate of invasive alien species establishment 【仮訳】侵略的外来種の定着割合 ※別途バイナリー指標が設定される見込み	・侵略的外来種の新規定着率（2030 年時点の「生態系被害防止外来種リスト掲載種及び特定外来生物に指定されている種のうち、2021 年以降に新規に定着した種数」/2030 年時点の「生態系被害防止外来種リスト掲載種及び特定外来生物に指定されている種のうち、2011－2020 年の間に新規に定着した種数」とする（毎年）） ・ヒアリの定着地点数（環境省が実施する全国の 65 港湾におけるヒアリの調査結果等と発見時の防除作業等を踏まえて定着地点を算出する。（毎年）） ・特定外来生物の根絶宣言数（外来種の定着抑止にかかる行動の成功について、特定外来生物の根絶宣言数を把握する。地域根絶を含む。（随時） ・外来生物法に基づく防除の公示・確認・認定件数（外来法に基づく防除の実施状況について把握する（毎年）） ・地方自治体における外来種に関するリストの作成と条例の策定数（外来種の規制に関する行動状況の広がりについて、外来種に関するリスト・条例数を把握する（毎年））	1．定着していない外来種の定着予防に係る指標 ①国単位で計測 a. 「侵入・定着防止外来種」で特定外来生物、リスト外で特定外来生物に指定された種の定着数 b. 「侵入・定着防止外来種」で特定外来生物以外の定着進度（定着数の前期間比） ②地域単位で計測 a. 条例、リスト等により定着を防止すべき種を整理した地方公共団体数 b. a で整理された種の定着数 2．定着した外来種の防除に係る指標 ①国単位で計測 a. 「総合対策外来種」で特定外来生物、リスト外で特定外来生物に指定された種のうち、分布拡大をしなかった種数 b. 「総合対策外来種」のうち特定種の管理目標を達成した種割合 ②地域単位で計測 a. 条例、リスト等により防除優先度や特定種の防除目標を整理した地方公共団体数 b. a で整理された防除目標を達成した種割合 ③国及び地域の両単位で計測 a. 国内又は域内での根絶を達成した事例数

生態系被害防止外来種リストの見直しの検討事項等について

1. 生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会におけるこれまでの決定事項と主な議論等

(1) 見直しの方向性と決定事項

2023（令和5）年より実施している検討会において議論があったリストの見直しの方向性については以下のとおり。

項目	決定事項
見直しに係るスケジュール	・2025年度末までにリスト見直しを完了する。 (本資料末尾スケジュール参照)
作成手順、選定基準等について	・現行リストの作成方法を踏襲することに異議はなし。 ・特定外来生物に指定されているものについては全て掲載する。 ・加除対象候補種を含め、候補種リストは事務局で検討し、WG・検討会の委員からも提案いただき検討する。
最終的にリストに追加しなかった候補種について	・リストとは別に、掲載可否評価項目ごとの評価と併せて公表する予定とする。
カテゴリ区分及び名称について	・下表（黄色着色部分）のとおり変更。

★変更後のカテゴリ枠組及び名称

現行リスト	【新リスト】
定着予防外来種 侵入予防外来種 その他の定着予防外来種	侵入・定着防止外来種 侵入予防外来種 定着防止外来種
総合対策外来種 緊急対策外来種 重点対策外来種 その他の総合対策外来種	総合対策外来種 防除推進外来種 防除検討外来種
産業管理外来種	産業管理外来種

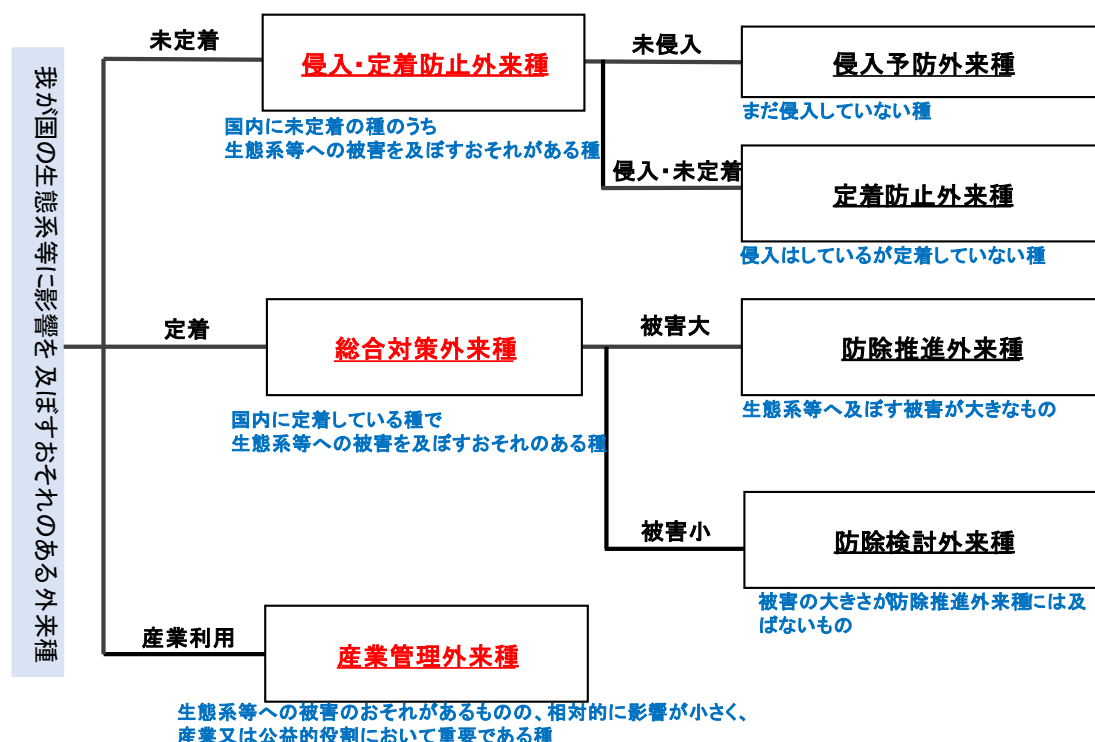
※大カテゴリの定着予防外来種を、「侵入・定着防止外来種」に名称を変更。

※小カテゴリのその他の定着予防外来種を、「定着防止外来種」に名称変更。

※総合対策外来種のうち、「緊急対策外来種」と「重点対策外来種」の区分を統合。

その生態系等への被害の深刻度のみにより、防除に優先的に取り組むべき「防除推進外来種」と、それよりも優先度が低い「防除検討外来種」（旧名称：その他の総合対策外来種）の2区分に分類。

各カテゴリの概要



(2) 令和5年度検討会における意見及び検討事項等への対応案について

令和5年度検討会において、リスト見直しに関するご意見と検討事項のうち、対応と今後の検討予定については以下のとおり。

1) 今回の提案事項

項目	検討事項等
分類群ごとの分担作業	(第1回ご意見) WG 未実施の分類群の担当者を明確化すべき。 ➡本検討会をもって提案したい。 哺乳類：亘委員、鳥類：川上委員、両生・爬虫類：石橋委員、昆虫類・陸生節足動物：石井委員、その他無脊椎動物：岩崎委員、中井委員 いくつかの分類群は必要に応じて別途専門家にヒアリングを想定。
種の名称の記載方法について	(第2回ご意見) 和名とともに流通名なども明記すべき。 ➡植物において、流通名及び別名等を記載されており、動物でも同様の手順をとることで作業を進めている(2. 表示内容の見直し 参照)。
新たに考慮すべき評価項目について	(第2回ご意見) 人獣共通感染症による影響を考慮。 (同) 今でも逸出が続いているものについて考慮。 (同) 捕食者としてだけでなく、被食者としての側面による影響を組み込むことを考慮。 ➡感染症については付加情報に掲載を想定。詳細項目の書きぶりの修正や加筆を実施(資料3-2 参照)。
要注意外来生物について	(第2回ご意見) かつて要注意外来生物に指定されていた説明は残っていてもいいのでは。 ➡当該説明は、要注意外来生物リストの発展的解消と生態系被害防止外来

	種リストの作成に伴う情報の連続性を担保するための措置であり、現在は必要性がなくなったため、基本的には削除とする方向としたい。
導入という用語の使い方について	(第2回ご意見)「導入」という言葉には人が持ち込むという印象があるため、誤解のないように導入可能性という文言は、侵入可能性に変更すべきだ。 (第1回魚類WGご意見) 導入とかは一般の方には分かりにくいと思うので、例えば放流とか、そういう言葉に置き換えたらどうか。 ⇒分かりやすい表現については、行動計画の状況も踏まえつつ、必要に応じて検討する。

2) 次回以降に検討予定の項目等

項目	ご意見の概要及び検討事項等
リストの名称について	(第1回ご意見) リストの正式名称が非常に長いため、「ブラックリスト」や「ブルーリスト」等の簡易的な名称を設けた方が良い。 (同)「ブルーリスト」とした場合、一部から反発もあり得る。 ⇒現状事務局では特段名称案なし。ご意見あれば適宜検討。
評価基準の交雑の位置づけについて	(第2回ご意見) 交雑は生態系被害ではなく、遺伝資源に係るものである。強調の仕方を工夫した方が良い。 ⇒具体的な記載についてご意見あれば適宜検討。
上位分類群(科、属等)で指定されている特定外来生物について	(第2回ご意見) 各種の定着状況に応じて、カテゴリを整理した方がよい。 ⇒対応予定。次回検討会時に各掲載種のカテゴリ提示を想定。

2. 表示内容等の見直し案の提示（検討事項）

（1）生態系被害防止外来種リスト 表示内容の見直し案

現行リスト	改定リスト
本体	
・和名 ・学名 ・分類群 ・選定理由（Ⅰ～Ⅳ（動物）、Ⅰ～Ⅴ（植物）の番号で整理） ・カテゴリ区分 ・定着段階（未定着／定着初期／拡大期～まん延期の3段階で整理し、限定分布の場合は定着初期にその旨記載。また、感染症・寄生生物の場合、小笠原・南西諸島に分布している場合、国内由来外来種の場合はその旨のみ記載） ・特定外来生物か否か ・旧要注意外来生物か否か <総合対策外来種の場合> ・対策優先度の要件（①～⑤の番号で整理）	・和名（<u>別名、流通名</u>） ・学名 ・分類群 ・選定理由（Ⅰ～Ⅳ（動物）、Ⅰ～Ⅴ（植物）の番号で整理） ・カテゴリ区分 ・防除事例及びマニュアルの有無 ・定着段階（未定着／定着初期／拡大期～まん延期の3段階で整理） ・日本での分布 ・国内由来外来種か否か ・特定外来生物か否か（削除） ・要緊急対処特定外来生物か否か <総合対策外来種の場合> ・対策優先度の要件（①～④の番号で整理）
付加情報（別紙）	
・掲載可否評価項目毎の評価（○、◎、－で整理） ・原産地及び国外分布 ・日本での分布 ・生息環境等（「森林」、「河川」等） ・利用状況 ・利用上の留意点 ・備考（定着理由、具体の被害状況等の情報を雑多に整理） ・リスト掲載根拠（特定外来生物か否か等） ・文献等	・掲載可否評価項目毎の評価（○、◎、－で整理） ・国際機関作成リスト掲載種か否か ・都道府県作成リスト掲載種か否か ・原産地及び国外分布（削除） ・生息環境等（「森林」、「河川」等） ・利用状況 ・利用上の留意点 ・防除事例 ・防除マニュアル ・文献等 ・他法令での位置付け ・関係する感染症名 ・備考（定着理由、具体の被害状況等の情報を雑多に整理）

※波下線はパンフレット（普及啓発資料）の掲載情報。

【主な修正提案】

○各掲載種の防除実行可能性に係る簡易提示及び防除戦略・手法の確立の有無、防除実績の有無を表示。

- －「防除戦略・手法」：国、地方公共団体等により公にされている防除計画の作成や防除手法等に係るマニュアルが存在するのであれば、その情報を整理する。
- －「防除事業の実績」：国や地方公共団体、民間団体による防除事業の実施状況（計画策定状況、交付金・専門家派遣等の支援活用状況、防除の公示・確認・認定状況等）を踏まえ、国内防除の実績の有無を判断し、情報提供する。

○通称名がある種については、通称名も併記。

○各掲載種が媒介等する感染症（人獣共通感染症を中心に）がある場合には、その名称を表示。

(2) 生態系被害防止外来種リスト 侵略性に係る評価項目及びその評価基準見直し案

<侵略性に係る評価項目及びその評価基準 (橙字が現行リストからの更新) >

大項目	小項目	詳細	評価が「◎」となる該当例
(1)定着可能性	(1)-1 生物学的定着可能性	我が国の気候や環境に適合できるか、国内で繁殖できるか等	古くから利用されておりかつ未定着のもの(イネ等)以外の多くの種
	(1)-2 導入国内侵入の可能性	生体・散布体が大量に輸入されている、輸入物資に大量に混入・付着している可能性が高いか、 意図的導入がなされ、その後逸出の可能性がある か等	一般飼養されている動物(フェレット)や、観賞・植栽用の植物
(2)生態系被害	(2)-1 競合	在来種との競合が国内外で報告されているか、高密度化、優占、他種の生育阻害があるか	生育場所を覆う植物、カワヒバリガイ
	(2)-2 交雑	国内に同属、近縁の在来種があり、交雑による遺伝的攪乱の可能性はあるか	在来種・絶滅危惧種との交雑が報告されている種
	(2)-3 捕食・摂食 ※動物のみ	在来種を大量に捕食、摂食する可能性があるか	多くの捕食性動物や、ザリガニ類など広食性の動物
	(2)-4 生態系改変	食物連鎖の改変(被食者としての他の生物種への影響含む)、礫河原等での定着、砂の堆積・浸食、富栄養化等があるか	窒素固定をするマメ科、干潟を草原化するスパルティナ等
(3)分布拡大・拡散	(3)-1 繁殖	繁殖力が強く分布拡大抑制が困難か	(国内外で報告されている多くの種が該当)
	(3)-2 気候	気候・環境に適合し分布拡大の可能性が高いか	(我が国の気候は多様であることから多くの種が該当)
	(3)-3 散布	種子もしくは幼生の散布距離が大きい、分散能力が大きい	種子や栄養体が風や水により移動散布される種
	(3)-4 永続性 ※植物のみ	自然環境下で個体群が永続的に維持されるか	耐陰性が高い種、水辺で長期間繁茂する種、寿命が長い種
(4)重要地域		国立公園や世界自然遺産地域等の原生的自然、固有種・絶滅危惧種の生息・生育地への影響の有無	希少種の集中地域に定着しているノネコ、オオヒキガエル、オオハンゴンソウ
(5)特に問題となる被害	(5)-1 人体	人に重度の障害や重傷を負わせる、重篤な被害(誤食による中毒や麻薬になる、 感染症の媒介等)をもたらすか	台湾ハブ、セアカゴケグモ、アツミゲシ
	(5)-2 経済産業	農林水産業等の産業・経済に深刻な被害を及ぼしている、またはその可能性が高いか	農作物に経済的な被害をもたらすアライグマやオオクチバス、水利用の障害となる水草
(6)逸出・拡散	(6)-1 利用	生餌、野外飼育等の利用がなされている、または、野外放流、播種がなされているか	放流がなされているニジマス、緑化利用されるハリエンジュ
	(6)-2 付着・混入	流通する物資等に混入、付着している可能性が高いか	放流種苗に混入するブルーギル、動物に付着する種子を持つアレチヌスビトハギ

▼評価基準(4段階)

「◎」…情報が有り、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」。
「○」…情報が有り、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」。
「×」…情報が有り、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」。
「－」…現時点では、該当する情報を得ていない。

(3) 総合対策外来種の説明及び方向性の見直し

カテゴリ名称と構成について、第2回検討会及びその後の意見照会の結果を踏まえて決定した(1.(1)参照)。このうち「総合対策外来種」については、「緊急対策外来種」と「重点対策外来種」が統一されたこと等を踏まえ、総合対策外来種のカテゴリ区分の説明と方向性について、以下の通りとしたい。

1) 総合対策外来種

①防除推進外来種

被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当する種。特に緊急性が高く、各主体がそれぞれの役割において、防除目標を設定の上、他の防除事例等も参考に積極的に防除を行う必要がある。

②防除検討外来種

防除推進外来種に該当しない種。地域ごとの被害状況や対策の実行可能性に応じて、必要な対策を行う必要がある。

<対策優先度の要件(被害の深刻度に関する基準)>

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

<参考>WG・検討会のスケジュール（予定）

年	会計年度	月	作成段階	検討会開催	魚類WG開催	植物WG開催	その他	(参考)行動計画見直し作業(9/17案)
2024	2023	2	作業方針作成	第2回				方向性作成
		3	リスト加除候補種の抽出					改定案作成
		4						
	2024	5					加除要望受付	
		6						関係者説明会開催
		7						
		8			第1回	第1回		第3回検討会
		9		第3回				
		10	付加情報含めた改定案作成					
		11						
		12		第2回	第2回			パブリック・コメント
		1		第4回				
		2						第4回検討会
		3	全体とりまとめ					
2025	2025	4						改定本編・普及啓発資料公表 別冊更新・付録作成
		5						
		6		第5回				
		7	改定案修正案作成					
		8					パブリック・コメント	
		9						
		10		第6回				
		11						
		12	普及啓発資料作成					
		1						
		2						
		3	改定リスト・普及啓発資料公表					別冊・付録公表
2026	2026	4						

※会議開催の回数は通しカウントによる

※2024年度における作業は以下のとおり進行。作業各会議前には資料確認の時間を十分に確保する

- 1) リスト加除候補種の抽出(事務局による作業)
- 2) 候補種の再評価(カテゴリ区分も同時評価)(検討会による作業)
- 3) 継続して掲載する種の情報の見直し(事務局・検討会による作業)
- 4) その他付加情報の整理(事務局・検討会による作業)

リストの見直しに係る作業方針について

1. 掲載種に係る評価基準及びカテゴリ区分について

現行リストとの連続性を確保するため、現行リスト作成時の評価基準を引き続き採用（評価基準の詳細は資料 3－2 を参照）。なお、カテゴリ区分については、資料 2 のとおり、現行リストから一部構成と名称を変更。

2. リスト見直しの作業手順について

現行リスト作成時の作業手順も踏まえつつ、以下、1）～4）のとおり進めている。

1）リスト加除候補種のリスト作成（事務局による作業）

リストから追加・削除する種の候補について、現行リスト作成後、新たに国内外で以下のとおり整理された種を中心に抽出する。なお、具体的な抽出方法は資料 3－2 を参照。

- ① 特定外来生物に指定された種（例：ツヤハダゴマダラカミキリ）
- ② 国内で確認・定着した種（例：コウライオヤニラミ）
- ③ 国際機関等が作成したリストに加除された種（例：イエスズメ※今回追加候補種には選定せず）
- ④ 現行リスト作成時、「掲載種の候補には上がったものの、議論の結果、非掲載となった種」のうち、新規の情報等がある場合は候補とする。（例：クサガメ）
- ⑤ 地方公共団体や検討委員への意向調査結果（参考資料 3 参照）、都道府県・市町村が作成した条例やリストを参考にした（例：オウゴンカズラ（ポトス））。

2）候補種の再評価（WG・検討会による作業）

1）で整理した候補種について、1. の評価基準に従ってリストへの掲載適否を判断する。リスト掲載する種については、防除計画の有無等を含む付加情報を含めて検討し、カテゴリ区分を判断する。

3）現行リストから継続して掲載する種の情報の見直し（事務局・WG・検討会による作業）

現行リストから継続して掲載する種について定着段階や防除計画、手法の有無等の情報を更新し、カテゴリ区分に関する見直しを行う。

4）その他付加情報の整理（事務局・WG・検討会による作業）

適宜、「特に問題となる地域・環境」等の情報に関しても追加・修正を行う。

3. 選定の対象とする外来種の範囲<現行リストから一部を抜粋>

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に掲載する外来種の選定に当たっては以下の事項に照らし、必要に応じて、種（亜種・変種を含む）・属・科等の生物分類群を単位とする。

- ・我が国に自然分布域がなく、国外から導入される外来種については、基本的には、国内での定着が確認されている種を対象とする。
- ・国内に定着していない種であっても、国外において特に侵略性が高いとの知見があるものであって、国内へ未導入の外来種については今後国内に導入され、定着する可能性が高いものを、既に国内への導入・利用がなされている外来種については逸出して定着する可能性が高いものを対象とする。
- ・なお、国外から導入される外来種について、特定外来生物の選定における「明治元年以降に我が国に導入されたと考えられる生物を対象とする」という要件にはよらず、導入時期に関わらず外来種との知見があるものを対象とする。
- ・我が国に自然分布域を有しているが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種が生態系等に係る被害を及ぼすものは、「国内由来の外来種」として、本来の分布情報・生態的知見が充実しており、導入された地域での被害の実態が明らかなものを対象とする。なお、我が国に自然分布域を有するだけでなく、国外にも自然分布域を有しており、国外から国内の自然分布域の外に導入された生物種が同様の被害を及ぼす場合もある。こうしたものは「国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種」とし、「国内由来の外来種」と同様に、本来の分布情報・生態的知見が充実しており、導入された地域での被害の実態が明らかなものを対象とする。
- ・在来種の自然分布域内へ別の遺伝的形質を有する同種の集団（個体群）を人為的に導入することによる遺伝的攪乱の問題については、特定の種だけでなく、あらゆる種・地域等について可能性を考慮する必要がある。そのため、個別の種をリストに掲載するのではなく、外来種被害防止行動計画において、遺伝的攪乱につながる以下の行為についての考え方を整理・記載する。
 - －在来種の自然分布域内への別の遺伝的形質を有する同種の導入
 - －在来種の形質を改良した系統等の導入
- ・特定外来生物は、外来生物法に基づき指定された種類として全てリストに掲載する。
- ・感染症・寄生生物等については、明らかに国外から導入され、我が国の野生動植物に大量死を発生させる等、我が国の生態系等に甚大な被害を及ぼすおそれがあり、注意喚起等を行うべきものを対象とする。なお、原則として感染症予防法等の他法令で対応されているものは対象としないが、上記の観点から

生態系への被害が甚大なものについては対象とする。

- ・ 感染症・寄生生物の宿主となる外来種がリストに選定される場合は、その宿主となる種の付加情報として記載する。
- ・ 農業害虫とされているものについては、農作物保護の観点から、被害防止の対策が行われている。このため、農業に対する被害のみを及ぼす害虫については、本リストの対象として扱わないものとする。

＜選定手順フロー＞



1. 抽出方法（情報の収集と整理）

（１）現行リストの検討時の候補種

現行リスト作成時の候補種について、現行リスト掲載種を含めて改めて精査した。

（２）既存のリスト情報

現行リスト作成後に、都道府県などが独自に侵略性を評価して作成した外来種リストや条例の指定種、GISDに掲載されている種の情報を収集し、加除対象候補種のリストに追加した。

（３）意向調査（参考資料3参照）

リスト検討会委員、関係省、地方環境事務所、地方公共団体に任意の意向調査を行い、得られた希望を加除対象候補種のリストに追加した。

（４）特定外来生物

現行リスト作成後に指定された特定外来生物を抽出した（例：ツヤハダゴマダラカミキリ、ハヤトゲフシアリ等）。

2. リスト加除候補種のリストの作成（検討作業中：資料3－3及び3－4参照）

1. により抽出された候補種について、選定基準に基づきつつ加除対象種の候補を整理した。

（１）ワーキンググループ会合を実施していない分類群

1) 現行リスト作成時の未掲載種の再検討

現行リスト作成後の情報の追加等により掲載を再検討した種のうち、特に検討が必要な掲載候補種は以下のとおり（赤字は特定外来生物）。

分類群	掲載候補種
哺乳類	国外(2種):ポリネシアンネズミ、ジャコウネズミ 国内(1種):口永良部島のヤクシマザル
鳥類	国外(3種):ハッカチョウ、インドハッカ、カワラバト 国内(2種):アヒル、アイガモ
爬虫類	国外(2種):クサガメ、ホオグロヤモリ 国内(3種):タワヤモリ・ニシヤモリ生息地域のニホンヤモリ、屋久島・種子島のミナミヤモリ
両生類	国外:該当なし 国内:該当なし
昆虫	国外(9種類):ツヤハダゴマダラカミキリ、ソテツシロカイガラムシ、トガリアメンボ、サイカブト、 特定外来生物に該当するマルバネクワガタ10種、ヒアリ類及びその交雑個体(ヒアリ、アカカミアリを除く)、ツヤオオズアリ、アシナガキアリ、ムネアカハラビロカマキリ 国内: 該当なし
陸生節足動物	国外:該当なし 国内:該当なし
その他無脊椎	国外(7種類):トウナンアジアウズムシ、アメリカナミウズムシ、コハクガイ、ヒレイケチョウガイ、外来カワリヌマエビ属の全種(シナヌマエビを除く)、チュウゴクスジエビ、オオマリコケムシ 国内:該当なし

2) 現行リスト作成後の新規追加種

現行リスト作成後の情報の追加により新たに検討した種のうち、特に検討が必要な掲載候補種は以下のとおり（赤字は特定外来生物）。

分類群	詳細
哺乳類	国外(8種類): タイワンザル × ニホンザル 、 アカゲザル × ニホンザル 、 サンバー 、 タイワンジカ 、 アカシカ 、 ダマシカ 、 ワビチ 、 アクシスジカ 国内: 該当なし
鳥類	国外(1種): サンジャク 国内(1種): バリケン
爬虫類	国外(1種): 特定外来生物のハナガメ交雑個体 国内: 該当なし
両生類	国外(3種類): オオサンショウウオ属 (オオサンショウウオ を除く)の全種、 オオサンショウウオ属 の 交雑個体 、 ホンコンシロアゴガエル 国内: 該当なし
昆虫	国外(2種): ハヤトゲフシアリ 、 サビイロクワカミキリ 国内(1種): ヤエヤママドボタル
陸生節足動物	国外(1種類): 特定外来生物のゴケグモ属 (クロゴケグモ 、 ハイイロゴケグモ 、 セアカゴケグモ を除く) 国内: 該当なし
その他無脊椎	国外(11種類): ザリガニ科の全種 (ウチダザリガニ (タンカイザリガニ を含む)を除く)、 アメリカザリガニ科の全種 (アメリカザリガニ を除く)、 アジアザリガニ科の全種 (ニホンザリガニ を除く)、 ミナミザリガニ科の全種 、 シナヌマエビ 、 ヒロマキミズマイマイ 、 アジアベッコウ 、 オガサワラリクヒモムシ 、 アメリカツノウズムシ 、 エリマキコウガイビル 、 プラティデムス属 の1種 国内(2種): ミナミヌマエビ 、 ヌノメカワニナ

(2) ワーキンググループ会合を実施した分類群（魚類、植物）

1) 現行リスト掲載種

現行リスト作成後の情報の追加等により、削除の検討が必要な候補種は以下のとおり（赤字は特定外来生物）。

分類群	詳細
魚類	国外: 該当なし 国内: 該当なし
植物	国外(23種): ヨーロッパハンノキ 、 フランスゴムノキ 、 ノルウェーカエデ 、 ホソグミ 、 ヤツデグワ 、 ケクロピア・シュレベリアナ 、 シマトベラ 、 タチバナアデク 、 ムラサキフトモモ 、 アメリカクサノボタン 、 シェフレラ・アクチノフィラ (ハナフカノキ)、 コウトウタチバナ 、 オオバナアサガオ 、 ネコノツメ 、 ダイサンチク 、 シマケンチャヤシ 、 ヒロハオモダカ 、 ヒイラギナンテン 、 ナンキンハゼ 、 アカボシツリフネ 、 ハルガヤ 、 シマスズメノヒエ 、 タチスズメノヒエ 国内: 該当なし

2) 現行リスト作成時の未掲載種の再検討

現行リスト作成後の情報の追加等により掲載を再検討した種のうち、特に検討が必要な掲載候補種は以下のとおり（赤字は特定外来生物）。

分類群	詳細
魚類	国外(12 種類): (シルバーアロワナ、エールワイフ、コイ(飼育型)、ヒメドジョウ、マーレーコッド、ゴールデンパーチ、カワスズメ属、ヨコシマドンコ、カムルチー、コウタイ、タイワンドジョウ、コブラスネークヘッド) 国内(12 種類): ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、ゼゼラ、ホンモロコ、タモロコ、タカハヤ、オイカワ、フクドジョウ、イトヨ、ミナミメダカ
植物	国外(16 種): シロツメクサ、シンクリノイガ、ナガハグサ、キダチカッコウアザミ(アゲラテキナ・アデノフォラ)、ムラサキオモト(シキンラン)、アカザカズラ(ツルアカザ)、ノゲイトウ、ナガミヒナゲシ、メスキート(キャベ)、ハスノハヒルガオ、サイザル、イワミツバ、メリケントキンソウ、ヤサイカラスウリ、ブタナ、メリケンムグラ 国内: 該当なし

3) 現行リスト作成後の新規追加種

現行リスト作成後の情報の追加により新たに追加した種のうち、特に検討が必要な掲載候補種は以下のとおり（赤字は特定外来生物）。

分類群	詳細
魚類	国外(21 種類): ヨーロッパウナギ、トンキントゲタナゴ、タイワントナゴ、ロデウス・ノタータス、外国産タナゴ亜科、キクチヒナモロコ、ダントウボウ、カワイワシ、ファットヘッドミノー、外国産ドジョウ、アフリカンクララ、サンシャインバス、ロングイヤーサンフィッシュ、パンプキンシード、ブルーギル属、サンフィッシュ科、ペルキクティス科(狭義)、コウライオヤニラミ、ケツギョ科、カラドンコ、タイワンドジョウ属 国内(6 種類): キンギョ、カゼトゲタナゴ、日本産タナゴ亜科全種、コウライモロコ、ドジョウ、ヒメダカ等のメダカ改良品種
植物	国外(19 種類): ユーカリ属、シラユキゲシ、マルバヒメアメリカアゼナ(ラージパールグラス)、ジギタリス(キツネノテブクロ)、ミズヒナゲシ、オウゴンカズラ(ポトス)、ホシアザミ(イソトマ)、センダンキササゲ、ルビーガヤ、パパイヤ、セイヨウミズユキノシタ、ベニツツバナ、ドクフジ(デリス)、ヒメウキオモダカ(サジタリア・スプラータ)、キダチコマツナギ、タイワンモクゲンジ、ヤドリフカノキ、モクキリン、ミズワタクチビルケイソウ 国内(3 種): シマサルスベリ、ヒルギダマシ、クサヨシ

3. 評価基準

個々の種に関するリスト掲載の適否は、①侵略性に係る複数の評価項目について「◎」「○」「×」「－」の4段階で評価した上で、②その結果をⅠ～Ⅳ（動物）またはⅠ～Ⅴ（植物）の観点
を踏まえつつ、総合的に判断している。

① 侵略性に係る評価項目及びその評価基準（橙字が現行リストからの更新）

大項目	小項目	詳細	評価が「◎」となる該当例
(1) 定着可能性	(1)-1 生物学的定着可能性	我が国の気候や環境に適合できるか、国内で繁殖できるか等	古くから利用されておりかつ未定着のもの（イネ等）以外の多くの種
	(1)-2 導入国内導入可能性	生体・散布体が大量に輸入されている、輸入物資に大量に混入・付着している可能性が高いか、人為的導入がなされ、その後逸出の可能性はあるか等	一般飼養されている動物（フェレット）や、観賞・植栽用の植物
(2) 生態系被害	(2)-1 競合	在来種との競合が国内外で報告されているか、高密度化、優占、他種の生育阻害があるか	生育場所を覆う植物、カワヒバリガイ
	(2)-2 交雑	国内に同属、近縁の在来種があり、交雑による遺伝的攪乱の可能性はあるか	在来種・絶滅危惧種との交雑が報告されている種
	(2)-3 捕食・摂食 ※動物のみ	在来種を大量に捕食、摂食する可能性があるか	多くの捕食性動物や、ザリガニ類など広食性の動物
	(2)-4 生態系改変	食物連鎖の改変（被食者としての他の生物種への影響含む）、礫河原等での定着、砂の堆積・浸食、富栄養化等があるか	窒素固定をするマメ科、干潟を草原化するスパルティナ
(3) 分布拡大・拡散	(3)-1 繁殖	繁殖力・分散力が強く分布拡大抑制が困難か	（国内外で報告されている多くの種が該当）
	(3)-2 気候	気候・環境に適合し分布拡大の可能性が高いか	（我が国の気候は多様であることから多くの種が該当）
	(3)-3 散布 ※植物のみ	種子等の散布距離が大きい、分散能力が大きいか	種子や栄養体が風や水により移動散布される種
	(3)-4 永続性 ※植物のみ	自然環境下で個体群が永続的に維持されるか	耐陰性が高い種、水辺で長期間繁茂する種、寿命が長い種
(4) 重要地域		国立公園や世界自然遺産地域等の原生的自然、固有種・絶滅危惧種の生息・生育地への影響の有無	希少種の集中地域に定着しているノネコ、オオヒキガエル、オオハンゴンソウ
(5) 特に問題となる被害	(5)-1 人体	人に重度の障害や重傷を負わせる、重篤な被害（誤食による中毒や麻薬になる、感染症の媒介等）をもたらすか	タイワンハブ、セアカゴケグモ、アツミゲシ
	(5)-2 経済産業	農林水産業等の産業・経済に深刻な被害を及ぼしている、またはその可能性が高いか	農作物に経済的な被害をもたらすアライグマやオオクチバス、水利用の障害となる水草
(6) 逸出・拡散	(6)-1 利用	生餌、野外飼育等の利用がなされている、または、野外放流、播種がなされている、逸出の可能性が高いか	放流がなされているニジマス、緑化利用されるハリエンジュ
	(6)-2 付着・混入	流通する物資等に混入、付着している可能性が高いか	放流種苗に混入するブルーギル、動物に付着する種子を持つアレチヌスビトハギ

▼評価基準（4段階）

「◎」…情報が有り、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」。
「○」…情報が有り、その評価基準について「ある」又は「可能性はある」。
「×」…情報が有り、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」。
「－」…現時点では、該当する情報を得ていない。

② ①の各項目の評価を踏まえたリスト掲載適否の判断（Ⅰ～Ⅳ（Ⅴ）の該当性判断）について

動物：定着可能なものを対象として、次のⅠ～Ⅳに1つ以上該当する種類をリスト掲載対象としている。

- Ⅰ. 生態系被害が大きいもの（生態系被害で「◎」となる、複数の項目で「○」となることなどを重視）
（競合、交雑、捕食・摂食により在来種を著しく減少させたり地域的絶滅を引き起こすものや、在来種の生息環境を著しく損なうもの等）
例：オオクチバス（捕食、競合）
- Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高い（「重要地域への被害が「◎」となることを重視）
（国立公園・国定公園等や世界自然遺産地域、自然環境保全地域などの地域及びそれらの地域に侵入し得る地域（保全上重要な地域の近傍や同一水系など）に侵入・定着し得て、かつ生態系等に被害をもたらす等）
例：グリーンアノール（国立公園における捕食影響）
- Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの（生態系被害で「○」と評価されている、「人体」被害や「経済・産業」被害が「◎」となることを重視）
（人にかみつく、刺す、毒を注入するなどを通して健康に顕著な被害を与えたり、農林水産物を採食する、畑を踏み荒らすなどの顕著な被害を与える等）
例：セアカゴケグモ（人体被害）
- Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの（同属の類似種が国内外で侵略的外来種になっているもの、近年（最近約XX年間）において新たに我が国への侵入や逸出が確認され、定着や分布拡大が懸念されるもの等）
例：ミステリークレイフィッシュ（特定外来生物に指定される前は広く流通しており、北海道と愛媛県で野外確認例あり）

植物：定着可能なものを対象として、次のⅠ～Ⅴに1つ以上該当する種類をリスト掲載対象としている。

- Ⅰ. 生態系被害のうち交雑が確認されている、又はその可能性が高いもの。（「生態系被害」の「交雑」が「◎」となることを重視）※生態系被害の中でも、交雑は不可逆的な影響であるため特に重視。
（交雑により在来種の遺伝的攪乱を引き起こし、在来種を減少させたり、地域的絶滅を引き起こすもの）
例：オオカワヂシャ（絶滅危惧種のカワヂシャと生育環境が同じで、雑種のホナガカワヂシャが各地で確認されており、ホナガカワヂシャの種子には発芽能力あり）
- Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、又はその可能性が高いもの。（「重要地域」への被害が「◎」となることを重視）
（国立公園・国定公園等や世界自然遺産地域、自然環境保全地域などの地域及びそれらの地域に侵入し得る地域（保全上重要な地域の近傍や同一水系など）に侵入・定着し、かつ生態系等に被害をもたらす等）
例：オオハンゴンソウ（国立公園における在来種との競合）
- Ⅲ. 人体に重篤な被害を引き起こす、又はその可能性が高いもの。（「人体」被害が「◎」となることを重視）
（人に対する毒性を持つなどを通して健康に顕著な被害を与える等）
例：チョウセンアサガオ属（猛毒の神経毒を含み誤食による食中毒の報告が多数あり）
- Ⅳ. 生態系被害のうち競合又は改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高いもの。（「生態系被害」のうち、「競合」又は「改変」が「◎」で、かつ「分布拡大・拡散」、「利用」、「付着・混入」の複数項目が「◎」となることを重視）※生態系被害の中でも、競合又は改変の影響が、拡大、継続することを重視。
（野外において著しく繁茂し、かつ種子や栄養繁殖により非意図的に拡散しやすい等）
例：ツルヒヨドリ（茎の破片や冠毛を持つ種子により拡散して繁茂）
- Ⅴ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もあるもの。（「生態系被害」の「競合」又は「経済・産業」が「◎」、「重要地域」又は「人体」が「○」、「分布拡大・拡散」、「利用」、「付着・混入」が「◎」となることを重視）
（農地などで顕著に繁茂して被害をもたらす、かつ種子や栄養繁殖により非意図的に拡散しやすい等）
例：ナガエツルノゲイトウ（茎の切片が水流等により水田に拡散して繁茂）

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(哺乳類)＞

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

-
- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	フクロギツネ	<i>Trichosurus vulpecula</i>	I,Ⅳ	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-		特定	IUCN	○	北海道、長崎、沖縄		
継続	2	定着初期／限定分布	ハリネズミ属(アムールハリネズミ、マンシュウハリネズミなど)	<i>Erinaceus</i> spp.	I			○	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	静岡県伊豆地域(国立公園)に定着。	特定			北海道、静岡県府、長崎、沖縄		
継続	3	未定着	リスザル	<i>Saimiri sciureus</i>	Ⅳ	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	静岡県伊豆地域で脱柵個体が確認されたことがある。40～100万円程度で販売されている。感染症予防法により輸入は禁止。				静岡、長崎、沖縄		
継続	4	定着初期／限定分布	タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	I,Ⅲ			◎	◎	○	-	-	◎	○	-	◎	-	-	伊豆大島(国立公園)に定着。下北半島、和歌山県では根絶。	特定	日本		青森、栃木、静岡、滋賀、和歌山、長崎、沖縄		
継続	5	未定着	カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	I	○	-	○	◎	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	千葉県房総半島でかつて野生化し、ニホンザルと交雑していた可能性が指摘されている。	特定	IUCN	○	長崎、沖縄		
継続	6	定着初期／限定分布	アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	I,Ⅲ			○	◎	○	-	-	◎	-	-	◎	-	-	千葉県房総半島南部で定着し、ニホンザルと交雑している。	特定		○	栃木、千葉、長崎、沖縄		
継続	7	分布拡大大期～まん延期	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	I			-	-	○	-	-	○	○	-	◎	-	-	瀬戸内海国立公園内に定着。兵庫県加西市のため池にて水生植物群落を壊滅。ベッコウトンボの減少の原因となった。二枚貝を捕食することでタナゴ類の繁殖に影響を及ぼす。	特定	IUCN、日本	○	福島、茨城、栃木、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、香川、高知、福岡、長崎、沖縄		
継続	8	分布拡大大期～まん延期	クリハラリス(タイワンリス)	<i>Callosiurus erythraeus</i>	I,Ⅲ			○	-	○	-	-	○	-	-	◎	-	-	宇土半島の個体群は根絶に近い状態。伊豆半島、神奈川県、浜松市などでは分布が拡大傾向。	特定			茨城、栃木、静岡、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄		
継続	9	未定着	タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>	I	○	-	◎	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	-		特定			北海道、京都、長崎、沖縄		
継続	10	未定着	トウブハイロリス	<i>Sciurus carolinensis</i>	I	○	-	◎	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-		特定	IUCN	○	北海道、長崎、沖縄		
継続	11	定着初期／限定分布	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	I			○	◎	○	-	-	○	-	-	○	-	-	東京都狭山丘陵の個体群は環境省の防除によりほぼ根絶。	特定			北海道、栃木、長崎、沖縄		
継続	12	定着初期／限定分布	シマリス(チョウセンシマリス)	<i>Tamias sibiricus</i>	I			○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	低価格(1万円程度)で販売されている。北海道札幌市周辺でかつて放獣され、在来種のシマリスとの交雑が確認されている			○	北海道、長野、滋賀、京都、鳥取、徳島、長崎、沖縄		
継続	13	定着初期／限定分布	マスカラット	<i>Ondatra zibethicus</i>	I			-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-		特定		○	茨城、千葉、長崎、沖縄		
継続	14	分布拡大大期～まん延期	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	◎	-	○	○	◎	-	◎	◎	-	小笠原諸島、奄美・琉球諸島などに定着 実験動物、餌動物として利用されている			○	北海道、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、奈良、鳥取、山口県、徳島、香川、高知、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	15	分布拡大大期～まん延期	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	◎	-	○	○	◎	-	◎	-	-	小笠原諸島、奄美・琉球諸島などに定着			○	北海道、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、奈良、鳥取、山口、徳島、長県、香川、高知、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	16	分布拡大大期～まん延期	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>	I,Ⅲ			○	-	○	-	○	○	◎	-	◎	◎	-	小笠原諸島、奄美・琉球諸島などに定着 実験動物、餌動物として利用されている		IUCN	○	北海道、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、滋賀、奈良、鳥取、山口、徳島、香川、高知、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	17	未定着	カニクイアライグマ	<i>Procyon cancrivorus</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	○	○	○	-	-		特定			北海道、長野、滋賀、長崎、沖縄		
継続	18	分布拡大大期～まん延期	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	I,Ⅲ			○	-	◎	-	-	○	◎	○	◎	-	-	知床などに定着 狂犬病等の媒介のおそれ	特定	日本	○	北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	19	未定着	フェレット	<i>Mustela furo</i>	I	○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	5～6万円 北海道動物の愛護及び管理に関する条例で特定移入動物に指定されており、飼養には届出が必要			○	北海道、千葉、兵庫県、長崎、沖縄		
継続	20	分布拡大大期～まん延期	アメリカミンク(ミンク)	<i>Mustela vison</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	◎	-	-	○	◎	-	◎	-	-	釧路湿原や知床に定着	特定		○	北海道、福島、茨城、栃木、長野、長崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(哺乳類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	21	分布拡大大期～まん延期	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	I,Ⅲ			○	-	◎	-	-	○	◎	-	◎	-	-	白神山地に定着				北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、徳島、香川、高知、福岡、長崎、鹿児島、沖縄	地方公共団体	
継続	22	定着初期／限定分布	フィリマングース	<i>Herpestes auropunctatus (Urva auropunctata)</i>	I,Ⅱ			○	-	◎	-	-	○	◎	-	◎	-	-	奄美大島、沖縄島に定着 奄美大島は根絶間近	特定			長崎、鹿児島、沖縄		
継続	23	未定着	ジャワマングース	<i>Herpestes javanicus</i>	I,Ⅳ	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	JAZA加盟園館では飼育無し	特定	IUCN,日本	○	長崎、沖縄		
継続	24	未定着	シママングース	<i>Mungos mungos</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	JAZA加盟園館では飼育無し	特定			長崎、沖縄		
継続	25	未定着	アキシスジカ属	<i>Axis</i> spp.	I,Ⅳ	○	-	○	○	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	ニホンジカとの交雑の可能性 飼育園館多数	特定		○	京都、長崎、沖縄		
継続	26	未定着	シカ属(国内産ニホンジカを除く)	<i>Cervus</i> spp.	I,Ⅳ			○	◎	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	和歌山県友ヶ島においてサンバーなどとの交雑個体が野生化 富山県で亜種ヤクシカが野生化 IUCNワースト100はアカシカ	特定	IUCN	○	京都、和歌山、長崎、沖縄		
継続	27	未定着	ダマシカ属	<i>Dama</i> spp.	I,Ⅳ	○	-	○	◎	◎	-	-	○	-	-	○	-	-		特定		○	京都、長崎、沖縄		
継続	28	未定着	シフゾウ	<i>Elaphulrs davidlanus</i>	I	○	-	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	-	国際的な希少動物であり、多摩動物園など極限られた動物園で飼育されているのみである。そのため、野外に逸出する可能性はほとんどないと考えられる。	特定			京都、長崎、沖縄		
継続	29	定着初期／限定分布	キョン	<i>Muntiacus reevesi</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	○	-	-	○	○	-	◎	-	-	伊豆大島(国立公園)や千葉県に定着し、千葉県個体群は最近になって茨城県や埼玉県まで分布を拡大しつつあることが確認された	特定			茨城、千葉、長崎、沖縄		
継続	30	定着初期／限定分布	カイウサギ(アナウサギ)	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	○	-	○	○	○	-	○	◎	-	渡島大島や大久野島に定着している、セツ島では根絶された海外では植生破壊や海鳥の繁殖攪乱等の影響が報告されている ペットとして大量に販売されている		日本,IUCN	○	北海道、千葉、愛知、京、徳島、香川、長崎、鹿児島、沖縄		
継続	31	定着初期／限定分布	フィンレイソンリス	<i>Callosciurus finlaysonii</i>	I,Ⅱ,Ⅲ			○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	浜松市において定着し、クリハラリスと交雑した個体群が形成されている	特定			静岡、長崎、沖縄		
継続	32	分布拡大大期～まん延期	ノネコ(イエネコの野生化したもの)	<i>Felis catus</i>	I,Ⅱ			○	○	◎	-	-	○	◎	-	-	◎	-	奄美大島、徳之島、小笠原など重要地域に定着しており、捕獲等の対策も実施されている		日本,IUCN	○	北海道、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、徳島、高知、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	33	定着初期／限定分布	ノヤギ(ヤギの野生化したもの)	<i>Capra hircus</i>	I,Ⅱ			-	-	◎	○	-	○	◎	-	○	◎	-	家畜由来(トカラ列島、奄美大島、西表島、父島)		日本,IUCN	○	山口、長崎、鹿児島、沖縄		
継続	34	分布拡大大期～まん延期	ノイヌ(イヌの野生化したもの)	<i>Canis lupus</i>	I			-	-	◎	-	-	○	◎	-	-	◎	-	奄美大島や沖縄島などの重要地域で野犬が確認されることがある			○	北海道、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都府、兵庫、奈良、徳島、高知、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	35	定着初期／限定分布	ノブタ・イノブタ(ノブタ・イノブタの野生化したもの)	<i>Sus scrofa</i>	I			-	-	◎	-	-	○	◎	-	○	◎	-	西表島(内離島、外離島)にはイノブタが定着している 小笠原諸島弟島では根絶された		日本,IUCN	○	栃木、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、福岡、長崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(哺乳類)＞

◎ : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
再検討(候補)	36	未定着	ポリネシアネズミ	<i>Rattus exulans</i>	I,Ⅲ	○	-	○	-	◎	-	○	○	-	-	○	-	-	かつて宮古島で標本が採取されているが、その後確認されていない 海外では海鳥類やは虫類への食害が知られている			○			
再検討	37	未定着	アメリカモモンガ	<i>Glaucomys volans</i>		○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	国内繁殖と思われる個体が販売されている				北海道		
再検討	38	未定着	オオアメリカモモンガ	<i>Glaucomys sabrinus</i>		○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	やや高価(10万円程度)販売量はすくない様子				北海道		
再検討	39	未定着	オグロプレーリードッグ	<i>Cynomys ludovicianus</i>		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	高価(20～30万円程度)販売量は少ない様子				千葉		
再検討	40	未定着	ギンギツネ	<i>Vulpes vulpes</i>		○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	日本在来のアカギツネの色素変異個体 GISDにはアカギツネとして掲載			○			
再検討(候補)	41	定着初期／限定分布	ジャコウネズミ	<i>Suncus murinus</i>	I	/	/	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	実験動物として飼育されている 九州本土の個体群は国内移入と考えられる 南西諸島は自然分布とする説もある 海外ではトカゲ類の島嶼での絶滅に関与するなど、侵略性の高さが報告されている			○	鹿児島		
再検討	44	未定着	フクロギツネの一種	<i>Trichosurus</i> spp.		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-		未判定					
再検討	45	未定着	フクロモモンガの一種	<i>Petaurus</i> spp.		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	2～3万円程度				北海道		
再検討	46	未定着	プレーリードッグの一種	<i>Cynomys</i> spp.		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	高価(20～30万円程度)販売量は少ない様子				北海道、兵庫		
再検討	47	未定着	ワラビー類	<i>Macropodidae</i> sp.		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	高価(50万円程度)			○			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(哺乳類)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
新規(候補)	48	未定着	タイワンザル x ニホンザル	Macaca cyclopis x Macaca fuscata	I,Ⅲ	○	-	○	◎	○	-	-	◎	-	-	◎	-	-	和歌山県や青森県で定着していたが、いずれも根絶された。	特定			長崎		
新規(候補)	49	定着初期／限定分布	アカゲザル x ニホンザル	Macaca mulatta x Macaca fuscata	I,Ⅲ	／	／	○	◎	○	-	-	◎	-	-	◎	-	-	千葉県房総半島南部で定着している	特定			長崎		
新規(候補)	50	未定着	サンバー	Cervus unicolor	I	○	○	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県友ヶ島および大阪府岬町周辺に、本種とタイワンジカ、アカシカおよびニホンジカの交雑個体が野生化している 鹿牧場で飼育されている	特定		○			
新規(候補)	51	未定着	タイワンジカ	Cervus nippon taiouanus	I	○	○	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県友ヶ島および大阪府岬町周辺に、本種とサンバー、アカシカおよびニホンジカの交雑個体が野生化している 鹿牧場で飼育されている	特定		○			
新規(候補)	52	未定着	アカシカ	Cervus elaphus	I	○	○	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県友ヶ島および大阪府岬町周辺に、本種とサンバー、タイワンジカおよびニホンジカの交雑個体が野生化している 鹿牧場で飼育されている	特定		○			
新規(候補)	53	未定着	ダマジカ	Dama dama	I	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	鹿牧場で飼育されている。	特定					
新規(候補)	54	未定着	ワビチ	Cervus canadensis	I	○	○	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	鹿牧場で飼育されている。	特定					
新規(候補)	55	未定着	アキシスジカ	Axis axis	I	○	○	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	鹿牧場で飼育されている。	特定					
新規	56	未定着	Urocitellus 属(リチャードソンジリスなど)に含まれる種	Urocitellus spp.		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	ペットとしての利用情報がある。				北海道		
新規	57	未定着	バーバリーシープ	Ammotragus lervia		○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	58	未定着	ウシ	Bos taurus		／	／	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-				○			
新規	59	未定着	スイギュウ	Bubalus bubalis		○	◎	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	60	未定着	ジョフロウマーモセット	Callithrix geoffroyi		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	61	未定着	コモンマーモセット	Callithrix jacchus		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	62	未定着	クロミミマーモセット	Callithrix penicillata		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	63	未定着	ヒトコブラクダ	Camelus dromedarius		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	64	未定着	コヨーテ	Canis latrans		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	65	未定着	アメリカビーバー	Castor canadensis		○	◎	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	動物園で飼育されている。			○			
新規	66	未定着	モルモット(デンジクネズミ)	Cavia porcellus		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	ペットや実験動物、動物園で飼育されている。			○			
新規	67	未定着	モナモンキー	Cercopithecus mona		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	68	未定着	アフリカジャコウネコ	Civettictis civetta		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	過去に動植物園で飼育されていたことがある			○			
新規	69	未定着	サバンナアフリカオニネズミ	Cricetomys gambianus		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	人獣共通感染症を媒介。			○			
新規	70	未定着	ジネズミ属の一種	Crocidura suaveolens		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	71	未定着	キイロマンゲース	Cynictis penicillata		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	72	未定着	ロバ	Equus asinus		○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	73	未定着	パタスザル	Erythrocebus patas		○	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	74	未定着	ヨーロッパジェネット	Genetta genetta		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	75	未定着	ヒマラヤタール	Hemitragus jemlahicus		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	76	未定着	ケープグレイマンゲース	Herpestes pulverulentus		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	77	未定着	グアナコ	Lama guanicoe		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	78	未定着	カンジキウサギ	Lepus americanus		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	79	未定着	ヤブノウサギ	Lepus europaeus		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	80	未定着	チコハイロギツネ	Lycalopex griseus		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	81	未定着	アカハナグマ	Nasua nasua		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	82	未定着	オジロジカ	Odocoileus virginianus		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	83	未定着	アルガリ	Ovis ammon		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	84	未定着	ヒツジ	Ovis aries		○	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	家畜の他、動植物園で飼育されている。			○			
新規	85	未定着	Peromyscus の一種	Peromyscus fraterculus		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	86	未定着	シカシロアシネズミ	Peromyscus maniculatus		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	87	未定着	ハイイロクスクス	Phalanger orientalis		○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-		未判定		○			
新規	88	未定着	トナカイ	Rangifer tarandus		○	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	動植物園で飼育されている。海外では踏みつけが問題視されている。牧場で飼育されている。			○			
新規	89	未定着	シャモア	Rupicapra rupicapra		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	90	未定着	テンレック	Tenrec ecaudatus		○	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	91	未定着	コジャコウネコ	Viverricula indica		○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	動植物園で飼育されている。			○			
新規	92	未定着	ケープギツネ	Vulpes chama		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	93	未定着	デグー	Octodon degus		○	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	ペットとして多く飼育されている。			○			
新規	94	未定着	ヨツユビハリネズミ	Atelerix albiventris		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	1〜3万円程度。						
新規	95	未定着	ブチクスクス	Spiloglossus maculatus		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	2021年に未判定外来生物であった本種について、本種の動きの遅さなどの特性から定着し生態系に影響を及ぼすことは無いと評価され、特定外来生物への指定は不要と判断された。	未判定					
新規	96	未定着	ウマ	Equus caballus		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	北海道ユリイ島に放獣されており、植物への食害や海鳥の営巣阻害が確認されている。			○	北海道		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(哺乳類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国内・家畜由来外来種、国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種(その他の検討対象種)】

2024.9.17版																									
検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
継続	1	国内由来の外来種	奥尻島・屋久島のタヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>	I, II			○	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	国内由来(屋久島) 知見の集積が必要				北海道、鹿児島県		
継続	2	国内由来の外来種	北海道・佐渡のテン	<i>Martes melampus</i>	I			○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	国内由来(北海道、佐渡) 佐渡では順化ゲージに入れられていたトキが被害にあったトカラ列島の口之島では鳥類に食害がある				北海道、鹿児島県		
継続	3	国内由来の外来種	対馬以外のシベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	I			○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	本州や九州に侵入のしている個体群は国外由来の可能性もある 知見の集積が必要				愛知県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県		
継続	4	国内由来の外来種	伊豆諸島などのニホンイタチ	<i>Mustela itasis</i>	I, II			-	-	◎	-	-	○	◎	-	○	-	-	国内由来(伊豆諸島、トカラ列島)				北海道、長崎県、鹿児島県、沖縄県		
継続	5	国内由来の外来種	徳之島などのニホンイノシシ	<i>Sus scrofa</i>	I, II			-	-	○	-	-	○	○	-	◎	-	-	国内由来		IUCN	○	北海道、千葉県、鹿児島県		
継続	6	国内由来の外来種	新島などのニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	I, II			-	-	○	-	-	○	○	-	◎	-	-	国内由来		IUCN	○	鹿児島県		

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
	7	国内由来の外來種	北海道などのジネズミ	<i>Crocidula dsinezumi</i>				-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	国内由来 北海道ブルーリスト掲載種						
	8	国内由来の外來種	イエコウモリ(アブラコウモリ)	<i>Pipistrellus abramus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	国内由来				北海道		
	9	国内由来の外來種	キタキツネ	<i>Vulpes vulpes schrencki</i>				○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	国内由来		IUCN		徳島県		
	10	国内由来の外來種	ニホンジネズミ	<i>Crocidula dsinezumi</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	国内由来				北海道		
新規(候補)	11	国内由来の外來種	口永良部島のヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	I			○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	口永良部島に国内外来種として定着しており、エラブオオコウモリとの競合が懸念されている				鹿児島県		

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖		気候	人体	経済産業	利用								付着混入
	12	国内由来の外來種	イイズナ	<i>Mustela nivalis</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
	13	国内由来の外來種	オコジョ	<i>Mustela erminea</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(鳥類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

-
- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>	I	○	-	○	-	-	-	○	-	-	○	○	-	神奈川県での観察事例がある。		IUCN	○	茨城、長崎、沖縄			
継続	2	未定着	外国産メジロ	<i>Zosterops</i> sp.	I	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	大陸産亜種 日本産メジロの別亜種のヒメメジロ <i>Z. japonicus simplex</i> 、チョウセンメジロ <i>Z. erythropleurus</i> 、ハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> など中国や東南アジア産の種の輸入は減少した(中国:禁輸政策、東南アジア:鳥インフルエンザの流行)ものの、アフリカ産の近縁種(キクユメジロ(アフリカヤマメジロ)、キイロメジロの名前で流通。キクユメジロの方がやや高額)が輸入されるようになった。 知見の集積が必要				茨城、滋賀、京都、長崎		
継続	3	定着初期／限定分布	コリンウズラ	<i>Colinus virginianus</i>	I			-	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	知見の集積が必要				北海道、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、京都、山口、香川、高知、長崎、沖縄		
継続	4	分布拡大大期～まん延期	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	I、II、III			-	-	◎	-	◎	◎	◎	-	◎	○	-			○	茨城、栃木、千葉、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄			
継続	5	分布拡大大期～まん延期	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	I			◎	-	-	-	◎	◎	-	-	-	○	-	分布拡大大期	特定	日本		福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知、滋賀、山口、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	6	分布拡大大期～まん延期	カオグロガビチョウ	<i>Garrulax perspicillatus</i>	I			◎	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-		特定			茨城、栃木、千葉、神奈川、長野、長崎、沖縄		
継続	7	分布拡大大期～まん延期	カオジロガビチョウ	<i>Garrulax sannio</i>	I			◎	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-		特定			茨城、千葉、長崎、沖縄		
継続	8	分布拡大大期～まん延期	ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>	IV			-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	知見の集積が必要	未判定			茨城、徳島、香川、高知、長崎		
継続	9	分布拡大大期～まん延期	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	I			◎	-	-	-	◎	○	○	-	-	○	-	分布拡大大期	特定	日本	○	福島、茨城、千葉、神奈川、石川、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	10	分布拡大大期～まん延期	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i> ssp.	III			○	-	-	-	◎	◎	-	-	◎	○	-	亜種不明:シロガシラ 定着の由来(自然分布、人為分布)が確定していない 2015年12月4日茨城県に野外分布していた2個体の捕獲が実施された結果、国内に生息していた野外個体はすべて捕獲されて根絶が完了した		日本		茨城、山口、長崎、沖縄		
継続	11	未定着	カナダガン	<i>Branta canadensis</i>	I			○	◎	○	-	◎	○	-	-	○	○	-			○	福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、長崎、沖縄			
継続	12	分布拡大大期～まん延期	クロエリセイタカシギ	<i>Himantopus himantops mexicanus</i>	I			-	◎	-	-	○	○	-	-	-	-	-					茨城、滋賀、京都、長崎、沖縄		
継続	13	分布拡大大期～まん延期	コウライキジ(大陸産亜種)	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>	III			-	○	-	-	◎	◎	○	-	◎	○	-	北海道では生息数減少。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。沖縄県ではやんばる地域への侵入が懸念されているほか、伊是名島及び石垣島、宮古島では農業被害が問題となっている。		日本		北海道、茨城、千葉、静岡、山口、香川、高知、長崎、鹿児島、沖縄	川上委員	
継続	14	定着初期／限定分布	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	I			○	-	○	-	○	○	○	-	-	○	-				○	北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、静岡、愛知、滋賀、京都、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	15	定着初期／限定分布	(ワカケ)ホンセイインコ→ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri (manillensis)</i> → <i>Psittacula krameri manillensis</i>	I			○	-	○	-	○	○	-	-	○	○	-	安定して繁殖しているが、顕著な分布拡大大期などは報告されていない			○	茨城、愛知、長崎、宮崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（鳥類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種（順不同）

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	16	未定着	コウラウン	<i>Pycnonotus jocosus</i>		○	◎	○	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-	園館飼育有			○				
再検討	17	未定着	コシジロキンバラ	<i>Lonchura striata</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-								
再検討	18	定着初期／限定分布	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	園館飼育有				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、山口、宮崎、鹿児島			
再検討(候補)	19	分布拡大期～まん延期	ハッカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus cristatellus</i>	Ⅳ	/	/	○	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	兵庫県では定着し安定して繁殖している			○	茨城、千葉、滋賀、京都、兵庫、山口、徳島、香川	川上委員		
再検討(候補)	20	分布拡大期～まん延期	インドハッカ	<i>Acridotheres tristis</i>	Ⅱ、Ⅳ	/	/	○	-	-	-	◎	◎	○	-	○	-	-	八重山諸島に生息している個体は、台湾に移入し繁殖した個体が飛来していると考えられている。石垣島では2005年頃から見られるようになり、2009年に島内での繁殖が確認されたとされる。		日本	○	山口	環境省		
再検討	21	定着初期／限定分布	カササギ	<i>Pica pica</i>		/	/	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-				○	北海道、兵庫、山口、宮崎			
再検討	22	定着初期／限定分布	シマキンバラ(アミハラ)	<i>Lonchura punctulata</i>		/	/	○	-	-	-	○	○	○	-	○	○	-	定着の由来(自然分布、人為分布)が確定していない				千葉、鹿児島、沖縄			
再検討	23	定着初期／限定分布	コクチョウ	<i>Cygnus atratus</i>		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-				○	福島、茨城、千葉、和歌山、山口、宮崎			
再検討	24	定着初期／限定分布	テッケイ(タイワンコジュケイ)	<i>Bambusicola thoracicus sonorivox</i>		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-		-	兵庫県にのみ定着							
	25	定着初期／限定分布	オオホンセイインコ	<i>Psittacula eupatria</i>		/	/	○	-	-	-	○	○	-	○	○	○	-				○				
再検討(候補)	26	まん延期	カワラバト	<i>Columba livia</i>	Ⅲ	/	/	-	-	-	-	◎	◎	-	○	○	-	-			日本	○	北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、宮崎、鹿児島			
再検討	27	定着初期／限定分布	シラコバト	<i>Streptopelia decaocto</i>		/	/	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	国の天然記念物、埼玉県の鳥に指定されている。近年、減少傾向にあり、H24に埼玉県が生息状況を調査し、生息数が少ないことが判明。			○	山口			
再検討	28	まん延期	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus thoracicus</i>		/	/	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	三宅島のアカコッコの減少に影響している可能性			○	福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、福岡、宮崎、鹿児島			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(鳥類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	人体		経済産業	利用	付着混入								
新規	29	未定着	オオリュウキュウガモ	Dendrocygna arcuata		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	30	未定着	カオジロガン	Branta leucopsis		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有			○					
新規	31	未定着	インドガン	Anser indicus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	在来種(迷鳥)、園館飼育有			○					
新規	32	未定着	ハイロガン	Anser anser		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	在来種(迷鳥)、園館飼育有			○					
新規	33	未定着	エジプトガン	Alopochen aegyptiaca		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有			○					
新規	34	未定着	アカオタテガモ	Oxyura jamaicensis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	35	未定着	カンムリウズラ	Callipepla californica		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有			○					
新規	36	未定着	イワシヤコ	Alectoris chukar		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有			○					
新規	37	未定着	シマシヤコ	Francolinus pondicerianus		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	38	未定着	クロガオシヤコ	Pternistis erckelii		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	39	未定着	ヨーロッパヤマウズラ	Perdix perdix		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	40	未定着	セキショクヤケイ	Gallus gallus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有			○					
新規	41	未定着	アオエリヤケイ	Gallus varius		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	42	未定着	ミヤマハッカ	Lophura leucomelanos		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	43	未定着	キンケイ	Chrysolophus pictus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有			○					
新規	44	未定着	モモイロベリカン	Pelecanus onocrotalus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				山口				
新規	45	未定着	コシベニベリカン	Pelecanus rufescens		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				山口				
新規	46	未定着	アフリカクロトキ	Threskiornis aethiopicus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有			○					
新規	47	未定着	インドトキヨウ	Mycteria leucocephala		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有								
新規	48	未定着	ニシアマサギ	Bubulcus ibis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	49	未定着	ヒメコンドル	Cathartes aura		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				宮崎				
新規	50	未定着	ミナミチュウヒ	Circus approximans		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	51	未定着	ニュージーランドクイナ	Gallirallus australis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	52	未定着	セイケイ	Porphyrrio porphyrio		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	53	未定着	ホオジロカンムリヅル	Balearica regulorum		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有				茨城、山口				
新規	54	未定着	オオヅル	Grus antigone		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有				山口				
新規	55	未定着	マダガスカルキジバト	Nesoenas picturatus		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	56	未定着	バライロシラコバト	Streptopelia roseogrisea		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	57	未定着	カノコバト	Spilopelia chinensis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	58	未定着	ウライバト	Spilopelia senegalensis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	59	未定着	チョウショウバト	Geopelia striata		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	60	未定着	ハジロバト	Zenaida asiatica		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	61	未定着	オオメンフクロウ	Tyto novaehollandiae		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	62	未定着	メンフクロウ	Tyto alba		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	63	未定着	アメリカワシミミズク	Bubo virginianus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	64	未定着	コキンメフクロウ	Athene noctua		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	65	未定着	ミナミアオバズク	Ninox boobook		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	66	未定着	グアムムジアナツバメ	Aerodramus bartschi		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	67	未定着	ワライカワセミ	Dacelo novaeguineae		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	68	未定着	シロボシオオゴシキドリ	Psilopogon lineatus		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	69	未定着	チマンゴカラカラ	Milvago chimango		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	70	未定着	テンジクバタン	Cacatua tenuirostris		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-				○					
新規	71	未定着	アカビタイムジオウム	Cacatua sanguinea		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	72	未定着	シロビタイムジオウム	Cacatua goffiniana		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	73	未定着	キバタン	Cacatua galerita		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	74	未定着	コバタン	Cacatua sulphurea		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	75	未定着	オキナインコ	Myiopsitta monachus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	76	未定着	キカタインコ	Brotheria chinri		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	77	未定着	フジイロボウシインコ	Amazona finschi		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	78	未定着	キボオボウシインコ	Amazona autumnalis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	79	未定着	メキシコアカボウシインコ	Amazona viridigenalis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	80	未定着	キガシラボウシインコ	Amazona oratrix		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	81	未定着	キソデボウシインコ	Amazona amazonica		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有				○				
新規	82	未定着	メキシコインコ	Eupsittula canicularis		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○					
新規	83	未定着	チャノドインコ	Eupsittula pertinax		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	チャノドメキシコインコの和名で流通有				○				
新規	84	未定着	シモフリインコ	Aratinga weddellii		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有				○				
新規	85	未定着	クロガミインコ	Aratinga nenday		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有				○				
新規	86	未定着	ルリコンゴウインコ	Ara ararauna		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有				○				
新規	87	未定着	ヒメコンゴウインコ	Ara severus		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有				○				
新規	88	未定着	トガリオインコ	Psittacara acuticaudatus		○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有				○				
新規	89	未定																								

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（鳥類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
新規(候補)	104	定着初期／限定分布	サンジャク	<i>Urocissa erythroryncha</i>	IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	1999年頃、愛媛県南予地方の観光施設より逸出した複数個体が由来と考えられている。				茨城、愛媛、高知	川上委員、環境省、地方公共団体	
新規	105	未定着	ヤマムスメ	<i>Urocissa caerulea</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有			○	千葉		
新規	106	未定着	ルリハコバシチメドリ	<i>Siva cyanouroptera</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	属名が専門リストで異なっている(Minla、Actinodura)外来生物法の未判定外来生物に指定			○			
新規	107	未定着	ダルマエナガ	<i>Sinosuthora webbiana</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	108	未定着	ハイムネメジロ	<i>Zosterops lateralis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	109	未定着	ピロードゴジュウカラ	<i>Sitta frontalis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	110	未定着	マネシツグミ	<i>Mimus polyglottos</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	111	未定着	フナシマネシツグミ	<i>Mimus gilvus</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	112	未定着	ミドリカラスモドキ	<i>Aplonis panayensis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	113	未定着	シロガシラムクドリ	<i>Acridotheres burmannicus</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	114	未定着	ニシクロウタドリ	<i>Turdus merula</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	クロウタドリとして流通有			○			
新規	115	未定着	ウタツグミ	<i>Turdus philomelos</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有			○			
新規	116	未定着	アカハラシキチョウ	<i>Kittacincla malabarica</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	117	未定着	イエスズメ	<i>Passer domesticus</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	在来種(迷鳥)			○			
新規	118	未定着	スペインスズメ	<i>Passer hispaniolensis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	119	未定着	ズグロウロコハタオリ	<i>Ploceus cucullatus</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	園館飼育有			○			
新規	120	未定着	ズグロハタオリ	<i>Ploceus melanocephalus</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	121	未定着	オウゴンチョウ	<i>Euplectes afe</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					茨城	
新規	122	未定着	オオキンランチョウ	<i>Euplectes orix</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					福島、山口	
新規	123	未定着	メンハタオリドリ	<i>Ploceus intermedius</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城		
新規	124	未定着	ベニノジロ	<i>Foudia madagascariensis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	125	未定着	カエデチョウ	<i>Estrilda troglodytes</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有			○	千葉		
新規	126	未定着	オナガカエデチョウ	<i>Estrilda astrild</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	127	未定着	シマコキン	<i>Lonchura castaneothorax</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-				○			
新規	128	未定着	キンバラ	<i>Lonchura atricapilla</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					千葉、山口	
新規	129	未定着	ギンバラ	<i>Lonchura malacca</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					茨城、千葉、山口、沖縄	
新規	130	未定着	ヘキチョウ	<i>Lonchura maja</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					茨城、千葉	
新規	131	未定着	ブンチョウ	<i>Lonchura oryzivora</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有					茨城、千葉、山口、宮崎	
新規	132	未定着	デンニンチョウ	<i>Vidua macroura</i>		○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	園館飼育有、流通有					茨城	
新規	133	未定着	ヨーロッパカヤクグリ	<i>Prunella modularis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	134	未定着	メキシコマシコ	<i>Carpodacus mexicanus</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					○		
新規	135	未定着	ゴシキヒワ	<i>Carduelis carduelis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有				○		
新規	136	未定着	テリハネコウウチョウ	<i>Molothrus bonariensis</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	137	未定着	コウウチョウ	<i>Molothrus ater</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	138	未定着	ジュウカチョウ	<i>Diuca diuca</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○			
新規	139	未定着	キンノジロ	<i>Sicalis flaveola</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-				○			
新規	140	未定着	コウカンチョウ	<i>Paroaria coronata</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	流通有					茨城、宮崎	

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（鳥類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内・家畜由来外来種(その他の検討対象種)】
リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同) 2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他		
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入	
再検討(候補)	1	定着初期／限定分布	アイガモ	Anas platyrhynchos × A. p. var. domesticus	Ⅳ		○	○	○			○	○				○							北海道、滋賀、兵庫、福岡		
再検討(候補)	2	定着初期／限定分布	アヒル	Anas platyrhynchos var. domesticus	Ⅳ		○	○	○			○	○				○							茨城、千葉、滋賀、京都、兵庫、山口、福岡	川上委員	
再検討	3	定着初期／限定分布	キジ	Phasianus colchicus			○	○	○			○	○				○	○						奈良、鹿児島		
再検討	4	定着初期／限定分布	ヤマドリ、ウスアカヤマドリ	Symaticus soemmerringii scintillans, Symaticus soemmerringii subrufus			○	○	○			○	○				○		亜種: ヤマドリ、ウスアカヤマドリ 1974年ごろ北海道に放鳥された。現状の生息状況不明(消滅している可能性アリ)				北海道			

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他		
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態系改 変	繁殖		気候	人体	経済 産業	利用								付着 混入	
新規 (候補)	5	定着初期／限定分布	バリケン	<i>Cairina moschata</i>	Ⅳ		○	○	○			○	○				○			○				川上委員		
新規	6	定着初期／限定分布	シナガチョウ	<i>Anser cygnoides var. orientalis</i>			○					○	○				○							茨城、千葉、山口		
新規	7	?	ウズラ	<i>Coturnix japonic</i>			○					○	○				○							沖縄		
新規	8	?	ニワトリ	<i>Gallus gallus var. domesticus</i>			○					○	○				○							千葉、山口		
新規	9	?	メジロ(県外)	<i>Zosterops ssp.</i>								○	○											沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(爬虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】
現リスト掲載種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
継続	1	未定着	ワニガメ属	Macrochelys spp.	Ⅲ,Ⅳ	○	-	○	-	○	-	-	○	-	◎	-	-	-	動物愛護管理法で特定動物(危険な動物)に指定されている。特定動物への指定前はペット用の利用がなされていた。				茨城、栃木、千葉、長野、滋賀、京都、兵庫、和歌山、徳島、香川、福岡、佐賀、長崎、沖縄			
継続	2	未定着	ニシキガメ属	Chrysemys spp.	Ⅳ	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	アカミミガメ等の代用種となりうるおそれがある。				長崎、沖縄			
継続	3	未定着	チズガメ属3種(ミシシippチズガメ、フトマチズガメ(サビーンチズガメを含む)、ニセチズガメ)	Graptemys spp.	Ⅳ	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ミシシippチズガメG. kohnii、フトマチズガメG. ouachitensis(サビーンチズガメG. o. sabinensisを含む)、ニセチズガメG. pseudogeographica の3種。アカミミガメ等の代用種となりうるおそれがあるため留意が必要。				長崎、沖縄			
継続	4	未定着	クーターガメ属	Pseudemys spp.	Ⅳ	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ほとんどの種がペットとして輸入されている。特にペニンシュラクーター P. peninsularis の輸入が多く、安価に販売されている。アカミミガメ等の代用種となりうるおそれがある。				滋賀、長崎、沖縄			
継続	5	未定着	チュウゴクセマルハコガメ	Cuora flavomarginata flavomarginata	Ⅳ	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	八重山諸島に亜種やエヤマセマルハコガメ C. f. evelynae が分布。沖縄島ではしばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。本亜種の属するインガメ科は属間交雑するため留意が必要。				長野、福岡、長崎、沖縄			
継続	6	未定着	ハナガメ	Mauremys sinensis	Ⅳ	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	遺棄されたと考えられる個体が野外で見つかったことがある。ニホンインガメを含む他インガメ属と雑種を形成するため遺伝的かく乱を生じる恐れがある。野外での交雑個体の確認例も報告されている。	特定外来			茨城、千葉、愛知、京都、長崎、沖縄			
継続	7	未定着	アメリカスッポン属	Apalone spp.	Ⅳ	○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	フロリダスッポン A. ferox、スベスッポン A. mutica、トゲスッポン A. spinifera が国内で多数販売されている。				北海道(トゲスッポンとして)、滋賀、長崎、沖縄			
継続	8	未定着	ブラウンアノール	Anolis sagrei	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	○	フロリダの侵入地では在来のグリーンアノールを駆逐している。特定外来生物に指定される以前はペット用などで利用されていた。	特定外来		○	長崎、沖縄			
継続	9	未定着	特定外来生物のアノール属(グリーンアノール、ブラウンアノール除く)	Anolis spp.	Ⅳ	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	Anolis allogus、A. alutaceus、A. angusticeps、ナイトアノールA. equestris、ガーマンアノールA. garmani、A. homolechisの6種。特定外来生物に指定される以前はペット用などで利用されていた。	特定外来		○	長崎、沖縄			
継続	10	未定着	ヒョウモントカゲモドキ	Eublepharis macularius	Ⅳ	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	爬虫類に病原性を持ち、在来種オビトカゲモドキに致死性のある原虫 クリプトスポリジウム Cryptosporidium spp. に感染している場合があり、在来爬虫類への感染が懸念される。				長崎、沖縄			
継続	11	未定着	ミナミオオガシラ	Boiga irregularis	I	○	○	○	-	◎	-	-	○	-	○	-	-	○	沖縄島で貨物への混入に由来すると考えられる個体が捕獲されたことがある。弱毒だが咬まれると重体になることもある。グアム島での定着事例等を考慮すると、ひとたび侵入定着すると排除は困難とする指摘がある。	特定外来	世界	○	長崎、沖縄			
継続	12	未定着	特定外来生物のオオガシラ属(ミナミオオガシラを除く)	Boiga spp.	Ⅳ	○	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	○	ミドリオオガシラB. cyanea、イヌバオオガシラB. cynodon、マンガロープヘビB. dendrophila、ボウシオオガシラB. nigricepsの4種。グアム島でのミナミオオガシラの定着事例等を考慮すると、ひとたび侵入定着すると排除は困難と考えられる。	特定		○	長崎、沖縄			
継続	13	定着初期／限定分布	カミツキガメ	Chelydra serpentina	I,Ⅲ			○	-	◎	-	-	○	-	◎	-	-	-	広義のカミツキガメを指す。4亜種(ホクベйкаミツキガメ C. s. serpentina、フロリダカミツキガメ C. s. osceola、チュウベйкаミツキガメ C. s. rossignoni、ナンベйкаミツキガメ C. s. acutirostris) から成る。ペットとして飼われていたものが遺棄されて定着したと考えられている。千葉県印旛沼水系では定着しており、推定個体数30000匹とされている。静岡県狩野川でも定着が確認されている。	特定	日本		北海道、茨城、栃木、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、福岡、佐賀、長崎、鹿児島			
継続	14	分布拡大大期～まん延期	アカミミガメ	Trachemys scripta	I			◎	-	○	-	-	○	-	-	○	◎	-	3亜種(ミシシippアカミミガメ T. s. elegans、キバラガメ T. s. scripta、カンバーランドキミミガメ T. s. troosti) から成る。ペットとして安価に大量に販売され。遺棄や逸走が頻繁に生じていたと考えられる。2022年に飼育などは規制されない条件付き特定外来生物に指定され、輸入および販売は停止した。なお、現在でも全国各地で、多数が定着して野外での繁殖も確認されている。	条件付き特定	日本、世界	○	北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島	地方公共団体(キバラガメとして)		
継続	15	小笠原・南西諸島	グリーンアノール	Anolis carolinensis	I,Ⅱ			○	-	◎	-	-	○	◎	-	-	-	○	小笠原諸島で深刻な生態系被害を引き起こしている。2012年に兄島への侵入が確認され、根絶に向けた取組が進められている。沖縄島や周辺の離島でも定着している。特定外来生物に指定される以前はペット用などで利用されていた。	特定	日本	○	長崎、沖縄			
継続	16	小笠原・南西諸島	タイワンスジオ	Elaphe taeniura friesei	I			-	○	◎	-	-	○	○	-	-	-	-	先島諸島には同種の別亜種サキシマスジオ E. t. schmackeri が生息し、交雑による遺伝的なかく乱の恐れがある。沖縄島では哺乳・鳥類を捕食する昼行性のヘビ類がいないため、定着した場合捕食による在来生物群への影響が懸念される。	特定	日本	○	長崎、沖縄			
継続	17	小笠原・南西諸島	タイワンハブ	Protobothrops mucrosquamatus	I,Ⅲ			○	◎	◎	-	-	○	○	◎	-	-	-	ヘビを用いたショー及び薬用として、1970年代から1990年代半ばまで沖縄島に大量に輸入されていた。これらの逸出か遺棄に由来すると考えられる。	特定			長崎、沖縄			
継続	18	小笠原・南西諸島	グリーンイグアナ	Iguana iguana	Ⅳ			-	-	○	-	-	○	○	-	○	◎	-	石垣島では定着している。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。			○	山口、福岡、長崎、宮崎、沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(爬虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

: 現リストの掲載種
- 再検討

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- 新規

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】
現リスト掲載種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
継続	19	定着初期／限定分布	ミナミイシガメ	Mauremys mutica mutica	Ⅳ			○	○	○	-	-	○	○	-	-	○	-	国内では京都や滋賀に定着。八重山諸島に亜種イエヤマイシガメ <i>M. m. kami</i> が分布。本亜種の属するイシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。ペット用に流通することがある。				千葉、滋賀、京都、長崎、沖縄			
継続	20	分布拡大期～まん延期	チュウゴクスッポン	Pelodiscus sinensis	Ⅰ			○	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	ニホンスッポンとの交雑が生じている可能性がある。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。日本国内のチュウゴクスッポンの正確な分布状況は不明であるため知見の集積が必要。ただし、養殖用の遺棄、逃亡などにより全国に広がっている可能性がある。ニホンスッポンとは亜種関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。				北海道、福島、茨城、兵庫、長崎、鹿児島、沖縄			
継続	21	定着初期／限定分布	スインホーキノボリトカゲ	Japalura swinhonis	Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	輸入植物への混入による侵入と推測されている。宮崎県日向市、静岡県浜松市、神奈川県厚木市にて定着が確認されている。生態系への影響については知見の収集が必要である。				静岡、長崎、宮崎、沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(爬虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討(候補)	1	分布拡大期～まん延期	クサガメ	Mauremys reevesii	I				○	◎	-	-	○	○	○	-	-	◎	-	在来種ニホンイシガメとの交雑が複数地域で報告され遺伝的かく乱が生じている。また、交雑個体も繁殖能があることから継続的に遺伝的かく乱が生じ続けることが考えられる。さらにニホンイシガメの雌個体に関する繁殖干渉も報告される。特に西日本、千葉県房総半島、神奈川県三浦半島、福井県中池見湿地などではクサガメとの交雑がニホンイシガメの減少要因の一つと考えられている。				北海道、青森、滋賀、兵庫、山口、鹿児島	環境省外来室、地方公共団体	
再検討(候補)	2	小笠原・南西諸島	ホオグロヤモリ	Hemidactylus frenatus	IV				◎	-	○	-	-	○	○	-	-	○	○	東南アジア原産。国内では琉球列島および小笠原諸島に分布。近年、奄美大島・喜界島・宝島でも確認され。奄美大島と喜界島では定着している。侵略的であり在来ヤモリ類との競合が懸念される。海外では寄生虫や細菌など媒介による在来種への影響も懸念されている。			○	鹿児島		
再検討	3	未定着		Hemidactylus mabouia		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	アフリカ大陸原産。現在は北南米に広く分布し在来ヤモリ類と競合を生じている様子。			○			
再検討	4	小笠原・南西諸島	オガサワラヤモリ	Lepidodactylus lugubris				-	×	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	全世界的に広く分布し、国内では琉球列島や小笠原諸島に分布し、分布の北限。単為生殖を行う。単為生殖するので気候条件が適応すれば定着する可能性はある。						
再検討	5	未定着		Anolis aeneus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	6	未定着		Anolis distichus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	7	未定着		Anolis extremus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	8	未定着		Anolis grahami (Norops grahami)		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	9	未定着		Anolis leachii		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	10	未定着		Anolis lineatus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	11	未定着		Anolis maynardi		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	12	未定着		Anolis porcatus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	13	未定着		Anolis richardii		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	14	未定着		Anolis trinitatis		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	15	未定着		Anolis watti		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	○	定着した場合、在来昆虫類の捕食や在来トカゲ類との競合が症える恐れはある。現在は未判定外来種に指定されているため輸入・流通はほぼない。	未判定		○			
再検討	16	未定着	ジャクソンカメレオン	Chamaeleo jacksonii		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ハワイ島で定着。日本にはペットとして流通するが野外移出例などは報告がない。			○			
再検討	17	小笠原・南西諸島	キノボリヤモリ	Hemiphyllodactylus typus typus				-	×	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	日本では西表島、石垣島に生息。単為生殖するので気候条件が適応すれば定着する可能性はある。						
再検討	18	未定着	シクラカベカナヘビ	Podarcis sicula		○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	イタリア等の地中海周辺原産のカベカナヘビ。スペイン諸島では定着例がある。日本ではペット利用のため少数が流通する。			○			
再検討	19	未定着	ツナギトゲオイグアナ	Ctenosaura similis		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	コスタリカなど南米原産。北米、ベネズエラで定着例あり。日本では少数がペット用に流通する。			○			
再検討	20	未定着		Gymnophthalmus underwoodi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ベネズエラ、ガイアナなど南米原産。キューバ、サバ島などで定着。						
再検討	21	未定着	マングローブオオトカゲ	Varanus indicus		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	日本では少数がペット用に流通する。オーストラリアやグアム島で定着。定着地では養鶏や卵に被害が発生している。			○			
再検討	22	未定着	ナイルオオトカゲ	Varanus niloticus		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	日本では少数がペット用に流通する。フロリダでは定着し在来生物の捕食が問題視されている。			○			
再検討	23	未定着	ボアコンストリクター	Boa constrictor		-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	特定動物に指定されており、流通はほぼない。メキシコ、ブルエルトリコ、東南アジアなどで定着例あり。			○			
再検討	24	未定着	コーンスネーク	Pantherophis guttatus		○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	北米原産。カリブ海地域の島では定着例がある。日本ではペットとして輸入・流通量は多いが、逸出例などは少ない。			○			
再検討	25	未定着	インドニシキヘビ	Python molurus		-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	特定動物に指定されており、流通はごく少数。ワシントン条約附属書Ⅰ類。ビルマニシキヘビと交雑する。			○			
再検討	26	未定着	ビルマニシキヘビ	Python bivittatus		-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	特定動物に指定されており、流通はごく少数。フロリダでは定着し在来生物の捕食が問題視されている。ワシントン条約附属書Ⅱ類。インドニシキヘビと交雑する。			○			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(爬虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

: 現リストの掲載種
- 再検討

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- 新規

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	27	定着初期/限定分布	ブラーミニメクラヘビ	Ramphotyphlops braminus		/	/	-	×	-	-	○	○	-	-	-	-	○	原産地は判然としない。植木鉢などに園芸用の土に紛れて拡散し世界中に広く分布。日本では琉球列島、鹿児島県で定着している。単為生殖し拡散能力は高い。アリ・シロアリ類などの小型の節足動物・卵を捕食するが生態系への影響は不明。				宮崎、鹿児島			
再検討	28	未定着	メガネカイマン	Caiman crocodilus		-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	エクアドルなど南米原産。ワシントン条約附属書1種。特定動物のため、愛玩用の飼育は禁止されている。アメリカ、プエルトリコ、キューバで定着し、在来ワニ類との競合している。プエルトリコの地元魚種に感染する「カイマン舌虫」として知られる外来寄生虫の媒介とも考えられている。			○				

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(爬虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

: 現リストの掲載種
- 再検討

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- 新規

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	1	未定着	ブエルトリコアノール	Anolis cristatellus		○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	ブエルトリコ、米国および英国領バージン諸島に自生しており、カリブ海周辺にて定着例あり。他アノール類と同様に在来トカゲ類との競合、昆虫類の捕食が生じている。	未判定		○					
新規	2	未定着	クサリヤマカガシ	Natrix maura		○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	スペイン、ポルトガルなどから北アフリカ原産。スペインにて定着。			○					
新規 (候補)	3	未定着	特定外来生物のハナガメ交雑種	Mauremys. sinensis × M. japonica、 M. sinensis × M. mutica、 M. sinensis × M. reevesii	I	○	-	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	繁殖能は不明だが、カメ類の雑種の多くに繁殖能があることからニホンインガメとの交雑が生じ、遺伝的かく乱が生じる恐れが指摘されている。散発的に野外での報告例もある。	特定			愛知				
新規	4	未定着	タテスジマブヤ	Eutropis multifasciata		○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	インドネシア等原産。中型のスキנקであり、台湾では既に定着して分布域を拡大しており、沖縄県の対策外来種リストに掲載されている。台湾に定着した例から沖縄県や鹿児島県の離島などに定着することが懸念されている。在来トカゲ類との競合や昆虫類の捕食のおそれがあり、知見の収集が必要。				沖縄				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(爬虫類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国内由来の外來種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入	①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
継続	1	国内由来の外來種	沖縄諸島及び宮古諸島のヤエヤマセマルハコガメ	<i>Cuora flavomarginata evelynae</i>	I			○	◎	-	-	-	○	○	-	-	-	-	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。ヤエヤマセマルハコガメは国の天然記念物に指定されている。しばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。リュウキュウヤマガメとの雑種と思われる個体も確認されている。宮古諸島では移入個体群(移入経緯は不明)が定着しているが天然記念物であるため、保護もしくは駆除を行うために課題がある。				沖縄			
継続	2	国内由来の外來種	沖縄諸島及び宮古諸島のヤエヤマISINGAME	<i>Mauremys mutica kami</i>	I			○	-	◎	-	-	○	○	-	-	○	-	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。定着しているが、これらの亜種は確定されていない。宮古島ではミヤコサワガニを捕食する被害が指摘されている。				鹿児島、沖縄			
継続	3	国内由来の外來種	琉球列島のニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i>	IV			○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。チュウゴクスッポンとは亜種関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。P.japonicusとしての分布情報などは不明。				青森、福島、鹿児島、沖縄			
継続	4	国内由来の外來種	九州のオキナワキノボリトカゲ	<i>Japalura polygonata polygonata</i>	IV			-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。九州南部の個体群については生態、防除法等についての研究が行われている。				長崎、宮崎、鹿児島			
継続	5	国内由来の外來種	伊豆諸島のニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	I			○	◎	-	-	-	○	○	-	-	-	-	本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のものは別種ヒガシニホントカゲ P. finitimus とされた。八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。オカダトカゲとの交雑が確認されている。							

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討(候補)	1	国内由来の外來種	タワヤモリ・ニシヤモリ生息地域のニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	I, II			○	○	○	-	-	○	○	-	-	-	○			○	北海道、滋賀、鹿児島				
再検討(候補)	2	国内由来の外來種	屋久島・種子島のミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>	I, II			○	○	○	-	-	○	○	-	-	-	○				和歌山、鹿児島				
再検討	3	国内由来の外來種	八丈島のアオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>				○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	4	国内由来の外來種	伊豆諸島のヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	5	国内由来の外來種	沖縄県南部のサキシマハブ	<i>Protobothrops elegans</i>				○	○	○	-	-	○	-	○	-	-	○				沖縄				

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
新規	1	国内由来の外來種	栗国島のハブ	<i>Protobothrops flavoviridis</i>				-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	○	栗国島にて定着が確認されている。ハブがいない島のため住民の生活に影響が出る可能性が指摘されている。			沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(両生類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

-
- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	コキーコヤスガエル	<i>Eleutherodactylus coqui</i>	I	○	◎	○	-	◎		◎	○	-	-	○	-	○	海外では貨物などに紛れて移動したと考えられている。導入されたハワイ島では高密度に生息し、観光ホテル等で鳴き声による騒音被害が発生している。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	2	未定着	ジョンストンコヤスガエル	<i>Eleutherodactylus johnstonei</i>	IV	○	○	○	-	○		○	○	-	-	-	-	○	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	3	未定着	オンシツガエル	<i>Eleutherodactylus planirostris</i>	IV	○	○	○	-	○		○	○	-	-	-	-	○	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	特定	日本	○	長崎、沖縄		
継続	4	未定着	キューバズツキガエル(キューバアマガエル)	<i>Osteopilus septentrionalis</i>	I	○	◎	○	-	◎		-	○	-	-	-	-	○	皮膚粘液による上位捕食者への影響も考えられる。捕食性が強く、他のカエルも餌とする。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	5	未定着	特定外来生物のヒキガエル属(オオヒキガエルを除く)	<i>Bufo</i> spp.	IV	○	◎	○	-	○		-	○	-	-	-	○	○	ブレーンズヒキガエル <i>B. cognatus</i> 、キンイロヒキガエル <i>B. guttatus</i> 、アカボシヒキガエル <i>B. punctatus</i> 、オークヒキガエル <i>B. quercicus</i> 、テキサスヒキガエル <i>B. speciosus</i> 、コノハヒキガエル <i>B. typhonius</i> 、アフリカヒキガエル <i>Bufo regularis</i> の7種。	特定		○	栃木、長崎、沖縄		
継続	6	未定着	ヨーロッパミドリヒキガエルなどヒキガエル属5種(ヨーロッパミドリヒキガエル、テキサスマドリヒキガエル、ナンブヒキガエル、ガルフコーストヒキガエル、ロココヒキガエル(キャハンヒキガエル))	<i>Bufo</i> spp.	IV	○	◎	○	-	○		-	○	-	-	-	○	○	ヨーロッパミドリヒキガエル <i>B. viridis</i> 、テキサスマドリヒキガエル <i>B. debilis</i> 、ナンブヒキガエル <i>B. terrestris</i> 、ガルフコーストヒキガエル <i>B. valliceps</i> 、ロココヒキガエル(キャハンヒキガエル) <i>B. paracnemis</i> の5種。				北海道、長崎、沖縄		
継続	7	未定着	アジアジムグリガエル	<i>Kaloula pulchra</i>	IV	○	◎	○	-	○		-	○	-	-	-	○	◎	輸入貨物への混入例が確認されている。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	8	未定着	ヘリグロヒキガエル	<i>Bufo melanostictus</i>	IV	○	◎	○	-	○		-	○	-	-	-	○	◎	輸入貨物への混入例が確認されている。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	9	小笠原・南西諸島	オオヒキガエル	<i>Bufo marinus (Rhinella marina)</i>	I、II			○	-	◎		◎	○	◎	○	-	○	◎	耳腺からの毒液により、カエルの捕食者が死亡することがある。	特定	日本	○	栃木、長崎、沖縄		
継続	10	定着初期／限定分布	チュウゴクオオサンショウウオ	<i>Andrias davidianus</i>	I			○	◎			-	○	-	-	-	-	-	遺伝的かく乱等によるオオサンショウウオへの被害が確認されており、特定外来生物に指定された。	特定			京都、兵庫、長崎、沖縄		
継続	11	分布拡大型～まん延期	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana (Lithobates catesbeianus)</i>	I			○	-	◎		◎	○	-	-	-	◎	-	さまざまな小動物を広く捕食する他、カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根絶された。	特定		○	北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、石川、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	12	小笠原・南西諸島	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	I、II			○	-	◎		-	○	○	-	-	○	◎	外来の寄生虫が確認されている。	特定		○	長崎、鹿児島、沖縄	松田委員	
継続	13	定着初期／限定分布	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	IV			○	-	○		-	○	-	-	○	◎	-	カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されているが、評価未了。鯉養殖場でコイの幼魚が食べられる被害。			○	北海道、静岡、兵庫、和歌山、長崎、鹿児島、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(両生類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	1	未定着	キンスジアメガエル	<i>Litoria aurea</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。ニュージーランドやニューカレドニアにて定着。GISDには“ <i>Ranoides aurea</i> ”として掲載されている。							
再検討	2	未定着	キアシナンベイアマガエル	<i>Scinax ruber</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	南米北部に分布し、プエルトリコ、マルティニーク、セントルシアでの野外記録があり、侵略的とされている。本種の分布域は広いが、真の本種はベネズエラ(ボリバル)、ガイアナ、スリナム、フランス領ギアナ及び上記外来集団のみで、他地域のものは未記載の別種とされる(Amphibians Species of the Worldの記述より)。			○				
再検討	3	未定着	Venezuela Snouted Treefrog	<i>Scinax x-signatus</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	南米北部から東部に自然分布し、ドミニカとグアデロープに侵入して侵略的とされる。			○				
再検討	4	未定着	トウブジムグリガエル	<i>Gastrophryne carolinensis</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国の南東部に自然分布する。バハマとケイマン諸島に侵入して、グランドケイマン島では高密度化してアリ、シロアリ、甲虫を捕食して侵略的とされる。			○				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(両生類)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(定着段階以外は順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
新規(候補)	1		Andrias属(A.japonicusを除く)の全種	Andrias spp.	I	○	-	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	チュウゴクオオサンショウウオについては、遺伝的かく乱等によるオオサンショウウオへの被害が確認されていることから、他の外来種と合わせて特定外来生物に指定された。	特定						
新規(候補)	2		Andrias属の交雑個体		I	○	-	○	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	遺伝的かく乱等によるオオサンショウウオへの被害が確認されており、特定外来生物に指定された。	特定			滋賀			
新規(候補)	3		ホンコンシロアゴガエル	Polypedates megacephalus	IV	○	-	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	中国大陸から台湾に2006年に侵入して分布拡大しており、生態系被害が指摘されている。2022年に沖縄島への5個体の侵入(台湾からのコンテナへの侵入)が確認されている。	未判定		○	沖縄			
新規	4		サンバガエル	Alytes obstetricans							-	-	○	-	-	-	-	ヨーロッパ大陸に自然分布し、イギリスでの野外記録がある。			○				
新規	5		ブルースポットサラマンダー	Ambystoma laterale							-	-	○	-	-	-	-	カナダ南東部からアメリカ合衆国北東部にかけて自然分布する。GISDIに掲載されているが侵入や侵略性の記載なし。			○				
新規	6		タイガーサラマンダー	Ambystoma tigrinum							-	-	○	-	-	-	○	アメリカ合衆国の中部から東部等に広く自然分布。釣り餌として利用されカリフォルニア等に侵入している。ラナウिल्スの媒介が懸念され、在来種との交雑が確認されている。			○				
新規	7		アメリカヒキガエル	Anaxyrus americanus							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国東部、カナダ東部に広く自然分布。GISDIに掲載されているが侵入や被害の記載なし。	未判定		○				
新規	8		ハイカイキノボリサラマンダー	Aneides vagrans							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国に自然分布。カナダ・ブリティッシュコロンビアでの野外記録があるが侵略性については分かっていない。			○				
新規	9		ヨーロッパズガエル	Bombina bombina							-	-	○	-	-	-	-	ヨーロッパ中央部から西部にかけて自然分布する。フランス、オランダ、スウェーデン、イギリスでの野外記録がある。			○				
新規	10		チョウセンズガエル	Bombina orientalis							-	-	○	-	-	-	○	朝鮮半島、中国東部からロシア沿海州に自然分布する。ベルギー、中国・山東省での野外記録がある。			○	北海道			
新規	11		キバラスズガエル	Bombina variegata							-	-	○	-	-	-	-	ヨーロッパ大陸に自然分布し、イギリスでの野外記録がある。			○				
新規	12		ヨーロッパヒキガエル	Bufo bufo							-	○	○	-	-	○	-	ヨーロッパからロシア東部に広く自然分布しており、アイルランドでの野外記録がある。	未判定		○				
新規	13		アジアヒキガエル	Bufo gargarizans							-	○	○	-	-	○	-	中国東部から朝鮮半島、ロシア沿海州などに広く自然分布しており、日本産亜種(ミヤコヒキガエル)が大東諸島に定着している。ベトナムでも記録されているが、侵略性は不明とされている。	未判定		○	北海道			
新規	14		マダラヤドクガエル	Dendrobates auratus							-	-	○	-	-	-	○	ニカラグアからコロンビアまでの中南米に自然分布し、アメリカ合衆国ハワイ(オアフ島)に定着しており、エクアドルでも記録がある。			○				
新規	15		ダスキーサラマンダー	Desmognathus fuscus							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国東部に自然分布し、カナダ・オンタリオ州とアメリカ合衆国・ミシガン州での野外記録がある。			○				
新規	16		アザラシサラマンダー	Desmognathus monticola							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国東部のやや内陸部に自然分布しており、同国のオザーク高原での野外記録がある。アーカンソー州での記録もある(前記との関係は不明)。			○				
新規	17		ブラックベリーサラマンダー	Desmognathus quadramaculatus							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国の東部に自然分布し、同国ジョージア州での野外記録があるが、侵略性は不明。近年はDesmognathus fuscusに含められている。			○				
新規	18		ミミナシガエル	Discoglossus pictus							-	-	○	-	-	-	-	自然分布域はモロッコ、イタリア。スペイン東部とフランス西部に定着しており、スペインでは在来種のカエルに対して侵略的である。			○				
新規	19		アメリカマガエル	Dryophytes cinereus							-	-	○	-	-	-	○	アメリカ合衆国東南部に自然分布し、バハマ、プエルトリコ、アメリカ合衆国のビッグ・バンド国立公園及びマサチューセッツ州での野外記録があるが、侵略的とはされていない、または不明である。			○				
新規	20		リスアマガエル	Dryophytes squirellus							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国東南部に自然分布し、バハマでの野外記録がある。			○				
新規	21		オマーンヒキガエル	Duttaphrynus dhufarensis							-	-	○	-	-	-	-	アラブ首長国連邦に自然分布する。GISDIに掲載されているが移入や侵略性の記載なし。	未判定		○				
新規	22		アンチルコヤスガエル	Eleutherodactylus antillensis							-	-	○	-	-	-	-	プエルトルコ、バージン諸島に自然分布し、パナマとアメリカ領バージン諸島での野外記録がある。			○				
新規	23		リオグランデコヤスガエル	Eleutherodactylus cystignathoides							-	-	○	-	-	-	-	アメリカ合衆国南部からメキシコ東部に自然分布する。テキサス州の新たな場所での野外記録があるが、侵略的とはされていない。ルイジアナ州でも記録がある。			○				
新規	24		マルチニークコヤスガエル	Eleutherodactylus martinicensis							-	-	○	-	-	-	-	原産地はマルティニーク、及びアンティグア・セントルシア、ドミニカ。小アンティル諸島のアンティグア・バーブーダ、グアドループ、サン・バルテルミー島、セント・マーチン島及びドイツで記録がある。			○				
新規	25		トウンガラガエル	Engystomops pustulosus							-	-	○	-	-	-	-	メキシコ南部、中央アメリカから南アメリカ北部原産。GISDIに掲載されているが侵入や侵略性の記載なし。			○				

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(両生類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(定着段階以外は順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	26		アラビアスキッパーガエル	<i>Euphylyctis ehrenbergii</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	サウジアラビア、イエメン原産。サウジアラビア中東部のリヤドに侵入している。侵略性は不明。			○				
新規	27		Southern two-lined salamander	<i>Eurycea cirrigera</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国東部に広く自然分布。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。			○				
新規	28		カニクイガエル	<i>Fejervarya cancrivora</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	東南アジアに自然分布する。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。			○				
新規	29		ババトラフガエル	<i>Hoplobatrachus rugulosus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	中国南部から台湾、インドシナ半島、タイ、ミャンマーにかけて自然分布する。食用に利用され、マレーシア、フィリピンに侵入してフィリピンでは広く分布している。定着地では在来種の爬虫類、両生類への影響が懸念されている。最近では <i>Hoplobatrachus chinensis</i> という学名が用いられる。			○				
新規	30		トラフガエル	<i>Hoplobatrachus tigerinus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	インド及び周辺国に自然分布する。食用に利用され、マダガスカル、モルディブ、アンダマン諸島に侵入しており、ブータンでも侵入の可能性がある。在来種の爬虫類、両生類への影響が懸念されており、飼育下で本種の幼生が在来カエル類の幼生を捕食して壊滅させることが示されている。			○				
新規	31		イタリアアマガエル	<i>Hyla intermedia</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	イタリア、スロベニアに自然分布する。スイス西部に侵入して、在来種ヨーロッパアマガエルに対して遺伝子かく乱を生じさせているとの報告がある。			○				
新規	32		チチュウカイアマガエル(仮)	<i>Hyla meridionalis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アフリカ北部、ヨーロッパ南西部に自然分布する。ベルギー、イタリア、スペイン・バレアレス諸島での野外記録がある。			○				
新規	33		ミヤマイモリ	<i>Ichthyosaura alpestris</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ヨーロッパに広く分布する。ニュージーランド、フランス南部、スペイン中部、イギリスに侵入して定着している。スペインでは両生類の卵や絶滅危惧種のトンボに対する捕食の影響が懸念されている。			○				
新規	34		スンダインガーヒキガエル	<i>Ingerophrynus biporcatus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	スマトラ島、ジャワ島などに自然分布する。スラウェシ島に侵入している。	未判定		○				
新規	35		ニシバンジョーヌマチガエル	<i>Limnodynastes dorsalis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	オーストラリア南西部に自然分布。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。			○				
新規	36		ブチヌマチガエル	<i>Limnodynastes tasmaniensis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	タスマニア、オーストラリア東部に自然分布する。オーストラリア北部や西部での野外確認がある。侵略性は未確定とされている。			○				
新規	37		キバライモリ	<i>Lissotriton montandoni</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ルーマニア、ウクライナ、スロベキア等に自然分布し、ドイツに侵入している。			○				
新規	38		スベイモリ	<i>Lissotriton vulgaris</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ヨーロッパからロシア西部に広く自然分布し、オーストラリア南東部に持ち込まれ定着している。			○				
新規	39		リオグランデヒョウガエル	<i>Lithobates berlandieri</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国南部からメキシコにかけて自然分布し、アリゾナ州やメキシコに侵入している。			○				
新規	40		ブロンズガエル	<i>Lithobates clamitans</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国東部、カナダ南東部に自然分布し、合衆国、カナダの非分布域での野外記録がある。	未判定		○				
新規	41		ブタゴエガエル	<i>Lithobates grylio</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国南東部に自然分布し、バハマ、中国での野外記録がある。	未判定		○				
新規	42		ヒョウガエル	<i>Lithobates pipiens</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	カナダ南部とアメリカ合衆国中北部に広く自然分布する。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。			○				
新規	43		ミンクガエル	<i>Lithobates septentrionalis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	カナダ南東部とアメリカ合衆国北東部に自然分布し、カナダのニューファンドランドで野外記録がある。	未判定		○				
新規	44		ミナミヒョウガエル	<i>Lithobates sphenocephalus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国東南部に自然分布し、バハマと合衆国アリゾナ州での野外記録がある。			○				
新規	45		アメリカアカガエル	<i>Lithobates sylvaticus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	カナダからアメリカ合衆国北部、東部にかけて広く自然分布する。カナダのニューファンドランドでの野外記録がある。			○				
新規	46		ヒガシヒメアマガエル	<i>Litoria fallax</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	オーストラリア東部に自然分布している。グアムに持ち込まれて定着している。			○				
新規	47		ハナヒメアマガエル	<i>Microhyla pulchra</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	中国南部からタイ、インドシナ半島に自然分布している。グアムでの野外記録がある。			○				
新規	48		マッドバビー	<i>Necturus maculosus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	アメリカ合衆国東部などに自然分布し、合衆国の非分布域での野外記録がある。			○				
新規	49		ナイルトノサマガエル	<i>Pelophylax bedriagae</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	エーゲ海地方に自然分布する。観賞用、実験動物用、食用として北欧や西ヨーロッパなどに導入され、在来種との交雑、昆虫の捕食が問題となっている。本属の分類は複雑な歴史を有し、この種をワライガエルに包含するとのデータベースもある。			○				
新規	50		Italian pool frog	<i>Pelophylax bergeri</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ヨーロッパに自然分布する。フランス、スイス、イギリスにおいて侵略的外来種となっている。本属の分類は複雑な歴史を有し、この種をコガタトノサマガエルに包含するとしているデータベースもある。			○				
新規	51		コガタトノサマガエル	<i>Pelophylax lessonae</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ヨーロッパに自然分布する。スペイン、ノルウェー南部に侵入している。カエルツボカビの宿主であることが判明しており、伝播が懸念されている。			○				
新規	52		ペレスワライガエル	<i>Pelophylax perezi</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	フランス南部からイベリア半島に自然分布する。ポルトガルのアゾレス諸島、スペインのカナリア諸島などに侵入している。			○				

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(両生類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(定着段階以外は順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	53		ワライガエル	<i>Pelophylax ridibundus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	中央ヨーロッパおよび南ヨーロッパに自然分布し、大型で食用などに利用されている。中央・西・北ヨーロッパ(スイス、ベルギー、イギリス、スウェーデン)、ロシア、アジアなどに侵入して一部では侵略的外来種とみなされている。無脊椎動物などを捕食し、同属の在来種と交雑する。			○				
新規	54		サハラノサマガエル	<i>Pelophylax saharicus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アフリカ北部に自然分布し、スペインのカナリア諸島に侵入している。			○				
新規	55		カルバリオビバ	<i>Pipa carvalhoi</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ブラジル東部に自然分布する。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。カルバルホコモリガエル、カルバルホビバとも呼ばれる。			○				
新規	56		コガタビバ	<i>Pipa parva</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	コロンビアとベネズエラに自然分布する。ベネズエラの別水系に侵入しており、自然分布域との体サイズ組成の違いや食性などが報告されている。外来集団においては、稚魚や両生類の幼生への捕食の危険性が指摘されている。			○				
新規	57		セアカサラムダー	<i>Plethodon cinereus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国北東部とカナダ南東部に自然分布する。GISDに掲載されているが侵入や被害の記載なし。			○				
新規	58		Red-cheeked salamander	<i>Plethodon jordani</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国のグレートスモーキー山脈の高標高地に自然分布する。1935年から1945年にバージニア州のマウンテンレイク生物学基地に導入され、潜在的な競争や交雑による同属別種の在来種への影響が懸念されており、これを検証した研究もなされている。			○				
新規	59		Shenandoah salamander	<i>Plethodon shenandoah</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国バージニア州ののシェナンドー国立公園の標高900-1,143mの範囲のみに自然分布する。イリノイ州での野外記録がある。			○				
新規	60		バナマヨツメガエル	<i>Pleurodema brachyops</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ガイアナなど南米の北部原産。サバ島やセント・マーティン島などでの野外記録がある。			○				
新規	61		タニマコダマガエル	<i>Pristimantis unistrigatus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	コロンビア原産。エクアドルでの野外記録がある。			○				
新規	62		ホライモリ	<i>Proteus anguinus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	イタリアの黒海沿岸に生息。オーストリアやフランスでの野外記録がある。			○				
新規	63		タイハイヨウコーラスアマガエル	<i>Pseudacris regilla</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	カナダ、アメリカ原産。北米内で移入・定着例がある。			○				
新規	64		マスカレンガエル	<i>Ptychadena mascareniensis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アフリカ北西部に広く分布。レユニオン島などで定着例がある。			○				
新規	65		アカアシガエル	<i>Rana aurora</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	カナダ、アメリカ原産。北米内での野外記録がある。			○				
新規	66		カリフォルニアアカアシガエル	<i>Rana draytonii</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ合衆国原産。北米内での野外記録がある。			○				
新規	67		ヨーロッパアカガエル	<i>Rana temporaria</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	北西部を除くヨーロッパ地域原産。ロシアでの野外記録がある。			○				
新規	68		キンスジアメガエル	<i>Ranoidea aurea</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	オーストラリア原産。ニュージーランドやニューカレドニアに定着している。			○				
新規	69		ブチアメガエル	<i>Ranoidea cyclorhynchus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	オーストラリア西部原産。南部のエアー島での野外記録がある。			○				
新規	70		トノサマアメガエル	<i>Ranoidea raniformis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。ニュージーランドでの野外記録がある。			○				
新規	71		ナンベイヒキガエル属の一種	<i>Rhinella jimi</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ボリビアやブラジルなど南米原産。ブラジル内で移入例あり。侵略性などは報告されていないため不明。	未判定		○				
新規	72		ナンペイアマガエル属の一種	<i>Scinax quinefasciatus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	コロンビア、エクアドル、ペルー原産。エクアドル内で移入例あり。侵略性などは報告されていないため不明。			○				
新規	73		ミナミヒョウヒキガエル	<i>Sclerophrys gutturalis</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アフリカ大陸に広く分布。レユニオン島などでの野外記録がある。	未判定		○				
新規	74		モーリタニアヒキガエル	<i>Sclerophrys mauritanica</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アルジェリア、モロッコ、スペインなど原産。スペイン国内での野外記録がある。	未判定		○				
新規	75		Ambrosi's cave salamander	<i>Speleomantes ambrosii</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	イタリア原産。フランスでの野外記録がある。			○				
新規	76		Italian cave salamander	<i>Speleomantes italicus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	イタリア原産。ドイツでの野外記録がある。			○				
新規	77		French cave salamander	<i>Speleomantes strinatii</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	フランス、イタリア、モロッコ原産。フランス国内での野外記録がある			○				
新規	78		グレイカチカチガエル	<i>Strongylopus grayii</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	南アフリカ原産。セントヘレナでの野外記録がある。			○				
新規	79		グンターガエル	<i>Sylvirana guentheri</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	中国、ベトナムなど東南アジア原産。シンガポール、グアム、ミクロネシアにて定着。ミクロネシアでは侵略的である。			○				
新規	80		アルプスクシイモリ	<i>Triturus carnifex</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	イタリアなどアルプス山脈一帯に生息。オランダやドイツなどの近隣諸国に定着しており、定着地では交雑により在来種の個体数が減少することが報告されている。日本国内でペット用に流通する。			○				
新規	81		マダライモリ	<i>Triturus marmoratus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	フランス、ポルトガル、スペイン原産。ベルギー、ドイツ、オランダでの野外記録がある。日本国内ではペット用にしばしば流通している。			○				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(両生類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種																										
検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
継続	1	国内由来の外來種	北海道、伊豆諸島などのアズマヒキガエル	Bufo formosus	I			○	-	◎		-	○	○	-	-	-	-	八丈島では駆除が実施されている。近年は北海道でも継続的な駆除が行われ、成果が報告されている。				北海道、長崎、			
継続	2	国内由来の外來種	関東以北及び島に侵入したヌマガエル	Fejervarya kawamurai	IV			○	-	○		-	○	-	-	-	-	-	日本在来のカエル類の中で近年の侵入が最も頻繁に生じている種であり、その貪欲な食性により他種に影響を与える可能性が示唆されているため注意を要する。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。			○	関東(茨城県以外)、長崎(島嶼部)			

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖		気候	人体	経済産業	利用								付着混入
再検討	1		アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	東京都(八丈島)				北海道、沖縄		
再検討	2		ミヤコヒキガエル	<i>Bufo gargarizans miyakonis</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	沖縄県(大東諸島)						
再検討	3		ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	東京都(都市部)、宮城県仙台市						
再検討	4		サキシマヌマガエル	<i>Fejervarya sakishimensis</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	国内由来(沖縄県(大東諸島、先島諸島))			○			
再検討	5		ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	東京都(八丈島)			○			
再検討	6		ヒメアマガエル	<i>Microhyla okinavensis</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	鹿児島県(諏訪之瀬島)、沖縄県(先島諸島)			○	鹿児島(諏訪之瀬島)		
再検討	7		ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	北海道、東京都(大島、三宅島、新島)			○	北海道、鹿児島(中之島)		
再検討	8		トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	北海道、長崎県(対馬)			○	北海道、千葉		
再検討	9		ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	東京都(八丈島)						
再検討	10		モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	東京都(大島)			○	北海道、神奈川		

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題と		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖		気候	人体	経済産業	利用								付着混入
新規	1		ダルマガエル	<i>Pelophylax porosus</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○	北海道		
新規	2		オキナワアオガエル	<i>Zhangixalus viridis</i>				-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-				○			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(魚類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版 魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他		
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入									
継続	1	未定着	ガー科	<i>Atractosteus</i> , <i>Lepisosteus</i> の全種	I、IV	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	国内で遺棄された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増加し、捕食により在来生物相に影響を及ぼすおそれがある。複数個体が同じ水域で確認されたこともあり、定着の危険性が高まっている。ガー科全種が肉食性で、どの種も全長1-2mと非常に大型になるため、捕食による影響は大きいと思われる。生態系被害について、知見の集積が必要。	特定				北海道、茨城、長野、滋賀、京都、大阪、和歌山、山口、徳島、香川、高知、佐賀、長崎、沖縄			
継続	2	定着初期／限定分布	オオタナゴ	<i>Acheliognathus macropterus</i>	I				◎	○	-	-	-	◎	-	-	-	○	○	茨城県霞ヶ浦、北浦に移入 在来タナゴ類と交雑の恐れがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。 知見の集積が必要	特定				茨城、千葉、滋賀、長崎、沖縄		
継続	3	分布拡大型～まん延期	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	I、II				○	◎	-	-	-	◎	◎	-	-	◎	○	ニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の侵入に特に留意が必要。		日本			北海道、青森、福島、茨城、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	松田委員	
継続	4	定着初期／限定分布	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>	I				-	-	◎	○	-	◎	-	-	-	○	○	繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。 プランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、プランクトンが激減し、食物連鎖を通じて大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。			○	茨城、千葉、静岡、滋賀、鳥取、山口、徳島、高知、長崎、沖縄			
継続	5	定着初期／限定分布	コクレン	<i>Hypophthalmichthys nobilis</i>	I				-	-	◎	○	-	◎	-	-	-	○	○	<i>Hypophthalmichthys nobilis</i> としてGISD。繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。プランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、プランクトンが激減し、食物連鎖を通じて大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。			○	茨城、千葉、山口、長崎、沖縄			
継続	6	小笠原・南西諸島	パールダニオ	<i>Danio albolineatus</i>	I、IV				○	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナメダカとの競合も懸念される。				長崎、沖縄			
継続	7	小笠原・南西諸島	ゼブラダニオ	<i>Danio rerio</i>	I、IV				○	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナメダカとの競合も懸念される。				長崎、沖縄			
継続	8	小笠原・南西諸島	アカヒレ	<i>Tanichthys albonubes</i>	I、IV				○	-	○	-	-	◎	-	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナメダカとの競合も懸念される。				和歌山、長崎、沖縄			
継続	9	定着初期／限定分布	ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>	I				-	-	◎	○	-	◎	-	-	-	◎	-	<i>Ctenopharyngodon idella</i> としてGISD。利根川・江戸川水系、霞ヶ浦・北浦に定着。繁殖は利根川等大規模河川に限られる		日本	○	北海道、青森、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、高知、長崎、熊本、沖縄			
継続	10	定着初期／限定分布	アオウオ	<i>Mylopharyngodon piceus</i>	I、IV				-	-	○	-	-	◎	-	-	-	○	○	本種の繁殖には利根川のような大河川が必要。海外ではスクミリンゴガイなどの外来種の貝類の除去に利用されている例もある。ハンガリーでは捕食による在来生物相への影響の恐れが指摘され、アメリカやドイツでは生体での輸入が禁止されている。 全長1m以上になるため、捕食による影響は大きいと思われる。生態系影響について、知見の集積が必要。				北海道、茨城、千葉、滋賀、徳島、長崎、沖縄			
継続	11	未定着	レッドホースミノー	<i>Cyprinella lutrensis</i>	I	○	◎	◎	-	○	-	-	◎	-	-	-	-	◎	-	海外では近縁種と雑種を作ることや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。			○	沖縄			
継続	12	分布拡大型～まん延期	カラドジョウ	<i>Paramisgurnus dabryanus</i>	I、IV				○	○	-	-	-	◎	-	-	-	○	○	ドジョウとカラドジョウが混在する水域で、後者が優占する場所も知られている。カラドジョウとドジョウの雑種は生殖性で、その卵は受精能力があることが示唆されており、遺伝的攪乱が心配される。また、正常な繁殖相手を巡る競争が生じており、その影響が懸念される。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。				青森、福島、茨城、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、和歌山、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	松田委員		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(魚類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版 魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
継続	13	定着初期／限定分布	コウライギギ	<i>Pseudobagrus fulvidraco</i>	Ⅳ			○	-	○	-	-	◎	-	○	○	-	-	生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。 生態系に基大な被害を及ぼすとして特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュと食性等が似ているため、在来生態系に被害を及ぼす可能性が高い。また、分布が拡大した際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念され、今後の動向に注意する必要がある。 生態系影響について、知見の集積が必要。	特定				茨城、千葉、滋賀、長崎、沖縄		
継続	14	分布拡大大期～まん延期	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)	<i>Ictalurus punctatus</i>	Ⅰ			○	-	◎	-	-	◎	-	○	○	○	-	霞ヶ浦ではイサザアミやハゼ類などの水産利用種を捕食し、これらの漁獲高を減少させている。ヒレにある鋭い棘で漁業者がけがをする被害がある。	特定				福島、茨城、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、長崎、熊本、宮崎、沖縄		
継続	15	未定着	ブラウンブルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	Ⅰ、Ⅳ	○	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	アメリカでは移入された湖の在来のトゲウオを駆逐した例がある。	未判定		○		長崎、沖縄		
継続	16	未定着	フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pylodictis olivaris</i>	Ⅰ、Ⅳ	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	アメリカでは本種が侵入した水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類などの減少が見られている。	未判定		○		長崎、沖縄		
継続	17	未定着	ヨーロッパナマズ	<i>Silurus glanis</i>	Ⅰ	○	○	○	○	◎	-	-	◎	-	-	-	◎	-	ヨーロッパの侵入地では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。 在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。					滋賀、沖縄		
継続	18	小笠原・南西諸島	スノーブレコ	<i>Pterygoplichthys anisitsi</i>	Ⅰ、Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	定着実態及び生態系への影響や農業被害に関する知見の集積が必要。 沖縄島でマダラロリカリアとされているものの中に本種が含まれている可能性が高い。			○		長崎、沖縄		
継続	19	小笠原・南西諸島	マダラロリカリア	<i>Pterygoplichthys disjunctivus</i>	Ⅰ			◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	<i>Pterygoplichthys disjunctivus</i> としてGISD。沖縄でのみ30年以上前から確認。メキシコでは索餌行動による濁り等の水質の悪化や水底の植生の破壊とそれに伴う在来種の生息環境悪化と減少を引き起こしている。フィリピンでは刺し網などの漁具を壊すなどの漁業被害が知られている。			○		千葉、和歌山、長崎、沖縄		
継続	20	小笠原・南西諸島	アマゾンセイルフィンキャットフィッシュ	<i>Pterygoplichthys pardalis</i>	Ⅰ、Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	海外では同属種が索餌行動による濁り等の水質の悪化や水底の植生の破壊し、それに伴う在来種の生息環境悪化と減少を引き起こしている。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 沖縄島でマダラロリカリアとされているものの中に本種が含まれている可能性が高い。			○		長崎、沖縄		
継続	21	未定着	オリノコセイルフィンキャットフィッシュ	<i>Pterygoplichthys multiradiatus</i>	Ⅰ	○	○	◎	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	インドやプエルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした例が知られている。			○		長崎、沖縄		
継続	22	小笠原・南西諸島	ウォーキングキャットフィッシュ	<i>Clarias batrachus</i>	Ⅰ			◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	東南アジアやアメリカ南部では捕食や競争により魚類や甲殻類、カエル類を駆逐しており、特に乾季で水域が狭まった際に影響が大きくなるとされる。沖縄島に定着しているヒレナマズは本種の可能性がある。		IUCN	○		長崎、沖縄		
継続	23	小笠原・南西諸島	ヒレナマズ	<i>Clarias fuscus</i>	Ⅰ、Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	沖縄島、石垣島に移入。1960年代に石垣島へ輸入。沖縄島では1985年に南風原町で記録。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。					長崎、沖縄		
継続	24	未定着	ノーザンバイク	<i>Esox lucius</i>	Ⅰ	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカのデービス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。	特定		○		佐賀、沖縄		
継続	25	未定着	マスキーバイク	<i>Esox masquinongy</i>	Ⅰ	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐するなどの被害が確認されている。長寿命であり、最長30年生きた例がある。	特定				佐賀、沖縄		
継続	26	未定着	バイク科	Esocidae spp.	Ⅰ	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	マスキーバイクやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。	未判定				北海道、栃木、佐賀、長崎、沖縄		
継続	27	分布拡大大期～まん延期	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	Ⅰ			◎	-	○	-	-	○	○	-	-	◎	-	北海道では多くの河川で定着しているが、本州以南では釣獲や増水による繁殖失敗でほとんど定着できていないとの見解がある。本種とヤマメの雑種は発生段階で死亡するため、遺伝的攪乱の可能性は低い。ただし、正常な繁殖が阻害される可能性はある。 漁業権が認められている地域もあるので、防除を行う際は確認する必要がある。		日本・IUCN	○		北海道、青森、福島、茨城、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、、長崎熊本、宮崎		
継続	28	分布拡大大期～まん延期	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>	Ⅰ			◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	北海道では多くの河川で定着しているが、本州以南では放流なしでは資源を維持できないと考えられている。在来のイワナとの交雑個体が確認されているが、遺伝的攪乱の危険性は低いことが報告されている。ただし、正常な繁殖相手を巡る競争が生じており、その影響が指摘される。 北海道では他種を駆逐して優占種になっている水域もある。希少種であるニホンザリガニの捕食も確認されている。 北海道では漁業調整規則で移植が禁止されており、北海道での分布拡大は私的放流によるものと考えられている。		日本・IUCN	○		北海道、青森、福島、茨城、栃木、長野、愛知、滋賀、和歌山、鳥取、山口、長崎、宮崎		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(魚類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版 魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	29	定着初期／限定分布	カワマス	Salvelinus fontinalis	I			◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	定着はごく一部の地域に限られる。20年以上前から確認。北海道や長野県では在来種との雑種が確認されており、雑種が優占するなどの影響が出ている。雑種は稔性をもつものの雑種崩壊により遺伝子攪乱の危険は少ないことが報告されている。ただ、正常な繁殖の機会が失われ、持続しない雑種個体群が生じることによる在来種への影響が懸念される。定着できる地域が北海道や寒冷地に限られるため、対策を優先的に行う地域を選んで実施するのが効果的である。漁業権が認められている地域もあるので、防除を行う際は確認する必要がある。			○	北海道、青森、福島、茨城、長野、滋賀、山口、長崎、沖縄		
継続	30	定着初期／限定分布	レイクトラウト	Salvelinus namaycush	I			◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	栃木県中禅寺湖のみで定着していたが、近年本栖湖でも確認された。海外では捕食や競争により在来種との雑種が確認された。海外では捕食や競争により在来						

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	43	分布拡大型～まん延期	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	I、II			◎	-	◎	-	◎	◎	◎	-	○	◎	◎	捕食や競争により国内各地で在来種を駆逐し、優占種となっている。 卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。	特定	日本		北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	44	分布拡大型～まん延期	コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu</i>	I			○	-	◎	-	◎	◎	-	-	○	○	-	南アフリカでは在来種を捕食し、在来種の多くが見られなくなった例がある。ハワイでも在来種はもとより、オオクチバスやブルーギルを含む魚類を駆逐した。国内でも分布を拡大しており、オオクチバスより低温や流れに強いいため、より上流域での捕食や競合の被害が懸念されている。 卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長15年。	特定	日本		北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、佐賀、長崎、宮崎、沖縄		
継続	45	分布拡大型～まん延期	オオクチバス	<i>Micropterus nigricans</i>	I、II			◎	-	◎	-	◎	◎	◎	-	○	◎	-	国内各地で捕食や競合により在来種を駆逐するなど、在来魚類群集に様々な影響を及ぼしている。 卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。	特定	日本・IUCN	○	北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	46	未定着	ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少などの悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	未判定		○	長崎、沖縄		
継続	47	未定着	ヨーロッパアンバーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダムでも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	48	未定着	パイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペインなどのヨーロッパ諸国で在来のカワカマス科魚類などの減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	特定			長崎、沖縄		
継続	49	小笠原・南西諸島	コンウヰクトシクリッド	<i>Cichlasoma nigrofasciatum</i>	I			○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	沖縄では本種の多く生息する水域もあり、競合や卵・仔魚の捕食などによる在来種への影響が心配されている。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。 繁殖力がかなり強く、生息水域も拡大傾向にある。				長崎、沖縄		
継続	50	小笠原・南西諸島	ブルーティラピア	<i>Oreochromis aureus</i>	I			◎	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	餌や生育環境の競合によって在来種の減少を引き起していると考え、アフリカや北米各地で侵入後に本種が優占種となった例がある。マウスブルーダー。沖縄島には本種と思われる表現形質を有する個体が確認されている。亜熱帯地域に生息する種であり、定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉地や温排水などのごく一部に限られる。ただし、本種は低温耐性が高いため、温帯の特に暖かい地域では注意を要する。			○	長崎、沖縄		
継続	51	定着初期／限定分布	カワスズメ	<i>Oreochromis mossambicus</i>	I			◎	-	◎	○	○	○	-	-	-	○	-	世界の熱帯・亜熱帯の河川や湖沼では競争により在来種や淡水カモ類を駆逐した例があるほか、付着藻類、デトリタス底生動物などを食べて食物網の基盤を改変している。局所的に長期間にわたって定着。マウスブルーダー。最長寿命は11年。定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉地や温排水などのごく一部に限られる。		IUCN	○	北海道、茨城、長野、和歌山、高知、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	52	定着初期／限定分布	ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>	I			◎	-	◎	○	○	○	-	-	-	○	-	世界の熱帯・亜熱帯域では競争により在来種を駆逐した例があるほか、付着藻類、デトリタス底生動物などを食べて食物網の基盤を改変している。マウスブルーダー。寿命は約7年。鹿児島県(池田湖)、沖縄、小笠原等に移入。局所的に長期間にわたって定着。			○	北海道、青森、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、徳島、高知、福岡、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	53	定着初期／限定分布	ジルティラピア	<i>Coptodon zillii</i>	I			◎	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	滋賀、鹿児島、南西諸島に移入。滋賀・鹿児島(南西諸島除く)では工場の温排水や湧水のある場所など、温度の安定した場所のみ。局所的に長期間にわたって定着。沖縄県で本種が侵入している水域では、在来種が見られなくなっているところがある。卵や仔魚は親魚に保護される。			○	滋賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	54	未定着	スポットティラピア	<i>Tilapia mariae</i>	I、IV	○	-	◎	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。巣で親魚が卵と仔魚を保護する。国内での定着可能性について、知見の集積が必要。			○	長崎、沖縄		
継続	55	未定着	ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	アメリカの五大湖などで、産卵環境や餌の競合、卵の食害などによって、在来種の減少を引き起こしている。			○	長崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	56	未定着	シーランブリー	<i>Petromyzon marinus</i>		○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	五大湖で在来種の捕食による別の外来種の増加を引き起こしたとされる。			○				
再検討(候補)	57	小笠原・南西諸島	シルバーアロワナ	<i>Osteoglossum bicirrhosum</i>	I、IV	/	/	-	-	○?	-	-	○	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。分布は局所的。大型になる肉食魚で、沖縄県では生態系に影響があると考えられる防除対策外来種に選定されている。ポーランドの野外でも確認されており、在来生態系への影響がある可能性が指摘されている。生態系影響について、知見の集積が必要。				滋賀、徳島、沖縄			
再検討(候補)	58	未定着	エールワイフ	<i>Alosa pseudoharengus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	○	-	五大湖では稚魚などの捕食により在来種や在来の漁業対象種の減少を引き起こした。この他、海外では、在来の底生動物群集に影響を及ぼした事例がある			○				
再検討(候補)	59	分布拡大大期～まん延期	コイ(飼育型)	<i>Cyprinus carpio</i>	I	/	/	○	◎	○	○	-	○	○	-	-	◎	-	捕食行動によって底質を巻き上げることで水の透明度を低下させ、光がを阻害することで水草の成長を妨げるなど、生態系の改変を引き起こす。琵琶湖などの一部を除き在来のコイとの交雑が進んでいる。		IUCN	○	北海道、福島、茨城、千葉、栃木、愛知、滋賀、兵庫、奈良、和歌山、徳島、愛媛、高知、沖縄	中井委員、地方公共団体	
再検討	60	未定着	テンチ	<i>Tinca tinca</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリアでは、マスや在来魚と餌資源をめぐる直接競合していると考えられている。また、腹足類を選択的に捕食することで、藻類の生物量を増加させるため、水質悪化に関わっているとされる。国内ではほぼ利用されておらず、現状野外への導入の可能性は低い。			○	滋賀		
再検討	61	未定着		<i>Leuciscus idus</i>		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	コイと同じ科であるということ根拠に生態系影響を心配されているのみで、具体的な事例はない。			○			
再検討	62	未定着	ユーラシアンミノー	<i>Phoxinus phoxinus</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパでは本種が定着した地域で、餌や生息場所を巡る競合によってブラウントラウトなどの在来サケ科魚類の減少がみられている。国内での利用は無い。			○			
再検討(候補)	63	定着初期／限定分布	ヒメドジョウ	<i>Lefua costata</i>	I、IV	/	/	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	徐々に分布を拡大しており、種間競争や交雑による影響が懸念されている。						現リスト時の検討種
再検討	64	未定着	ローチ	<i>Rutilus rutilus</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	海外では、生態系の変化及び生息場所の改変の事例がある。動物プランクトンを大量に捕食することで藻類の大量発生による富栄養化を引き起こすことが室内実験で分かっている。アイルランドでは在来種との競合の可能性も指摘されている。			○			
再検討	65	未定着	ラッド	<i>Scardinius erythrophthalmus</i>		○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	ニュージーランドの実験では、捕食により脆弱な在来水生植物群落を危機にさらしている可能性が示唆されている。			○	滋賀		
再検討	66	未定着	ピラニア類	<i>Catoprin</i> 、 <i>Pygocentrus</i> 、 <i>Serrasalmus</i> の全種		○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	ブラジルでは <i>Pygocentrus nattereri</i> を含むいくつかの外来魚の侵入後に在来種が減少した事例がある。北米南部のいくつかの州で一時的に生息出来る可能性があるが、定着できる可能性は低いとされる。国内でも古くから観賞魚として利用されているが、現時点では定着はしていない。				滋賀、和歌山、山口		
再検討	67	未定着	セイルフィン・プレコ	<i>Glyptoperichthys gibbiceps</i>		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	生態系影響は不明。			○	滋賀、徳島		
再検討	68	未定着	Pterygoplichthys属	<i>Pterygoplichthys</i> spp.		○	○	○	-	◎	-	-	-	-	-	○	○	-	アメリカでは絶滅危惧種の卵を捕食していることが確認されているほか、在来種を追いやっている可能性が指摘されている。また、穴掘りにより産業への影響も指摘されている。			○			
再検討	69	未定着	シナノユキマス	<i>Coregonus lavaretus maraena</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	<i>Coregonus peled</i> と <i>Coregonus lavaretus maraena</i> の2種が国内に導入されているが、どちらも和名シナノユキマスとして利用されている。				北海道		
再検討	70	未定着	タイセイヨウサケ	<i>Salmo salar</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	海外では、病気の伝播の事例がある。また在来種との競合による影響が懸念されている。ノルウェーでは大量に逃げ出した本種の養殖個体が、在来サケ類の資源量を上回った事態が起きたことがある。			○			
再検討	71	未定着		<i>Phalloceros caudimaculatus</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	競争により在来種を追いやる潜在的なリスクが指摘されている。			○			
再検討	72	定着初期／限定分布	コクチモーリー	<i>Poecilia sphenops</i>		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	全身黒の品種がブラックモーリーとして流通している。				北海道		
再検討	73	定着初期／限定分布	スリコギモーリー	<i>Poecilia mexicana</i>		/	/	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	小型魚類や甲殻類水生昆虫への捕食や競合の恐れが指摘されている。				鹿児島		
再検討	74	未定着	ムーンフィッシュ	<i>Xiphophorus maculatus</i>		○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	小型魚類や甲殻類水生昆虫への捕食や競合によって在来種を駆逐する恐れが指摘されている。				和歌山、鹿児島		
再検討	75	分布拡大大期～まん延期	タウナギ	<i>Monopterus albus</i>		/	/	○?	-	○?	-	-	○	-	-	○	-	-	東京、茨城、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山、京都、奈良、大阪、徳島、香川、愛媛、鹿児島県の各都府県に移入。生態系への影響が一定程度あると考えられている。			○	茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、愛媛、高知、鹿児島、沖縄		
再検討(候補)	76	未定着	マーレーコッド	<i>Maccullochella peelii</i>	I、IV	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性がある。管理釣り場での利用が始まっており、今後逸出などによって野外へ定着する恐れが高まっている。今後の分布拡大などについて知見の集積が必要。旧要注意外来生物。				細谷委員、中井委員、立原委員		
再検討(候補)	77	未定着	ゴールデンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>	I、IV	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	在来の水棲動物を捕食する可能性がある。原産地ではマーレーコッドと同じく釣魚として人気があり、マーレーコッドの管理釣り場への導入に追随して野外の管理釣り場で利用される恐れがある。旧要注意外来生物。				細谷委員		
再検討	78	分布拡大大期～まん延期	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax</i> sp.		/	/	○		○	-								福島県～四国の太平洋側、瀬戸内海、秋田、福井の沿岸。養殖地は主に西日本、九州沿岸。在来種との競合や交雑の恐れがあるとされる。旧要注意外来生物。				茨城、千葉、京都、兵庫、和歌山、愛媛、高知、宮崎		
再検討	79	未定着	ヨーロッパヘダイ	<i>Sparus aurata</i>		○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北米大陸では養殖個体の逸出による在来種への遺伝的な影響や捕食による影響が懸念されている。			○			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入	①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
再検討	80	未定着	アイスボットシクリッド	<i>Cichla ocellaris</i>		○	-	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	○	-	海外では本種とピラニアの導入後に、これらの餌となる種の多様性が減少した事例がある。競争や捕食による影響が指摘されている。卵や仔魚の保護を行う。			○				
再検討	81	未定着	メキシカンモハラ	<i>Cichlasoma urophthalmus</i>		○	-	○	-	◎	-	○	-	-	○	-	-	-	海外では、生態系への影響や病気の伝播の事例がある。フロリダでは在来魚類の巣への食害が確認されている。また、競争による影響も指摘されている。人にも感染するアニサキス科原虫の中間宿主となることが確認されている。			○				
再検討	82	小笠原・南西諸島	コバディクロミス	<i>Copadichromis</i> sp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。生態系影響は不明。							現リスト時の検討種
再検討	83	小笠原・南西諸島	ヘミクロミス属	<i>Hemichromis</i> spp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	沖縄でのみ定着。生態系影響は不明。							現リスト時の検討種
再検討(候補)	84	定着初期／限定分布	カワスズメ属	<i>Oreochromis</i> spp.	I			◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	本属にはカワスズメ、ナイルティラピア等を含むため、生態系影響などについてはこれらと同様。			○				
再検討	85	小笠原・南西諸島	オトファリンクス・リトバテス	<i>Otopharynx lithobates</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	沖縄でのみ定着。生態系影響は不明。							現リスト時の検討種
再検討	86	未定着		<i>Sarotherodon occidentalis</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	海外では他の数種の外来種とあわせて、在来の固有種の減少要因とされている。			○				
再検討	87	小笠原・南西諸島	ティラピア・ブッティコフェリ	<i>Tilapia buttikoferi</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	沖縄でのみ定着。生態系影響は不明。				滋賀			
再検討(候補)	88	定着初期／限定分布	ヨコシマドンコ	<i>Micropercops swinhonis</i>	I、IV			○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	関東、東海地方に定着。在来種への競争や捕食の影響が懸念されている。梅田川では在来魚類の状況から特に在来種に著しい負の影響を与えていることは確認できないとの報告もある。釣りえさのエビ類に混入していたことがある。				茨城、愛知、和歌山			
再検討	89	分布拡大大期～まん延期	チョウセンブナ	<i>Macropodus chinensis</i>				-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	新潟、茨城、長野、岡山の各県のいくつかの水域。局所的に長期間にわたって定着。在来生態系に壊滅的な影響を与える可能性は低いと考えられている。巣を作って卵や仔魚を保護する。				茨城、千葉、徳島			
再検討(候補)	90	分布拡大大期～まん延期	カムルチー	<i>Channa argus</i>	I、IV			○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	北海道、本州、四国、九州のほぼ全域に分布。鳥の雛を捕食していることが報告されている。本種が多数生息する場所でも在来魚が極端に減少することはないともされている。卵や仔魚を保護する。			○	北海道、青森、茨城、千葉、愛知、滋賀、愛媛、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、熊本、鹿児島	地方公共団体		
再検討(候補)	91	分布拡大大期～まん延期	コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	I、IV			○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	大阪府、石垣島。石垣島の個体群は絶滅した可能性もある。局所的に長期間にわたって定着。卵や仔魚を保護する。				千葉、愛媛			
再検討(候補)	92	分布拡大大期～まん延期	タイワンドジョウ	<i>Channa maculata</i>	I、IV			○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	和歌山、兵庫、石垣島に移入。局所的に長期間にわたり定着。捕食や競合による生態系影響が懸念されているが、生息数が減っており、影響はほとんどないとの見解もある。				千葉、愛媛、奈良、和歌山、山口、高知			
再検討(候補)	93	未定着	コブラスネークヘッド	<i>Channa marulius</i>	I、IV	○	◎	○	-	○	-	○	-				◎		海外では、本種が在来種と置き換わったと思われる事例がある。稚魚になるまで親が保護をする。			○				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(定着段階以外は順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	94	未定着	ポリプテルス属の一種	<i>Polypterus</i> sp.		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	紀の川水系で死体拾得記録有り。				和歌山				
新規	95	未定着	カラチョウザメ	<i>Acipenser sinensis</i>		○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	チョウザメ類全般としてシベリアチョウザメの中国での大量逸出の例から在来チョウザメ類への影響が指摘されている。				徳島				
新規	96	未定着	チョウザメ科の一種	Acipenseridae sp.		○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	チョウザメ類全般としてシベリアチョウザメの中国での大量逸出の例から在来チョウザメ類への影響が指摘されている。				千葉、滋賀				
新規	97	未定着	シベリアチョウザメ	<i>Acipenser baeri baeri</i>		○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	中国で大量に逸出した個体が生態系に影響を及ぼすことが懸念されている。				宮崎				
新規	98	未定着	ノーザンバラムンディ	<i>Scleropages jardinii</i>		○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	観賞魚として多く利用されている。遺棄された個体が野外で確認されたことがある。				滋賀				
新規	99	未定着	ナイフフィッシュの一種	Notopteridae sp.		○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	観賞魚として多く利用されている。遺棄された個体が野外で確認されたことがある。				滋賀				
新規(候補)	100	未定着	ヨーロッパウナギ	<i>Anguilla anguilla</i>	I	×	○	-	○	◎	-	×	○	○	-	-	○	-	西湖でクニマスの卵を捕食している。ニホンウナギよりも低温耐性が高い。西湖では駆除が実施されている。				北海道、和歌山、山口、高知			
新規(候補)	101	未定着	トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	I、IV	○	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	国内の野外で確認されたことがある。同属のオオタナゴが競争や交雑による被害の可能性が高いとして特定外来生物に指定されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で雑種を作ることが知られる。タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらの生息地における被害の恐れがある。						国内での確認情報のある未判定外来生物	
新規(候補)	102	未定着	タイワンタナゴ	<i>Paratanakia himantegus</i>	I、IV	○	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	国内の野外で確認されたことがある。タナゴ類は比較的容易に異種間で雑種を作ることが知られる。タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらの生息地における被害の恐れがある。						観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	
新規(候補)	103	未定着	ロデウス・ノタータス(カラゼニタナゴ)	<i>Rhodeus notatus</i>	I、II	○	○	○	◎	-	-	○	○	◎	-	-	○	○	侵入地では交雑によってスイゲンゼニタナゴを駆逐している。在来タナゴ類との競合も懸念されている。在来種であるスイゲンゼニタナゴに比べて産卵数が非常に多く、繁殖力が強い可能性がある。					中井委員、鬼倉委員		
新規(候補)	104	未定着	外国産タナゴ亜科	Acheilognathinae spp.	I、IV	○	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	タナゴ類は比較的容易に異種間で雑種を作ることが知られる。タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらの生息地における被害の恐れがある。					中井委員、渡辺委員		
新規(候補)	105	定着初期／限定分布	キクチヒナモロコ	<i>Aphyocypris kikuchii</i>	I	／	／	-	◎	-	-	-	○	◎	-	-	○	-	九州のヒナモロコは本種との交雑によって絶滅した可能性が高い。静岡県に導入。静岡県での生態系影響は不明。						WGでの指摘。	
新規(候補)	106	定着初期／限定分布	ダントウボウ	<i>Megalobrama amblycephala</i>	I、IV			○?	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	茨城県では定着とされている。挺水植物など在水生植物群落への影響が懸念されている。				茨城	加納委員		
新規(候補)	107	定着初期／限定分布	カワイワシ	<i>Hemiculter leucisculus</i>	I、IV	／	／	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	岡山県で定着。繁殖力が強いとされ、国内の広い範囲で定着する可能性が高いと考えられている。岡山県では近年分布が拡大している。在来の遊泳性魚類と競争する可能性が高いと考えられている。分布の拡大やそれに伴う生態系影響について、知見の集積が必要。					環境省中四国		
新規(候補)	108	未定着	ファットヘッドミノー	<i>Pimephales promelas</i>	I、IV	○	○	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	○	-	実験生物や観賞魚として利用されている。高水温や低酸素に極めて強く、野外に放流された場合に容易に定着する可能性が高いと考えられている。						国内の一部に定着済み	
新規(候補)	109	分布拡大大期～まん延期	外国産ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I	／	／	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	全国各地に定着している。特に関東北部や大阪平野などでは多くが外国産ドジョウが在来種との交雑集団に置き換わっている。				愛媛	地方公共団体		
新規	110	未定着	ブラックテトラ	<i>Gymnocorymbus ternetzi</i>		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	生態系影響は不明。				滋賀			
新規	111	未定着	コロソマ属の一種	<i>Colossoma</i> sp.		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	生態系影響は不明。				滋賀			
新規	112	未定着	オキシドラス	<i>Oxydoras niger</i>		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	生態系影響は不明。				滋賀			
新規(候補)	113	未定着	アフリカンクララ	<i>Clarias gariepinus</i>	I	／	／	◎	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	インドでは本種を含むいくつかの外来種との競合によって絶滅危惧種への競合による影響が懸念されている。南アフリカ共和国での在来のアカヒレ類の減少は本種の導入によるとされている。			○				
新規	114	未定着	コリドラス属	<i>Corydoras</i> spp.		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	生態系影響は不明。				和歌山			
新規	115	未定着	レッドテールキャット	<i>Phractocephalus hemiliopterus</i>		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	生態系影響は不明。				滋賀、和歌山			
新規	116	未定着	マスノスケ	<i>Oncorhynchus tshawytscha</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	新潟県以北で迷入による河川への遡上記録がある。				北海道			
新規	117	未定着	ギンザケ	<i>Oncorhynchus kisutch</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	他のサケ科魚類への病気の媒介が懸念されている。				北海道、千葉			
新規	118	未定着	コレゴヌス・ペレド	<i>Coregonus peled</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	<i>Coregonus peled</i> と <i>Coregonus lavaretus maraena</i> の2種が国内に導入されているが、どちらも和名シナノユキマスとして利用されている。				北海道			
新規(候補)	119	未定着	サンシャインバス	<i>Morone chrysops</i> × <i>M.chrysops</i>	I	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	国内の野外で確認されたことがある。一部の管理釣り場で利用されており、逸出の可能性がある。特定外来生物同士の交雑個体であり、親となる両種よりも成長が早く、水質悪化にも耐性がある。	特定						
新規(候補)	120	定着初期／限定分布	ロングイヤーサンフィッシュ	<i>Lepomis megalotis</i>	I	／	／	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	国内の一部の地域で定着していると思われる。北米大陸でも本来の生息域外で確認されているが、影響については不明。卵の保護を行うため繁殖力が強い。					細谷委員、中井委員		
新規(候補)	121	未定着	パンプキンシード	<i>Lepomis gibbosus</i>	I	○	○	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	○	-	信憑性は不明だが国内で確認したという情報がある。北米大陸の本来の生息域外の他、ヨーロッパの多数の国に水産利用目的で導入されている。生態系への影響については明らかになっていないが、固有の軟体動物への捕食が確認されているほか、多様性の低下や在来種への攻撃性が指摘されている。						国内での確認情報のある未判定外来生物	

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(魚類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版 魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(定着段階以外は順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規(候補)	122	未定着(一部の種は定着)	ブルーギル属	Lepomis spp.	I、IV	○	○	◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	観賞魚としての価値があり、定着や分布を拡大する可能性がある。ブルーギルと同属であり、本属あるいは本科(サンフィッシュ科)に属す種は生態系への悪影響が危惧される。属全体としての影響の程度について知見の集積が必要。 ※生態系被害の評価項目については、本属に含まれる現リスト掲載種の評価を適用した					松田委員		
新規(候補)	123	未定着(一部の種は定着)	サンフィッシュ科	Centrarchidae spp.	I、IV	○	○	◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	観賞魚としての価値があり、定着や分布を拡大する可能性がある。オオクチバスやブルーギルが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。 ※生態系被害の評価項目については、本科に含まれる現リスト掲載種の評価を適用した					渡辺委員		
新規(候補)	124	未定着	ペルクティス科(狭義)	Percichthyidae spp.	I、IV	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	釣魚や観賞魚としての価値があり、定着や分布を拡大する可能性がある。在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性があると考えられる種を含み、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。 ※生態系被害の評価項目については、本科に含まれるマーレーコッドの評価を適用した					渡辺委員		
新規(候補)	125	定着初期／限定分布	コウライオヤニラミ	Coreoperca herzi	I			◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	一部の地域で定着していると思われる。環境DNAを用いた調査で、捕食や競合によって在来生態系に大きな影響を及ぼしていることが示された。				宮崎	細谷委員、中井委員、鬼倉委員、立原委員、松田委員、加納委員、渡辺委員		
新規(候補)	126	未定着(一部の種は定着)	ケツギョ科	Siniperidae spp.	I、IV	○	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	観賞魚としての価値があり、定着や分布を拡大する可能性がある。ケツギョやコウライケツギョが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。 ※生態系被害の評価項目については、本科に含まれる現リスト掲載種の評価を適用した					渡辺委員		
新規	127	未定着	オスカー	Astronotus ocellatus		○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	◎	-	アメリカの一部の州では侵略的とされる。競合や捕食による在来生態系へ影響を及ぼす可能性があると考えられる。卵を保護するため、繁殖力が種用。				滋賀、和歌山			
新規(候補)	128	定着初期／限定分布	カラドンコ	Odontobutis potamophila	I、IV			○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	利根川水系の一部で定着とされている。捕食や競合による被害が懸念されている。侵入経路は他魚種の養殖に混入した可能性も指摘されている。				茨城	地方公共団体、加納委員		
新規	129	未定着		Siganus luridus		○	-	○	-	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	付着藻類等の底性生物群集に深刻な影響を及ぼす可能性がある。底生生物群集のバイオマスを減少させ、結果として生息地と生物多様性を消失させることがわかっている。毒のある棘を持つ。			○				
新規	130	定着初期／限定分布	タイワンキンギョ	Macropodus opercularis				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	巣を作って卵や仔魚を保護する。				和歌山、高知			
新規(候補)	131	未定着(一部の種は定着)	タイワンドジョウ属	Channa spp.	I、IV	○	◎	○	-	○	-	○	-	-	-	-	◎	-	国内で既に3種が定着しており、海外においても外来種として定着しているものが数種類ある。タイワンドジョウやブラーチョン、コプラスネークヘッドでは競争により在来種を駆逐する可能性があると考えられている。空気呼吸が可能で干出や低酸素に強く、卵や稚魚を保護するため、他種との競争で有利になり得る。観賞魚として様々な種が多く利用されている。					北村委員、松田委員		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

現リスト掲載種		2024.9.17版 魚類WGと今後の照会結果の反映版																							
検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	国内由来の外来種	琵琶湖・淀川以外のハス	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i>	I			-	○	◎	-	-	○	○	-	-	-	○	魚食性のため、捕食による在来魚類への影響が懸念される。				茨城、千葉、長野、静岡、愛知、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島		
継続	2	国内由来の外来種	東北地方などのモツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	I、II			◎	-	-	-	-	○	◎	-	-	○	-	シナイモツゴ生息地に侵入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。雑種は不稔であり、遺伝子攪乱はないものの、繁殖に関する競合により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。				北海道、青森、福島、長野、沖縄		
継続	3	国内由来の外来種	九州北西部及び東海・北陸地方以東のギギ	<i>Pseudobagrus nudiceps</i>	IV			○	-	○	-	-	○	○	○	-	○	○	侵入年代は不明。 絶滅危惧種で国の天然記念物である東海地方固有のネコギギの生息する河川で分布を広げ、また九州西部ではアリアケギバチ生息地への影響が懸念されている。 生態系影響についての知見の集積が必要。				青森、茨城、千葉、長野、静岡、愛知、和歌山、高知、福岡、長崎、大分、宮崎		
継続	4	国内由来の外来種	近畿地方以東のオヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	IV			○	-	○	-	-	○	○	-	-	○	-	侵入年代は不明。 滋賀県と愛知県では条例で放流を規制しており、岐阜県美濃加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東海地方や東京都の移入地は絶滅危惧種の生息地にもなっており、影響が懸念されている。 近畿地方でも由良川水系、桂川水系以西には自然分布している。 生態系影響についての知見の集積が必要。				愛知、滋賀、奈良、和歌山、徳島、愛媛、宮崎		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討(候補)	5	国内由来の外来種	ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>	I			○	○	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	全国に釣り等の目的で放流された。植物プランクトン相への影響や交雑による影響があると考えられている。個体数のわりに生態系影響は少ないとの見解もある。				北海道、青森、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島愛媛、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討(候補)	6	国内由来の外来種	ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.	I			-	○	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	自然分布との区別が困難。琉球列島は移入。栃木県ではクロサンショウウオやモリアオガエルへの食害が生じており、近年上陸個体が確認できていない。			○	栃木、鹿児島			
再検討	7	国内由来の外来種	ニゴロブナ	<i>Carassius buergeri grandoculis</i>				-	○?	○?	-	-	○	-	-	-	○	-	富山県に移入。青森県と鳥取県で未定着。侵入年代は不明。生態系影響が懸念されている。				青森、鳥取			
再検討	8	国内由来の外来種	イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	富山、岡山、熊本の名県、四国に移入。侵入年代は不明。産卵母貝を巡る競合や交雑の恐れが指摘されている。九州北部の外来魚の侵略性評価では本種は潜在的な侵略性が高いとされている。				千葉、山口、徳島、高知、福岡	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討	9	国内由来の外来種	カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	宮城県、茨城県。霞ヶ浦では30年以上前に定着。産卵母貝を巡る競合や交雑の恐れが指摘されている。				福島、茨城、千葉、愛知、山口、徳島	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討	10	国内由来の外来種	アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	青森県に移入。侵入年代は不明。産卵母貝を巡る競合等の影響が懸念されている。					国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討	11	国内由来の外来種	シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	青森県、島根県に移入。侵入年代は不明。産卵母貝を巡る競合等の影響が懸念されている。				青森、千葉、山口、徳島、高知	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討	12	国内由来の外来種	ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	諏訪湖、静岡県、河口湖に移入。侵入年代は不明。産卵母貝を巡る競合等の影響が懸念されている。					国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討(候補)	13	国内由来の外来種	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	関東地方に移入。種内の地域個体群ではあるが、関東地方のヤリタナゴは東海地方の遺伝子を持つものと置き換わっている。				千葉、和歌山、鹿児島	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討(候補)	14	国内由来の外来種	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	静岡県等に移入。愛媛県では本種が在来種のヤリタナゴと交雑し遺伝子浸透が起っている。				愛媛、高知	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
再検討	15	国内由来の外来種	ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	宮城県、新潟県、関東平野、琵琶湖に移入。霞ヶ浦では1960年代に確認				茨城、千葉、愛知、滋賀、和歌山			
再検討(候補)	16	国内由来の外来種	ゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	関東地方、新潟県、濃尾平野(琵琶湖由来)、九州(琵琶湖由来)で移入。霞ヶ浦では1960年代に初認。九州北西部では在来の同種集団と交雑。その他の影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。				青森、茨城、千葉、和歌山、山口	鬼倉委員		
再検討(候補)	17	国内由来の外来種	ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	I			◎	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○	奥多摩湖、山中湖、河口湖、諏訪湖、湯原湖に移入。スワモロコの絶滅はホンモロコの移植による交雑もしくは競合が原因とされている。				茨城、千葉、愛知、奈良、和歌山、山口、愛媛、宮崎			
再検討(候補)	18	国内由来の外来種	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	I			○	◎	-	○	-	○	-	-	-	○	○	東北地方、九州。競合による影響が懸念されている。				北海道、青森、茨城、千葉			
再検討	19	国内由来の外来種	ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	静岡県で移入。侵入年代は不明				徳島			
再検討	20	国内由来の外来種	ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	山陰地方と静岡県(安部川、葦科川)で移入。				千葉、和歌山			
再検討	21	国内由来の外来種	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	青森県、静岡県(中部以東)、兵庫県(円山川)、高知県の一部で移入。				青森、茨城、高知	地方公共団体		
再検討	22	国内由来の外来種	シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	北海道に移入。局所的に50年以上にわたって定着。生態系影響は不明。				北海道			
再検討	23	国内由来の外来種	ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	群馬県、東京都、千葉県、神奈川県に移入。生態系影響は不明。				茨城、千葉、愛知、愛媛、徳島、高知、宮崎			
再検討	24	国内由来の外来種	ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	東北地方、関東平野、本栖湖、北陸地方、水崎湖、諏訪湖、高知県、九州北部。在来種ヒガイ類と交雑する可能性と産卵母貝を巡ってタナゴ類と競合する可能性が指摘されている。				青森、茨城、千葉、愛知、和歌山、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、宮崎			
再検討	25	国内由来の外来種	スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	関東平野、静岡県、高知県で移入。生態系影響は不明。				茨城、千葉、愛知、鳥取、山口、徳島、高知			
再検討	26	国内由来の外来種	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	神奈川県(相模川)、静岡県、鹿児島県で定着。茨城県で確認。生態系影響は不明。				茨城、鳥取、高知、宮崎			
再検討	27	国内由来の外来種	ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	屋久島に移入。侵入年代は不明。生態系影響は不明。				鹿児島			
再検討	28	国内由来の外来種	アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	北海道(安野呂川)に移入。30年以上にわたって定着。北海道ではウグイ類と競合し、入れ替わってきているとの報告がある。				北海道、山口			
再検討(候補)	29	国内由来の外来種	タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephalus</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	神奈川県(大岡川)等に移入。多摩川では交雑によりアブラハヤと置き換わっている。						※現リスト時の検討種	

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】
リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	30	国内由来の外来種	ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	関東、北陸地方、奈良、岡山、島根、山口、福岡の各県				茨城、千葉、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知			
再検討	31	国内由来の外来種	ヌマムツ	<i>Nipponocypris sieboldii</i>				-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	関東地方。生態系影響は不明。自然環境下でカワムツ、ヌマムツ、オイカワの種間交雑が確認されている。				茨城			
再検討	32	国内由来の外来種	カワムツ	<i>Nipponocypris temminckii</i>				○	○	-	-	○	-	-	-	-	○	宮城県、関東地方。一旦侵入・定着するとカワムツは他魚を減少させ、それによって魚類群集の種組成を大きく変える恐れがあると考えられている。自然環境下でカワムツ、ヌマムツ、オイカワの種間交雑が確認されている。				茨城、千葉			
再検討(候補)	33	国内由来の外来種	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	I、IV			○	○	-	-	-	-	-	-	-	◎	○	東北地方、神奈川、四国太平洋側、隠岐諸島島後、五島列島、中通島、種子島、徳之島、沖縄島で移入。ウグイと競合し、負の影響を与える。自然環境下でカワムツ、ヌマムツ、オイカワの種間交雑が確認されている。最近沖縄島で確認された。沖縄島北部に侵入すれば、絶滅危惧種の卵の被害などの影響が懸念されるため、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。				北海道、青森、和歌山、徳島、高知、宮崎、鹿児島	鬼倉委員	
再検討	34	国内由来の外来種	オオガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	笛吹川(山梨)と奥多摩湖(東京)、静岡県、愛知県に移入。在来種のシマドジョウ類との競合が懸念される他、環境改変された場所でのコガタスジシマドジョウ類への繁殖干渉が知られている。				愛知、奈良、和歌山、山口		
再検討	35	国内由来の外来種	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	栃木県、静岡県で移入。生態系影響は不明。						※現リスト時の検討種
再検討(候補)	36	国内由来の外来種	フクドジョウ	<i>Nemacheilus barbatulus toni</i>	I、IV			○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	○	北海道石狩川より南西部、福島県、神奈川県、宮崎県に移入。水生昆虫への捕食や同所的に生息する底性魚類への競合が懸念されている。本州で分布拡大が顕著であり、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。				福島、茨城		
再検討	37	国内由来の外来種	エゾホトケドジョウ	<i>Lefua nikkonis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	青森県に移入。侵入年代は不明				青森		
再検討	38	国内由来の外来種	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	○	北海道、東北地方、関東地方。極端な競合や駆逐などの大きな影響を与える可能性は低いとの見解もある。				北海道、青森、茨城		
再検討	39	国内由来の外来種	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	岩手県、東京都に移入。カジカとの餌の競合の可能性がある。						※現リスト時の検討種
再検討	40	国内由来の外来種	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	九州以北の全国の湖、ダム湖。生態系影響は少ないとされるが、生息量によっては競合が生じる可能性もあると考えられている。				青森、千葉、愛知、滋賀、奈良、和歌山、徳島、愛媛、高知、宮崎		
再検討	41	国内由来の外来種	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	琵琶湖のアユが全国に移入。在来集団との識別は困難。琵琶湖個体群は河川個体群に比べて繁殖期が早いため交雑せず、水温の高い海水での仔稚魚の生存率が低いため、河川には定着しないと言われている。				和歌山、宮崎		
再検討	42	国内由来の外来種	リュウキュウアユ	<i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	沖縄の個体群は1970年代に絶滅。1992年に奄美大島の個体群が沖縄に再導入された。生態系影響は不明。						※現リスト時の検討種
再検討	43	国内由来の外来種	イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	北海道、本州、四国、九州。在来のヤマメやアマゴとの競合やこれらの種及び在来イワナとの交雑が確認されている。				愛知、和歌山、山口、徳島、愛媛、高知、宮崎	地方公共団体	
再検討	44	国内由来の外来種	クニマス	<i>Oncorhynchus kawamurae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	岩手県、山梨県(西湖・本栖湖)、長野県、富山県に導入。原産地の個体が絶滅している。						
再検討	45	国内由来の外来種	サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	千葉県(栗山川)、東京都(多摩川)ほか本州、北海道。				滋賀、兵庫		
再検討	46	国内由来の外来種	サツキマス(アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	全国、詳細は不明。滋賀県では在来種イワナと競合してイワナの個体数を減少させたといわれている。ヤマメとの交雑や同種の地域個体群への遺伝的かく乱が起こっている。				滋賀、京都、奈良、鳥取、和歌山、鳥取、宮崎		
再検討	47	国内由来の外来種	サクラマス(ヤマメ)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	全国、詳細は不明。アマゴとの交雑が起こっている。				北海道、兵庫、鳥取、宮崎		
再検討	48	国内由来の外来種	ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp. 1				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	中禅寺湖と木崎湖に移入。中禅寺湖では1906年に移入の記録がある。木崎湖では明治時代。生態系影響は不明。						※現リスト時の検討種
再検討	49	国内由来の外来種	ベニザケ(ヒメマス)	<i>Oncorhynchus nerka nerka</i>				○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	北海道、青森、秋田、栃木、福島、神奈川、山梨、長野などの各県に導入。在来魚との競合やプランクトンへの捕食の影響が懸念されている。				青森		
再検討(候補)	50	国内由来の外来種	イトヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	青森県内の非分布地域と滋賀県へ移入。滋賀県ではハリヨとの交雑により地域的な在来遺伝子の消失が起こっている。滋賀県では強影響外来種として選定されている。				青森、滋賀	渡辺委員	
再検討	51	国内由来の外来種	ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	岐阜県で移入。生態系影響は不明。						※現リスト時の検討種
再検討(候補)	52	国内由来の外来種	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	北海道、関東地方、奈良県を含む全国(詳細不明)。各地で放流による遺伝子汚染が問題となっている。				北海道、千葉、滋賀、和歌山、徳島	地方公共団体	
再検討	53	国内由来の外来種	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>				○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	茨城県、神奈川県、長野県で移入。神奈川県は1998年に確認。捕食と餌料生物の競合の両面から影響を受けることが懸念されている。						※現リスト時の検討種

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

: 現リストの掲載種
- 再検討

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種
- 新規

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】
リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
再検討	54	国内由来の外来種	ビウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BW.				○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	在来種(特にヨシノボリ類)との競合、交雑による遺伝的かく乱等の影響が懸念されている。				愛知、徳島、愛媛			
再検討	55	国内由来の外来種	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>				○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	奥多摩湖、芦ノ湖、富士五湖、愛知県鳳来湖、琵琶湖に移入。滋賀県と山梨県以外は在来集団も存在する。侵入年代は不明。魚卵や稚魚を捕食するなど動物食性の傾向が強いことから、在来魚類への影響が懸念される。				滋賀、京都、奈良			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（魚類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で**掲載候補と判断**した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で**掲載候補と判断**した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版　魚類WGとその後の照会結果の反映版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種（順不同）

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	56	国内由来の外來種	スナヤツメ(南方種)	<i>Lethenteron</i> sp. S.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	生態系被害等の情報なし。				和歌山、高知			
新規	57	国内由来の外來種	スナヤツメ(北方種)	<i>Lethenteron</i> sp. N				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	生態系被害等の情報なし。				和歌山			
新規	58	国内由来の外來種	オオウナギ	<i>Anguilla marmorata</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	宮崎県では本種による捕食で在来魚が減少した可能性があると考えられるが、個体の由来は温暖化による来遊の増加。在来種との競合と駆逐の可能性、在来種との交雑による遺伝的攪乱の可能性が指摘されている。				宮崎			
新規(候補)	59	国内由来の外來種	キンギョ	<i>Carassius auratus auratus</i>	I、IV			○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	交雑による影響が懸念される。同所的に分布する在来魚は概ね日本の他地域で共存する関係にあり、競合や駆逐など直接的な影響は考えにくいとの見解もある。生態系被害等の情報なし。				北海道、茨城、滋賀			
新規	60	国内由来の外來種	キンブナ	<i>Carassius buergeri</i> subsp. 2				-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	岡山県、山口県に定着。千葉県でも確認。千葉県の外来種リストでは生態系へ不可逆的な影響を及ぼす可能性が高いとされている。岡山県ではスイゲンゼニタナゴへの遺伝子浸透が生じている可能性が高い。				北海道、山口、宮崎			
新規	61	国内由来の外來種	オオキンブナ	<i>Carassius buergeri burgeri</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	生態系被害等の情報なし。				宮崎			
新規(候補)	62	国内由来の外來種	カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	岡山県、山口県に定着。千葉県でも確認。千葉県の外来種リストでは生態系へ不可逆的な影響を及ぼす可能性が高いとされている。岡山県ではスイゲンゼニタナゴへの遺伝子浸透が生じている可能性が高い。				千葉、山口	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
新規	63	国内由来の外來種	ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	生態系被害等の情報なし。				和歌山	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
新規	64	国内由来の外來種	ミヤコタナゴ	<i>Pseudorhodeus tanago</i>				◎?	◎?	-	-	-	○	-	-	-	-	○	千葉県の外来種リストでは生態系へ不可逆的な影響を及ぼす可能性が高いとされている。基本的に流通はない。				千葉	国内外来種のタナゴ類として環境省関東		
新規(候補)	65	国内由来の外來種	日本産タナゴ亜科全種	<i>Acheilognathinae</i> spp.	I			○	◎	-	-	-	○	○	-	-	◎	○	ほぼ全種が国内外来種として本来の生息域外で確認されており、多くが絶滅危惧種であることもあり、交雑等による在来種に対する負の影響が大きいとされている。							
新規	66	国内由来の外來種	ゼゼラ属の一種	<i>Biwia</i> sp.				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	高知県外来種リストに競合の恐れが記されている。				高知			
新規	67	国内由来の外來種	ニゴイ属の一種	<i>Hemibarbus</i> sp.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	高知県にはニゴイとコウライニゴイの雑種個体が入入されている。				高知			
新規	68	国内由来の外來種	カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	生態系影響は不明。				千葉、和歌山、徳島、愛媛、宮崎			
新規(候補)	69	国内由来の外來種	コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis tsuchigae</i>	IV			-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	生態系影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。				千葉、鳥取、高知			
新規	70	国内由来の外來種	デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	山口県で確認。生態系影響は不明。				山口			
新規	71	国内由来の外來種	カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis neglectus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県に移入され、定着初期とされている。生態系影響は不明。				和歌山			
新規	72	国内由来の外來種	アジメドジョウ	<i>Niwaella delicata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	高知県で定着初期。生態系影響は不明。				高知			
新規(候補)	73	国内由来の外來種	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	沖縄県北部のヒョウモンドジョウ生息地に近接する地域に本州や中国由来のドジョウが確認されており、ヒョウモンドジョウに対する遺伝的かく乱が懸念されている。			○	北海道、奈良、鹿児島			
新規	74	国内由来の外來種	トミヨ	<i>Pungitius</i> sp.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	に				和歌山			
新規	75	国内由来の外來種	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	滋賀県で確認記録外来種。生態系影響や移入元などの詳細は不明。				滋賀			
新規(候補)	76	国内由来の外來種	ヒメダカ等のメダカ改良品種	<i>Oryzias latipes</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	在来のみナミメダカやキタノメダカと容易に交雑して遺伝的かく乱を引き起こす。				青森、滋賀、奈良			
新規	77	国内由来の外來種	クルマメサヨリ	<i>Hyporhamphus intermedius</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	滋賀県で確認記録外来種。生態系影響や移入元などの詳細は不明。				滋賀			
新規	78	国内由来の外來種	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	滋賀県で確認記録外来種。生態系影響や移入元などの詳細は不明。				滋賀			
新規	79	国内由来の外來種	カクレクマノミ	<i>Amphiprion ocellaris</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	串本町の海岸で明らかに観賞魚を遺棄した状況で見つけられた。繁殖は確認できていない。生態系影響は不明。				和歌山			
新規	80	国内由来の外來種	セジロクマノミ	<i>Amphiprion sandaracinos</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	串本町の海岸で明らかに観賞魚を遺棄した状況で見つけられた。繁殖は確認できていない。生態系影響は不明。				和歌山			
新規	81	国内由来の外來種	ウツセミカジカ	<i>Cottus reinii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	吉野川流域で確認された。定着状況は不明。生態系影響は不明。				徳島			
新規	82	国内由来の外來種	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生態系影響は不明。				高知			
新規	83	国内由来の外來種	イサザ	<i>Gymnogobius isaza</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	生態系影響は不明。				茨城			
新規	84	国内由来の外來種	ゴクラクハゼ					-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県のダム湖で定着。海外でも外来巢として定着している国がある。生態系影響は不明。				和歌山			
新規	85	国内由来の外來種	シマヒレヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BF				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	和歌山県の一部の河川で定着(県内に在来地域もある)。生態系影響は不明。				和歌山			
新規	86	国内由来の外來種	トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius</i> sp.				○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	大規模な移動が生じているが、詳細不明。在来ヨシノボリ類との競合が懸念されている。トウカイヨシノボリとの交雑による置き換わりが生じている可能性がある。				和歌山、高知			
新規	87	国内由来の外來種	オウミヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. OM				-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	愛媛県内で広く定着。在来種との交雑のリスクが高いとされる。				愛媛			
新規	88	国内由来の外來種	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	本種が多く生息するようになった結果、在来ウキゴリ類が減少した地域がある。				和歌山			
新規	89	国内由来の外來種	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生態系影響は不明。				和歌山			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

現リスト掲載種

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	外国産クワガタムシ (外国産マルバネクワガタ10種を除く)	Lucanidae Gen spp.	I	○	◎	○	◎	—	—	—	○	○	—	—	◎	—	大量に輸入・流通している、非有害動植物。				北海道、青森、茨城、千葉、長野、愛知、滋賀、京都、兵庫、愛媛、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	2	定着初期/限定分布	シロテンハナムグリ台湾亜種(サカイシロテンハナムグリ)	Protaetia orientalis sakaii	I	／	／	○	◎	—	—	—	○	—	—	—	—	○	検疫有害動物。				福岡、長崎、沖縄		
継続	3	未定着	外国産テナガコガネ属	Cheironotus spp.	I	○	—	◎	◎	—	—	—	○	○	—	—	○	—	多くは非有害動植物。	特定			長崎、沖縄		
継続	4	未定着	クモテナガコガネ属	Euchirus spp.	I	○	—	◎	—	—	—	—	○	○	—	—	○	—	いくつかの種は非有害動植物。	特定			長崎、沖縄		
継続	5	未定着	ヒメテナガコガネ属	Propomacrus spp.	I	○	—	◎	—	—	—	—	○	○	—	—	○	—	いくつかの種は非有害動植物。	特定			長崎、沖縄		
継続	6	未定着	外国産カブトムシ(サイカブトを除く)	Dynastinae Gen spp.	I	○	◎	○	—	—	—	—	○	○	—	—	◎	—	大量に輸入・流通している。検疫有害動物(輸入規制無の種もいる。「生きた昆虫・微生物などの規制に関するデータベース」を参照。)	特定	日本		茨城、長野、滋賀、京都、長崎、宮崎、沖縄		
継続	7	分布拡大大期～まん延期	クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ)	Aromia bungii	I	／	／	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	○	サクラ等への影響が懸念、検疫有害動物。知見の集積が必要。	特定			茨城、栃木、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、徳島、香川、高知、長崎、沖縄		
継続	8	定着初期/限定分布	フェモラータオオモモトハムシ	Sagra femorata	IV	／	／	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	○	2008年頃三重に定着、分布拡大が目される。検疫有害動物、知見の集積が必要。				茨城、愛知、滋賀、愛媛、長崎、沖縄		
継続	9	定着初期/限定分布	カンショオサゾウムシ	Rhabdoscelus obscurus	I,II,III	／	／	—	—	◎	—	—	○	◎	—	◎	—	—	小笠原、大東諸島に侵入、小笠原固有種ノヤシを加害。検疫有害動物。		日本		長崎、沖縄		
継続	10	分布拡大大期～まん延期	ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	Sericinus montela	I	／	／	◎	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動物。				茨城、神奈川、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、山口、徳島、福岡、長崎、熊本、宮崎、沖縄		
継続	11	分布拡大大期～まん延期	アカボシゴマダラ大陸亜種(名義タイプ亜種)	Hestina assimilis assimilis	I	／	／	◎	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	関東地方を中心に分布拡大大期、非検疫有害動物。	特定			北海道、福島、茨城、栃木、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知、兵庫、徳島、長崎、沖縄		
継続	12	定着初期/限定分布	アカカミアリ	Solenopsis geminata	I,III	／	／	◎	—	◎	—	◎	○	○	◎	◎	—	◎	火山列島硫黄島に定着、検疫有害動物。	特定(要緊急)	IUCN	○	茨城、栃木、千葉、長野、愛知、滋賀、京都、大阪、山口、徳島、香川、高知、長崎、沖縄		
継続	13	未定着	ヒアリ(アカヒアリ)	Solenopsis invicta	I,III	○	◎	◎	—	◎	—	◎	○	—	◎	◎	—	◎	検疫有害動物。	特定(要緊急)	IUCN	○	茨城、栃木、千葉、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、高知、長崎、熊本、沖縄		
継続	14	分布拡大大期～まん延期	アルゼンチンアリ	Linepithema humile	I,III	／	／	◎	—	◎	—	○	○	—	—	◎	—	◎	検疫有害動物。	特定	日本・IUCN	○	神奈川、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、山口、徳島、香川、高知、長崎、沖縄		
継続	15	未定着	コカミアリ	Wasmannia auropunctata	I,III	○	○	◎	—	◎	—	○	○	—	—	◎	—	○	非有害動植物。	特定	IUCN	○	栃木、徳島、長崎、沖縄		
継続	16	定着初期/限定分布	チャイロネツタイズバチ	Delta pyriforme	IV	／	／	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	○	小笠原諸島に定着、知見の集積が必要。				長崎、沖縄		
継続	17	定着初期/限定分布	ナンヨウチビアシナガバチ	Ropalidia marginata	IV	／	／	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	○	火山列島硫黄島に定着、知見の集積が必要。				長崎、沖縄		
継続	18	定着初期/限定分布	ツマアカスズメバチ	Vespa velutina	I,III	／	／	○	—	○	—	○	○	○	◎	—	—	○	キロスズメバチへの繁殖干渉の影響が懸念されている。	特定	日本		滋賀、大阪、徳島、香川、高知、長崎、熊本、宮崎、沖縄		
継続	19	未定着	アフリカミツバチとアフリカ化ミツバチ	Apis mellifera scutellata	III	○	○	—	—	—	—	—	○	—	◎	—	○	—	日本では家畜伝染予防法で輸入規制有。			○	長崎、沖縄		
継続	20	定着初期/限定分布	セイヨウオオマルハナバチ	Bombus terrestris	I	／	／	◎	○	—	—	—	○	○	◎	—	◎	—	北海道に定着、非有害動植物。	特定	日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、高知、長崎、熊本、宮崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	21	定着初期/限定分布	アヤトビムシ科の一種	Entomobrya unostrigata				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	関東地方に定着か。			○				
再検討	22	分布拡大期～まん延期	セイヨウシミ	Lepisma saccharina				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。				北海道、青森、福島、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、福岡			
再検討	23	定着初期/限定分布	マダラシミ	Thermobia domestica				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。							
再検討	24	小笠原・南西諸島	イエゴキブリ	Neostylopyga rhombifolia				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	九州南部・南西諸島等に定着、非有害動物植物？ペット利用あり(ハーレクインローチ)。				沖縄			
再検討	25	分布拡大期～まん延期	ワモンゴキブリ	Periplaneta americana				-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	家屋害虫。本土部太平洋岸の都市部・南西諸島・小笠原諸島に定着。非有害動物植物？実験動物として用いられる。ホワイトアイのペット流通を確認している。				北海道、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、徳島、高知、宮崎			
再検討	26	分布拡大期～まん延期	コワモンゴキブリ	Periplaneta australasiae				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。九州南部・南西諸島、小笠原諸島に定着、非有害動物植物？				北海道、福島、千葉、愛知			
再検討	27	定着初期/限定分布	トビイロゴキブリ	Periplaneta brunnea				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、非有害動物植物？				北海道、愛知、沖縄			
再検討	28	分布拡大期～まん延期	クロゴキブリ	Periplaneta fluginosa				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。西南日本では在来種の可能性あり、非有害動物植物？				北海道、青森、茨城、千葉、愛知、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、宮崎			
再検討	29	定着初期/限定分布	トルキスタンゴキブリ	Shelfordella lateralis (Periplaneta lateralis)				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、非有害動物植物？ペットと利用あり(レッドローチ)。				奈良			
再検討	30	分布拡大期～まん延期	チャバネゴキブリ	Blattella germanica				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	家屋害虫、自然生態系への影響小、検疫有害動物植物。		日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、福岡、宮崎、鹿児島			
再検討	31	定着初期/限定分布	ヨウランゴキブリ	Shelfordina orchidae				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	施設内のみの定着？、自然生態系への影響小、検疫有害動物植物。				北海道、千葉			
再検討	32	小笠原・南西諸島	チャオビゴキブリ	Supella longipalpa				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、非有害動物植物。							
再検討	33	小笠原・南西諸島	ハイイロゴキブリ	Nauphoeta cinerea				-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、非有害動物植物？ 実験動物や餌としての利用あり。				沖縄			
再検討	34	未定着？ or 定着初期/限定分布	ニシインドカンザイシロアリ	Cryptotermes brevis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、検疫有害動物植物。							
再検討	35	定着初期/限定分布	ハワイシロアリ	Incisitermes immigrans				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物植物。							
再検討	36	分布拡大期～まん延期	アメリカカンザイシロアリ	Incisitermes minor				-	-	-	-	-	○	○	-	◎	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小、非有害動物植物。				千葉、和歌山、山口、福岡、宮崎、鹿児島			
再検討	37	分布拡大期～まん延期	イエシロアリ	Coptotermes formosanus				-	-	-	-	-	○	○	-	◎	-	-	在来種とする説が有力、小笠原のは海外由来の外来種、非検疫有害動物植物。		日本・IUCN	○	愛知、和歌山、山口、高知、宮崎、鹿児島	地方公共団体		
再検討	38	定着初期/限定分布	カンモンシロアリ	Coptotermes kanmonensis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。検疫有害動物植物。				山口、福岡			
再検討	39	定着初期/限定分布	アメリカオオシロアリ	Zootermopsis angusticollis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。							
再検討	40	定着初期/限定分布	ネバダオオシロアリ	Zootermopsis nevadensis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	41	小笠原・南西諸島	ナンヨウカマギリ	Orthodera ministralis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	小笠原諸島のみに分布？							
再検討	42	小笠原・南西諸島	ナンヨウツユムシ	Phaneroptera furcicera				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	硫黄島に分布？検疫有害動物植物。							
再検討	43	分布拡大期～まん延期？	ヨーロッパイエコオロギ(イエコオロギ)	Acheta domesticus				-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	検疫有害動物。非検疫有害動物植物、食品利用有(輸入物)。				北海道			
再検討	44	分布拡大期～まん延期	カマドコオロギ(トウキョウコオロギ、ウスイロコバネコオロギ)	Gryllobates sigillatus				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物植物。				愛知、山口、宮崎			
再検討	45	定着初期/限定分布	コモダスエンマコオロギ	Teleogryllus marni				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物植物。							
再検討	46	分布拡大期～まん延期	アオマツムシ	Trulia hibernonis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物植物。				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、高知、福岡、熊本、宮崎、鹿児島			
再検討	47	定着初期/限定分布	フタイロヒバリ	Homoeoxipha lycoides				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物植物。							
再検討	48	分布拡大期～まん延期	ウスグモズ	Amusurgus genji				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物植物。				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、高知、福岡	環境省関東		
再検討	49	分布拡大期～まん延期	ヒラタチャタテ	Liposcelis bostrychophilus (Liposcelis bostrychophila)				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。非有害動物植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。				奈良、和歌山、高知、福岡			
再検討	50	？	ウスグロチャタテ	Liposcelis crrodens				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。非有害動物植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。							
再検討	51	？	カツブシチャタテ	Liposcelis entomophilus				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。非有害動物植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。				北海道			
再検討	52	分布拡大期～まん延期	コナチャタテ	Liposcelis simulans				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。非有害動物植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。				山口			
再検討	53	？	ソウメンチャタテ	Liposcelis kidderi				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫、自然生態系への影響小。非有害動物植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。							

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	：現リストの掲載種
再検討	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	54	？	ツヤコチャタテ	<i>Lepinotus reticulatus</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	家屋害虫。自然生態系への影響小。非有害動植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。							
再検討	55	分布拡大期～まん延期？	コチャタテ	<i>Trogium pulsatorium</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	家屋害虫。自然生態系への影響小。非有害動植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。				和歌山			
再検討	56	定着初期/限定分布？	トガリチャタテ	<i>Tapinella africana</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	家屋害虫。自然生態系への影響小。非有害動植物(チャタテムシ目で非有害と判断)。							
再検討	57	定着初期/限定分布？	カトレアアザミウマ	<i>Trichomothrips xanthius</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。							
再検討	58	分布拡大期～まん延期	モトジロアザミウマ	<i>Echinothrips americanus</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				福島、愛知、高知、宮崎			
再検討	59	分布拡大期～まん延期	ミカンキイロアザミウマ	<i>Frankliniella occidentalis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物(栽培用に供する植物に付着するものを除く)。		日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	60	分布拡大期～まん延期	クロトンアザミウマ	<i>Heliothrips haemorrhoidalis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				福島、茨城、千葉、和歌山、高知、宮崎			
再検討	61	分布拡大期～まん延期？	クリバネアザミウマ	<i>Hercinothrips femoralis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				高知、宮崎			
再検討	62	分布拡大期～まん延期	チャノキイロアザミウマ	<i>Scirtothrips dorsalis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く)。在来種の可能性有。				北海道、宮崎			
再検討	63	分布拡大期～まん延期	アカオビアザミウマ	<i>Selenothrips rubrocinctus</i>				－	－	－	－	－	○	○	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				高知、沖縄			
再検討	64	分布拡大期～まん延期	ナシアザミウマ	<i>Taeniothrips inconsequens</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	検疫有害動物。				福島、茨城、千葉			
再検討	65	分布拡大期～まん延期	ハナアザミウマ	<i>Thrips hawaiiensis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	非検疫有害動植物。				青森、福島、茨城、千葉、愛知、奈良、和歌山、高知、福岡、宮崎			
再検討	66	分布拡大期～まん延期	ミナミキイロアザミウマ	<i>Thrips palmi</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く)。		日本		福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	67	分布拡大期～まん延期	グラジオラスアザミウマ	<i>Thrips simplex</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				北海道、青森、茨城、千葉、愛知、京都、山口、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	68	分布拡大期～まん延期	ネギアザミウマ	<i>Thrips tabaci</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	69	小笠原・南西諸島	ガジュマルクダアザミウマ	<i>Gynaikothrips ficorum</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	ガジュマルに寄生。検疫有害動物。							
再検討	70	分布拡大期～まん延期	カキクダアザミウマ	<i>Ponticulothrips diospyrosi</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	カキに寄生。農業害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				青森、福島、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、宮崎、鹿児島			
再検討	71	分布拡大期～まん延期	スベスベメロアザミウマ	<i>Merothrips laevis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。							
再検討	72	分布拡大期～まん延期？	フロリダメロアザミウマ	<i>Merothrips floridensis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。				福島			
再検討	73	小笠原・南西諸島	アリガタシマアザミウマ	<i>Franklinothrips vespiformis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。天敵農薬で使用されている。				奈良、沖縄			
再検討	74	小笠原・南西諸島	クロフツノウンカ(サトウノウンカ)	<i>Perkinsiella saccharicida</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	トウモロコシに寄生。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				沖縄			
再検討	75	定着初期/限定分布	チュウゴクナシキジラミ	<i>Cacopsylla chinensis</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	ナシに寄生。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				山口			
再検討	76	分布拡大期～まん延期	マンゴーキジラミ	<i>Calophya mangiferae</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	マンゴーに寄生。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				沖縄			
再検討	77	小笠原・南西諸島	ギンネムキジラミ	<i>Heteropsylla cubana</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	ギンネムに寄生、検疫有害動物。				沖縄			
再検討	78	分布拡大期～まん延期	チャトゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus camelliae</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	検疫有害動物。				千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、山口、福岡、宮崎			
再検討	79	分布拡大期～まん延期	ミカントゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus spiniferus</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	非検疫有害動植物。				茨城、愛知、滋賀、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	80	小笠原・南西諸島	ミカンワタコナジラミ(ウーリーコナジラミ)	<i>Aleurothrixus floccosus</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				沖縄			
再検討	81	分布拡大期～まん延期	タバコナジラミ(ワタコナジラミ)	<i>Bemisia tabaci</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。在来の系統と外来の系統があり、外来系統が大量虫。		IUCN	○	青森、福島、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	82	分布拡大期～まん延期	イチゴコナジラミ	<i>Trialeurodes packardii</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				北海道			
再検討	83	分布拡大期～まん延期	オンシツコナジラミ	<i>Trialeurodes vaporariorum</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	◎	－	－	農業害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)		日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、徳島、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	84		ジンチョウゲヒゲナガアブラムシ	<i>Acythosiphon argus</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。				千葉			
再検討	85		クサノオウヒゲナガアブラムシ	<i>Acythosiphon chelidonii</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。							
再検討	86	分布拡大期～まん延期	マメクロアブラムシ	<i>Aphis fabae fabae</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)							
再検討	87	分布拡大期～まん延期	イヌホオズキクロアブラムシ	<i>Aphis fabae solanella</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)				高知			
再検討	88		キヅタクロアブラムシ	<i>Aphis hederæ</i>				－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	検疫有害動物。							

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	89	分布拡大期～まん延期	キョウチクトウアブラムシ	<i>Aphis nerii</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				茨城、千葉、京都、福岡			
再検討	90		マツヨイグサアブラムシ	<i>Aphis oenotherae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	91	分布拡大期～まん延期	タンポポアブラムシ	<i>Aphis taraxacicola</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	在来種の可能性あり。検疫有害動物。							
再検討	92	未定着	キナラ・カブレシ	<i>Cinara cupressi</i>		○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	検疫有害動物。		IUCN	○				
再検討	93		チューリップネアブラムシ	<i>Dysaphis tulipae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				千葉			
再検討	94	分布拡大期～まん延期	リンゴワタムシ(リンゴメンチュウ、メンチュウ)	<i>Eriosoma lanigerum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	非検疫有害動植物。				北海道、青森			
再検討	95		オヒシバクロアブラムシ(ホモノクロアブラムシ、エノコログササビロアブラムシ)	<i>Hysteroneura setariae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	96		ツツジヒゲナガアブラムシ	<i>Illinoia lambersi</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	97		ユリノキヒゲナガアブラムシ	<i>Illinoia lirioidendri</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。							
再検討	98		フウナガマダラオオアブラムシ	<i>Longistigma liquidambarus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				高知			
再検討	99	分布拡大期～まん延期	チューリップヒゲナガアブラムシ	<i>Macrosiphum euphorbiae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)				青森			
再検討	100		ムギウスイロアブラムシ	<i>Metopolophium dirhodum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	在来種の可能性あり。検疫有害動物。							
再検討	101		ヘビイチゴコブアブラムシ	<i>Myzus ornatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)							
再検討	102		レタスヒゲナガアブラムシ	<i>Nasonovia ribisnigri</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				福岡			
再検討	103	分布拡大期～まん延期	ムギクビレアブラムシ(キビクビレアブラムシ)	<i>Rhopalosiphum padi</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)				青森、茨城、山口、高知、宮崎			
再検討	104	分布拡大期～まん延期	アルファルファアブラムシ	<i>Therioaphis trifolii</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				山口、福岡			
再検討	105	分布拡大期～まん延期	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				福島、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、高知、福岡			
再検討	106		ヒメムカシヨモギヒゲナガアブラムシ(ピンボウグサヒゲナガアブラムシ)	<i>Uroleucon erigeronensis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	107		タンポポヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon taraxaci</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	108	未定着	アデルゲス・ビクアエ	<i>Adelges piceae</i>		○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	検疫有害動植物(省令で記載)。				○			
再検討	109		キナコネアブラムシ(キナコムシ)	<i>Aphanostigma iaksuiense</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	在来種の可能性あり。検疫有害動物。							
再検討	110		クリイガアブラムシ(クリキナコムシ)	<i>Moritzella castaneivora</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	在来種の可能性あり。非検疫有害動植物。				山口、宮崎			
再検討	111		ブドウネアブラムシ(ブドウフィロキセラ)	<i>Viteus vitifoliae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	ブドウの害虫。検疫有害動物。				北海道、京都、鳥取			
再検討	112	未定着	オルテシア・インシグニス	<i>Orthezia insignis</i>		○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				○			
再検討	113	分布拡大期～まん延期	イセリアカイガラムシ(ワタフキカイガラムシ)	<i>Icerya purchasi</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				○	北海道、茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄		
再検討	114	分布拡大期～まん延期？	キイロワタフキカイガラムシ(オガタワタフキカイガラムシ)	<i>Icerya seychellarum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。							
再検討	115	分布拡大期～まん延期	チガヤシロオカイガラムシ(カンジョノフクロカイガラムシ)	<i>Antonina graminis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				山口、福岡、宮崎			
再検討	116	分布拡大期～まん延期？	バイナツブルコナカイガラムシ(バインコナカイガラムシ)	<i>Dysmicoccus brevipes</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	117		サボテンコナカイガラムシ	<i>Hypogeococcus spinosus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	118	未定着	オラケッラ・アキュータ	<i>Oracella acuta</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				○			
再検討	119	分布拡大期～まん延期	マデイラコナカイガラムシ(メキシココナカイガラムシ)	<i>Phenacoccus madeirensis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				千葉、高知、沖縄			
再検討	120	分布拡大期～まん延期？	ミカンコナカイガラムシ	<i>Planococcus citri</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				茨城、和歌山、宮崎			
再検討	121		サボテンネコナカイガラムシ	<i>Rhizoecus cacticans</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物(Rhizoecidaeとしても記載なし)。							
再検討	122		サボテンフクロカイガラムシ	<i>Rhizococcus coccineus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。							
再検討	123	定着初期/限定分布	ピンオークタマカイガラムシ	<i>Allokermes galliformis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	124	分布拡大期～まん延期	ルビーロウムシ(ルビーロウカイガラムシ、ルビーカイガラムシ)	<i>Ceroplastes rubens</i>				—	—	—	—	—	○	○	—	○	—	—	非検疫有害動植物。				茨城、愛知、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎	環境省関東		
再検討	125	分布拡大期～まん延期？	フロリダロウムシ	<i>Ceroplastes floridensis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。							
再検討	126	分布拡大期～まん延期？	ナガカタカイガラムシ(フトナガカイガラムシ)	<i>Coccus longulus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				和歌山			
再検討	127	分布拡大期～まん延期？	ミドリカタカイガラムシ	<i>Coccus viridis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。							
再検討	128	定着初期/限定分布？	カメノコロウカタカイガラムシ(キッコウカタカイガラムシ)	<i>Eucalymnatus tessellatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				和歌山			
再検討	129	分布拡大期～まん延期	クチナシカタカイガラムシ(マンゴーカタカイガラムシ)	<i>Milviscutulus mangiferae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				滋賀、京都、奈良、沖縄			
再検討	130	分布拡大期～まん延期？	クロカタカイガラムシ	<i>Parasaissetia nigra</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。							
再検討	131	定着初期/限定分布	イチイカタカイガラムシ	<i>Parthenolecanium pomericum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				北海道			
再検討	132	分布拡大期～まん延期？	ミドリワタカイガラムシ(サカキワタカイガラムシ)	<i>Pulvinaria psidii</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				沖縄			
再検討	133	分布拡大期～まん延期？	オリーブカタカイガラムシ	<i>Saissetia oleae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。							

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	：現リストの掲載種
再検討	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
新規	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	134	分布拡大期～まん延期？	ハンエンカタカイガラムシ(ヤマタカカタカイガラムシ、ヤマタカカイガラムシ)	Saissetia coffeae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	135	未定着	トウメイエツラ・バルビコルニス	Toumeyella parvicornis		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	136	分布拡大期～まん延期？	シュロマルカイガラムシ	Hemiberlesia cyanophylli		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	137		ジャワマルカイガラムシ	Hemiberlesia palmae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	138	分布拡大期～まん延期？	マンゴーシロカイガラムシ	Aulacaspis tubercularis		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	139	分布拡大期～まん延期？	ハワイカキカイガラムシ	Andaspis hawaiiensis		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	140	分布拡大期～まん延期？	アカマルカイガラムシ	Aonidiella aurantii		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	非検疫有害動物。				和歌山			
再検討	141	分布拡大期～まん延期？	キマルカイガラムシ	Aonidiella citrina		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	142	定着初期/限定分布	インドアカマルカイガラムシ	Aonidiella comperei		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	マンゴーに寄生。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				宮崎			
再検討	143	定着初期/限定分布？	オスベッキーマルカイガラムシ	Aonidiella orientalis		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	144	定着初期/限定分布？	クサギウスマルカイガラムシ	Aspidiotus excisus		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討(候補)	145	定着初期/限定分布	ソテツシロカイガラムシ	Aulacaspis yasumatsui	IV	/	/	-	-	○	-	◎	○	○	-	-	-	◎	検疫有害動物。ソテツを加害。奄美、沖縄で確認。			○	沖縄	農林水産省、環境省、環境省沖縄奄美、地方公共団体		
再検討	146	分布拡大期～まん延期？	アカホシマルカイガラムシ	Chrysomphalus aonidum		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	147	分布拡大期～まん延期？	オンシツマルカイガラムシ(ミカンノマルカイガラモドキ)	Chrysomphalus dictyospermi		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	148		ランシロカイガラムシ(ランカイガラムシ)	Diaspis boisduvalii		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				沖縄			
再検討	149	定着初期/限定分布？	アナナスシロカイガラムシ(パイナップルシロカイガラムシ、バインシロカイガラムシ)	Diaspis bromeliae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	パイナップルの害虫。非検疫有害動物。				沖縄			
再検討	150		サボテンシロカイガラムシ(サボテンマルカイガラムシ)	Diaspis echinocacti		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	151	分布拡大期～まん延期？	コノハカイガラムシ	Fiorinia florinae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	152		アナナスクロホシカイガラムシ	Gymnaspis aechmeae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	153	定着初期/限定分布	マツノハマルカイガラムシ	Hemiberlesia pitysophila		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	154	定着初期/限定分布？	クロイトカイガラムシ	Ischnaspis longirostris		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	155	分布拡大期～まん延期	ハワードシロナガカイガラムシ	Kuwanaspis howardi		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	156	小笠原諸島・南西諸島？	ミカンカキカイガラムシ	Lepidosaphes beckii		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	157	分布拡大期～まん延期	カキノカキカイガラムシ	Lepidosaphes cupressi		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	158	分布拡大期～まん延期	リンゴカキカイガラムシ	Lepidosaphes ulmi		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				青森			
再検討	159	定着初期/限定分布？	パイナップルクロマルカイガラムシ	Melanaspis bromiliae		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				沖縄			
再検討	160	定着初期/限定分布	カシクロマルカイガラムシ	Melanaspis obscura		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	161	分布拡大期～まん延期	イチジクマルカイガラムシ(カンキツノクロマルカイガラムシ)	Morganella longispina		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。							
再検討	162	定着初期/限定分布？	ナガクロホシカイガラムシ	Parlatoria proteus		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	163	分布拡大期～まん延期	ヒメクロカイガラムシ(クロイロクロホシカイガラムシ)	Parlatoria ziziphi		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	164	定着初期/限定分布？	ハイビスカスシロカイガラムシ	Pinnaspis hibisci		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	165		ランウスマルカイガラムシ	Pseudoparlatoria parlatorioides		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	166	定着初期/限定分布？	リュウガンコノハカイガラムシ	Thysanoflorinia nephelii		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	167	分布拡大期～まん延期	ヤノネカイガラムシ(ヤノネナガカイガラムシ)	Unaspis yanonensis		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	非検疫有害動物 カンキツの重要害虫。		日本		茨城、千葉、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	168	未定着	バラタカルディナ・プセウドロバータ	Paratachardina pseudolobata		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	169	定着初期/限定分布	クロツノウンカ	Perkinsiella saccharicida		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	170	定着初期/限定分布	スジアカクマゼミ	Cryptotympana atrata		/	/	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	171	未定着	ホマロディスカ・ヴィトリペンニス	Homalodisca vitripennis		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	検疫有害動物(省令で記載)。				○			
再検討(候補)	172	分布拡大期～まん延期	トガリアメンボ	Rhagadotarsus kraepelini	IV	/	/	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	近畿、中国、四国、九州に定着。				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、愛媛、福岡			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	173	定着初期/限定分布	ヨツボシキノコカスミカメ(コトガリキノコメクラガメ)	<i>Fulvius anthocoroides</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	174	分布拡大期～まん延期?	トコジラミ	<i>Cimex letularius</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	衛生害虫。自然生態系への影響小。				青森、福島、愛知、高知、福岡、鹿児島			
再検討	175	分布拡大期～まん延期	プラタナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	プラタナスに寄生。自然生態系への影響小 検疫有害動物。				福島、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、徳島、愛媛、高知、福岡			
再検討	176	分布拡大期～まん延期	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、宮崎			
再検討	177	分布拡大期～まん延期	ヘクソカズラグンバイ	<i>Dulinius conchatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、山口、愛媛、高知、福岡			
再検討	178	分布拡大期～まん延期	ヨコヅナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrmi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島、茨城、千葉、神奈川、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、愛媛、高知、福岡、熊本、宮崎			
再検討	179	定着初期/限定分布	ケブカサシガメ	<i>Pergrinator biannulipes</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	貯穀害虫の天敵。自然生態系への影響小。				沖縄			
再検討	180	定着初期/限定分布	コメグラサシガメ	<i>Amphibolus venator</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	貯穀害虫の天敵。自然生態系への影響小。				沖縄			
再検討	181	分布拡大期～まん延期	カンシャコバネナガカメムシ	<i>Cavelerius saccharivorus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。サトウキビの有害動物(植防法別表十に記載有)。		日本		高知、宮崎、沖縄			
再検討	182	定着初期/限定分布	マツヘリカメムシ	<i>Leptoglossus occidentalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。クロマツ種子に影響?				福島、茨城、千葉、愛知、和歌山、島根、福岡			
再検討	183	小笠原・南西諸島	ヒゲナガヘリカメムシ	<i>Notobius meleagris</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	184	分布拡大期～まん延期	キマダラカメムシ	<i>Erythesina fullo</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、愛媛、高知、福岡、熊本			
再検討	185	分布拡大期～まん延期	チビナガヒラタムシ	<i>Micromalthus debilis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、奈良、福岡			
再検討	186	小笠原・南西諸島	タイワンヤツボシハンミョウ	<i>Cosmodela batesi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。台湾からの外来種とされる。							
再検討	187	分布拡大期～まん延期	コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	北米原産といわれる。				北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、高知			
再検討	188	未定着	オオブテルス・ソレダディヌス	<i>Oopterus soledadinus</i>		○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				○				
再検討	189	未定着	トレキシブス・アンタークティクス	<i>Trechisibus antarcticus</i>		○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				○				
再検討	190	分布拡大期～まん延期	クロチビエンマムシ	<i>Carcinops pumilio</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				千葉、愛知、京都、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	191	分布拡大期～まん延期	コバネアシベセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福岡			
再検討	192	定着初期/限定分布?	クロツヤヒメカワバハネカクシ	<i>Platystethus americanus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	193	未定着	ホプロケルス・マルギナリス	<i>Hoplochelus marginalis</i>		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				○			
再検討	194	小笠原・南西諸島	クロマルカブト(クロマルコガネ)	<i>Alissonotum pauperum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	南西諸島に生息。在来種の可能性あり。検疫有害動物。				鹿児島			
再検討(候補)	195	小笠原・南西諸島	サイカブト(タイワンカブト)	<i>Oryctes rhinoceros</i>				○	-	◎	-	○	◎	◎	-	◎	-	○	検疫有害動物。ヒサマツサイカブトとの競合が懸念。				○	京都、宮崎、鹿児島、沖縄	環境省沖縄	
再検討	196	小笠原・南西諸島	ハイロハナムグリ	<i>Protaetia fusca</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。					沖縄		
再検討	197	分布拡大期～まん延期	マルトゲムシの一種(ミナミケモンマルトゲムシ)	<i>Microchaetes</i> sp.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉、京都、山口			
再検討	198	定着初期/限定分布	ノハラボタル	<i>Pyropyga alticola</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉			
再検討	199	分布拡大期～まん延期?	オビヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus fasciatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				沖縄			
再検討	200	分布拡大期～まん延期?	シラホシヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus pellio</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都			
再検討	201	分布拡大期～まん延期	トビカツオブシムシ	<i>Dermestes ater</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、京都、和歌山、山口、福岡			
再検討	202	分布拡大期～まん延期?	フイリカツオブシムシ	<i>Dermestes frischi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				千葉、和歌山、山口			
再検討	203	分布拡大期～まん延期?	カドマルカツオブシムシ	<i>Dermestes haemorrhoidalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口、福岡			
再検討	204	分布拡大期～まん延期	ハラジロカツオブシムシ	<i>Dermestes maculatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、福岡、宮崎			
再検討	205	分布拡大期～まん延期?	アカオビカツオブシムシ	<i>Dermestes vorax</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				青森、茨城、愛知、京都			
再検討	206	分布拡大期～まん延期	オビカツオブシムシ	<i>Dermestes lardarius</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城			
再検討	207	未定着	ヒメアカカツオブシムシ	<i>Trogoderma granarium</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。国内で数回発生したが根絶された。自然生態系への影響小。検疫有害動植物(省令で記載)。		IUCN	○				

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

: 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態系 改変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入							
再検討	208	分布拡大期～まん延期？	ヒメマダラカツオブシムシ	<i>Trogoderma inclusum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				山口		
再検討	209	定着初期/限定分布	アカマダラカツオブシムシ	<i>Trogoderma varium</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動物 かつては蚕繭の害虫。現在はまれ。在来の可能性あり。				千葉		
再検討	210	未定着	ヒメタケナガシンクイ	<i>Dinoderus bifoveolatus</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	国内で数回発見されている。検疫有害動物。						
再検討	211	分布拡大期～まん延期	チビタケナガシンクイ	<i>Dinoderus minutus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				北海道、愛知、滋賀、 京都、和歌山、福岡		
再検討	212	未定着？	ホソナガシンクイ	<i>Heterobostrychus aequalis</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動植物(省令で記載)。						
再検討	213	分布拡大期～まん延期	コナナガシンクイ	<i>Rhizopertha dominica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				千葉、京都、高知、福岡、 宮崎		
再検討	214	分布拡大期～まん延期	アフリカヒラタクイムシ	<i>Lyctus africanus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物 非検疫有害動物。				京都、奈良		
再検討	215	分布拡大期～まん延期	ヒラタクイムシ	<i>Lyctus brunneus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				北海道、千葉、愛知、 滋賀、京都、奈良、山口、 高知、福岡、宮崎		
再検討	216	分布拡大期～まん延期	アラゲヒラタクイムシ	<i>Lyctoxylon dentatum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				愛知、京都、和歌山		
再検討	217	分布拡大期～まん延期	ケフトヒラタクイムシ	<i>Minthea rugicollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				北海道、愛知、京都、 山口、福岡		
再検討	218	分布拡大期～まん延期？	セマルヒョウホムシ	<i>Gibbium psylloides</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				青森、愛知、京都、和歌山、 福岡		
再検討	219	分布拡大期～まん延期？	ヒメヒョウホムシ	<i>Ptinus latro</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				愛知、京都、和歌山、 鳥取、山口、福岡		
再検討	220	分布拡大期～まん延期	タバコシバンムシ	<i>Lasioderma serricorne</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				茨城、千葉、愛知、滋賀、 京都、奈良、和歌山、鳥取、 山口、徳島、高知、福岡		
再検討	221	分布拡大期～まん延期	ケブカシバンムシ	<i>Nicobium hirtum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、千葉、愛知、京都、 和歌山、山口、徳島、福岡		
再検討	222	定着初期/限定分布	ヒゲナガホソシバンムシ	<i>Oligomerus ptilinoides</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	223	分布拡大期～まん延期	ジンサンシバンムシ	<i>Stegobium paniceum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				青森、福島、茨城、千葉、 愛知、京都、奈良、和歌山、 鳥取、山口、徳島、高知、福岡		
再検討	224	分布拡大期～まん延期？	ホソチビコクヌスト	<i>Lophocateres pusillus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				沖縄		
再検討	225	分布拡大期～まん延期	コクヌスト	<i>Tenebroides mauritanicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	家屋害虫及びその天敵、自然生態系への影響小。 非検疫有害動植物。				青森、茨城、千葉、愛知、 京都、奈良、福岡		
再検討	226	分布拡大期～まん延期	アカアシホシカムシ	<i>Necrobia rufipes</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				千葉、愛知、京都、奈良、 和歌山、山口、福岡		
再検討	227	分布拡大期～まん延期	アカクビホシカムシ	<i>Necrobia ruficollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				北海道、青森、福島、茨城、 千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、 和歌山、山口、高知		
再検討	228	分布拡大期～まん延期	ルリホシカムシ	<i>Necrobia violacea</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				青森、茨城、愛知、京都		
再検討	229	分布拡大期～まん延期	ニセルリホシカムシ	<i>Korynetes caeruleus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。						
再検討	230	分布拡大期～まん延期	シロオビカクウムシ	<i>Tarsostenus univittatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				茨城、千葉、愛知、京都、 和歌山、福岡		
再検討	231	分布拡大期～まん延期	サビカクウムシ	<i>Thaneroclerus buquet</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。						
再検討	232		ホソムネデオネスイ	<i>Monotoma longicollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				京都、高知、福岡			
再検討	233	分布拡大期～まん延期	トビイロデオネスイ	<i>Monotoma picipes</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				福島、茨城、千葉、愛知、 京都、和歌山、高知、福岡			
再検討	234		ヨツアナデオネスイ	<i>Monotoma quadrioveolata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				福岡			
再検討	235		トゲムネデオネスイ	<i>Monotoma spinicollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				千葉、京都、和歌山、 福岡			
再検討	236		トゲムネスイ	<i>Cryptophagus acutangulus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				愛知、和歌山		
再検討	237		ウスバキスイ	<i>Cryptophagus cellaris</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、茨城、千葉、愛知、 京都、奈良、和歌山、山口、 高知、福岡		
再検討	238		カドコブホソヒラタムシ	<i>Ahasverus advena</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、愛知、京都、和歌山、 高知、福岡、宮崎		
再検討	239	分布拡大期～まん延期？	モンセマルホソヒラタムシ	<i>Cryptamorphia desjardinsii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	240		チビセマルホソヒラタムシ	<i>Monanus concinnulus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	241		オオメノコギリホソヒラタムシ	<i>Oryzaephilus mercator</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				福岡、沖縄		
再検討	242	分布拡大期～まん延期	フタトゲホソヒラタムシ	<i>Silvanus bidentatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				青森、福島、茨城、千葉、 愛知、京都、奈良、和歌山、 山口、高知、福岡		
再検討	243	分布拡大期～まん延期	ヒメフタトゲホソヒラタムシ	<i>Silvanus lewisi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、茨城、千葉、愛知、 京都、奈良、和歌山、山口、 福岡		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	244	分布拡大大期～まん延期	サビカクムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes ferrugineus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				福島、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、山口、福岡			
再検討	245		ハウカクムネヒラタムシ (ニセカクムネチビヒラタムシ)	<i>Cryptolestes pusilloides</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				福岡			
再検討	246		カクムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes pusillus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				千葉、京都、和歌山、山口、高知			
再検討	247		トルコカクムネヒラタムシ	<i>Cryptolestes turcicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				京都、福岡			
再検討	248	分布拡大大期～まん延期？ or 小笠原諸島・南西諸島？	ガイマイデオクスイ	<i>Carpophilus dimidiatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				京都、和歌山、福岡			
再検討	249	分布拡大大期～まん延期	クリイロデオクスイ	<i>Carpophilus marginellus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、福島、茨城、千葉、愛知、京都、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	250	分布拡大大期～まん延期	クリヤケシクスイ	<i>Carpophilus hemipterus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				茨城、千葉、愛知、京都、福岡			
再検討	251		キバナガデオクスイ	<i>Carpophilus mutilatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				愛知、京都、和歌山、福岡			
再検討	252	分布拡大大期～まん延期	ウスチャデオクスイ	<i>Carpophilus nepos</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、京都、和歌山、福岡			
再検討	253	小笠原・南西諸島	パークホソカタムシ	<i>Euxestus parki</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	254		チビマルホソカタムシ	<i>Murmidius ovalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	貯穀害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				福岡			
再検討	255		ホソツヤヒメマキムシ	<i>Holoparamesus depressus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物？							
再検討	256		ラグサツヤヒメマキムシ	<i>Holoparamesus regusae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	257		フタモンテントウ	<i>Adalia bipunctata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物？							
再検討	258		ミスジキイロテントウ	<i>Brumoides ohotai</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、沖縄			
再検討	259	小笠原・南西諸島？	カタボシテントウ	<i>Coelophora inaequalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	260	定着初期/限定分布	ツマアカオオヒメテントウ	<i>Cryptolaemus montrouzieri</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物？				愛知、滋賀、和歌山			
再検討	261	定着初期/限定分布	インゲンテントウ	<i>Epilachna varivestis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。		日本					
再検討	262	小笠原・南西諸島	ミナミマダラテントウ	<i>Epilachna pusillanima</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	八重山諸島に侵入。							
再検討	263		ヨツボシツヤテントウ	<i>Hyperaspis leechi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	264		ケブカメツブテントウ	<i>Jauravia limbata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	265		ハイロテントウ	<i>Olla v-nigrum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	266		クモガタテントウ	<i>Psyllobora vigintimaculata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、福岡			
再検討	267	分布拡大大期～まん延期	ベダリアテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。イセリアカイガラムシの天敵として台湾から導入し定着。				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	268		ハラアカクロテントウ	<i>Rhyzobius forestieri</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福岡			
再検討	269		ムネハラアカクロテントウ	<i>Rhyzobius lophanthae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				京都			
再検討	270		コブヒメマキムシ	<i>Cartodere nodifer</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。							
再検討	271		キイロヒメマキムシ	<i>Cartodere elongata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。							
再検討	272		クビレヒメマキムシ	<i>Cartodere constricta</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				愛知、和歌山、福岡			
再検討	273		ホソヒメマキムシ	<i>Dienerella filum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				千葉、愛知			
再検討	274		オオヒメマキムシ	<i>Dienerella argus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。							
再検討	275		ムナヒロヒメマキムシ	<i>Dienerella costulata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。							
再検討	276		チャイロコキノコムシ	<i>Typhaea stercorea</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				福島、茨城、千葉、京都、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	277		ガイマイゴミムシダマシ	<i>Alphitobius diaperinus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、高知、福岡、宮崎			
再検討	278		ヒメゴミムシダマシ	<i>Alphitobius laevigatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	279		フタオビツヤゴミムシダマシ	<i>Alphitophagus bifasciatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、京都、山口、福岡			
再検討	280		ムネミゾクヌストモドキ	<i>Gaelepalorus-feveicollis</i> <i>Ulolina carinata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	281		オオツノクヌストモドキ	<i>Gnathocerus cornutus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。							
再検討	282		コゴメゴミムシダマシ	<i>Latheticus oryzae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				愛知、京都、福岡			
再検討	283		ヒメコクヌストモドキ	<i>Palorus ratzeburgi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				茨城			
再検討	284		コヒメコクヌストモドキ	<i>Palorus subdepressus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				京都、和歌山			
再検討	285	分布拡大大期～まん延期？	コメノゴミムシダマシ	<i>Tenebrio obscurus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				北海道、茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、山口、福岡			
再検討	286	分布拡大大期～まん延期？	チャイロコメノゴミムシダマシ	<i>Tenebrio molitor</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	◎	-	家屋害虫。餌(ミールワーム)として大量に輸入・流通。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、高知			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	287	分布拡大期～まん延期？	ヒラタコクヌストモドキ	<i>Tribolium confusum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				茨城、愛知、奈良、山口			
再検討	288	未定着	トリボリウム・デストラクトール	<i>Tribolium destructor</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。							
再検討	289	未定着	トリボリウム・マデンス	<i>Tribolium madens</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。							
再検討	290	分布拡大期～まん延期？	カシミールコクヌストモドキ	<i>Tribolium freemani</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。							
再検討	291	分布拡大期～まん延期	ツマグロカミキリモドキ	<i>Necerdes melanura</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				青森、茨城、千葉、愛知、京都、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	292	分布拡大期～まん延期？	アトグロホソアリモドキ	<i>Omonadus floralis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口、高知、福岡				
再検討 (候補)	293	分布拡大期～まん延期	ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i>	I, III			○	○	○	—	○	○	—	—	◎	—	○	一時的に神奈川で発生したが消滅。検疫有害動物(省令で記載)。	特定	IUCN	○	福島、茨城、大阪、兵庫	農林水産省、環境省東北、環境省中四国、地方公共団体		
再検討	294	小笠原・南西諸島	イチジクカミキリ	<i>Batocera rubus</i>				—	—	○	—	—	○	○	—	○	—	—	検疫有害動物。沖縄県ではガジュマルに被害。				沖縄			
再検討	295	未定着	ウスリーオオカミキリ	<i>Callipogon relictus</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	1970年頃九州で複数確認、在来種との見解もあり 検疫有害動物。				宮崎			
再検討	296	分布拡大期～まん延期	テツイロヒメカミキリ	<i>Ceresium sinicum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				茨城、千葉、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、福岡、宮崎			
再検討	297	小笠原・南西諸島	マルクビヒメカミキリ	<i>Curtomerus flavus</i>				—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	○	検疫有害動物。							
再検討	298	分布拡大期～まん延期	チャゴマフカミキリ	<i>Mesosa perplexa</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				千葉、福岡、宮崎			
再検討	299	分布拡大期～まん延期	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、高知、福岡、熊本、宮崎、鹿児島			
再検討	300	小笠原・南西諸島	スジダカサビカミキリ	<i>Pterolophia bigibbera</i>				—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	国内では小笠原諸島のみ、在来種との見解もあり 検疫有害動物。							
再検討	301	小笠原・南西諸島	クサマサビカミキリ	<i>Pterolophia kusamai</i>				—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	302	or 小笠原・南西諸島？	ムラヤマムネコブサビカミキリ	<i>Rhytiphora bankii</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	303	定着初期/限定分布	タイリクフタホシサビカミキリ	<i>Ropica dorsalis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	304	未定着？	トゲムネミヤマカミキリ	<i>Triachys orientalis</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	一時的に長崎で発生、現在は消滅か？ 検疫有害動物。							
再検討	305	定着初期/限定分布？	インゲンマメゾウムシ	<i>Acanthoscelides obtectus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	◎	—	—	貯穀害虫、自然生態系への影響小、非検疫有害動物。				北海道、和歌山、沖縄			
再検討	306	分布拡大期～まん延期	イタチハギマメゾウムシ	<i>Acanthoscelides pallidipennis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	外来種イタチハギに寄生、自然生態系への影響小 検疫有害動物。							
再検討	307	分布拡大期～まん延期	エンドウゾウムシ	<i>Bruchus pisorum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	貯穀害虫、自然生態系への影響小、非検疫有害動植物。				北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、山口、福岡			
再検討	308	分布拡大期～まん延期	ソラマメゾウムシ	<i>Bruchus rufimanus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	◎	—	—	貯穀害虫、自然生態系への影響小、非検疫有害動植物。				茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	309	分布拡大期～まん延期	アズキマメゾウムシ	<i>Callosobruchus chinensis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	◎	—	—	貯穀害虫、自然生態系への影響小、非検疫有害動植物。				北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、京都、奈良、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	310	分布拡大期～まん延期	ヨツモンマメゾウムシ	<i>Callosobruchus maculatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				茨城、愛知、沖縄			
再検討	311	未定着？	ブラジルマメゾウムシ	<i>Zabrotes subfasciatus</i>		○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	貯穀害虫、自然生態系への影響小、検疫有害動植物(省令で記載)。				沖縄			
再検討	312	小笠原・南西諸島	ナガヒラタハムシ(キムネクロナガハムシ)	<i>Brontispa longissima</i>				—	—	○	—	—	○	○	—	○	—	—	ココヤシなどヤシ類の害虫。検疫有害動物。			○	沖縄			
再検討	313	小笠原・南西諸島	ミカンカメノコハムシ	<i>Cassida obtusata</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	314	小笠原・南西諸島	ルリハムシ 名義タイプ亜種	<i>Plagiosterna aenea aenea</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。							
再検討	315	小笠原・南西諸島	ヒロヒゲツツハムシ	<i>Diachus auratus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動物。				沖縄			
再検討	316	分布拡大期～まん延期	ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、愛媛、高知、福岡、熊本、宮崎			
再検討	317	定着初期/限定分布	キベリハムシ	<i>Oides bowringii</i>				—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	○	検疫有害動物。				京都			
再検討	318	分布拡大期～まん延期	ワタミヒゲナガゾウムシ	<i>Araecerus coffeae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	非検疫有害動植物。				青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	319	分布拡大期～まん延期	ミツモンヒゲナガゾウムシ	<i>Trigonorhinus zeae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	検疫有害動物。				和歌山			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	：現リストの掲載種
再検討	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
新規	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	320	定着初期/限定分布 or 小笠原・南西諸島	アリモドキゾウムシ	<i>Cylas formicarius</i>				-	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	◎	農業害虫、自然生態系への影響小、検疫有害動植物(省令で記載) 2022年に静岡県浜松市において確認。		日本		高知、鹿児島、沖縄			
再検討	321	分布拡大期～まん延期	バショウオオサゾウムシ	<i>Cosmopolites sordidus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	バナナを加害。非検疫有害動植物。				鹿児島、沖縄			
再検討	322	定着初期/限定分布	ヨツボシヤシコクゾウムシ	<i>Diocalandra frumenti</i>				-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	検疫有害動物小笠原諸島父島で確認例があるが定着状態は不明。				沖縄			
再検討	323		サトウキビコクゾウムシ	<i>Myocalandra exarata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動植物。				沖縄			
再検討	324		バナナツヤオオサゾウムシ	<i>Odoiporus longicollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	非検疫有害動植物。				鹿児島、沖縄			
再検討	325		バショウコクゾウムシ	<i>Polytus mellerborgii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				鹿児島、沖縄			
再検討	326		ヤシオオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				兵庫、和歌山、徳島、福岡、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	327		シロスジオサゾウムシ	<i>Rhabdoscelus lineatocollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				鹿児島、沖縄			
再検討	328	分布拡大期～まん延期？	コクゾウムシ	<i>Sitophilus oryzae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。非検疫有害動植物。				北海道、千葉、愛知、京都、和歌山、福岡、宮崎			
再検討	329		シバオサゾウムシ	<i>Sphenophrus venatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	330		ヒラヤマメナガゾウムシ	<i>Aclees hirayamai</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。							
再検討	331		ワタデオゾウムシ	<i>Amorphaidea lata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	332	未定着	ワタミハナゾウムシ	<i>Anthonomus grandis</i>			○	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	検疫有害動物。							
再検討	333		オオタコゾウムシ	<i>Donus punctatus</i>					○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	検疫有害動物。				北海道、青森、福島、茨城、千葉、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	334		ケチビコフキゾウムシ	<i>Sitona hispidulus</i>					○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	検疫有害動物。				北海道、福島、茨城、千葉、愛知、和歌山、福岡			
再検討	335		サビチビコフキゾウムシ	<i>Sitona flavescens</i>					○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道			
再検討	336		ナガチビコフキゾウムシ	<i>Sitona cylindricollis</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	337	小笠原・南西諸島	イモゾウムシ	<i>Euscepes postfasciatus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	検疫有害動植物(省令で記載)。		日本		鹿児島、沖縄		
再検討	338	未定着	ゴニプテルス・スキュッテラータス	<i>Gonipterus scutellatus</i>			○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	検疫有害動植物(省令で記載)。				○			
再検討	339	分布拡大期～まん延期	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	検疫有害動物。		日本		福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄	農林水産省	
再検討	340	分布拡大期～まん延期	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	検疫有害動物。		日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄		
再検討	341		ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	検疫有害動物。				福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	342		オオランヒメゾウムシ	<i>Orchidophilus aterrimus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				千葉		
再検討	343		ランヒメゾウムシ	<i>Orchidophilus ran</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。						
再検討	344		キンケクチフトゾウムシ	<i>Otiorhynchus sulcatus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				千葉		
再検討	345		フラーバラゾウムシ	<i>Pantomorus cervinus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	非検疫有害動植物。				北海道、宮崎		
再検討	346		ホソクチフトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus albicinctus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				千葉		
再検討	347	未定着	スキフオフォルス・アキュプンクタートゥス	<i>Scyphophorus acupunctatus</i>			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検疫有害動植物(省令で記載)。				○		
再検討	348	分布拡大期～まん延期	アカウキクサゾウムシ	<i>Stenopelmus rufinasus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、茨城、千葉、愛知、滋賀、和歌山		
再検討	349		ツメクサタネコバンゾウムシ	<i>Tychius picirostris</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				茨城、千葉、和歌山		
再検討	350		トゲナガキクイムシ	<i>Diapus aculeatus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	351	未定着	デントロクトヌス・バレンス	<i>Dendroctonus valens</i>			○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	検疫有害動植物(省令で記載)。				○		
再検討	352	分布拡大期～まん延期？	マツノクロキクイムシ	<i>Hylastes ater</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				○		
再検討	353	未定着	オルトミクス・エロース	<i>Orthotomicus erosus</i>			○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動植物(省令で記載)。				○		
再検討	354	未定着	セスジキクイムシ	<i>Scolytus multistriatus</i>			○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	355		ニワトリフトノミ	<i>Echidnophaga gallinacea</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-							
再検討	356		ヒトノミ	<i>Pulex irritans</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-							
再検討	357		ケオプスネズミノミ	<i>Xenopsylla cheopis</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知		
再検討	358	未定着	ネッタイシマカ	<i>Aedes aegypti</i>			○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	各種感染症を媒介する。国内から根絶。非有害動植物。		日本		○		
再検討	359	未定着	アノフェレス・クアドリマクラタス	<i>Anopheles quadrimaculatus</i>			○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	各種感染症を媒介する。非有害動植物。		IUCN		○		
再検討	360	分布拡大期～まん延期？	チカイエカ	<i>Culex pipiens molestus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				青森、愛知		
再検討	361		ミナミユスリカ	<i>Nilodorum tainanus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-							
再検討	362	未定着	アクネミア・ビフィダ	<i>Acnemia bifida</i>			-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	南極圏に生息。				○		
再検討	363		オオチョウバエ	<i>Clogmia albipunctatus</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、茨城、愛知、奈良、和歌山、高知		
再検討	364		ホンチョウバエ	<i>Tinearia alternata</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、茨城、愛知、奈良、山口、高知		
再検討	365		ナガサキニセケバエ	<i>Coboldia fuscipes</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、高知		
再検討	366		クロツヤニセケバエ	<i>Scatpse notata</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-							
再検討	367		ソルガムタマバエ	<i>Stenodiplosis sorghicola</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。						
再検討	368		ランツボミタマバエ	<i>Contarina maculipennis</i>					-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				福岡、宮崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	369		スベイヤークノコタマバエ	<i>Mycophila speyeri</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。							
再検討	370	小笠原・南西諸島	マンゴーハフクレタマバエ	<i>Procontarinia mangicola</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	371		アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	○	-		福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄						
再検討	372		コシアキノミバエ	<i>Diploneura cornuta</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-		青森、福岡						
再検討	373		ハイジマハナアブ	<i>Eumerus tuberculatus</i> (<i>Eumerus funeralis</i> ※古参異名)				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	374	分布拡大期～まん延期？	スイセンハナアブ	<i>Merodon equestris</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				北海道、茨城			
再検討	375		チーズバエ	<i>Piophilidae casei</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○								
再検討	376	未定着	ウリミバエ	<i>Bactrocera cucurbitae</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	国内から根絶。検疫有害動物(省令で記載)。		日本		沖縄			
再検討	377	未定着	ミカンコミバエ	<i>Bactrocera dorsalis</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	国内から根絶。検疫有害動物(省令で記載)。				沖縄			
再検討	378	未定着	クインスランドミバエ	<i>Bactrocera tryoni</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	検疫有害動物(省令で記載)。			○				
再検討	379	未定着	チチュウカイミバエ	<i>Ceratitis capitata</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	検疫有害動物(省令で記載)。			○				
再検討	380		カーネーションハモグリバエ	<i>Liriomyza dianthicola</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。				北海道			
再検討	381	分布拡大期～まん延期	アングロハモグリバエ	<i>Liriomyza huidobrensis</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				北海道、青森、山口			
再検討	382	分布拡大期～まん延期	トマトハモグリバエ	<i>Liriomyza sativae</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	非検疫有害動物。		日本		福島、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	383	分布拡大期～まん延期	マメハモグリバエ	<i>Liriomyza trifolii</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。		日本		北海道、青森、福島、茨城、千葉、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	384	定着初期/限定分布	インゲンモグリバエ	<i>Ophiomyia phaseoli</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				鹿児島			
再検討	385		カケメクロコバエ	<i>Milichiella lacteipennis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	386		ハマベハヤトビバエ	<i>Leptocera fuscipennis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	387		キロショウジョウバエ	<i>Drosophila melanogaster</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				青森、茨城、千葉、愛知、京都、奈良、和歌山、鳥取、高知、福岡			
再検討	388		オナジショウジョウバエ	<i>Drosophila simulans</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				北海道、千葉、京都、奈良、高知			
再検討	389		ヒメイエバエ	<i>Fannia canicularis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、茨城、愛知、奈良、山口、高知			
再検討	390		クチフトイエバエ	<i>Musca crassirostris</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	391	未定着	フィロルニス・ダウンシイ	<i>Philornis downsi</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	392	未定着	ホホアカクロバエ	<i>Calliphora vicina</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。			○	北海道			
再検討	393		クロキンバエ	<i>Phormia regina</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				愛知			
再検討	394		ルリキンバエ	<i>Protophormia terraenovae</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				青森			
再検討	395	未定着	ウシヒフバエ(ウシバエ)	<i>Hypoderma bovis</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	ウシに寄生する。国内で記録あり。				北海道			
再検討	396	未定着	キスジウシバエ	<i>Hypoderma lineatum</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	ウシに寄生する。国内で記録あり。							
再検討	397		オオミノガヤドリバエ	<i>Nealsomyia rufella</i>				-	-	○	-	○	-	-	-	-	-					京都、高知、福岡、宮崎			
再検討	398		コクガ	<i>Nemapogon granell</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				山口			
再検討	399	定着初期/限定分布	クロテンオオメンコガ	<i>Opogona sacchari</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	検疫有害動物。				千葉、愛知、沖縄			
再検討	400	分布拡大期～まん延期	イガ	<i>Tinea translucens</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				北海道、愛知、山口			
再検討	401		コイガ	<i>Tineola bisselliella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。				愛知			
再検討	402		ジュウタンガ	<i>Trichophaga tapetzella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	家屋害虫。自然生態系への影響小。検疫有害動物。							
再検討	403	定着初期/限定分布	レイシホソガ	<i>Conopomorpha litchiella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	404	定着初期/限定分布	レイシシロズホソガ	<i>Conopomorpha sinensis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	405		リンゴスガ	<i>Yponomeuta orientalis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				千葉			
再検討	406		コクマルハキバガ	<i>Martyringa xeraula</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				愛知、滋賀、奈良、和歌山、山口、福岡			
再検討	407	定着初期/限定分布	トウモロコシトガリホソガ	<i>Anatrachyntis rileyi</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	408		ジャガイモキバガ(ジャガイモガ)	<i>Phthorimaea operculella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				愛知、滋賀、京都、山口、沖縄			
再検討	409		バクガ	<i>Sitotroga cerealella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				北海道、青森、千葉、愛知、京都、山口、宮崎			
再検討	410		ハスオビイラガ	<i>Darna pallivitta</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	411	分布拡大期～まん延期	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。		日本		福島、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、熊本、宮崎、沖縄			
再検討	412	定着初期/限定分布	スグリコスカシバ	<i>Synanthedon tipuliformis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道			
再検討	413	分布拡大期～まん延期	ナシヒメシンクイ	<i>Grapholita molesta</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				北海道、青森、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口、徳島、福岡、宮崎			
再検討	414	分布拡大期～まん延期	スモモヒメシンクイガ(ボケヒメシンクイ)	<i>Grapholita dimorpha</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道			
再検討	415	定着初期/限定分布	レイシヒメハマキ	<i>Statherotis discana</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	416	定着初期/限定分布	ゴレンシトリバ	<i>Diacrotricha fasciola</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	417	小笠原・南西諸島	バナナセセリ	<i>Erionota torus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	南西諸島に定着。非検疫有害動物。				鹿児島、沖縄			
再検討	418	定着初期/限定分布	カラフトセセリ	<i>Thymelicus lineola</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道			
再検討	419	定着初期/限定分布	オオモンシロチョウ	<i>Pieris brassicae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	自然分布拡散の可能性が高い。				北海道、青森			
再検討	420		コメノシマメイガ	<i>Aglossa dimidiata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口			
再検討	421	未定着	カクトブラスティス・カクトルム	<i>Cactoblastis cactorum</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	422	小笠原・南西諸島	ガイマイツツリガ	<i>Corcyra cephalonica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	423	定着初期/限定分布	ケブカニセノメイガ	<i>Crociodolomia pavonana</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	424		ミドリツツリガ	<i>Doloessa viridis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。							
再検討	425		チャマダラメイガ	<i>Ephestia elutella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。							
再検討	426	分布拡大期～まん延期？	スジコナマダラメイガ	<i>Ephestia kuehniella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、山口、高知			
再検討	427	分布拡大期～まん延期？	スジマダラメイガ	<i>Cadra Ephestia cautella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、千葉、滋賀、和歌山、山口、高知、福岡、沖縄			
再検討	428		ナスノメイガ	<i>Leucinodes orbonalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	429		サツマイモノメイガ	<i>Omphisia anastomosalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物(省令で記載)。				鹿児島、沖縄			
再検討	430		ツツリガ	<i>Paralipsa gularis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				千葉、愛知、滋賀、和歌山、山口、高知			
再検討	431		シバントガ	<i>Parapediasia teterr ella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	432		ノシメダラメイガ	<i>Plodia interpunctella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、千葉、愛知、滋賀、奈良、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	433		カシノシマメイガ	<i>Pyralis farinalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口			
再検討	434		イッテンオオメイガ(サンカメイガ)	<i>Scripophaga incertulas</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				愛知、和歌山、山口、高知、福岡			
再検討	435	未定着	デンドロリムス・シビリクス	<i>Dendrolimus sibiricus</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	436	分布拡大期～まん延期	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>				-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	検疫有害動物。		日本	○				
再検討	437	分布拡大期～まん延期	ガマキンウワバ(ガンマキンウワバ)	<i>Autographa gamma</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非検疫有害動物。				京都、山口			
再検討	438	定着初期/限定分布	マンゴーフサヤガ	<i>Chlumetia brevisigna</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	八重山諸島で定着。農業害虫。自然生態系への影響小 検疫有害動物。				沖縄			
再検討	439	分布拡大期～まん延期	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	在来種の可能性あり。検疫有害動物。				千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、高知			
再検討	440		シロモンアシブトクチャバ	<i>Parallelia palumba</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				沖縄			
再検討	441	未定着	タウマトポエア・ピティオカンバ	<i>Thaumetopoea pityocampa</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物(省令で記載)。			○				
再検討	442	分布拡大期～まん延期	オウトウナメクジハバチ	<i>Caliroa cerasi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、青森			
再検討	443	未定着	ノクチリオキバチ	<i>Sirex noctilio</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	444	小笠原・南西諸島	ウリミバエコムバチ	<i>Phytalia fletcheri</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。							
再検討	445	分布拡大期～まん延期？	カンシャコバネカメムシタマゴバチ	<i>Eumicrosoma blissae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。							
再検討	446	分布拡大期～まん延期？	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。				北海道、青森、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	447	定着初期/限定分布	クローバータネコバチ	<i>Bruchophagus gibbus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	北海道。岩手。神奈川で確認。検疫有害動物。				北海道、山口			
再検討	448		チュウゴクオナガコバチ	<i>Torymus sinensis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				茨城、千葉、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	449	小笠原・南西諸島	ガジュマルコバチ	<i>Eupristina verticillata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	450		ルビーアカヤドリトビコバチ	<i>Anicetus beneficus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				和歌山、山口、高知、福岡、宮崎			
再検討	451	定着初期/限定分布	アネリストウス・クロブラスタエ	<i>Aneristus ceroplastae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。							
再検討	452		ヤノネキイロコバチ	<i>Aphytis yanonensis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				和歌山、山口、高知、福岡、沖縄			
再検討	453		ヤノネツヤコバチ	<i>Coccobius fulvus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				和歌山、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄			
再検討	454		オンシツツヤコバチ	<i>Encarsia formosa</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				青森、千葉、京都、高知、宮崎			
再検討	455		シルベストリコバチ	<i>Encarsia smithi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動物。				和歌山、山口、高知、宮崎			

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	456	分布拡大期～まん延期？	ワタムシヤドリコバチ	<i>Aphelinus mali</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				北海道、青森、愛知			
再検討	457		ミカンキジラミヒメコバチ	<i>Tamarixia radiata</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。							
再検討	458	定着初期/限定分布	デイゴヒメコバチ	<i>Quadrastichus erythrinae</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	南西諸島に定着。検疫有害動物。			○	鹿児島			
再検討	459	分布拡大期～まん延期？	シバンムシアリガタバチ	<i>Cephalonomia gallicola</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	家屋害虫の天敵。自然生態系への影響小。非有害動植物。				京都、鳥取、徳島、福岡、宮崎			
再検討	460		イラガセイボウ	<i>Chrysis shanghaiensis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				茨城、千葉、愛知、京都、奈良、鳥取、山口、宮崎			
再検討	461		ツマアカベッコウ	<i>Tachypompilus analis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。				奈良			
再検討	462	未定着	ラドゥメリス・タスマニエンシス	<i>Radumeris tasmaniensis</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○				
再検討	463	未定着	アクロミルメクス・オクトスピノースス	<i>Acromyrmex octospinosus</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討(候補)	464	定着初期/限定分布	アシナガキアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>	I			○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	在来種の可能性あり、検疫有害動物。		IUCN	○	鹿児島			
再検討	465	未定着	ラシウス・ネグレクトウス	<i>Lasius neglectus</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。			○				
再検討	466	分布拡大期～まん延期	イエヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。			○	愛知、京都、奈良、高知、福岡、宮崎、鹿児島			
再検討	467	未定着	キイロクシケアリ	<i>Myrmica rubra</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	非有害動植物。			○				
再検討	468	未定着	ニランデリア・プベンス	<i>Nylanderia pubens</i>		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	検疫有害動物。			○				
再検討	469	分布拡大期～まん延期	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	◎	検疫有害動物。			○	奈良、高知、鹿児島			
再検討(候補)	470	未定着	ヒアリ類及びその交雑個体(ヒアリ、アカミアリを除く)	<i>Solenopsis papuana</i>	I, III	○	○	◎	-	◎	-	○	-	◎	◎	-	○	検疫有害動物。	特定		○				
再検討	471	分布拡大期～まん延期	アワテコムカアリ	<i>Tapinoma melanocephalum</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	検疫有害動物。			○	山口、高知、宮崎、鹿児島			
再検討(候補)	472	定着初期/限定分布	ツヤオオズアリ	<i>Pheidole megacephala</i>	I, II			○	-	-	-	○	○	◎	-	-	-	○	検疫有害動物。小笠原において影響大。		IUCN	○	宮崎、鹿児島、沖縄	環境省関東、環境省沖縄奄美、地方公共団体	
再検討	473		サトセナガアナバチ	<i>Ampulex dissector</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	474	定着初期/限定分布	オキナワアナバチ	<i>Prionyx viduatus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-								
再検討	475	分布拡大期～まん延期？	アメリカジガバチ	<i>Sceliphron caementarium</i>				○	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉、愛知、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、高知、福岡			
再検討	476	未定着	ヴェスプーラ・ゲルマニカ	<i>Vespula germanica</i>		○	○	-	-	○	-	○	-	◎	-	-	-				○				
再検討	477	未定着	ヴェスプーラ・ペンシルバニカ	<i>Vespula pensylvanica</i>		○	○	-	-	○	-	○	-	◎	-	-	-				○				
再検討	478	定着初期/限定分布	ムラカミツツハナバチ	<i>Osmia submicans</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	中国地方に定着。							
再検討	479	未定着	オオミツバチ	<i>Apis dorsata</i>		○	○	-	-	-	-	○	○	-	◎	-	-	-	国内で確認例あり。						
再検討	480	分布拡大期～まん延期	セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>				-	-	-	-	○	○	-	-	-	-					青森、福島、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、高知、福岡、熊本、宮崎、沖縄			
再検討	481	定着初期/限定分布	ソノラクマバチ	<i>Xylocopa sonorina</i>				-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	火山列島硫黄島に定着。				環境省関東			
再検討	482	分布拡大期～まん延期	タイワンタケクマバチ	<i>Xylocopa tranquebarorum</i>				-	-	-	-	○	○	-	◎	-	-	○	東海地方に定着。近年分布を拡大。寄生性ダニのホスト。				愛知、滋賀、京都、奈良		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	483	定着初期/限定分布	スジハサミムシモドキ	<i>Elauon bipartitus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	大発生して家屋に浸入した記録あり。				千葉			
新規(候補)	484	分布拡大大期～まん延期	ムネアカハラビロカマキリ	<i>Hierodula</i> sp.	IV			◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	◎	在来ハラビロカマキリとの関係は複数の報告あり。市販の竹箒に卵付着の事例あり。				福島、茨城、千葉、愛知、京都	環境省関東、環境省中四国		
新規	485	分布拡大大期～まん延期	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑において在来種と指摘されている。				青森、鳥取、山口、高知、宮崎			
新規	486	分布拡大大期～まん延期	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、山口、高知			
新規	487	定着初期/限定分布	タイリククサキリモドキ	<i>Phyllomimus klapperichi</i>				?	-	-	-	-	○	?	-	-	-	-					愛知			
新規	488	分布拡大大期～まん延期	ヒロバネカンタン	<i>Oecanthus euryelytra</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					高知			
新規	489	分布拡大大期～まん延期	アレウロドスリプス・ファスシアベニス	<i>Aleurododthrips fasciapennis</i>				?	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都			
新規	490	分布拡大大期～まん延期	キミガヨランクダアザミウマ	<i>Bagnalliella yuccae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島			
新規	491	分布拡大大期～まん延期?	サンゴジュクダアザミウマ	<i>Liothrips kuwayamai</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都			
新規	492	分布拡大大期～まん延期?	シロスリプス・フロンタリス	<i>Chirothrips frontalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島			
新規	493	分布拡大大期～まん延期	テノスリプス・フリキ	<i>Tenothrips frici</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島			
新規	494	分布拡大大期～まん延期	トラファザミウマ	<i>Neohydatothrips samayunkur</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-					福島			
新規	495	定着初期/限定分布?	ハブロスリプス・ニグリコルニス	<i>Haplothrips nigricornis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都			
新規	496	分布拡大大期～まん延期	アシビロヘリカメムシ	<i>Leptoglossus gonagra</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					宮崎		
新規	497	定着初期/限定分布	アトジロサシガメ	<i>Yolinus albopustulatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	?	-	-	-					京都、奈良			
新規	498	分布拡大大期～まん延期	アミガサハゴロモ近似種	<i>Pochazia</i> sp.				-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	チュウゴクアミガサハゴロモの可能性?				愛知			
新規	499	分布拡大大期～まん延期	ウメシロヒメヨコバイ	<i>Singapora shinshana</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					徳島		
新規	500	分布拡大大期～まん延期	オオシラホシハゴロモ	<i>Ricania quadrimaculata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知			
新規	501	分布拡大大期～まん延期	カラマツカサアブラムシ	<i>Adelges laricis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					北海道		
新規	502	分布拡大大期～まん延期	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					愛知、滋賀、京都、和歌山、愛媛、高知		
新規	503	定着初期/限定分布	クロセスジハナカメムシ	<i>Dufouriellus ater</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○					千葉			
新規	504	分布拡大大期～まん延期?	クロテンコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus solenopsis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					山口		
新規	505	分布拡大大期～まん延期	コガシラコバネナガカメムシ	<i>Pirkimerus japonicus</i>				-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-					福島、茨城、愛知		
新規	506	定着初期/限定分布?	ザクロシロトゲコナジラミ	<i>Siphoninus phillyraeae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-					福岡			
新規	507	未定着?	セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i>		-?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	イネ、イネ科牧草の害虫。					高知		
新規	508	定着初期/限定分布	タケオオツクツク	<i>Platylomia pleti</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知			
新規	509	定着初期/限定分布?	ツマベニヒメナガカメムシ	<i>Neortholomus scolopax</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉			
新規	510	未定着?	トビイロウンカ	<i>Nilaparvata lugens</i>		-?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	イネ、イネ科牧草の害虫。				高知		
新規	511	分布拡大大期～まん延期	ナシマルカイガラムシ	<i>Comstockaspis pernicios</i> a				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	農林有害動物・昆虫名鑑：果樹、観賞用植物の害虫。				北海道、青森、茨城、和歌山、山口		
新規	512	分布拡大大期～まん延期?	ナスコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus solani</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					奈良、高知		
新規	513	定着初期/限定分布	ビワキジラミ	<i>Cacopsylla biwa</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	○					和歌山、徳島、香川、高知		
新規	514	分布拡大大期～まん延期	フタデンヒメヨコバイ	<i>Arboridia apicalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-					高知		
新規	515	定着初期/限定分布	ヘリチャハゴロモ	<i>Salurnis marginella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-					愛知		
新規	516	分布拡大大期～まん延期?	アメリカアカヘリタムシ	<i>Buprestis aurulenta</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-					滋賀		
新規	517	分布拡大大期～まん延期	オーストラリアマルトゲムシの一種	<i>Microchaetes</i> sp.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-					京都		
新規	518	分布拡大大期～まん延期	オオナガシンクイ	<i>Heterobostrychus hamatipennis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	乾材の害虫。				千葉、愛知、和歌山、山口、高知、福岡		
新規	519	分布拡大大期～まん延期?	カドコブデオネスイ	<i>Monotoma brevicollis brevicollis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-					千葉			
新規	520	分布拡大大期～まん延期	カバイロヒョウホンムシ	<i>Pseudeurostus hilleri</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-					千葉、愛知、京都、和歌山		
新規	521	定着初期/限定分布	カラタチトビハムシ	<i>Podagricomela weisei</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○?	-	-					千葉			
新規	522	分布拡大大期～まん延期	キイロケシマキムシ	<i>Corticaria elongata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-					和歌山			
新規	523	分布拡大大期～まん延期	キュウリュウゴミムシシダマシ	<i>Palembus dermestoides</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	貯穀・貯蔵食品の害虫。				京都		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
新規	524	分布拡大期～まん延期	クビアカルリヒラタカミキリ(チャイロホソヒラタカミキリ)	Phymatodes testaceus				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	乾材の害虫。				京都		
新規	525	分布拡大期～まん延期	クリノミキウイムシ	Poecilips cardamomi				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					宮崎		
新規	526	分布拡大期～まん延期	ケヤキヒラタキウイムシ	Lyctus sinensis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	乾材の害虫。				京都		
新規	527	分布拡大期～まん延期	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	コメ、ムギ、トウモロコシなどの重要害虫。				福島、茨城、千葉、山口、高知		
新規	528	分布拡大期～まん延期	コクヌストモドキ	Tribolium castaneum				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					福島、茨城、千葉、愛知、京都、和歌山、山口、高知、福岡、宮崎		
新規	529	定着初期/限定分布	サツマイモヒサゴトビハムシ	Chaetocnema confinis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					宮崎		
新規(候補)	530	定着初期/限定分布	サビイロクワカミキリ	Apriona swainsoni swainsoni	I, III			○	-	○	-	○	○	-	-	○	-	-	特定				福島	農林水産省、環境省東北、地方公共団体	
新規	531	分布拡大期～まん延期	サビカッコウムシ	Thaneroclerus buquet				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都		
新規	532	未定着?	ジュウシホシキイロオオハムシ	Podontia quatuordecimpunctata		?	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					愛知		
新規	533	分布拡大期～まん延期	シロオビマルカツオブシムシ	Anthrenus nipponensis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					茨城、千葉、愛知、京都、和歌山、山口、福岡		
新規	534	分布拡大期～まん延期	シロスジタコゾウムシ	Hypera conmaculata				-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-					福島		
新規	535	定着初期/限定分布	タイワンゴマダラカミキリ	Anoplophora macularia				-	-	-	-	-	○	-	-	?	-	-					沖縄		
新規	536	定着初期/限定分布?	タイワンヤツボシハンミョウ	Cosmodela batesi				-	-	○?	-	-	○	-	-	-	-	-	第11回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(昆虫類等陸生節足動物)で荒谷委員が言及。					沖縄	
新規	537	分布拡大期～まん延期	タバコノミハムシ	Epitrix hirtipennis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					福島、茨城、千葉、愛知		
新規	538	分布拡大期～まん延期	ツシママダラテントウ	Epilachna chinensis tsushimana				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福岡		
新規	539	分布拡大期～まん延期	ツメクサタコゾウムシ	Hypera nigrirostris				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	マメ科牧草の害虫。					福島、千葉	
新規	540	定着初期/限定分布	ツヤケシオオゴミシダマシ	Zophobas atratus				-	-	-	-	-	?	-	-	-	○?	-	通称ジャイアントミルワーム?					和歌山	
新規	541	定着初期/限定分布?	トウキョウヒメハンミョウ	Cicindela kaleea yedoensis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					和歌山		
新規	542	分布拡大期～まん延期	ナガヒョウホンムシ	Ptinus japonicus				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、和歌山、山口、福岡		
新規	543	分布拡大期～まん延期	ナガフトヒゲナガゾウムシ	Xylina striatifrons				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都、奈良、和歌山		
新規	544	分布拡大期～まん延期	ナラヒラタキウイムシ	Lyctus linearis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	乾材の害虫。					北海道、和歌山	
新規	545	分布拡大期～まん延期	ニセキボシヒラタケシキスイ	Omosita japonica				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島、茨城、千葉		
新規	546	分布拡大期～まん延期	ノコギリヒラタムシ	Oryzaephilus surinamensis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	貯穀・貯蔵食品の害虫。					愛知、京都、和歌山、高知、福岡	
新規	547	分布拡大期～まん延期	ヒメカツオブシムシ	Attagenus japonicus				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	貯穀・貯蔵食品の害虫。					千葉、愛知、京都、和歌山、鳥取、山口、福岡	
新規	548	分布拡大期～まん延期	ヒメマルカツオブシムシ	Anthrenus verbasci				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	養蚕で害虫、農林有害動物、貯蔵食品の害虫。					和歌山	
新規	549	分布拡大期～まん延期	ヘリグロヒラタケシキスイ	Omosita discoidea				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島、茨城、千葉		
新規	550	分布拡大期～まん延期	ホホビロホソヒラタムシ	Silvanoprus longicollis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○					滋賀		
新規(候補)	551	未定着	特定外来生物のマルバネクワガタ属10種	Lucanidae Gen spp.	I	○	◎	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	国内希少種の在来マルバネクワガタとの交雑や競合が懸念される。	特定				長崎	
新規	552	分布拡大期～まん延期	ミヤコグサマメゾウムシ	Bruchus loti				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	553	定着初期/限定分布	ムネアカオオクロテントウ	Synona consanguinea				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都、和歌山		
新規	554	分布拡大期～まん延期	ムネアカヒメマキムシ	Dienerella ruficollis				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					和歌山		
新規	555	分布拡大期～まん延期	モンクチビルテントウ	Platynaspidius maculosus				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉、愛知、福岡		
新規	556	分布拡大期～まん延期	ヤマトオサムシダマシ	Blaps japonensis				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	京都府RL掲載種、農林有害動物・昆虫名鑑:貯穀・貯蔵食品の害虫。					京都	
新規	557	分布拡大期～まん延期	ユーカリハムシ	Trachymela sloanei				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉、京都		
新規	558	分布拡大期～まん延期	リュウキュウホソシバンムシ	Oligomerus chujo				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都		
新規	560	分布拡大期～まん延期	クサビノミバエ	Megaselia scalaris				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福岡		
新規	561		ショクガタマバエ	Aphidoletes aphidimyza				-	?	-	-	-	-	-	-	-	○	-	定着や日本個体群との交雑などは不明。					京都	
新規	562		バラハオレタマバエ	Contarinia sp				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					宮崎		
新規	563	分布拡大期～まん延期	ハリエンジュハベリマキタマバエ	Obolodiplosis robiniae				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	被害の有無については相反する報告があり、要調査という情報がある。					福岡	

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続	: 現リストの掲載種
再検討	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
再検討(候補)	: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で 掲載候補と判断 した種
新規	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
新規(候補)	: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で 掲載候補と判断 した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
新規	564	分布拡大期～まん延期?	ヒツジバエ	<i>Oestrus ovis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					北海道		
新規	565	分布拡大期～まん延期	オオミノガ	<i>Eumeta japonica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知		
新規	566	分布拡大期～まん延期	カラマツミキモグリガ	<i>Cidia laricicolana</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	カラマツの害虫。				北海道		
新規	567	定着初期/限定分布?	キキョウトリバ	<i>Stenoptilia zophodactyla</i>				-	-	-	-	-	○?	-	-	○	-	-					山口		
新規	568	分布拡大期～まん延期	キョウチクトウスズメ	<i>Daphnis nerii</i>				-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	過去に静岡で大発生した記録がある。				千葉、愛知、山口、福岡		
新規	569	分布拡大期～まん延期	クロボシセセリ	<i>Suastus gremius</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					宮崎、鹿児島		
新規	570	定着初期/限定分布?	クロマダラソテツジミ	<i>Chilades pandava</i>				-	-	○	-	-	○?	-	-	○	-	-	ソテツの害虫。侵入については複数の報告あり。				茨城、千葉、滋賀、奈良、高知		
新規	571	分布拡大期～まん延期	コナガ	<i>Plutella xylostella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	アブラナ科の害虫。				京都		
新規	572	分布拡大期～まん延期	シロイチモジヨトウ	<i>Spodoptera exigua</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	農林有害動物・昆虫名鑑：マメ類、ネギ、テンサイなどの害虫。				千葉、京都、奈良、和歌山、宮崎		
新規	573	分布拡大期～まん延期	ツマジロクサヨトウ	<i>Spodoptera frugiperda</i>				-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-					福島、千葉、愛知、高知		
新規	574	分布拡大期～まん延期	ニカメイガ	<i>Chilo suppressalis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	イネの害虫。				北海道		
新規	575	分布拡大期～まん延期	ニセタマナヤガ	<i>Peridroma saucia</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森、和歌山、山口、高知		
新規	576	未定着	ヘレナキシタアゲハ	<i>Troides helenae</i>			?	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					千葉		
新規	577	分布拡大期～まん延期	ボケヒメシンクイまたはスモモヒメシンクイ	<i>Grapholitha dimorpha</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	モモ、リンゴの害虫。				北海道		
新規	578	定着初期/限定分布?	ムシャクツバメシジミ	<i>Tongeia filicaudis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○?					愛知		
新規	579	分布拡大期～まん延期	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	沖縄県へは1958年に侵入。				愛知、鳥取、山口、高知		
新規	580	分布拡大期～まん延期	ワモンノメイガ	<i>Nomophila noctuella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○?	-	-	マツや野菜を食害。				宮崎		
新規	581	定着初期/限定分布?	アシジロヒラフシアリ	<i>Technomyrmex brunneus</i>				○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	○	放浪種。				宮崎、鹿児島	環境省関東	
新規	582		イサエアヒメコバチ(ヨーロッパ個体群)	<i>Diglyphus isaea</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生物農薬として販売されている。				京都		
新規	583		イマイツツハナバチ	<i>Osmia jacoti</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉、滋賀		
新規	584	分布拡大期～まん延期	インドオオズアリ	<i>Pheidole indica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					山口、宮崎		
新規	585		ウスヒメキアリ	<i>Plagiolepis alluaudi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	放浪種。				沖縄		
新規	586		オオシワアリ	<i>Tetramorium bicarinatum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					山口、宮崎		
新規	587		カドフシニセハリアリ	<i>Hypoponera opaciceps</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鹿児島		
新規	588		キイロハダカアリ	<i>Cardiocondyla obscurior</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鹿児島		
新規	589		キゴシジガバチ	<i>Sceliphron madraspatanum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					山口		
新規	590		クビレハリアリ	<i>Ooceraea biroi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鹿児島		
新規	591		クロヒメアリ	<i>Monomorium chinense</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					山口、宮崎		
新規	592		ケブカアメイロアリ	<i>Nylanderia amia</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島、京都、山口、宮崎		
新規	593		ゴキブリヤセバチ	<i>Evania appendigaster</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	594		コレマンアブラバチ	<i>Aphidius colemani</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生物農薬として販売されている。				京都		
新規	595		サバクツヤコバチ	<i>Eretmocerus eremicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生物農薬として販売されている。				京都		
新規	596		シワヒメアリ	<i>Monomorium latinode</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	放浪種。				鹿児島		
新規	597		トカラウロコアリ	<i>Pyramica membranifera</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鹿児島		
新規	598		ナンヨウテンコクオオズアリ	<i>Pheidole parva</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○					鹿児島		
新規	599		ニッポンモンキジガバチ	<i>Sceliphron deforme nipponicum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					青森		
新規	600		ハダカアリ属の一種	<i>Cardiocondyla</i> sp.				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	ハダカアリ属に放浪種が複数存在。				山口		
新規	601		ハモグリコマユバチ	<i>Daenusa sibirica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都		
新規(候補)	602	定着初期/限定分布	ハヤトゲフシアリ	<i>Lepisiota frauenfeldi</i>	I			○	-	○	○	-	○	-	-	○	-	-		特定			愛知、大阪、沖縄	環境省沖縄奄美、地方公共団体	
新規	603		ハリエンジュノハバチ	<i>Euura tibialis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知		
新規	604		フタイロヒメアリ	<i>Monomorium floricola</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○	山口、鹿児島		
新規	605		モンキジガバチ名義タイプ亜種	<i>Sceliphron deforme deforme</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	606		ヨーロッパトビチビアメバチ	<i>Bathyplectes anurus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福岡		
新規	607		ルリトガリヒメバチ	<i>Chlorocryptus purpuratus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					奈良		
新規	608	定着初期/限定分布?	ムツスジアシナガゾウムシ	<i>Merus waltoni</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-						地方公共団体	
新規	609	定着初期/限定分布	アカギヒメヨコバイ	<i>Coloana arcuata</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-						農林水産省	
新規	610	分布拡大期～まん延期	シタベニハゴロモ	<i>Lycorma delicatula</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						環境省関東	
新規	611	定着初期/限定分布?	ビサヤアカアシカタゾウムシ	<i>Metapocyrtus adspersus</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-						環境省沖縄奄美	
新規	612	定着初期/限定分布?	ヘデラアカアシカタゾウムシ	<i>Metapocyrtus hederæphilus</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-						環境省沖縄奄美	

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)

: 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

2024.9.17版

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
新規	613	定着初期/限定分布	ツマキトゲナシクモバチ	Lissocnemis brevipennis				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
新規	614	未定着	ハチノスムクゲケシキスイ	Aethina tumida		○	○	—	—	—	—	—	—	—	○		○								
新規	615	未定着	ラズベリークレイジーアント	Nylanderia fulva		○	○	○	—	—	—	○	—	—	○		○								

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種																										
検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
継続	1	国内由来の外来種	伊豆諸島などのリュウキュウツヤハナムグリ	<i>Protaetia pryeri</i>	IV			○	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	生息実態及び生態系への影響に関する知見の集積が必要。							
継続	2	国内由来の外来種	北海道・沖縄のカトムシ本土亜種	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	I			○	◎	—	—	—	○	—	—	—	○	—	飼育下では沖縄亜種との交雑が確認され、野外での交雑による固有遺伝子への影響が懸念されている。北海道では知見の集積が必要。				北海道、鹿児島、沖縄			

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題と 人体	逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態系改 変	繁殖	気候		重要 地域	経済 産業								利用
再検討	3	国内由来の外來種	カラマツイボオアブラムシ	<i>Cinara laricis</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	カラマツが宿主。				北海道		
再検討	4	国内由来の外來種	アオオサムシ	<i>Carabus insulicola</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				北海道			
再検討	5	国内由来の外來種	イネクビボソムシ	<i>Oulema oryzae</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				京都、山口、高知、宮崎、沖縄			
再検討	6	国内由来の外來種	オリーブアナアキゾウムシ	<i>Dyscerus perforatus</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				北海道			
再検討	7	国内由来の外來種	カラマツイトヒキハマキ	<i>Ptycholomoides aeriferana</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	カラマツが宿主。				北海道、青森		
再検討	8	国内由来の外來種	カワラケアリ	<i>Lasius sakagami</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				青森、高知、沖縄			
再検討	9	国内由来の外來種	アギトアリ	<i>Odontomachus monticola</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	非検疫有害動物。						
再検討	10	国内由来の外來種	タケノホソクロバ	<i>Artona martini</i>				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	小笠原に侵入、非検疫有害動物。				千葉、愛知、和歌山、山口、高知、福岡		

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(昆虫類)>

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
新規	11	国内由来の外来種	リュウキュウベニイトトンボ	<i>Ceriagrion auranticum ryukyuanum</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					高知		
新規	12	国内由来の外来種	スジハサミムシ	<i>Proreus simulans</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					愛知		
新規	13	国内由来の外来種	ウルシゴキブリ	<i>Periplaneta japanna</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道		
新規	14	国内由来の外来種	オオゴキブリ	<i>Panesthia angustipennis spadica</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					山口		
新規	15	国内由来の外来種	サツマゴキブリ	<i>Opisthoplatia orientalis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○					千葉、愛知、和歌山、高知		
新規	16	国内由来の外来種	ヒメクロゴキブリ	<i>Chorisoneura nigra</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					千葉		
新規	17	国内由来の外来種	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis</i>				○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	在来オンブバッタとの競合が示唆されている。				滋賀、京都、奈良、和歌山		
新規	18	国内由来の外来種	タイワンクツワムシ	<i>Mecopoda elongata</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					高知		
新規	19	国内由来の外来種	アカギカメムシ	<i>Cantao ocellatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					高知		
新規	20	国内由来の外来種	ウスリー・カキカイガラムシ	<i>Lepidosaphes ussuriensis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					宮崎		
新規	21	国内由来の外来種	カツラマルカイガラムシ	<i>Comstockaspis macroporana</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					滋賀、宮崎		
新規	22	国内由来の外来種	カラマツオオアブラムシ	<i>Cinara laricicola</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道		
新規	23	国内由来の外来種	カラマツチビオオアブラムシ	<i>Cinara chibi</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○					北海道		
新規	24	国内由来の外来種	カラマツミキオオアブラムシ	<i>Cinara kochi</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道		
新規	25	国内由来の外来種	キノカワハゴロモ	<i>Atracis formosana</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					千葉		
新規	26	国内由来の外来種	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					鹿児島		
新規	27	国内由来の外来種	クロイワツクツク	<i>Meimuna kuroiwa</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					千葉		
新規	28	国内由来の外来種	ヒメゲンバイ	<i>Uhlirites debilis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	カンキツグリーニング病菌の媒介昆虫。				宮崎		
新規	29	国内由来の外来種	ミカンキジラミ	<i>Diaphorina citri</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—				○	高知、鹿児島		
新規	30	国内由来の外来種	ミナミアオカメムシ	<i>Nezara viridula</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	水稲や大豆の害虫として知られる。				千葉、滋賀、福岡		
新規	31	国内由来の外来種	ミナミトゲヘリカメムシ	<i>Paradasynus spinosus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	柑橘類の害虫として知られる。				千葉		
新規	32	国内由来の外来種	アオドウガネ	<i>Anomala albopiosa</i>				○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	元々は西日本に生息している種。関東地方ではドウガネブイブイやヤマトアオドウガネとの競合が示唆されている。				茨城	地方公共団体	
新規	33	国内由来の外来種	アカアシクワガタ	<i>Dorcus rubrofemoratus rubrofemoratus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	インターネット上で野生個体及び養殖個体の販売がされている。				千葉		
新規	34	国内由来の外来種	ウスグロトラカミキリ	<i>Chlorophorus signaticollis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					京都		
新規	35	国内由来の外来種	オオクワガタ(本州産)	<i>Dorcus hopei binodulosus</i>				—	○	—	—	—	○	—	—	—	◎	—	インターネット上で野生個体及び養殖個体の販売がされている。また、一部の地域では屋内で繁殖させた個体を野外へ放虫する問題が発生している。				北海道	地方公共団体	
新規	36	国内由来の外来種	オキナワイチモンジハムシ	<i>Morphosphaera coerulea</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					千葉、鹿児島		
新規	37	国内由来の外来種	オキナフスジボタル	<i>Curtos okinawanus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					宮崎、鹿児島		
新規	38	国内由来の外来種	カシノナガキクイムシ	<i>Platypus quercivorus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					茨城		
新規	39	国内由来の外来種	キボシカミキリ	<i>Psacothoe hilaris hilaris</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					福島、千葉、徳島、高知、福岡、宮崎		
新規	40	国内由来の外来種	クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					鹿児島		
新規	41	国内由来の外来種	ケブカトラカミキリ	<i>Hirticlytus comosus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—					茨城、千葉	農林水産省	
新規	42	国内由来の外来種	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道、青森、鹿児島	地方公共団体	
新規	43	国内由来の外来種	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—					鹿児島		
新規	44	国内由来の外来種	ゴモクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					茨城、千葉		
新規	45	国内由来の外来種	サビナカボソタマムシ	<i>Coraeus ishiharae</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					愛知		
新規	46	国内由来の外来種	シロヘリトラカミキリ	<i>Anaglyptus colobotheoides</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					京都		
新規	47	国内由来の外来種	ツシマムナクボカミキリ	<i>Cephalallus unicolor unicolor</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					福島、愛知、滋賀、京都、高知、福岡		
新規	48	国内由来の外来種	ナエドコチャイロコガネ	<i>Sericania mimica</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					和歌山		
新規	49	国内由来の外来種	ハコベタコゾウムシ	<i>Hypera basalis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					福島		
新規	50	国内由来の外来種	ハマゴウハムシ	<i>Phola octodecimguttata</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					千葉		
新規	51	国内由来の外来種	ハラアカコブカミキリ	<i>Moechotypa diphysis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	○					茨城、千葉、愛知、山口、福岡、宮崎	農林水産省	
新規	52	国内由来の外来種	ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					鹿児島		
新規	53	国内由来の外来種	ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道		
新規	54	国内由来の外来種	ヘリアカゴミムシダマシ	<i>Genoscelis lateralis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					愛知		
新規	55	国内由来の外来種	ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>				—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—					奈良、鹿児島	地方公共団体	
新規	56	国内由来の外来種	マツノマダラカミキリ	<i>Monochamus alternatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	マツノザイセンチュウの媒介昆虫。				青森、鹿児島	環境省中四国	
新規	57	国内由来の外来種	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					鹿児島		
新規(候補)	58	国内由来の外来種	ヤエヤママドボタル(オオシママドボタル)	<i>Pyrocoelia atripennis</i>	I, IV			—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	○	沖縄本島へ侵入・分布を拡大し、国内希少野生動植物種であるアマノヤマカタマイマイへの影響が懸念されている。				沖縄	環境省関東、環境省沖縄奄美	
新規	59	国内由来の外来種	ヨツスジカミキリ	<i>Notomulciber quadrisignatus</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					宮崎		
新規	60	国内由来の外来種	ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacoptera quadrimaculata</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					愛知、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島		
新規	61	国内由来の外来種	カラマツタネバエ	<i>Strobilomyia laricicola</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					北海道		
新規	62	国内由来の外来種	ショウガクロバネキノコバエ	<i>Phytosciara zingiberis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—					宮崎		
新規	63	国内由来の外来種	ダイコンバエ	<i>Delia floralis</i>				—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—					青森		

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(昆虫類)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種(順不同)

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	64	国内由来の外來種	ヒトスジシマカ	<i>Aedes albopictus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城				
新規	65	国内由来の外來種	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ficus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					滋賀、京都、奈良、高知、宮崎				
新規	66	国内由来の外來種	カラマツチャイロヒメハマキ	<i>Zeiraphera lariciana</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	67	国内由来の外來種	カラマツツツミノガ	<i>Coleophora longisignella</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	68	国内由来の外來種	カラマツヒメハマキ	<i>Spilonota eremitana</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	69	国内由来の外來種	ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					神奈川、和歌山				
新規	70	国内由来の外來種	クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia curvifascia</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					高知				
新規	71	国内由来の外來種	クロメンガタスズメ	<i>Acherontia lachesis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					福島、千葉、高知				
新規	72	国内由来の外來種	コノハチョウ	<i>Kallima inachus eucerca</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鹿児島				
新規	73	国内由来の外來種	シルビアシジミ	<i>Zizina emelina emelina</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	高知県リストに絶滅後の他県産個体の放蝶との記載あり。				高知				
新規	74	国内由来の外來種	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉				
新規	75	国内由来の外來種	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉				
新規	76	国内由来の外來種	ハマオモトヨトウ	<i>Brithys crini</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					京都				
新規	77	国内由来の外來種	ヒメボクトウ	<i>Cossus insularis</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					千葉				
新規	78	国内由来の外來種	ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					鳥取				
新規	79	国内由来の外來種	ヤクシマヒメキシタバ	<i>Catocala tokui</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					高知				
新規	80	国内由来の外來種	ヤマダカレハ	<i>Kunugia yamadae</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					宮崎				
新規	81	国内由来の外來種	ワタヘリクロノメイガ	<i>Diaphania indica</i>				-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					千葉、京都				
新規	82	国内由来の外來種	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>				-	○	-	-	-	○	-	-	-	-					北海道				
新規	83	国内由来の外來種	カラマツギハラハバチ	<i>Pristiphora takagai</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	84	国内由来の外來種	カラマツハラアカハバチ	<i>Pristiphora erichsoni</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道、青森				
新規	85	国内由来の外來種	カラマツヒラタハバチ	<i>Cephalcia koebelei</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	86	国内由来の外來種	クリハバチ	<i>Apethymus kuri</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					宮崎				
新規	87	国内由来の外來種	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	農業利用(益虫)されている。				沖縄			
新規	88	国内由来の外來種	クワコナカイガラトビコバチ	<i>Pseudaphycus malinus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	天敵農薬として利用された過去がある。				青森				
新規	89	国内由来の外來種	コマルハナバチ	<i>Bombus ardens ardens</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	90	国内由来の外來種	トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-					青森、高知				
新規	91	国内由来の外來種	ニホンカラマツヒラタハバチ	<i>Cephalcia lariciphila japonica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-					北海道				
新規	92	国内由来の外來種	ハモグリミドリヒメコバチ(沖縄、九州個体群)	<i>Neochrysocharis formosa</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	天敵農薬として利用されている。				京都				
新規	93	国内由来の外來種	ミスジヒメカラマツハバチ	<i>Anoplonyx orientis</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道				
新規	94	?	タネクサコバンゾウムシ	学名の記載なし				-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	該当する種がいない。「ツメクサタネコバンゾウムシTychius(Tychius) picrostris」の事を指している可能性が高い。その場合、既にリストに名前あり。				滋賀				
新規	95	?	チバクロバネキノコバエ	<i>Bradysia impatiens</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○				宮崎				
新規	96	国内由来の外來種	キオビエダシヤク	<i>Milonia basalis</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-						地方公共団体			
新規	97	国内由来の外來種	シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-						地方公共団体			
新規	98	国内由来の外來種	シロアリ類(ヤマト、ダイコク等)	Termitidae spp.				-	-	-	-	-	-	-	○	-	-						地方公共団体			
新規	99	国内由来の外來種	ヒラタクワガタ(自然分布域以外の亜種)	<i>Dorcus titanus</i> subssp.				○	○	-	-	-	-	-	-	-	-						地方公共団体			
新規	100	国内由来の外來種?	ネツタイアカクビソハムシ	<i>Lema lacertosa</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-						地方公共団体			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（陸生節足動物類）＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討（候補）

新規

新規（候補）
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	アトラクス属	<i>Atrax</i> spp.	Ⅲ	○	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定			栃木、長崎、沖縄			
継続	2	未定着	ハドロニユケ属	<i>Hadronyche</i> spp.	Ⅲ	○	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定			栃木、長崎、沖縄			
継続	3	未定着	イトグモ属3種	<i>Loxosceles</i> spp.	Ⅲ	○	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	<i>Loxosceles reclusa</i> 、 <i>L. laeta</i> 、 <i>L. gaucho</i> の3種。 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定			長崎、沖縄			
継続	4	分布拡大期～まん延期	ハイイログケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	Ⅲ			-	-	-	-	○	-	◎	-	-	◎	強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われている。	特定			茨城、栃木、滋賀、京都、大阪、山口、兵庫、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄			
継続	5	分布拡大期～まん延期	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	Ⅲ			-	-	○	-	○	-	◎	-	-	◎	強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。	特定	日本		福島、茨城、栃木、千葉、石川、長野、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、島根、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、宮城、鹿児島、沖縄			
継続	6	定着初期／限定分布	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>	Ⅲ	○	◎	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	◎	米軍岩国基地とその周囲で発見される。	特定			栃木、滋賀、山口、高知、長崎、沖縄			
継続	7	未定着	ジュウサンボシゴケグモ	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>	Ⅲ	○	○	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	○		特定			栃木、長崎、沖縄			
継続	8	未定着	キョクトウサソリ科	Buthidae Gen. spp.	Ⅲ	○	◎	-	-	-	-	○	-	◎	-	○	○	本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の両方の可能性があり、近年、スリランカ原産である可能性が示唆されている。 2006年、沖縄県にて輸入した衣服に付着して侵入したサソリに刺されたという被害が報告されている。	特定			栃木、長崎、沖縄			
継続	9	分布拡大期～まん延期	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	Ⅳ			○	-	-	-	○	-	-	○	-	○	大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい。在来種のヤスデ類を排除している可能性が示唆されている。知見の集積が必要。				茨城、長崎、鹿児島、沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（陸生節足動物類）＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討（候補）

新規

新規（候補）
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外來種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	1	分布拡大期～まん延期	シクラメンホコリダニ	<i>Phytonemus pallidus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	農業害虫、自然生態系への影響小				茨城			
再検討	2	分布拡大期～まん延期	オンシツヒメハダニ	<i>Brevipalpus californicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	農業害虫、ラン類に寄生。温室のみで定着、自然生態系への影響小 非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く)(告示で記載)							
再検討	3	分布拡大期～まん延期	サボテンヒメハダニ	<i>Brevipalpus russulus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	サボテン等に寄生、自然生態系への影響小 非検疫有害動植物(告示で記載)							
再検討	4	小笠原・南西諸島	パイナップルヒメハダニ	<i>Dolichotetranychus flordanus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	パイナップルに寄生、自然生態系への影響小 非検疫有害動植物(告示で記載)							
再検討	5	未定着		<i>Raoiella indica</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	ヤシ類に寄生			○				
再検討	6	定着初期／限定分布	ランヒメハダニ	<i>Tenuipalpus pacificus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	洋ランに寄生、自然生態系への影響小 非検疫有害動植物				千葉			
再検討	7	分布拡大期～まん延期	タイリクヒラタハダニ(タイリクハダニ)	<i>Aponychus firmianae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	アオギリに寄生、自然生態系への影響小				茨城			
再検討	8	分布拡大期～まん延期	モクセイマルハダニ	<i>Panonychus osmanthi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	モクセイ科に寄生、自然生態系への影響小				千葉、茨城			
再検討	9	分布拡大期～まん延期	ルイスアケハダニ	<i>Eotetranychus lewisi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	農業害虫、自然生態系への影響小				茨城、千葉			
再検討	10	小笠原・南西諸島	トウヨウハダニ	<i>Eutetranychus africanus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	農業害虫、自然生態系への影響小							
再検討	11	小笠原・南西諸島	サトウキビツメハダニ	<i>Oligonychus orthius</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	農業害虫、自然生態系への影響小							
再検討	12	小笠原・南西諸島	マンゴーツメハダニ	<i>Oligonychus coffeae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	マンゴー等に寄生、自然生態系への影響小				千葉			
再検討	13	小笠原・南西諸島	ナンセイハダニ	<i>Tetranychus neocaledonicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	農業害虫、自然生態系への影響小							
再検討	14	分布拡大期～まん延期	ミツユビナミハダニ	<i>Tetranychus evansi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	ナス科植物に寄生、自然生態系への影響小				茨城			
再検討	15	分布拡大期～まん延期	コノテフシダニ	<i>Trisetacus thujivagrans</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	コノテガシワに寄生、自然生態系への影響小							
再検討	16	分布拡大期～まん延期	カキシビダニ	<i>Aceria diospyri</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	カキに寄生、自然生態系への影響小							
再検討	17	分布拡大期～まん延期	イチジクモンサビダニ	<i>Aceria ficus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	イチジクに寄生、自然生態系への影響小				千葉			
再検討	18	小笠原・南西諸島	レイシフシダニ	<i>Aceria litchii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	レイシに寄生、自然生態系への影響小							
再検討	19	分布拡大期～まん延期	チューリップサビダニ	<i>Aceria tulipae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	農業害虫、自然生態系への影響は小 非検疫有害動植物(栽培の用に供する植物に付着するものを除く。)(告示で記載)				茨城			
再検討	20	分布拡大期～まん延期	カーネーションサビダニ	<i>Aceria paradianthi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	カーネーションに寄生、自然生態系への影響は小							
再検討	21	分布拡大期～まん延期	モモサビダニ	<i>Aculus fockeui</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	モモ等に寄生、自然生態系への影響は小							
再検討	22	分布拡大期～まん延期	リンゴサビダニ	<i>Aculus schlechtendali</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	リンゴ等に寄生、自然生態系への影響は小							
再検討	23	分布拡大期～まん延期	トマトサビダニ	<i>Aculops lycopersici</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	トマト等に寄生、自然生態系への影響は小				千葉、茨城、滋賀			
再検討	24	小笠原・南西諸島	マンゴーサビダニ	<i>Cisaberoptus kenyae</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	マンゴーに寄生、自然生態系への影響小							
再検討	25	小笠原・南西諸島	マンゴーケフトサビダニ	<i>Spinacus pagonis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○								

リスト加除対象の候補種一覧 <動物(陸生節足動物類)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外來種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
再検討	26	定着初期／限定分布	ニッポンサラセニアヒゲダニ	<i>Sarraceniopus nipponensis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	温室内のサラセニアに依存、自然生態系への影響はなし						
再検討	27	定着初期／限定分布	ヒューズサラセニアヒゲダニ	<i>Sarraceniopus hughesi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	温室内のサラセニアに依存、自然生態系への影響はなし						
再検討	28	未定着	イノシシグモ	<i>Dysdera crocata</i>		○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	咬傷被害は報告されていないが、咬まれた場合強い痛みを受ける可能性が高い。毒性は小。			○			
再検討	29	分布拡大期～まん延期	オダカユウレイグモ	<i>Crossopriza lyoni</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。益虫として扱われる場合も多い。				愛知、熊本、山口		
再検討	30	分布拡大期～まん延期	クロガケシグモ	<i>Badumna insignis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				愛知、京都、兵庫、鳥取、熊本、滋賀、京都、奈良、和歌山、福岡		
再検討	31	未定着		<i>Linyphia triangularis</i>		○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	侵入した地域では高密度化し、在来のカモ類と競合して悪影響を与える可能性が示唆されている。			○			
再検討	32	分布拡大期～まん延期	マダラヒメグモ	<i>Steatoda triangulosa</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				愛知、滋賀、京都、福岡、熊本		
再検討	33	分布拡大期～まん延期	ナガワラジムシ	<i>Haplophthalmus danicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				千葉、茨城、鳥取、滋賀、和歌山		
再検討	34	分布拡大期～まん延期	ワラジムシ	<i>Porcellio scaber</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	セントヘレナでの生態系影響 輸入規制有り(生きた昆虫・微生物などの規制に関するデータベース)			○	茨城、千葉、滋賀、鳥取、福岡、		
再検討	35	分布拡大期～まん延期	クマワラジムシ	<i>Porcellio laevis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	輸入規制有り(生きた昆虫・微生物などの規制に関するデータベース)				千葉、滋賀、和歌山、福岡		
再検討	36	分布拡大期～まん延期	オビワラジムシ	<i>Porcellio dilatatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				千葉、茨城		
再検討	37	分布拡大期～まん延期	ホソワラジムシ	<i>Porcellionides prionosus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	輸入規制有り(生きた昆虫・微生物などの規制に関するデータベース)				千葉、茨城、滋賀、鳥取、和歌山、福岡		
再検討	38	定着初期／限定分布	ハナダカダンゴムシ	<i>Armadillidium nasatum</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				滋賀		
再検討	39	分布拡大期～まん延期	オカダンゴムシ	<i>Armadillidium vulgare</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	非検疫有害動物				千葉、茨城、鳥取、滋賀、和歌山、山口、福岡、		
再検討	40	小笠原・南西諸島	ミナミヤスデ	<i>Trigoniulus lumbricinus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				沖縄		
再検討	41	未定着		<i>Cylindoiulus latestriatus</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	特出した被害は確認されていない。			○			
再検討	42	未定着		<i>Scolopendra morsitans</i>		○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	特出した被害は確認されていない。			○			

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（陸生節足動物類）＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

-
- 継続

再検討

再検討（候補）

新規

新規（候補）
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種（定着段階以外は順不同）

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目											備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害			逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業		利用	付着混入						
新規	1	分布拡大期～まん延期	シロホシヒメグモ	Steatoda grossa				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				千葉、愛知			
新規	2	分布拡大期～まん延期	ナナホシヒメグモ	Steatoda erigoniformis				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				静岡、愛知			
新規	3	分布拡大期～まん延期	ハルカガケジグモ	Badumna longinqua				-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	特出した被害は確認されていない。				愛知			
新規 (候補)	4	未定着	特定外来生物のゴケグモ属の全種(セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ、ジュウサンボシゴケグモを除く)	Latrodectus spp.	Ⅲ	○	○	-	-	○	-	○	-	◎	-	-	-	ゴケグモ属の種は基本的にα-ラトロトキシンという強い神経毒を持つ。	特定						

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物（陸生節足動物類）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

: 現リストの掲載種
- 再検討

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- 新規

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目											備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害			逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業		利用	付着混入						
再検討	1	定着初期／限定分布	アマミサソリモドキ	<i>Typopeltis stimpsonii</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	八丈島等に定着				滋賀、和歌山		
再検討	2	小笠原・南西諸島	エゾフジヤスデ	<i>Trichopachyiulus niponicus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	沖縄島に移入						

リスト加除対象の候補種一覧＜動物(その他無脊椎動物)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
継続	1	未定着	ムネミオブシス・レイディ	Mnemiopsis leidyi	I	◎	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	動物プランクトンや小魚の捕食。			○	長崎、沖縄		
継続	2	分布拡大期～まん延期	マツノザイセンチュウ	Bursaphelenchus xylophilus	I,Ⅲ			-	-	◎	-	-	◎	○	-	◎	-	◎	マツノマダラカミキリに運ばれて、マツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる(松枯れ・松くい虫被害)。輸入について植物防疫法上の規制あり。また、森林病害虫等防除法に基づき防除を実施。			○	福島、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、鳥取、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄		
継続	3	未定着	カワホトギスガイ	Dreissena polymorpha	I,Ⅲ	○	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	4	未定着	クワッカガイ	Dreissena bugensis	I,Ⅲ	○	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。	特定		○	長崎、沖縄		
継続	5	分布拡大期～まん延期	カワヒバリガイ属	Limnoperna spp.	I,Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。				栃木、静岡、長崎、宮崎、沖縄		
継続	6	分布拡大期～まん延期	スクミリンゴガイ	Pomacea canaliculata	Ⅲ			○	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	広東住血線虫の中間宿主となる。		日本・IUCN	○	北海道、茨城、千葉、長野、静岡、愛知、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	地方公共団体	
継続	7	分布拡大期～まん延期	ラブラタリンゴガイ	Pomacea insularum	Ⅲ			○	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	輸入について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる。				静岡、長崎、鹿児島、沖縄		
継続	8	定着初期／限定分布	アフリカマイマイ	Achatina fulica	I,Ⅱ,Ⅲ			-	-	◎	-	-	○	◎	-	◎	-	○	輸入について植物防疫法上の規制あり。国内移動について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる広東住血線虫の中間宿主となる。小笠原で国内希少野生動物植物種であるタイヨウフウトウカズラを食害する。		日本・IUCN	○	長崎、鹿児島、沖縄		
継続	9	小笠原・南西諸島	ヤマヒタチオビ	Euglandina rosea	I,Ⅱ			-	-	◎	-	-	○	◎	-	-	-	○	現在、小笠原ではニューギニアヤリガタリクズムシの侵入により激減し、ほとんど見られないが注意が必要。広東住血吸虫の中間宿主となる可能性。	特定	日本・IUCN	○	長崎、沖縄		
継続	10	分布拡大期～まん延期	シマメノウフネガイ	Crepidula onyx	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	○		○	水産利用種のサザエやアワビに付着し、商品価値の低下等を引き起こし、取り除きのためのコスト増大でも問題視されている。生態系等への影響については知見の集積が必要。				北海道、茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	11	分布拡大期～まん延期	コモチカワツボ	Potamopyrgus antipodarum	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	無性生殖で増殖し、繁殖力が極めて強く、非常に高密度で生息している地域が報告されている。知見の集積が必要。			○	北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、香川、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	12	定着初期／限定分布	カラムシロ	Nassarius sinarus	I,Ⅲ			◎	-	◎	-	-	○	-	-	◎	-	○	輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。				京都、香川、福岡、長崎、沖縄		
継続	13	分布拡大期～まん延期	ハブタエモノアラガイ	Lymnaea columella	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	在来モノアラガイとの置き換わりの事例が確認されている。肝蛭等の吸虫類の中間宿主になりうる。知見の集積が必要。				北海道、福島、茨城、千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	14	分布拡大期～まん延期	オオクビキレガイ	Rumina decollata	Ⅳ			○	-	○	-	-	◎	-	-	○	-	○	農作物、園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。自家受精で繁殖可能。知見の集積が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。				千葉、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、山口、福岡、長崎、大分、沖縄		
継続	15	定着初期／限定分布	マダラコウラナメクジ	Limax maximus	Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	○	海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。				福島、茨城、長野、滋賀、京都、長崎、沖縄		
継続	16	分布拡大期～まん延期	ムラサキイガイ	Mytilus galloprovincialis	I,Ⅲ			◎	◎	-	○	-	○	-	-	◎	○	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。大発生年にはカキ養殖に甚大な被害を与える。北海道では在来種キタムラサキイガイとの交雑個体がほぼ全域で確認されている。		日本・IUCN	○	北海道、茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	17	分布拡大期～まん延期	ミドリイガイ	Perna viridis	I,Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	○	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。			○	静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		
継続	18	分布拡大期～まん延期	コウロエンカワヒバリガイ	Xenostrobus securis	I,Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。		日本		北海道、茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄		

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続
- 再検討
- 再検討(候補)
- 新規
- 新規(候補)
- ：現リストの掲載種
- ：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- ：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- ：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- ：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入								
継続	19	分布拡大型～ま ん延期	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	I			◎	◎	-	-	-	○	-	-	○	○	○	カネツケシジミ <i>f. insularis</i> とされるものを含む。在来のマシジミと交雑し、外見上区別ができない状態になっている。食味は在来のヤマトシジミに比べて劣るとされる。			○	茨城、千葉、長野、静岡、愛知、京都、和歌山、島根、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、長崎、宮崎			
継続	20	分布拡大型～ま ん延期	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	I、Ⅲ			◎		-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。				北海道、千葉、静岡、愛知、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄			
継続	21	定着初期／限定 分布	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	生態系等への影響に関する知見の集積が必要。				北海道、千葉、愛知、京都、和歌山、高知、長崎、沖縄			
継続	22	定着初期／限定 分布	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>	I、Ⅲ			-	◎	-	-	-	○	-	-	○	○	○	環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類とされた、在来種かつ食用二枚貝であるハマグリとの交雑個体が瀬戸内海で確認されており、ハマグリ個体群へのさらなる遺伝子浸透と希少個体群の衰退が懸念される。		日本		千葉、京都、和歌山、香川、愛媛、高知、長崎、鹿児島、沖縄			
継続	23	分布拡大型～ま ん延期	カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	I、Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。浜名湖で大発生してカキ養殖に被害を与えた。				茨城、静岡、愛知、京都、和歌山、鳥取、福岡、長崎、沖縄			
継続	24	分布拡大型～ま ん延期	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>	Ⅲ			○	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。瀬戸内海のカキ養殖に大きな被害を与えた。		日本		茨城、静岡、愛知、京都、和歌山、愛媛、高知、福岡、長崎、鹿児島、沖縄			
継続	25	未定着	ディケログマルス・ヴィ ルロス	<i>Dikerogammarus vilosus</i>	I	○	-	-	-	◎	○	-	○	-	-	-	-	-	幅広い水域に侵入し、他のヨコエビをはじめとする多種の水生生物を捕食。栄養段階を大きく変貌させる。							
継続	26	未定着	ヨーロッパミドリガニ	<i>Carcinus maenus</i>	I	○	○	○	-	◎	○	-	○	-	-	○	-	◎	バラスト水への幼生の混入だけでなく、船舶のシーチェストに混入していた事例も知られている。侵入地では、被食者である在来巻貝の殻を厚くするなどの表現型変異を短期間で引き起こし、二枚貝群集の組成を大きく変化させたことなどが知られる。		IUCN	○	長崎、沖縄			
継続	27	未定着	アスタクス属	<i>Astacus</i> spp.	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	<i>Astacus astacus</i> 、 <i>A. leptodactylus</i> 、 <i>A. pachypus</i> の3種が含まれる。	特定			長崎、沖縄			
継続	28	未定着	ミステリークレイフィッシュ	<i>Procambarus fallax</i>	Ⅳ	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	単為生殖をおこなう。ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。	特定			北海道、長崎、宮崎、沖縄			
継続	29	未定着	ラスティークレイフィッシュ	<i>Orconectes rusticus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	様々な水生生物を捕食し、摂食量が多い。	特定		○	静岡、長崎、沖縄			
継続	30	未定着	ケラクス属	<i>Cherax</i> spp.	I	○	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	本属は45種を含む。マロン <i>C. tenuimanus</i> 、レッドクロウ <i>C. quadricarinatus</i> 、ヤビー <i>C. destructor</i> 等が国内で流通していた。マロンは南アフリカに侵入。				長崎、沖縄			
継続	31	未定着	外国産モクスガニ属	<i>Eriocheir</i> spp.	I	○	◎	◎	○	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	侵入地では、造巣による土手の破壊や川底の浸食によって生息場所の物理的構造を大きく変え、漁網内の漁獲物への食害等の漁業被害を発生させていることが知られる。	特定	IUCN	○	静岡、長崎、沖縄			
継続	32	定着初期／限定 分布	ウチダザリガニ（タンカイ ザリガニを含む）	<i>Pacifastacus leniusculus</i>	I			-	-	◎	◎	-	○	-	-	-	○	-	ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。	特定	日本	○	長野、長崎、沖縄			
継続	33	分布拡大型～ま ん延期	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	I			-	-	◎	◎	-	○	-	-	-	◎	-		特定	日本	○	北海道、青森、福島、茨城、栃木、千葉、神奈川、石川、長野、静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、山口、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄			
継続	34	小笠原・南西諸 島	ニューギニアヤリガタリク ウズムシ	<i>Platydemus manokwari</i>	I、Ⅱ			-	-	◎	-	-	○	◎	-	-	-	○	小笠原父島の固有陸貝類に壊滅的な捕食の影響を与えている。広東住血線虫の中間待機宿主となる。	特定	IUCN	○	長崎、鹿児島、沖縄			
継続	35	分布拡大型～ま ん延期	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	Ⅲ			◎	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	在来フジツボを被覆して内湾の潮間帯の帯状分布を大きく改変する。船舶、発電所、工場等の取水施設や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。				茨城、千葉、静岡、愛知、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄			
継続	36	分布拡大型～ま ん延期	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積が必要。				茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄			
継続	37	分布拡大型～ま ん延期	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積が必要。				茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄			
継続	38	分布拡大型～ま ん延期	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	潮間帯の中部で濃密に生息することから、そこに付着する在来の固着生物を駆逐するおそれがある。知見の集積が必要。				北海道、茨城、長崎、沖縄			
継続	39	分布拡大型～ま ん延期	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	Ⅳ			○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	◎	侵入後20年程度で日本各地に分布を拡大した。ペットショップで販売されているホテイアオイから検出されている。本種の侵入地で他種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。知見の集積が必要。				福島、茨城、千葉、長野、静岡、滋賀、京都、奈良、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧＜動物（その他無脊椎動物）＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討（候補）

新規

新規（候補）
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種																										
検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入								
継続	40	分布拡大期～まん延期	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	Ⅳ			-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	形態形質から国内定着個体群に同属種のヨーロッパミドリガニ <i>C. maenus</i> との雑種の存在する可能性も指摘されている。知見の集積が必要。		日本		茨城、千葉、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、福岡、長崎、沖縄			
継続	41	定着初期／限定分布	ヨーロッパザラボヤ	<i>Ascidella aspersa</i>	Ⅲ			○	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	○	北海道噴火湾でホタテガイ養殖に甚大な経済的被害を与えた。				茨城、長崎、沖縄			

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	42	分布拡大期～まん延期	マミズクラゲ	<i>Craspedacusta sowerbyi</i>				○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○					青森、茨城、京都、奈良、和歌山、鳥取		
再検討(候補)	43	定着初期／限定分布	トウナンアジアウズムシ	<i>Dugesia austroasiatica</i>	Ⅳ			○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大と個体数の増加が確認されているとの情報、しかし、国勢調査の結果には本種を確認できず。				滋賀、京都	中井委員	
再検討(候補)	44	分布拡大期～まん延期	アメリカナミウズムシ	<i>Girardina tigrina</i>	Ⅳ			○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	河川水辺の国勢調査により、近年、急速な分布域の拡大と個体数の増加が確認されている。ウズムシ類は捕食性であり、在来水生動物に影響が懸念される。				福島、茨城、滋賀、京都、奈良、和歌山、高知、福岡	中井委員	
再検討	45	分布拡大期～まん延期	オオミスジコウガイビル	<i>Bipalium nobile</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○					茨城、福岡		
再検討	46	分布拡大期～まん延期	ワタリコウガイビル	<i>Bipalium kewense</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○					福岡		
再検討	47		ダクテロギルス科の一種	<i>Actinocleidus fusiformis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	48		ダクテロギルス科の一種	<i>Cichlidogyrus scleosus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	49		ダクテロギルス科の一種	<i>Haploclleidus furcatus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	50		ダクテロギルス科の一種	<i>Onchocleidus ferox</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	51		ダクテロギルス科の一種	<i>Onchocleidus helicus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	52		ナマズ腹口吸虫	<i>Parabucephalopsis parasiluri</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	53		尾崎腹口吸虫	<i>Prosorhynchoides ozakii</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	54		アニサキス科の一種	<i>Raphidascaris acus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	55		ピンギス科の一種	<i>Pingis sinensis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足						
再検討	56	定着初期／限定分布	ジャガイモシストセンチュウ	<i>Globodera rostchiensis</i>				-	-	-	-	-	-	-	◎	-	○	検疫有害動物		日本			茨城		
再検討	57		タバコシストセンチュウ	<i>Globodera tabacum</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	58	定着初期／限定分布	カワニナ属の1種	<i>Semisulcospira</i> sp. cf. <i>forticosta</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					茨城		
再検討	59	未定着	ネコゼフネガイ	<i>Crepidula fornicata</i>		○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	○				○		
再検討	60	未定着	ヨーロッパタマキビ	<i>Littorina littorea</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○				○			
再検討	61	定着初期／限定分布	トラミズゴマツボ	<i>Stenothyra</i> sp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					福岡		
再検討	62	未定着	イリアネッサ・オブソレタ	<i>Ilyanassa obsoleta</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○				○			
再検討	63	未定着	カキナカセ	<i>Urosalpinx cinerea</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○				○		
再検討	64	未定着	ボ-ネア・ビスチュラリス	<i>Boonea bisuturalis</i>		○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○				○		
再検討	65	定着初期／限定分布	ミノウミウシの1種	<i>Cuthona perca</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	66	分布拡大期～まん延期	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>				○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○		日本			北海道、青森、福島、茨城、千葉、神奈川、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、島根、山口、愛媛、高知、福岡、宮崎、鹿児島		
再検討	67	分布拡大期～まん延期	コンダカヒメモノアラガイ	<i>Galba truncatula</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					茨城、千葉、愛知、京都、山口、高知		
再検討	68		ナガヒメモノアラガイ	<i>Austropeplea</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	69		モノアラガイの1種	<i>Lymnaea</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	70		オカモノアラガイの1種	<i>Succineidae</i> gen. et sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	71		チャーリー-サナギモドキ	<i>Pupoides albilabris</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	72		メリーランドスナガイ	<i>Gastrocopta procera</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	73		ナタネガイ類の1種	<i>"Punctum" sp.</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	74		キバサナギガイ属の1種	<i>Vertigo</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	75		ツヤミジンマイマイ(ウツクシミジンマイマイ)	<i>Vallonia pulchella</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	76	定着初期／限定分布	オカクチキレガイ	<i>Subulina octona</i>				-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○					茨城		
再検討	77	分布拡大期～まん延期	トクサオカチョウジガイ	<i>Paropeas achatinaceum</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					北海道、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島		
再検討	78	定着初期／限定分布	オオオカチョウジガイ	<i>Lamellaxis gracilis</i>				-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○					沖縄		
再検討(候補)	79	分布拡大期～まん延期	コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	Ⅱ			○	-	◎	-	-	-	◎	-	○	-	○	農作物や家庭菜園の植物の食害や観賞用の花卉類、特に高価なラン類の花芽を食害する種として知られている。在来陸産貝類(野外飼育されている生息域外保全個体)の卵を捕食、高密度になり保全に影響を及ぼす。				北海道、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎、沖縄	環境省関東	
再検討	80	分布拡大期～まん延期	ヒメコハクガイ	<i>Hawaia minuscula</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					茨城、千葉、山口、高知、宮崎		
再検討	81	定着初期／限定分布	ウスグチベッコウ	<i>Oxychilus cellaria</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○					北海道		
再検討	82	定着初期／限定分布	ノハライシノシタ	<i>Helicodiscus inermis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					千葉、滋賀、茨城、山口		
再検討	83		モリイシノシタ	<i>Helicodiscus</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	84		ヒナノイシノシタ	<i>Helicodiscus</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入							
再検討	85	分布拡大期～ま ん延期	コウラナメクジ	<i>Limax flavus</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	コウラナメクジ科は検疫有害動物				北海道、千葉、京都、鳥 取			
再検討	86	分布拡大期～ま ん延期	ノハラナメクジ	<i>Deroceras laeve</i>				-	-	-	-	-	-	-	○	-	○				北海道、茨城、千葉、愛 知、山口、宮崎				
再検討	87	分布拡大期～ま ん延期	チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i>				○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	コウラナメクジ科は検疫有害動物		日本		北海道、福島、茨城、千 葉、愛知、京都、兵庫、 和歌山、鳥取、山口、徳 島、愛媛、高知、福岡、 宮崎、鹿児島、沖縄			
再検討	88	分布拡大期～ま ん延期	ニヨリチャコウラナメクジ	<i>Ambigolimax nyctelius</i>				-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	コウラナメクジ科は検疫有害動物 <i>Lehmannia nyctelia</i> はシノニム			○				
再検討	89		チャコウラナメクジの1種	<i>Lehmannia</i> sp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○								
再検討	90	定着初期／限定 分布	アシヒダナメクジ	<i>Eleutherocaulis alte</i>				○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	広東住血線虫の中間宿主。				鹿児島		
再検討	91	定着初期／限定 分布	ヒラコウラベッコウガイ	<i>Parmarion martensi</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	広東住血線虫の中間宿主。				沖縄		
再検討	92	定着初期／限定 分布	ヒメリンゴマイマイ	<i>Helix asperata</i>				○	-	-	-	-	-	-	○	○	○				○	茨城、京都			
再検討	93	定着初期／限定 分布	ヨーロッパヒラガキ	<i>Ostrea edulis</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	岩手県内で主に養殖ホタテやマガキに付着して定着。			○				
再検討 (候補)	94	分布拡大期～ま ん延期	ヒレイケチョウガイ	<i>Hyriopsis cumingii</i>	I			-	◎	-	-	-	-	-	-	-	○	○	ヒレイケチョウガイ交雑種(イケチョウガイ(琵琶湖固有種)とヒ レイケチョウガイ(中国産)との交雑種)が真珠養殖に用いら れ、遺伝的攪乱が広域に生じている。				茨城、滋賀		
再検討	95		シジミ類	<i>Corbicula</i> spp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	96	未定着	マメツブガイ	<i>Gemma gemma</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	米国西部では、侵略的外来種のヨーロッパミドリガニ(<i>Carcinus maenas</i>)が在来種の二枚貝の生息数を減少させた。別の外 来種のマメツブガイ(<i>Gemma gemma</i>)は、それまで在来種の 二枚貝と競合し て50年以上もの間局所的に少数分布するのみであったが、在 来種の二枚貝の減少によって爆発的に増加、拡散した			○			
再検討	97	分布拡大期～ま ん延期	ウスカラシオツガイ	<i>Petricola</i> sp. cf. <i>lithophaga</i>				○	-	-	-	-	-	-	○	-	○					千葉、愛知、京都、和歌 山			
再検討	98	定着初期／限定 分布	ヌマコダキガイの1種	<i>Potamocorbula</i> sp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	99	未定着	ゴカイ科の1種	<i>Alitta virens</i>		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	100	定着初期／限定 分布	ナデシコカンザシ	<i>Hydroides dianthus</i>				○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	情報不足							
再検討	101		ヤマトジュズイミズ	<i>Drawida japonica</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	102		ヒモミズ科の一種	<i>Pontoscolex corethrurus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	103		カッショクツリミズ	<i>Aporrectodea caliginosa</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	104		バライロツリミズ	<i>Aporrectodea rosea</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	105		クロイロツリミズ属の一 種	<i>Aporrectodea trapezoides</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	106		クロイロツリミズ属の一 種	<i>Aporrectodea tuberculata</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	107		キタフクロナシツリミズ	<i>Bimastos parvus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	108		ムラサキツリミズ	<i>Dendrobaena octaedra</i>		-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○			○				
再検討	109		フクロナシツリミズ属の一 種	<i>Dendrodrilus rubidus rubidus</i>		-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○			○				
再検討	110		フクロナシツリミズ属の一 種	<i>Dendrodrilus rubidus tenuis</i>		-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○			○				
再検討	111		シマミズ属の一種	<i>Eisenia andrei</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	112		シマミズ	<i>Eisenia fetida</i>		-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	釣り餌として流通しており、逸出が懸念される。生息適地は限 られ、森林生態系内からはほとんど採集されず、大きな影響は ないと考えている。				和歌山		
再検討	113		サクラミズ	<i>Eisenia japonica</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○							
再検討	114		カイヨウミズ	<i>Ocnodrilus occidentalis</i>		-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	全国的にも記録が少ない。リストに掲載した和歌山県では、 1945年以前の1例の記録があるのみ。その後の調査がほとん ど行われていないため、現状は不明。				和歌山		
再検討	115		ホタルミズ	<i>Microscolex phosphoreus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○				奈良			
再検討	116		イソミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	117		ハラメノウミズ	<i>Perionyx excavatus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	118		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas corticis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	119		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas glabrus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	120		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas gracilis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	121		クソミズ	<i>Amyntas hupeiensis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	122		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas minimus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	123		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas morrisi</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	124		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas papulosus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	125		アズマフトミズ属の一種	<i>Amyntas robustus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	126		フトミズ科の一種	<i>Duplodocodrilus schmardae macrochaeta</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						
再検討	127		フトミズ科の一種	<i>Duplodocodrilus schmardae schmardae</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足						

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入								
再検討	128		フクロフトミズ属の一種	<i>Metaphire californica</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	129		フクロフトミズ属の一種	<i>Metaphire peguana</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	130		アオキミズ	<i>Metaphire soulensis</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	131		コガタフトミズ	<i>Pithemera bicincta</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	132		ネッタイフトミズ属の一 種	<i>Polypheretima elongata</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	133		ヤドリミズ	<i>Cambarincola okadai</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	134	分布拡大期～ま ん延期	シグナルヒルミズ	<i>Sathodrilus attenuatus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○									
再検討	135	定着初期／限定 分布	キシロノギトン属の一種	<i>Xironogiton victoriensis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○									
再検討	136	定着初期／限定 分布	ホルトドリルス属の一種	<i>Holtodrilus truncatus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	情報不足								
再検討	137	未定着	アルテミア・フランキスカ ナ	<i>Artemia franciscana</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	138	未定着	ダフニア・ルムホルツィ	<i>Daphnia lumholtzi</i>		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				○					
再検討	139	未定着	ビトトレフェス・ロンギマス ス	<i>Bythotrephes longimanus</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-				○					
再検討	140	未定着	ケルゴパギス・ベンゴイ	<i>Cercopagis pengoi</i>		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-				○				
再検討	141	分布拡大期～ま ん延期	アメリカカブトエビ	<i>Triops longicaudatus</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	摂餌や産卵により土壌を攪拌し、植物の芽生えの生育を阻害。ある程度生育した苗を植える日本の稲作においては実害は出ていない。				茨城、愛知、滋賀、京 都、奈良、和歌山、鳥 取、高知、福岡				
再検討	142	分布拡大期～ま ん延期	アジアカブトエビ	<i>Triops granarius</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	摂餌や産卵により土壌を攪拌し、植物の芽生えの生育を阻害。ある程度生育した苗を植える日本の稲作においては実害は出ていない。				滋賀、奈良、鳥取、福岡				
再検討	143	定着初期／限定 分布	ヨ-ロッパカブトエビ	<i>Triops cancriformis</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	摂餌や産卵により土壌を攪拌し、植物の芽生えの生育を阻害。ある程度生育した苗を植える日本の稲作においては実害は出ていない。				茨城、滋賀				
再検討	144	定着初期／限定 分布	ヒメイカリムシ	<i>Lamproglena chinensis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○									
再検討	145	未定着	クタマルス・プロテウス	<i>Chthamalus proteus</i>		○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-				○					
再検討	146	定着初期／限定 分布	ズ-ジャンフジツボ	<i>Amphibalanus zhujiangensis</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	147	定着初期／限定 分布	アカシマフジツボ	<i>Amphibalanus venustus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○									
再検討	148	未定着	オ-ストロバラヌス属の1 種	<i>Austrobalanus imperator</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	149	未定着	オ-ストロメガバラヌス属 の1種	<i>Austromegabalanus nigrescens</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	150	未定着	エルミナス・モデストウス	<i>Elminus modestus</i>		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	151	未定着	ヒラフジツボ属の1種	<i>Tetraclitella purpurascens</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	152	分布拡大期～ま ん延期	ココボ-マアカフジツボ	<i>Megabalanus coccopoma</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	潮下帯の岩場に固まって生息するほか、漁業用の浮きや航路ブイ、船舶の船体にも付着				茨城、千葉、愛知、和歌 山、高知				
再検討	153	定着初期／限定 分布	ウンキノキテレ・オッキデ ンタリス	<i>Uncinocythere occidentalis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
再検討	154	定着初期／限定 分布	ツノオウミセミ	<i>Paracerceis sculpta</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○									
再検討	155	未定着	スフェロマ・クワイアナム	<i>Sphaeroma quoianum</i>		○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-				○					
再検討	156	未定着	オルコネクテス・ビリス	<i>Orconectes virilis</i>		○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-				○					
再検討	157	分布拡大期～ま ん延期	イッカククモガニ	<i>Pyromaia tuberculata</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					千葉、愛知、京都、和歌 山、高知、福岡				
再検討	158	未定着	カリブディス・ヘレルイ	<i>Charybdis helleri</i>		◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-				○					
再検討	159	定着初期／限定 分布	ミナトオウギガニ	<i>Rhithropanopeus harrisi</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	○	-				○	千葉、愛知				
再検討 (候補)	160	分布拡大期～ま ん延期	外来カワリヌマエビ属の 全種(シナヌマエビを除く)	<i>Neocaridina</i> spp.	I			◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、在来エビ類との競争的置換が確認されている。					中井委員、 地方公共団 体			
再検討 (候補)	161	分布拡大期～ま ん延期	チュウゴクスジエビ	<i>Palaemon sinensis</i>	IV			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	旧学名： <i>Palaemonetes sinensis</i> 河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、在来スジエビへの影響が懸念される。				茨城	中井委員、 環境省関 東、地方公共 団体			
再検討 (候補)	162	分布拡大期～ま ん延期	オオマリコケムシ	<i>Pectinatella magnifica</i>	IV			○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	各地の水域で突然大規模な発生が生じることがある。取水施設での取水障害等の被害が生じる可能性がある。				青森、福島、茨城、愛 知、京都、高知、福岡	中井委員			
再検討	163	定着初期／限定 分布	フサコケムシ科の一種	<i>Bugula stolonifera</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					愛知				
再検討	164	定着初期／限定 分布	マンハッタンボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○					京都、福岡			
再検討	165	定着初期／限定 分布	クロマメイタボヤ	<i>Polyandrocarpa zorritensis</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○					京都、高知、福岡			

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- ：現リストの掲載種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

2024.9.17版

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目														備考	抽出方法					
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散		①外来法		②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入								
新規	166	分布拡大期～ま ん延期	マツモトカイメン	<i>Heterorotula multidentata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○						愛知		
新規	167	分布拡大期～ま ん延期	ミマサカジ-カイメン	<i>Trochospongilla pennsylvanica</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	国内に分布拡大しているらしいが、ほかの情報は不明					高知		
新規	168	定着初期／限定 分布	イボヤギ	<i>Tubastraea coccinea</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○				
新規 (候補)	169	分布拡大期～ま ん延期	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>	Ⅳ			-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	○	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大と 個体数の増加が確認されている。ウズムシ類は捕食性であ り、在来水生動物に影響が懸念される。					茨城、和歌山、高知、福 島、京都、福岡	中井委員	
新規 (候補)	170	定着初期／限定 分布	エリマキコウガイビル	<i>Bipalium vagum</i>	Ⅰ、Ⅱ			-	-	◎	-	-	-	小笠 原	-	-	-	○	アジアベッコウマイマイやエリマキコウガイビルの分布拡大、オ ガサワラベッコウの急激な減少。						環境省関東 、地方公共団 体	
新規 (候補)	171	定着初期／限定 分布	ブラティデムス属の1種	<i>Platydemus</i> sp.2	Ⅱ			-	-	◎	-	-	-	小笠 原	-	-	-	○	節足動物を捕食。絶滅危機の固有トンボ成虫の捕食が確認さ れた。						環境省関東	
新規 (候補)	172	定着初期／限定 分布	オガサワラリクヒモムシ	<i>Geonemertes pelaensis</i>	Ⅰ、Ⅱ			-	-	◎	○	-	-	小笠 原	-	○	-	○	多様な節足動物を捕食。特に小笠原諸島の侵入地では土壌 動物が壊滅状態。					沖縄(オガサワラリクヒモ ムシ類似種)	環境省関東 (リクヒモム シ)、環境省 沖縄奄美(オ ガサワラリ クヒモムシ) 、地方公共団 体(オガサワ ラリクヒモム シ)	
新規	173	定着初期／限定 分布	シマミズウドンゲ	<i>Urnatella gracilis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城、福岡		
新規	174	定着初期／限定 分布	ジャガイモシロシストセン チュウ	<i>Globodera pallida</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	平成28年10月より植物防疫法に基づく緊急防除を開始					茨城		
新規	175	分布拡大期～ま ん延期	レンコンネモグリセンチュ ウ	<i>Hirschmanniella diversa</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-						千葉		
新規	176	定着初期／限定 分布	テンサイシストセンチュウ	<i>Heterodera schachtii</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	農林水産省による発生範囲調査、蔓延防止対策、検討会議					茨城		
新規	177	定着初期／限定 分布	アカナタネ	<i>Paralaoma servilis</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城		
新規	178	定着初期／限定 分布	アサリ近似種	<i>Ruditapes</i> sp. cf. <i>philippinarum</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-						千葉		
新規	179	定着初期／限定 分布	イスパニアマイマイ	<i>Eobania vermiculata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	広東住血線虫の中間宿主の可能性。					千葉		
新規	180	定着初期／限定 分布	インドヒラマキガイ	<i>Indoplanorbis exustus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○						和歌山、山口、鹿児島、 茨城、北海道、福岡、千 葉、滋賀		
新規	181	定着初期／限定 分布	ウスシジミ	<i>Corbicula papyracea</i>				-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城、千葉		
新規	182	分布拡大期～ま ん延期	オオコハクガイ	<i>Zonitoides nitidus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	マメ科牧草の葉を食う					山口		
新規	183	定着初期／限定 分布	オオネズミガイ	<i>Mammilla kurodai</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						和歌山		
新規	184	分布拡大期～ま ん延期	オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						北海道、茨城、愛知、高 知、山口、宮崎、千葉、 滋賀、京都、福岡		
新規	185	未定着	オリイレサカマキガイ	<i>Amerianna carinata</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	同科に侵略的外来種が存在する。人間活動で拡がる。					京都、福岡		
新規	186	未定着	キビガイ類	<i>"Kaliella" sp.</i>		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城		
新規	187	分布拡大期～ま ん延期	クロコンデウミウシ	<i>Polycera hedgpethi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○						愛知		
新規	188	定着初期／限定 分布	ケシガイ類の一種	<i>Carychium</i> sp.		○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城		
新規	189	定着初期／限定 分布	コビトノボウシザラ	<i>Pettancylus pettardi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○						千葉		
新規	190	-	ゴマフダマ	<i>Paratectonatica tigrina</i>						○						○			アサリへの被害 Natica tigrinalはシノニム					千葉		
新規	191	定着初期／限定 分布	シジミ属の一種(バチ型シ ジミ／北浦シジミ)	<i>Corbicula</i> sp. cf. <i>largillerti</i>		○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-						茨城、千葉		
新規	192	分布拡大期～ま ん延期	シロタエミノウミウシ属の 一種	<i>Tenellia adspersa</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○						愛知		
新規	193	定着初期／限定 分布	メリケンコザラ	<i>Ferrissia californica</i>				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	スジイリカワコザラ(<i>F. japonica</i>)はシノニム					茨城、愛知		
新規	194	定着初期／限定 分布	ゾウアメフラシ	<i>Aplysia gigantea</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						高知		
新規	195	定着初期／限定 分布	ツヤミジンマイマイ?	<i>Valonia pulchella</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-						千葉		
新規	196	定着初期／限定 分布	ソメワケダワラ	<i>Indoennea bicolor</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	固有種陸産貝類の捕食・絶滅。重要防除種。					宮崎、鹿児島		

リスト加除対象の候補種一覧<動物(その他無脊椎動物)>

：今回の検討から新たに候補として加わった種



- 継続：現リストの掲載種
- 再検討：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種
- 再検討(候補)：現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種
- 新規：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種
- 新規(候補)：現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用								付着 混入
新規	197	定着初期／限定 分布	タイワンドブガイ	<i>Sinanodonta woodiana</i>				○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-					茨城		
新規	198	未定着	タイワンハマグリ	<i>Meretrix sp.</i>		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	199	定着初期／限定 分布	タイワンレイシ	<i>Mancinella bufo</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					和歌山		
新規	200	定着初期／限定 分布	タスキガケサカマキガイ	<i>Physa sp. cf. gyrina</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉		
新規	201	定着初期／限定 分布	タソガレキシセウタ	<i>Melanochlamys kohi</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	202	分布拡大期～ま ん延期	チョウセンハマグリ	<i>Meretrix lamarckii</i>				○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-					鹿児島		
新規	203	定着初期／限定 分布	ドブガイ類の一種	<i>Sinanodonta sp.</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城		
新規	204	定着初期／限定 分布	ニワコウラナメクジ	<i>Milax gagates</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-					千葉		
新規	205	定着初期／限定 分布	ヒメベッコウ類の一種	<i>“microcystis” sp.</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城		
新規	206	定着初期／限定 分布	ヒメマルマメタニシ類似種	<i>Bithynia sp.</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	寄生虫の宿主の可能性				茨城、千葉		
新規	207	分布拡大期～ま ん延期	ヒメモノアラガイ	<i>Austropeplea ollula</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	在来生物への病気や寄生虫の媒介。				北海道		
新規	208	定着初期／限定 分布	ヒラタヌマコダキガイ	<i>Potamocorbula laevis</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	人間活動で拡がる。				福岡		
新規	209	定着初期／限定 分布	ヒラマキミズマイマイ類	<i>Gyraulus sp. cf. illibatus</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規 (候補)	210	分布拡大期～ま ん延期	ヒロマキミズマイマイ	<i>Menetus dilatatus</i>	Ⅳ			○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、ハプタエモノアラガイと同様に生態系被害が想定される。				愛知、京都、福島、滋賀、福岡	中井委員	
新規	211	分布拡大期～ま ん延期	ホソオカチョウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					北海道		
新規	212	定着初期／限定 分布	ホソヤツメタ	<i>Glossaulax hosoyai</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					千葉		
新規	213	分布拡大期～ま ん延期	マルナタネ	<i>Pupisoma orcula</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、宮崎、鳥取		
新規	214	定着初期／限定 分布	メリケンスナガイ	<i>Gastrocopta contracta</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					愛知		
新規	215	定着初期／限定 分布	ヤマトシジミ種群	<i>Corbicula sp. cf. japonica</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、千葉		
新規	216	定着初期／限定 分布	ヨソカラモノアラガイ	<i>Radix plicatula</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城		
新規	217	定着初期／限定 分布	ケショウオカモノアラガイ	<i>Succinea cf. luteora</i>				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	寄生虫を在来の貝類に移す恐れがある				沖縄		
新規 (候補)	218	定着初期／限定 分布	アジアベッコウ	<i>Tanychlamys indica</i>	Ⅰ、Ⅱ			○	-	◎	-	-	-	小笠原	-	○	-	○	小笠原諸島母島で急速に分布拡大。陸貝の生貝の捕食を確認。植物の流通を介して拡散したと考えられる。				沖縄	環境省 関東、環境省 沖縄奄美、地方公共団体	
新規	219	定着初期／限定 分布	サンカクシタラ	<i>Kaliella microconus</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					沖縄		
新規	220	定着初期／限定 分布	セルピリススナガイ	<i>Gastrocopta servilis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○					沖縄		
新規	221	定着初期／限定 分布	コウワンミノウミウシ	<i>Trinchesia perca</i>				-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-					沖縄		
新規	222	分布拡大期～ま ん延期	ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata</i>				-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	九州、東日本、西日本に生息するヒメタニシは、いずれも自然的要因または人為的に中国から日本に侵入、移植され、その後互いに交雑を繰り返した外来種と考えられる。（ただし、人為による移動は8000年～1200年前ごろ）				北海道、茨城		
新規	223	定着初期／限定 分布	コシタカオカモノアラガイ	<i>Succinea sp.</i>				○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	同じ属の何種は繁殖力が高くて侵入種として認識されている				宮崎		
新規	224	定着初期／限定 分布	アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>				-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					茨城、福岡		
新規 (候補)	225	未定着	ザリガニ科の全種（ウチダザリガニ（タンカイザリガニを含む）を除く）	Astacidaeの全種（ <i>Pacifastacus leniusculus</i> を除く）	Ⅰ	○	-	◎	-	○	○	-	◎	-	-	○	-	-	令和2年、特定外来生物に指定						
新規 (候補)	226	未定着	アメリカザリガニ科の全種（アメリカザリガニを除く）	Cambaridaeの全種（ <i>Procambarus clarkii</i> を除く）	Ⅰ	○	-	◎	-	○	○	○	◎	-	-	○	-	-	令和2年、特定外来生物に指定						
新規 (候補)	227	未定着	アジアザリガニ科の全種（ニホンザリガニを除く）	Cambaroididaeの全種（ <i>Cambaroides japonicus</i> を除く）	Ⅰ	○	-	○	-	○	○	-	○	-	-	○	-	-	令和2年、特定外来生物に指定						
新規 (候補)	228	未定着	ミナミザリガニ科の全種	Parastacidae	Ⅰ	○	-	◎	-	○	○	○	◎	-	-	○	-	-	令和2年、特定外来生物に指定						

リスト加除対象の候補種一覧＜動物(その他無脊椎動物)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用								付着混入
新規	229	未定着	アオガニ	Callinectes sapidus		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-					高知			
新規	230	定着初期／限定分布	オオビワミジンコ	Daphnia pulicaria		／	／	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	○					滋賀			
新規	231	未定着	オオミジンコ	Daphnia magna		○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-					滋賀			
新規	232	未定着	カイアシ類の一種	Lamproglana chinensis		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					京都			
新規 (候補)	233	-	シナヌマエビ	Neocaridina davidi	I	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	水槽の掃除屋として飼育されるものの、魚が死んだ際に残ったエビ類だけが放流される可能性。釣り餌として販売され、餌として使用されなかったものが放逐される可能性。				千葉、滋賀、福岡			
新規	234	定着初期／限定分布	シラハマオーストラリアカブトエビ	Triops strenuus		／	／	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					和歌山			
新規	235	定着初期／限定分布	ホンコンシオマネキ	Gelasimus borealis		／	／	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					宮崎			
新規	236	分布拡大期～まん延期	モンツキイシガニ	Charybdis lucifera		／	／	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-					高知			
新規	237		外国産スジエビ	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報不足。滋賀県外来種リスト2019では、侵入警戒外来種に指定。				滋賀			
新規	238	分布拡大期～まん延期	ビーシュリンプ等のカワリヌマエビ属改良品種	Neocaridina sp.		／	／	○	○	-	-	○	-	-	-	◎	-					沖縄			
新規	239	未定着	エルミニウス属の1種	Elminius modestus		○	◎	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-				○				
新規	240	分布拡大期～まん延期	ナンオウフジツボ	Perforatus perforatus		／	／	○	-	-	-	○	-	-	○	-	○					福岡			
新規	241	定着初期／限定分布	ハクライオウギガニ	Acantholobulus pacificus		／	／	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○					愛知、千葉			
新規	242	分布拡大期～まん延期	フサコケムシ	Bugula neritina		／	／	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-				○				
新規	243	-	コケムシ類の1種	Watersipora subtorquata		-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-				○				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(その他無脊椎動物)＞

 : 今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

現リスト掲載種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目											備考	抽出方法							
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害			逸出・拡散		①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業		利用	付着 混入						
継続	1	国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種	自然分布域外のサキグロタマツメタ	Euspira fortunei	I ,Ⅲ			-	-	◎		-	○	-	-	◎	-	◎	外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。				静岡、長崎		

リスト作成後の情報追加により再検討を行う種

検討区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
再検討	2		マシジミ	Corbicula laena																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(その他無脊椎動物)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- :現リストの掲載種

:現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

:現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

:現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

:現リスト作成時に候補となっており、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目													備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害		逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候		人体	経済 産業	利用	付着 混入								
新規	4	国内由来の外 来種	エビヤドリツノムシ (県外産個体群)	Scutariella japonica				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	カワリヌマエビ属に付着する。				滋賀				
新規	5	国内由来の外 来種	コガタウズムシ	Phagocata kawakatsui				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	琵琶湖では1990年に初めて確認、国内外来種と思われる。				滋賀				
新規	6	国内由来の外 来種	イケチョウガイ	Sinohyriopsis schlegeli				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-					茨城				
新規	7	国内由来の外 来種	イシガイ (琵琶湖型)	Nadularia douglasiae [Lake Biwa-ko type]				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					茨城				
新規	8	国内由来の外 来種	イボカワニナ	Biwamelania multigranosa				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	生態系被害。				茨城			
新規	9	国内由来の外 来種	ウスイロオカチグサ	Solenonphala debilis				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-				愛知、高知、宮崎、千 葉、滋賀、京都				
新規	10	国内由来の外 来種	ウスカワマイマイ	Acusta sieboldiana				-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○				北海道				
新規	11	国内由来の外 来種	ウメノハナガイモドキ	Felaniella sowerbyi				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				千葉				
新規	12	国内由来の外 来種	オオトカラノミギセル	Metazaptix saccatibasis				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ゴミの移動に伴い導入され、ゴミ捨て場に定着。日本固有種。				鹿児島			
新規	13	国内由来の外 来種	カワアイ	Pirenella pupiformis				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○				千葉				
新規	14	国内由来の外 来種	カワシンジュガイ	Margaritifera laevis				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				千葉				
新規	15	国内由来の外 来種	キュウシュウナミコギセル	Tauphadusa subaculus				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				千葉				
新規	16	国内由来の外 来種	クルマヒラマキガイ	Hippeutis cantori				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				滋賀				
新規	17	国内由来の外 来種	コガタカワシンジュガイ	Margaritifera togakushiensis				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				茨城				
新規	18	国内由来の外 来種	コケガラス	Modiolus metcalfei				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○				千葉				
新規	19	国内由来の外 来種	コハクオナジマイマイ	Bradybaena pellucida				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-				茨城、愛知、福島、千 葉、滋賀、京都			
新規	20	国内由来の外 来種	スナガイの一種	Gastrocopta sp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				千葉				
新規	21	国内由来の外 来種	チリメンカワニナ	Semisulcospira reiniana				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				茨城、千葉				
新規	22	国内由来の外 来種	ナミマイマイ	Euhadra sandai communis				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				宮崎				
新規	23	国内由来の外 来種	ノミギセル類	Zaptix sp.				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				茨城				
新規	24	国内由来の外 来種	ハゴロモガイ (浦ノ内湾個体群)	Diluvarca ferruginea				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				高知				
新規	25	国内由来の外 来種	バツラマイマイ	Discus pauper				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	広東住血線虫の中間宿主の可能性。植栽と混入。				茨城、千葉			
新規	26	国内由来の外 来種	ハマグリ	Meretrix lusoria				○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-				千葉				
新規	27	国内由来の外 来種	ヒタチマイマイ	Euhadra brandtii brandtii				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	広東住血線虫の中間宿主の可能性。千葉県では定着は小面積だが、保護されている場所なので本種だけの駆除は難しい。				千葉			
新規	28	国内由来の外 来種	ヒダリマキマイマイ	Euhadra quaesita				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				滋賀				
新規	29	国内由来の外 来種	ヘソカドケマイマイ	Aegista (Plectotropis) conompha				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-				宮崎			
新規	30	国内由来の外 来種	ホソウミニナ	Batillaria attramentaria				○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-				千葉				
新規	31	国内由来の外 来種	マルドブガイ	Anodonta calipygos				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-				鳥取				
新規	32	国内由来の外 来種	ミジンマイマイ	Valonia pulchellula				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				茨城、千葉				
新規	33	国内由来の外 来種	ヤマクルマ	Spirostomajaponicum japonicum				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	広東住血線虫の中間宿主の可能性。観葉植物との混入。				千葉			
新規	34	国内由来の外 来種	ワスレイソジミ	Nuttallia obscurata				-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	食用関連の廃棄で混入。				千葉			
新規	35	国内由来の外 来種	シュリマイマイ	Satsuma mercatoria				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	自然分布域外に拡大している。				沖縄			
新規	36	国内由来の外 来種	ミヤコマイマイ	Satsuma miyakoensis				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				沖縄				
新規	37	国内由来の外 来種	日本本土のカワニナ類	Semisulcospira spp. (S. libertina, S. reiniana)				-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-				沖縄				
新規	38	国内由来の外 来種	アサリ	Ruditapes philippinarum				○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	産業管理種				鹿児島、千葉			
新規	39	国内由来の外 来種	ウネナシトマヤガイ	Neotrapezium liratum				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				茨城、千葉				

リスト加除対象の候補種一覧　＜動物(その他無脊椎動物)＞

：今回の検討から新たに候補として加わった種

- 継続

再検討

再検討(候補)

新規

新規(候補)
- : 現リストの掲載種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回も事務局としては非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に非掲載となった種で、今回は事務局で掲載候補と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象としたが事務局で非掲載と判断した種

: 現リスト作成時に候補となっておらず、今回新たに検討対象とした結果、事務局で掲載候補と判断した種

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

2024.9.17版

リスト作成後の情報追加により新たに検討を行う種

検討 区分	No	定着段階	和名	学名	選定理由	評価項目												備考	抽出方法						
						定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要 地域	特に問題と なる被害	逸出・拡散			①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤意向調査	⑥その他	
						生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態 系改 変	繁殖	気候			人体	経済 産業								利用
新規	40	国内由来の外来種	ナハキビ	<i>Parakaliella nahaensis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					茨城			
新規	41	国内由来の外来種	キカイノミギセル	<i>Zaptyx kikaiensis</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					茨城			
新規 (候補)	42	国内由来の外来種	ヌノメカワニナ	<i>Melanoides tuberculata</i>	I			◎	-	-		○	-	小笠原	-	-	-	-	固有のオガサワラカワニナとの競合・入れ替わりが確認されているため。				愛知、滋賀、和歌山、鹿児島	地方公共団体	
新規	43	国内由来の外来種	在来種(オキナフウスカフマイマイ・タママイマイ)以外のウスカフマイマイ属	<i>Acusta spp.</i>				-	-	-	-	-	-	-	○	-	○					沖縄			
新規	44	国内由来の外来種	トガリオカクチキレ科の一種	<i>Ferussaciidae sp.</i>				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					沖縄			
新規	45	国内由来の外来種	サンカクフジツボ (浦戸湾個体群)	<i>Balanus trigonus</i>				○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○					高知		
新規	46	国内由来の外来種	ヌマエビ属 (ヌマエビ北中部群/ヌマエビ南部群・両側回遊種)	<i>Paratya sp.</i>				○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	同属の在来種への影響。水族観賞用で導入。				北海道		
新規 (候補)	47	国内由来の外来種	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata denticulata</i>	IV			◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	水槽の掃除屋として飼育されるものの、魚が死んだ際に残ったエビ類だけが放流される可能性。釣り餌として販売され、餌として使用されなかったものが放逐される可能性。				沖縄	地方公共団体		
新規	48	国内由来の外来種	カイヤドリウミグモ	<i>Nymphonella tapetis</i>				-	-	◎	-	-	-	-	-	○	-	○					北海道		
新規	49	国内由来の外来種	ギボシムシの一種	-				○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○					鹿児島		

候補種の抽出

- ①特定外来生物。(下記②～④で抽出された種で未判定外来生物にあたるものはその旨を記した。)
- ②IUCN及び日本のワースト100(在来種を除く全種が既に①に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN
- ③Global Invasive Species Database 掲載種を追記する。
- ④都道府県の外来種リストに掲載されている種
- ⑤環境省の地方環境事務所、都道府県、地方公共団体、検討委員への意向調査による候補種
- ⑥その他:過去のリスト作成時の候補種(※)や事務局等の情報収集により、近年問題を及ぼしている/及ぼす可能性が危惧される種
※「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)の外来種リスト等を元に、日本に定着している外来種をリスト化した上で以下のものについて追記を行い検討されたもの。

リスト加除対象の候補種一覧 <植物>

【国外由来の外來種】

現行リスト掲載種と現行リスト作成時に検討対象となったが掲載外とした種について、現行リスト公表後に情報更新した部分

- 掲載(変更) : 現行リスト掲載種で変更がある種。
削除(候補) : 現行リスト掲載種で削除を検討する種。
再検討 : 現行リスト作成時に掲載外とした種で、今回新たな情報追加により再検討を行う。
再検討(候補) : 現行リスト作成時に掲載外とした種で、今回新たな情報追加により再検討を行う掲載候補種。
新規 : 現行リスト作成後の新規の追加種。
新規(候補) : 現行リスト作成後の新規の追加種で、掲載候補種。

(1)現行リスト掲載種

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
削除(候補)	2	未定着	カバノキ	ヨーロッパハシロノキ(オウシュウクロハシノキ、セイヨウヤマハシロノキ、グルチノザハシロノキ)	<i>Alnus glutinosa</i>	湿地	Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	○	○	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部、北アフリカ原産。オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ、合衆国等に導入。	－	20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	北海道、青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽される。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	便覧、有用、園芸事典、JF	
削除(候補)	3	未定着	クワ	フランスゴムノキ(コバノゴムビワ、コバノゴム)	<i>Ficus rubiginosa</i>		Ⅳ	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	オーストラリア原産。ヨーロッパ、北アメリカ、太平洋諸島に導入。	－	30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地。環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹や街路樹等として広く植えらる。	種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイチジク属のガジュマルは、小笠原で問題になっている。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	JF
削除(候補)	5	未定着	カエデ	ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ)	<i>Acer platanoides</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	◎	(◎)	－	－	－	○	－	ヨーロッパ(イギリスを除く)からカフカス地域の原産。イギリスや北アメリカに導入。	－	28m、落葉高木	海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育する。湿潤な温帯地域に生育する。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。	日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。雌雄同株。APG分類体系ではムクロジ科。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、JF、日本造園学会
掲載(変更)	6	未定着→定着初期／限定分布	カエデ	アメリカハナノキ(ベニカエデ、アカカエデ)	<i>Acer rubrum</i>	ハナノキの生育地の周辺	Ⅰ	○	◎	－	－	－	◎	○	○	○	－	－	－	◎	－	アメリカ北部、カナダ原産。イギリスやアメリカ合衆国などに導入。	長野県、岐阜県、愛知県のハナノキの植栽地で混入が確認され、岐阜県では実生の定着も確認された。	40m、落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧Ⅱ類(VU)のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こしている。APG分類体系ではムクロジ科。	⑪その他:勝木委員	樹木、日本生態学会第60回全国大会(2013)講演要旨、GCW、菊池ら2015
削除(候補)	7	未定着	グミ	ホソグミ(ロシアンオリーブ、ヤナギバグミ、スナナツヅ)	<i>Elaeagnus angustifolia</i>	湿地や河原	Ⅳ	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	ヨーロッパ南部から西アジア原産。ヨーロッパ中部、アフリカ北部、北アメリカに移入。	－	9m、落葉低木、刺がある	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地、森林に生育する。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本との競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にされる。	日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、園芸事典
削除(候補)	9	小笠原・南西諸島／未定着	ヤルマ	ヤツデグワ(ガルト)	<i>Cecropia peltata</i>		Ⅳ	◎	○	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	熱帯アメリカ原産。熱帯アフリカ、熱帯アジア、太平洋諸島に分布。	－	20m、常緑高木	森林の低地に多いが、攪乱地、溶岩層、森林のギャップ、植林地などに生育する。	沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥に運ばれる。	①要注意、②W100:IUCN、⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	ブラジル、外来生物、藤井委員
削除(候補)	10	小笠原・南西諸島／未定着	ヤルマ	ケクロピア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>		Ⅳ	◎	○	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ポリネシア等に導入。	－	20m、常緑高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育する。	日本では温室での栽培例がある。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥やコウモリに運ばれる。辻・日置(2017)は本種には侵略性がないと評価している。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	藤井委員、辻・日置2017
削除(候補)	11	小笠原・南西諸島／未定着	トベラ	シマトベラ(トウソゴ)	<i>Pittosporum undulatum</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	オーストラリア東部原産。ヨーロッパ南部、アフリカ南部、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、ハワイ、台湾に分布。	二	14m、常緑低木	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育する。	日本でも栽培されている。海外では、防風や観賞用に植えられ、材はゴルフクラブや薪炭に利用され、蜜源にもなる。	有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。小笠原諸島の固有新種のムニンベラに誤認された。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	園芸事典、IPSW、牧野、豊田(2014)
削除(候補)	12	小笠原・南西諸島／未定着	フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ、スリナムチェリー、ブラジリアンチェリー、カイエンチェリー、カボチャアデク)	<i>Eugenia uniflora</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	－	○	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	ブラジル原産。熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカ南部にも導入。	－	10m、常緑の低木または小高木	自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	⑦各県:沖縄、⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、JF	
削除(候補)	13	小笠原・南西諸島／未定着	フトモモ	ムラサキフトモモ(アマゾンオリーブ、ジャンボラン、ヨウミヤクアデク、メシゲラック、ムレザキフトモモ)	<i>Syzygium cumini</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	インドからマレーシア原産。東南アジア、オーストラリア北部、アフリカ、合衆国南東部、熱帯アメリカ、太平洋諸島に分布。	－	30m、常緑高木	自然林に生育する。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件で生育する。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用にするために栽培される。観賞用、薬用、木材などに利用される。種なしの品種もある。日本でも流通している。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、JF	
削除(候補)	14	小笠原・南西諸島／未定着	ノボタン	アメリカクサノボタン(クリデミア・ヒルタ)	<i>Glidemia hirta</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	熱帯アメリカ原産。熱帯アフリカ、熱帯アジア、太平洋諸島やインド洋に導入。	－	4m、常緑低木	自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林に生育する。	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物によい。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい、挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。	①要注意、②W100:IUCN、③村中・C、⑩海外・ISSG、⑪その他:藤井委員、⑫角野委員(削除)	園芸事典、藤井委員
削除(候補)	15	小笠原・南西諸島／未定着	ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサリア、オクトパスツリー、ハナフカ)	<i>Schefflera actinophylla</i>		Ⅳ	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	オーストラリア、ニュギニア原産。合衆国南東部、太平洋諸島に分布する。	－	30m、常緑高木	自然林、攪乱地、市街地に生育する。	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	JF、IPSW	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入										
削除 (候補)	16	小笠原・南西諸島／未定着	ヤブコウジ	コウトウタチバナ (セイロンマンリョウ、ウミベマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	インド南部～中国南部原産。合衆国南東部、カリブ海、インド洋諸島、ハワイ諸島等に分布。	—	6m、常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域の海浜や湿潤な森林等に生育する。	観賞用に利用される。日本でも流通している。		①要注意、②W100:IUCN、⑦各県:沖縄、海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	Ylist、JF、外来生物、IPSW		
削除 (候補)	17	小笠原・南西諸島／未定着	ガガイモ	オオバナアサガオ (インドゴムカズラ)	<i>Cryptostegia grandiflora</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。	—	30m、常緑のつる性木本	農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海浜に生育する。	観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱を立てて庭木としている。刈りこめば低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取される。第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海浜地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り播き)、取木。散布による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える(日本造園学会)。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会		
削除 (候補)	18	小笠原・南西諸島／未定着	ノウゼンカズラ	ネコノツメ(トラノツメ、マクファディエナ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。直樺以外の全ての大陸で見られる。	—	20m、常緑の草本性の植物	自然林、植林、草原、攪乱地、市街地に生育する。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	<i>Macfadyena=Dolichandra</i> 。案外に耐寒性がある。軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF		
掲載 (変更)	19	小笠原・南西諸島 ※未定着を削除	キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ(ウリハローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>		Ⅳ			◎	×	—	◎	○	○	◎	○	—	—	○	—	インド～東南アジア原産。オーストラリア、熱帯アメリカ、セイシャル諸島、ハワイ諸島に分布。	2018年に屋久島での確認が報告された。	10m、つる性の常緑樹	自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育する。日本では、関東南部、横浜などで近年、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にされる。	寒さで傷みやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。2018年に屋久島で記録がある。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist、田中・田中2018		
掲載 (変更)	20	小笠原・南西諸島 ※未定着を削除	リュウゼツラン	アツバチトセラン(サンセベリア、サンセベリア・トリファッシュアーク、チトセラン、トラノオラン)	<i>Sansevieria trifasciata</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(○)	○	—	—	○	—	熱帯西アフリカ原産。太平洋諸島、オーストラリア、インド洋初頭、アジア、合衆国などに導入された。	小笠原で野生化している。	1m、多肉の多年草	耐陰性がある。越冬には12～15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。	観葉鉢物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。	小笠原で野生化しているのは近縁種のチトセラン <i>S. nilotica</i> とされていた。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG、⑪その他:環境省関東	有用、園芸事典、JF、PIER、GCW、写真図鑑		
削除 (候補)	21	小笠原・南西諸島／未定着	イネ	ダイサンチク(タイサンチク、キンシチク)	<i>Bambusa vulgaris</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	東海地方以西でまれに栽培される。	20m、高木	自然林、植林地、川岸、攪乱地、水路に生育する。湿気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。	庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いだけのこは食用にされる。	近縁種のホウライチク <i>B. multiplex</i> インドシナ原産説と九州、琉球野生説がある。西表島では逸出が報告されている。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本Ⅱ、梶田ら2022		
削除 (候補)	22	小笠原・南西諸島／未定着	ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等に分布。	露地栽培の北限は九州南端とされる。	30m、常緑高木	海岸、自然林、河岸、攪乱地、市街地に生育する。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。	優美な姿を觀賞するために栽植される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。		⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、園芸事典、JF		
掲載 (変更)	41	分布拡大期～まん延期	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	ため池、湖沼	Ⅳ			◎	○	—	◎	◎	◎	◎	○	—	(◎)	◎	—	約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布。	明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄で栽培され、野生化。各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でない。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含み、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属。名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ <i>N. odorata</i> が侵略的とされている(ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ローデシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. sterlata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。大きな葉で遮光し、水生動植物に影響を与え、オニバス、ジュンサイ等と競合し、駆逐する懸念がある。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:水生31、⑦各県:福島・愛知・徳島・香川・高知・福岡・宮崎・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫角野委員(カテゴリ変更)	有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、JF、 http://www.bdnagoy.jp/introduction/activities/water_lily.html、角野		
掲載 (変更)	43	分布拡大期～まん延期	アブラナ	オランダガラシ(クレソン、ウォータークレス、ミズガラシ、オランダミズガラシ)→米倉委員よりオランダガラシ属へ変更の意見	<i>Nasturtium officinale</i>	池沼や溪流	Ⅳ、Ⅴ			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	○	—	◎	◎	—	ヨーロッパ、中央アジア原産。南北アメリカ、オセアニアなど、熱帯国を含む、ほぼ世界中に分布。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m、抽水性の多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湧水のある池、湖畔、山間の溪流などの水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を薬用にする。	農業用排水路の水流を妨げる雑草等としても駆除される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。茎部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。	①要注意、③村中:B、④FAO:9、⑤対策:H23:1、⑥専門家:水生37、⑦各県:北海道・福島・埼玉・千葉・長野・愛知・和歌山・徳島・香川・愛媛・高知・福岡・宮崎、⑧河川:40.75.86、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、外来生物、園芸事典		
掲載 (変更)	56	分布拡大期～まん延期	クマツヅラ	シチヘンゲ(ランタナ、ヨウオウカ)→米倉委員よりランタナ類へ変更の意見	<i>Lantana camara</i>	暖地の海岸	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	—	(◎)	○	—	北アメリカ南部～熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。	5m、半つる性の常緑低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コバノランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が数多く作出されている。暖帯域では路地で、温帯域では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。	土壌中に窒素を蓄積する。自家受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	①要注意、②W100:IUCN、③村中:C、④FAO:8、⑥専門家:海洋島28、⑦各県:愛知・愛媛・徳島・和歌山・高知・福岡・宮崎・小笠原・奄美・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅰ、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF、IPSW		

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
削除 (候補)	67	定着初期 ／限定分布	オモダカ	ヒロハオモダカ (ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria platyphylla</i>	河川や湿地	Ⅳ			(◎)	Q	—	◎	◎	◎	○	○	—	(◎)	○	◎	北アメリカ原産。 オーストラリア、 ニュージーランド、 太平洋諸島やヨーロッパに分布。	1998年大阪府牧方市で初めて採集。	1.5m、抽水性の多年草	河川、水路、湖沼、湿地に生育する。豊かな環境を好む。	海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカ <i>S. weatherbiana</i> として、またはジャイアントサジタリアの名前で利用されている可能性がある。	別学名 <i>S. graminea</i> var. <i>platyphylla</i> 。水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させる。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	志賀隆、大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ植物班、水草研究会誌、Vol.93, pp.13 - 22(2010)、水草Ⅱ、角野
掲載 (変更)	73	分布拡大期～まん延期	トチカガミ	外来セキショウモ (オオセキショウモ (ジャイアントパリスネリア)、セイウセキショウモ(パリスネリア・スピラリス)、コウガイセキショウモ) → <u>角野委員より、オーストラリアセキショウモ(オオセキショウモ)とコウガイセキショウモの2種に独立すべきとの意見。</u>	<i>Vallisneria gigantea</i> 、 <i>V. spiralis</i> 、 <i>V. x pseudorosulata</i>	池沼や溪流	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(○)	○	—	オオセキショウモはバブアニューギニア～オーストラリア原産?。セイヨウセキショウモは北アメリカ原産?世界中に分布。	オオセキショウモ:栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。 コウガイセキショウモ:千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、福岡県直方市、小竹町、柳川市、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認。	0.1～1.6m、沈水性の多年生	湖沼、河川など日当たりの良い水域に生育する。	オオセキショウモはアクアリウムプランツとして販売されているが、別種の可能性もある。 セイヨウセキショウモとして販売されているものには、セイヨウセキショウモとコウガイセキショウモが含まれる。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。 在来種はセキショウモ <i>V. nsatans</i> とコウガイモ <i>V. denseserrulata</i> 。セイヨウセキショウモ <i>V. spiralis</i> とパリスネリア・ナナ <i>V. nana</i> はISSGに掲載。	⑦各県:福岡、⑩海外・ISSG、⑪その他:藤井委員、⑫角野委員	水草Ⅲ、藤井・牧、未発表、Wasekuraら、2016、角野
掲載 (変更)	86	小笠原・南西諸島	モクマオウ	トクサバモクマオウ (トキワギョリュウ) → <u>米倉委員よりモクマオウ類への変更の意見</u>	<i>Casuarina equisetifolia</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。	琉球には明治初期、小笠原には1879(明治12)年に導入され、野生化。	20m、常緑高木	日当たりの良い砂地を好む。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ。耐塩性や耐乾性がある。	砂防林、防風林、肥料木、街路樹、公園樹として植栽される。材は薪炭用に、樹皮のタンニンが薬用に、海外では染料に利用される。日本では、地上戦で焦土となった沖縄の緑化樹として積極的に取り入れられた。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	落ち葉が林床に蓄積し、アレロパシー作用もある。奄美地域では、アジサン類の営巣地であるサンゴ砂にはびこり、野鳥の営巣地が破壊されたとされる。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島29、⑦各県:小笠原・鹿児島・奄美・沖縄、⑩海外・ISSG、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁
削除 (候補)	113	分布拡大期～まん延期	メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	都市近郊の森林林床	Ⅳ			◎	—	—	◎	○	◎	◎	—	—	—	○	—	中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本でも最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽される。	別学名は <i>Mahonia japonica</i> 。近縁種のセイヨウヒイラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。実生、挿木などで繁殖。	⑥専門家:雑木11、⑧河川:3,9,15、⑫角野委員(削除)	便覧、有用、木本Ⅰ、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、服部(1996)
削除 (候補)	123	分布拡大期～まん延期	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	照葉樹林	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	○	—	○	—	中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来。関東～琉球で逸出。	15m、落葉(熱帯では常緑)高木	自然林、植林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。	庭木、公園樹、街路樹として植栽される。盆栽にも利用される。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用等に利用される。	繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンも増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。	③村中:C、⑥専門家:草原23・雑木10、⑦各県:埼玉・兵庫・和歌山・高知・福岡、⑧河川:23,50,64、⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF、奥川・中坪(2009)、MAESAKOら(2007)、服部
削除 (候補)	124	定着初期 ／限定分布	ツリフネソウ	アカボシツリフネ (アカボシツリフネソウ、ケーブツリフネ、ケーブツリフネソウ)	<i>Impatiens capensis</i>	湿地	Ⅳ			◎	—	—	○	◎	◎	○	—	—	—	—	—	北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、野生化。	1992年渡来。千葉県野田市利根運河に大群落がある。	0.3～2m、一年草	湿生植物へに影響が懸念される。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、野生化している。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。	在来種のキツリフネ <i>I. noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネ <i>I. biflora</i> の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。辻・日置(2017)は本種には侵略性が無いと評価している。	⑦各県:千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW、辻・日置2017
掲載 (変更)	144	分布拡大期～まん延期	キク	コウリンタンポポ (エフデタンポポ) → <u>米倉委員よりコウリンタンポポ類へ変更の意見</u>	<i>Hieracium aurantiacum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(○)	○	—	ヨーロッパ原産。西アジア、北アメリカにかけて広く分布。	明治中期に渡来、戦後定着した。北海道～九州で逸出。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m、多年草	原産地では高山に生育する。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。乾いたところに多く、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強くない肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。	園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。磐梯山の高山のガレ場やお花畑、登山道沿いで繁茂し、パンダイクワタなどの高山植物と競合している。目立つオレンジ色の花で景勝地の夏の景観を大きく変えた。継続的な駆除が行われている。	⑦各県:北海道・福島、⑧河川:5,6,6、⑩海外:ISSG、⑫米倉委員(変更)	世雄Ⅰ、便覧、帰化植物、環境省、園芸事典、有用、JF、福島
掲載 (変更)	145	定着初期 ／限定分布	キク	キバナコウリンタンポポ (ノハラタンポポ、キバナノコリンタンポポ)→ <u>米倉委員よりコウリンタンポポ類へ変更の意見</u>	<i>Hieracium caespitosum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	—	—	—	○	◎	ヨーロッパ原産。北アメリカなどに分布。	1955年に確認され、北海道、岩手、福島、兵庫に分布。北海道では各地に広がっている。	0.5m、多年草	草地、路傍、休耕地に生育する。	JFコードに掲載されているキバナコウリンタンポポが本種かどうか不明である。	芝生などの種子に混入して拡大。根際からしばしば匍枝を出す。別学名YListは <i>Pilosella caespitosa</i> 、その他に <i>H. pratense</i> 、 <i>P. floribunda</i>	⑦各県:北海道、⑧河川:1,2,3、⑪その他、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、JF、帰化植物、YList
掲載 (変更)	146	分布拡大期～まん延期	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	亜高山帯	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(◎)	○	◎	ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。	江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。	0.8m、多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。	園芸植物として渡来、庭園で栽培される。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 。マーガレット(モクシユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。	③村中:B、⑤対策:H20,6、H23:1、⑥専門家:草原33、⑦各県:北海道条例・福島・高知、⑧河川:20,53,67、⑫角野委員(カテゴリ変更)	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雄Ⅰ

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
削除 (候補)	153	分布拡大期～まん延期	イネ	ハルガヤ(スイートバーナルグラス、 <u>パニラグラス</u>)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	里草地や山地草原	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	○	(○)	◎	－	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南アメリカ等で侵略的。	明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。	0.7m、多年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は低くあまり重要視されていない。緑化に利用される。甘みや香りを利用したハーブとして流通、利用されている。	甘いクマリンの芳香がする。世界的には牧草地の雑草とされる。	③村中:B、④FAO:7、⑥専門家:草原40、⑦各県:青森・福島・広島・徳島・高知、⑧河川:28.62.70、⑫角野委員(削除)	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、花粉、牧草、IPSW、JF
掲載 (変更)	162	小笠原・南西諸島	ムクロジ	コフウセンカズラ→ <u>米倉委員よりフウセンカズラ(広義)へ変更の意見</u>	<i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	○	◎	◎	○	◎	－	(○)	○	－	汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は北アメリカ南部原産。	渡来年代不明だが1961年には記載がある。鹿児島、琉球で逸出。	2m以上、つる性の一年～多年草	沖縄県(特に大東諸島、宮古諸島)では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所なら土質は特に選ばない。	基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は流通、販売され、觀賞用に栽培される。フウセンカズラは、海外では食用や薬用にされる。	果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強く、栽培が容易、病気、害虫はほとんどいない。	⑦各県:沖縄、⑪その他:横田委員、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、JF、有用、園芸事典、横田委員、GCW
掲載 (変更)	167	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ヤナギバレイソウ(ムラサキセイハナビ、ルエリア・フリトリアナ、リュエリア、メキシコベチューニア)→ <u>米倉委員よりルイランウ属へ変更意見</u>	<i>Ruellia brittoniana</i>	湿地や河原	Ⅳ			◎	×	－	○	◎	◎	○	○	－	－	○	－	メキシコ原産。アメリカ合衆国のフロリダ州やハワイで侵略的。	1974年頃、アメリカ軍により非意図的に沖縄本島に持ち込まれた。沖縄、九州、四国の南部で雑草化。	1m、多年草	河原や空地等の礫地や道路の舗装の隙間に生育する。湛水状態でも育つなど適応性幅が広い。日当たりの良い場所です周年開花する。	觀賞用の栽培が増え、様々な花の色の園芸品種が流通、栽培される。	南西諸島の水湿地で繁茂。別学名 <i>R. tweediana</i> 、 <i>R. caerulea</i> 、 <i>R. simplex</i> <i>R. malacosperma</i> 。萌芽は10～20個の扁平な種子を有する。現在は <i>Ruellia simplex</i> <i>C.Wright</i> が本種の学名として受け入れられている。	⑦各県:徳島・高知・奄美・沖縄、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸図鑑、GCW、USDA、WFO
削除 (候補)	172	小笠原・南西諸島	イネ	シマスズメノヒエ(ダリスグラス、 <u>パスパルムグラス</u>)	<i>Paspalum dilatatum</i>	里草地	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布。	1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	1.5m、多年草	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育する。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。	暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	③村中:C、⑦各県:広島・高知・福岡・奄美・沖縄、⑧河川:47.78.88、⑨三省:国道、⑫角野委員(削除)	粗飼料、便覧、写真図鑑、世雑Ⅲ、帰化植物
削除 (候補)	173	小笠原・南西諸島	イネ	タチスズメノヒエ(ペイジーグラス)	<i>Paspalum urvillei</i>		Ⅳ、Ⅴ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	◎	－	南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、アジアなどに分布。	1958年福岡で確認、本州(関東以西)、四国、九州、琉球。	1.5m、多年草	畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育する。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30～35℃。	本種の利用状況に関する情報は得られなかった。	鹿児島、沖縄のサトウキビ畑の強毒雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持つ。アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐去が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、椎葉村などの奥地にも広がっている。	③村中:C、⑦各県:広島・徳島・高知・福岡・宮崎・奄美・沖縄、⑧河川:19.42.64、⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	世雑Ⅲ、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物
掲載 (変更)	187	分布拡大期～まん延期	イネ	ナギナタガヤ(ネズミノシッポ)→ <u>米倉委員よりナギナタガヤ属へ変更の意見</u>	<i>Vulpia myuros</i>	海岸砂地、草原	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	－	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布。	明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。	密な群落を作って他の雑草を抑えるため、近年は果樹園や道端の雑草防除法の一つとして、改良品種を含むナギナタガヤが、流通、販売され、栽培されている。	これまでナギナタガヤはそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。	③村中:B、⑦各県:福島・高知・奄美、⑧河川:52.91.98、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅲ、勝山委員、便覧、写真図鑑、IPSW

(2) 現行リスト作成時の未掲載種の再検討(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討(候補)	1	分布拡大期～まん延期	マメ	シロツメクサ(ホワイトクローバー)	Trifolium repens	高山				◎	—	○	◎	◎	◎	○	○	—	○	◎	—	ユーラシア原産、ヨーロッパ、北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、亜寒帯～温帯に分布し、一部は熱帯に広がる。オーストラリアで侵略的となっている。	日本には江戸時代初期に入り、後に輸入されたものが広がった。北海道～琉球に分布。	茎の長さ1m、多年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育し、高地まで生える。耐寒性が強く、土壌の種類を選ばない。	・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法第10(三))として、増殖を行っている。 ・北海道のブルーリストでA2(本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種)に分類されている。 ・白山国立公園や、中部山岳国立公園の立山黒部アルペンルートなどで駆除の対象となっている。 ・種子と匍匐茎により繁殖する。種子は風、雨、動物、人間に分散される。家畜が食べても種子は生きている。畑地、休耕田、果樹園、芝生の雑草とされる。 オーストラリアでは、ダニの宿主となつて在来植物に大きな損害を与えた。	③村中:B、④FAO:7、⑤対策:H20:6、⑥専門家:草原47、⑦各県:北海道・京都、⑧河川:78,118,121、⑨三省:環・農・林・国・道、⑩海外:ISSG、⑫環境省沖縄畜産、地方公共団体、小山委員	世雑Ⅱ、便覧、雑管、農林水産省・林野庁、IPSW	
再検討	2	分布拡大期～まん延期	ナス	ワルナスビ	Solanum carolinens					◎	—	—	◎	◎	◎	○	—	○	◎	—	◎	北アメリカ原産、温帯～熱帯	明治末期に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、河原、市街地などに生育。乾燥や日陰に強い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	茎、葉の脈上、花序などに鋭い刺がある。ソラニンなどの有毒物質を含む。牧草に混入して分布拡大。繁殖力が非常に強く、侵入されると駆除が難しい。生態系被害も心配されるが、棘による人体被害が起きている。公園で遊んでいる子どもが被害を受けることがある。	①要注意、③村中:B、④FAO:7、⑤対策:H20:4、H23:2、⑦各県:埼玉・愛知・京都・鳥取・滋賀条、⑧河川:27.41.56、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、雑管、写真図鑑、牧草
再検討	3	分布拡大期～まん延期	ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ(ニワタバコ)	Verbascum thapsus					◎	×	—	◎	◎	◎	○	○	—	(○)	○	—	ヨーロッパ原産、アジア、オーストラリア、南北アメリカなど寒帯～温帯	明治初年に、観賞用に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球で分布。	2m、一年草	畑地、牧草地、放牧地、路傍、荒地、鉄道の路肩などに生育する。日当たりの良い砂質土壌に多い。土質を選ばずよく育ち、こぼれ種子で増えていく。	近縁種との雑種を含む園芸品種が観賞用に栽培される。薬用にする。	種子の生産量が多く、100年以上生存した事例がある。御殿場市で車道の往来で繁殖域の拡大につながっている状況にある。	⑥専門家:河原40、⑧河川:21.34.44、⑩海外:ISSG、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、便覧、帰化植物、JF、園芸事典、有用

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入										
再検討		4	分布拡大期～まん延期	キク	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>					◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	○	○	－	－	北アメリカ原産、温帯～熱帯に分布	1920年頃に渡来。北海道～九州、琉球に分布。	1.0m、多年草	畑地、水田畦畔、牧草地、道端、空地、芝地などいたる所にみられる強害草。	種子や苗が、通販サイトで流通している。	種子ならびに根茎による繁殖力が強力。古くから侵入しており、一定の影響はあるが、利用による分布拡大の可能性はなく、重要地域への影響は特に大きくないとの判断。昔から身近にあるため外来種ということが一般には知られていないように感じる。公園内にも多く生息しているが、草刈り作業でも刈り取られない。競合する在来種の生息域の消失につながると思われる。	①要注意、②W100:日本、③村中:C、⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原45、⑦各県:青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛条例・福岡・鹿児島、⑧河川:50.74.75、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、雑管、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物	
再検討(候補)		5	小笠原・南西諸島	イネ	シンクリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	隆起サンゴ礁で形成された石灰岩地	Ⅱ			◎	×	－	◎	○	◎	○	◎	－	(◎)	－	◎	熱帯アメリカ原産、北アメリカ、南ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋諸島など熱帯～亜熱帯に分布。	関東以西に分布。琉球、小笠原では古くから帰化。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃地を好み、乾いた土壌～湿った土壌に適応。隆起サンゴ礁で形成された石灰岩地に生育。	牛の採食圧に耐える良質の牧草とされる。	小笠原では返還時(1968年)頃の勢力はないものの、動物や人に付着して広がり、群落を拡大する。侵入年代が古く、勢力が衰えてきたこと、利用による分布拡大の可能性が低いことから掲載対象外とした。石灰岩地の海岸植生の保全を目的に、南島等で駆除作業を実施。管理計画にも記載あり。	⑤対策:H20<4、⑦各県:小笠原、⑪その他:環境省関東、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ、便覧、写真図鑑、帰化植物、便覧	
再検討(候補)		6	分布拡大期～まん延期	イネ	ナガハグサ(ケンタッキーブルーグラス)	<i>Poa pratensis</i>					○	－	－	○	◎	◎	○	○	○	◎	－	ヨーロッパからアジアが原産、北半球の温帯に広く分布する。	牧草として明治初年に渡来。北海道～九州に分布する。	0.8m、多年草	日当たりの良い山野に生える。湿地を好むが、比較的乾燥した土地にも適応し、耐寒性は強く、踏みつけに強いが、夏に弱い。	牧草や緑化植物として利用される。地下茎を伸ばして繁殖するので、土砂流出防止のため裸地や斜面に植えられる。	深い山中のものは自生品との説もあるため、リスト作成時には、「国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種」として検討した。	③村中:B、④FAO:8、⑧河川:38.65.81、⑨三省:農・国都・国道、⑩海外:ISSG、⑫江川委員、小山委員	野生植物2、イネ、雑管、粗飼料、花粉、便覧、有用		
再検討(候補)		7	未定着	キク	キダチカコウアザミ(仮)(アゲラティナ・アデノフォラ)	<i>Ageratina adenophora</i>		V		◎	○	(◎)	×	－	◎	(◎)	○	○	＝	＝	(○)	(○)	◎	メキシコ原産、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアに分布。	－	多年草	鉄道や道端などの荒地、農耕地、牧草地、開けた森林、林縁、川岸、湿った岩の多い海岸。	海外では19世紀には観賞用に利用されていた。日本での栽培は未確認。	種子は機械や設備、土壌、人間の衣服などへの付着・混入や、家畜、風、水で移動する。農作物や牧草地に悪影響を及ぼす可能性がある。家畜には有毒である。アレロパシー作用を持つ。	⑩海外:ISSG、⑫西田委員	Ylist、EPPO
再検討		8	定着初期／限定分布	ウコギ	セイヨウキツタ(イングリッシュ・アイビー、アイビー)	<i>Hedera helix</i>					(◎)			(◎)	(◎)	○	(◎)				○	地中海沿岸～西アジア原産。	渡来年代不明。千葉、大阪、香川で逸出。	長さ30m、常緑のつる植物。	耐寒性が強く、零下でも生育。林内で繁茂	観賞用植物として渡来。日本で栽培されるのは80品種以上。		⑩海外:ISSG、⑫地方公共団体	便覧、有用、観葉		
再検討(候補)		9	小笠原・南西諸島	ツククサ	ムラサキオモト(シンラン)	<i>Tradescantia spathacea</i>		Ⅱ			◎	×	－	○	○	○	◎	◎	－	－	○	－	メキシコ、西インド諸島原産	1816年渡来、琉球、小笠原諸島で逸出。	0.2m、常緑多年草	高温多湿を好む。小笠原諸島の一部で高密度で林床を覆っている。	園芸植物として渡来。実生が株分けで増やす。近年、矮性でよく分枝する品種が導入された。熱帯・亜熱帯ではグラウンドカバーとして用いる。	沖縄では遺棄されて野生化するものが増えてきた。	⑩海外:ISSG、⑪その他:環境省関東	便覧、園芸、園芸事典、写真図鑑	
再検討(候補)		10	小笠原・南西諸島	ツルムラサキ	アカザカズラ(マデイカズラ、ツルアカザ、オカワカズ)	<i>Anredera cordifolia</i>		Ⅱ			◎	×	－	×	◎	○	○	◎	－	－	○	－	南アメリカ原産、北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカ、東南アジア、ニュージーランドなどに分布。	明治末期に渡来。関東～九州、琉球の一部に分布。奄美大島内の数カ所で確認。	長さ3m、つる性で多肉性の多年草	日当たりよい場所を好み、他の植物や人工物に絡まりながら生長する。砂浜、森林、水辺など様々な環境に適応する。	観賞用のほか、食用にされることもある。	多肉質の葉で樹冠や地表を覆い、つるの重さで樹木が折れることもある。地中や地上に塊茎をつけ、茎の断片から生育する。地上の塊茎は、数年間は発芽能力を持つ。日本では結実しない。	⑦各県:奄美・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫環境省沖縄奄美	便覧、写真図鑑、帰化植物、POWO、CABI、IPSW	
再検討		11	分布拡大期～まん延期	カタバミ	イモカタバミ(フシネハナカタバミ)	<i>Oxalis articulata</i>					○			○	○	◎	○			○		南アメリカ(パラグアイ)原産。	1967年渡来。本州～九州で帰化。	0.3m、多年草	庭の空き地や道端、果樹園、草地、樹林	球根類として流通、販売される。		⑦各県:高知、⑧河川:4.25.43、⑪その他:外来種取扱事業者	便覧、帰化植物、JF		
再検討		12	分布拡大期～まん延期	ユリ	ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>					○	×	－	○	◎	◎	○				○	○	南アメリカ原産、北アメリカ、ヨーロッパに分布。	1890年頃、既に渡来。北海道～九州に帰化。	0.5m、多年草	畑、庭、路傍、放牧地などに生育。土壌の種類は選ばないが、日当たりの良い所を好む。	観賞用に導入されたい。	誤食のおそれ。	⑦各県:高知、⑧河川:0.2.10、⑪その他:外来種取扱事業者	世雑Ⅲ、便覧、写真図鑑、園芸事典	
再検討		13	分布拡大期～まん延期	ユリ	オオアマナ(オーニソガラム・ウンベラツム、オーニソガラム・ウンベラタム)	<i>Ornithogalum umbellatum</i>					○	×	－	○	○	○	○				○		地中海沿岸原産	1965年以前に渡来。北海道、本州(栃木、千葉、神奈川、長野)で逸出帰化。	0.3m、多年草	草地、樹林に侵入。耐寒性がある。	園芸植物として渡来。球根類として、流通、利用される。ヨーロッパでは昔饅頭を食用にした。	神奈川県箱根で駆除。小球で増殖し易い。繁殖力が高く在来種との競合。	⑤対策:H23:1、⑧河川:0.1.1、⑪その他:外来種取扱事業者、⑫地方公共団体	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF	
再検討(候補)		14	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>		Ⅱ			○	×	－	◎	◎	◎	○	○	＝	－	(○)	○	熱帯アメリカ原産、熱帯、亜熱帯を中心に温帯の一部にまで広がる	江戸時代末期に渡来。関東～琉球、小笠原に分布。	1.0m、一年草	畑地、樹園地、荒地、牧草地、路傍に生育。温暖で日当たりが良い肥沃地を好む。日陰地では生育が悪い。排水が良ければ土壌の種類を選ばない。	草花類として流通、利用される。	栽培種が母島で拡散し、環境省職員が駆除。	③村中:C、⑦各県:高知、⑧河川:14.31.36、⑪その他:環境省関東	世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF	
再検討(候補)		15	分布拡大期～まん延期	ケシ	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>					○	－	－	◎	◎	◎	○	－	○	○	○	ヨーロッパ原産、温帯	ムギ栽培に伴って広がった。日本では1960年に確認、北海道～琉球に分布。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、荒地、河原に生育。山地近くまで生える。温暖で日当たりのよい肥沃地を好むが、乾いた土地に多い傾向がある	種子やドライフラワーが、通販サイトで流通している。	環境省には被害の情報は無いが、一般の方からの問合せや、住民から相談を受けた市町村からの問合せも多い。冬作物の畑地雑草化が顕著。2つの亜種subsp. <i>lecoqii</i> とssp. <i>dubium</i> がある。哺乳類に有毒だが毒性は弱い。	⑤対策:H23:1、⑦各県:群馬・埼玉・広島、徳島、⑧河川:6.24.46、⑪その他:外来種取扱事業者、⑫環境省東北・中国四国、地方公共団体、小山委員	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、吉川2009、Cooper&Johnson、1884		
再検討		16	分布拡大期～まん延期	アブラナ	ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>					○	○		○	◎	◎	○			○		ユーラシア原産、温帯に分布し、一部は熱帯まで広がる	1988年渡来、本州に帰化。	0.3m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、荒地などに生育。平地から山地までみられる。日当たりの良いところか日陰地まで、各種土壌に適応。	交雑	⑦各県:栃木・広島、⑧河川:2.2.17、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物			
再検討		17	分布拡大期～まん延期	マメ	タチオランダゲンゲ	<i>Trifolium hybridum</i>	立山				○		○	○	○	◎	○	○		(○)	○	北ヨーロッパ原産、世界の温帯に広く帰化。	立山で他の種類とともに対策の対象となっている、明治年間に牧草として導入されたが、利用は少ない、全国で散発的に野生化。	0.5m、多年草	畑地、牧草地、芝地などに生育。日当たりがよく、冷涼で湿潤な地域に適する。	土壌中の種子の寿命は長い。立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑤対策:H20<4、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧			

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討	18	分布拡大期～まん延期	カタバミ	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>					○			○	○	◎	○	○		○	○		南アメリカ原産、熱帯～亜熱帯に分布し暖帯の一部にも広がる	江戸時代末期に渡来。北海道～琉球、小笠原で逸出、帰化。	0.3m、多年草	おもに南方地域(沖縄等)の農耕地の雑草。本州では栽培もされるが、イモカタバミの方が多い。畑地、樹園地、庭、芝地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃地を好む。	観賞用植物として渡来。	温帯では鱗茎で繁殖し結実しない。自然生態系への影響は特に大きくない? <u>果樹園などでの雑草化や、草地・樹林への侵入がみられる。生育環境が類似する在来の近縁種と競合する。</u>	①要注意、埼玉・⑦各県: 愛知・京都・高知・奄美、⑧河川: 42.78.79、⑪その他: <u>外来種取扱事業者</u> 、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、雑管
再検討	19	分布拡大期～まん延期	オオバコ	タチオオバコ(ツボミオオバコ)	<i>Plantago virginica</i>				○			◎	◎	◎	○			(○)				北アメリカ原産	1913年に渡来。北海道～九州、琉球に帰化。	0.5m、一～二年草	牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。	<u>生育環境が類似する在来の近縁種と競合する。</u>	⑦各県: 高知、⑧河川: 17.46.62、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、便覧	
再検討	20	分布拡大期～まん延期	アヤメ	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	立山			○	×		◎	◎	◎	○	○		(○)	○			北アメリカ東部原産、温帯	日本には明治20年ごろに入る。北海道～琉球で帰化。	0.2m、多年草	畑地、田畑の周辺、芝生、草地、路傍などに生育。日当たりのよい所を好み、土壌の種類は選ばない。	<u>草花類として流通、利用される。</u>	<u>立山では重点除去対象エリアが発生している。</u>	③村中: C、⑧河川: 54.83.87、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、JF
再検討	21	分布拡大期～まん延期	イネ	ハイコスカグサ(クリーピングベントグラス)	<i>Agrostis stolonifera</i>				○				○	◎	◎	○			(○)	◎		ヨーロッパ原産、温帯	明治年代に入り、北海道、本州に分布する。	0.3m、多年草	畑地、牧草地、休耕地、川岸、荒地などに生育。日当たりの良い所～やや日陰地まで適応し、肥沃地を好む。	<u>繁殖力が高く在来種との競合</u>	⑧河川: 12.13.21、⑨三省: 国都、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ	
再検討(候補)	22	小笠原・南西諸島／未定着	マメ	メスキート(キャベ)	<i>Prosopis juliflora</i>			○	○	(◎)	×	○	◎	(◎)	○	(◎)	○	○		—		熱帯アメリカ、西インド諸島に分布	—	8m、亜高木、刺がある	海岸地方から高原の乾燥地に生育する。	日本での栽培は未確認。海外では、豆果の果肉は甘く、食用にされる。蜜源植物にもなる。		⑩海外: ISSG、⑫江川委員	有用、ブラジル
再検討(候補)	23	小笠原・南西諸島	ヒルガオ	ハスノハヒルガオ(キバナハスノハヒルガオ)	<i>Merremia peltata</i>		Ⅱ、Ⅳ		◎	×	—	×	○	○	(○)	○	—	—	○			熱帯アジア～太平洋諸島原産。	<u>西表島で2022年に確認された。</u>	30m、つる性	<u>乾燥した低地や中山間地の自然群落に侵入し、森林や林縁、開けた丘陵地や道端、牧草地、植林地に生育する。</u>	日本でも栽培可能。苗木入手容易。海外では、 <u>侵食防止の被覆植物に奨励されることがある。</u>	<u>YlistではDecalobanthus peltatus。西表島で見られるのは花が黄色いもの。種子の生存率は低く、匍匐がおもな繁殖方法。西表島では、森林植生への被害を確認。</u>	⑩海外: ISSG、⑫環境省沖縄奄美	熱帯花木、Ylist、梶田ら(2022)
再検討	24	小笠原・南西諸島	フトモモ	バンジロウ(グァバ)	<i>Psidium guajava</i>				(◎)	×		(◎)	(◎)	○	○	○			◎			熱帯アメリカ原産、熱帯～亜熱帯で広く栽培。	1935年以前に、渡来。沖縄、小笠原で逸出、帰化。	9m、常緑低木。	海外では、農耕地、自然林、河川敷、荒地、低木林に生育。	果樹として渡来。海外では、食用や庭園樹として、様々な品種が利用される。	<u>庭木として植えられているが、鳥散布により拡散しやすいため。</u>	⑦各県: 沖縄、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体	便覧、写真図鑑、園芸事典
再検討(候補)	25	小笠原・南西諸島	リュウゼツラン	サイザル(サイザルアサ)	<i>Agave sisalana</i>		Ⅱ、Ⅳ		◎	×	—	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—	メキシコ原産、熱帯～亜熱帯	渡来年代不明、小笠原で帰化。	葉の長さ2m	海外では海岸、砂漠、植林地、草地、低木林に生育する。	海外では、比較的乾燥した地域で葉から繊維をとるために栽培される。多肉植物として流通、栽培される。	場所によっては掲載種のアオノリュウゼツランと大差ない繁茂。	⑩海外: ISSG、⑪その他: 環境省関東	便覧、有用、園芸事典、JF
再検討(候補)	26	定着初期／限定分布	セリ	イワミツバ(エゴボディウム、アエゴボディウム)	<i>Aegopodium podagraria</i>	温帯から冷温帯までの湿原や草原	Ⅱ、Ⅳ		◎	×	—	○	○	○	◎	○	—	—	○	—		ユーラシア原産、北アメリカやニュージーランドに分布。	明治時代に渡来、1959年頃に野生化が確認。北海道、神奈川、東京で帰化。	0.8m、多年草	溝端や湿地に生育。	<u>観賞用、食用として渡来。斑入りの品種も販売され、グラウンドカバーとして利用される。</u>	<u>大群落を形成し、日陰にも強い。ため、他の自然植生に多大な影響を与える可能性がある。根が深く伸び、各地で雑草化する。</u>	⑦各県: 北海道条例、⑧河川: 0.0.1	便覧、帰化植物、有用、写真図鑑、園芸事典、JF
再検討(候補)	27	分布拡大期～まん延期	キク	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>	牧場	Ⅴ			○	×	—	◎	◎	○	○	—	○	○	—	◎	南アメリカ原産	和歌山に1930年渡来、関東～九州、四国で帰化。	5cm、一年草	日当たりのよい公園、ゴルフ場、グラウンドの地面を這うように生育。 <u>都市公園で急速に分布を拡大。</u>		<u>果実には棘があり触れると肌に刺さり、けがををする恐れがある。牧草地に混じった果実を家畜が食べて内臓を傷つける恐れがある。果実の棘が動物の毛に絡まるほか、靴底、車のタイヤに刺さるなどして分布を広げる。</u>	⑦各県: 千葉・愛知・滋賀条例・兵庫・徳島・香川・高知・宮崎・鹿児島条例・奄美・沖縄、⑧河川: 0.4.5、⑪その他: 村上委員、⑫環境省沖縄奄美、地方公共団体、小山委員	便覧、帰化植物、写真図鑑
再検討(候補)	28	小笠原・南西諸島	ウリ	ヤサイカラスウリ(アサガオウリ)	<i>Coccinia grandis</i>	暖地の海岸林	Ⅱ、Ⅳ		◎	×	—	◎	◎	○	○	○	○	—	—	○	—	アフリカ、インド、東南アジア原産。オーストラリア、アメリカ大陸に帰化。	1978年にフィリピンから読谷村に導入され、2001年に帰化した。	一年草～多年草、つる植物	<u>海岸林に生える。</u>	<u>東南アジアで広く栽培され、食用にされる。沖縄では家庭菜園などで栽培される。</u>	<u>2001年にうるま市で海岸林を覆いつくして繁茂しているのが見つかった。</u>	⑦各県: 沖縄、⑩海外: ISSG	写真図鑑、POWO、有用、沖縄
再検討(候補)	29	分布拡大期～まん延期	キク	ブタナ(タンポポモドキ)	<i>Hypochoeris radicata</i>	草原	Ⅱ、Ⅳ		◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	○	—	—		ヨーロッパ原産、温帯に多く、熱帯～亜熱帯にも分布	1933年渡来。北海道～九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	草地、畑地、芝生、市街地に普通に発生し、寒地や山岳地帯で路肩を埋めることがある。耐寒性があり平地から高山地帯まで生える。北海道のサロベツ湿原では、希少植物の生育環境への侵入が確認され、その影響が危惧されている。	<u>通販サイトで研究用の種子が販売される。</u>	愛知県でも一部やや自然度の高い草地にも侵入している。裸地や芝地に真っ先に侵入し繁殖するが、周辺の草本群落の丈が高くなるとブタナは消えていくので、近年分布量は減少する傾向にある。ヒメサユリ、キキョウ、ヤマキソウなどの希少種が生える草原への逸出が確認されており、影響が危惧されている。国立公園までの距離が迫りつつある。	①要注意、③村中: B、④FAO: 6、⑤対策: H20<4、H23:1⑦各県: 北海道・神奈川県・広島・愛知・愛媛条例、⑧河川: 31.64.79、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体、小山委員	世雑Ⅰ、便覧、写真図鑑、帰化植物、猿瀬ら2015
再検討(候補)	30	分布拡大期～まん延期	アカネ	メリケナムグラ	<i>Diodia virginiana</i>	河川敷、湿地	Ⅳ		◎	×	—	◎	◎	◎	○	—	—	—	◎	—		北アメリカ原産、アジアの温帯。	1953年渡来、本州(関東以西)、四国、九州。	一年草	水田の畦道、河原の湿地、草原に生育。マット状を呈する。	ダム湛水斜面緑化植物として利用。	九州の筑後川中流域の河岸の牧草地に多発生して問題。大量利用されることに懸念がある。 <u>福岡県の絶滅危惧ⅠB類のアゼオトギリと競合している。</u>	③村中: C、⑦各県: 滋賀・福岡・鹿児島、⑧河川: 7.19.27、⑪その他: バブコメ、外来種取扱事業者	便覧、写真図鑑、帰化植物、今村・内田(2011)、帰化植物MⅠ、応用生態工学第4回勉強会、福岡RDB

(3) 現行リスト作成後の新規追加種(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規(候補)	1	未定着	フトモモ	ユーカリ属	<i>Eucalyptus</i> spp.			○	○	○	×	—			○	◎		—	—	○	—	オーストラリア、タスマニア、ニュージーランド、ニュギニアに分布。	1875年ごろ渡来し、地域により集団栽植されるところが増えた。暖地では切葉用に栽培される。	常緑高木	オーストラリアでは海岸側に生育する。年雨量が250～1000mmの地域に生育する。	海外では、建築用、パルプ、燃料用、精油などに利用され、緑化樹、公園樹、街路樹として栽植される。日本では温帯性木本として流通、利用される。湿潤なため、造林用の利用はあまり成功していない。	早生樹として産業的植栽が議論されているが、在来種との競合、土壌侵食、葉から引火性の高いテルペンを放出し火災のリスクを高めることから、産業利用には配慮が必要。	⑫農水省、小山委員	JF、有用、園芸大辞典

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用									付着混入
新規(候補)	2	定着初期／限定分布	ケシ	シラユキゲンシ(スノーボビー)	<i>Eomecon chionantha</i>	森林の林床	Ⅳ			◎	×	－	○	○	○	◎	○	－	－	○	－	中国東部原産。	青森県、群馬県、千葉県、神奈川県、愛知県、香川県に分布。	0.4m、多年草	山地の湿った場所を好む。林床に生える。	日本では山野草として流通する。	群馬県桐生市では杉林の林床に群生している。周辺地域にヒイラギソウやカッソソウの自生地があるため注意が必要。増殖は株分けや実生で行う。	⑦各県：香川・高知、⑫地方公共団体	写真図鑑、園芸事典、大森2010、便覧、JF
新規	3	定着初期／限定分布	ケシ	ケシ(ソムニフェルム種)	<i>Papaver somniferum</i>	－				○	－	－	○	○	○	－	－	◎	(○)	－	○	東ヨーロッパ原産。全世界的に帰化。	鹿児島県に帰化。	0.5-1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。山地近くまで生える。温暖で日当たりのよい肥沃地を好む。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。海外では、医薬品、麻薬原料、食用等で栽培され、暖地では観賞用に栽培される。	アツミゲシとは共通点が多く、同一種または亜種に分類される。海外ではムギ類などの春期に生育する作物との競合による雑草害が報告されている。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO、世雑Ⅱ、有用、POWO
新規	4	定着初期／限定分布	ベンケイソウ	コダカラベンケイ×キンチョウ(品種名：フシチョウ)	<i>Kalanchoe daigremontiana</i> × <i>K. tubiflora</i>					○	×		○	○	○	○				○	○	交配種。	高知県に帰化。	0.5m、多年草	浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁などに生える。	－	Ylist掲載なし。	⑦各県：高知	
新規	5	定着初期／限定分布	マメ	キバナツノクサネム(ツノクサネム)	<i>Sesbania cannabina</i>					○		○		○	○	○				○	○	オーストラリア原産。東南アジア地域、ガーナなどに帰化。	1986年鹿児島県と論島で確認。	3m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	1980年代から緑肥として用いられた。根を深くまで伸ばすため、土壌の改良や、難溶性リンの可給化によるリン吸収によりリン肥沃度の向上も期待される植物。本種の繊維をダンチー麻と呼び、アフリカやインドで利用される。	逸出の危険性は低いとされるが、シードバンクを形成する可能性がある。ネマトーダの宿主になる。	⑦各県：鹿児島	世雑Ⅱ、有用、鬼頭ら2019、POWO
新規	6	定着初期／限定分布	マメ	アメリカツノクサネム	<i>Sesbania exaltata</i>					○		○		○	○	○			(◎)	○	○	北アメリカ原産、ヨーロッパ、中国、などに分布。	1953年に愛媛県で確認、本州(宮城県以西)～九州で散発的に分布。	2m、一年草、時に多年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	緑肥として導入された。	海外ではダイズ、ワタ、イネなどの雑草となっている。 <i>S. exaltata</i> は <i>S. herbacea</i> のシノニムとされる。ネマトーダの宿主となる。家畜には有毒。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO
新規	7	定着初期／限定分布	タデ	外来ツルソバ(仮称：ヒマラヤツルソバ)	－					○										○	－	2009年に香川県直島町、2019年に坂出市岩黒島で繁茂。	－	温暖な海岸、海浜などに生育する。	カバープランツとして導入されたものが逸出したもの。	⑦各県：香川			
新規	8	定着初期／限定分布	ナス	ナガエノセンナリホオズキ(フウリンホオズキ)	<i>Physalis acutifolia</i>					◎			◎	◎	◎				○		○	北アメリカ原産。朝鮮半島などに分布。	戦後まもなく渡来。本州(関東以西)～琉球に分布。	一年草	畑地、草地、路傍などに生える。	－	⑦各県：高知	帰化植物、POWO	
新規(候補)	9	定着初期／限定分布	アゼナ	マルバヒメアメリカアゼナ(ラージパールグラス)	<i>Micranthemum umbrosum</i>	湧水地、水辺	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○		－	－	○	－	北アメリカ原産	富山県、徳島県、鹿児島県に帰化。	抽水性の一年草	浅水域、湿地、水辺に生育する。	アクアリウムに使用されている。	富山県では湧水起源の用水路に他の外来種と主に繁殖し、原植生を改変し、在来種(絶滅危惧種を含む)を追いやっている。	⑦各県：鹿児島	水草Ⅱ、POWO、中田・川住2015、藤井ら2016
新規(候補)	10	定着初期／限定分布	オオバコ	ジギタリス(キツネノテブクロ)	<i>Digitalis purpurea</i>	森林の林床	Ⅲ			◎	×	－	◎	○	○	○	－	◎	－	○	○	ヨーロッパ原産。アジア、アメリカ、南アフリカ、ヨーロッパに広く帰化。	1937年以前に渡来。北海道、本州、四国に帰化。	1.2m、二～多年草	路傍、法面、林道、荒地地に生育する。	欧米では花壇に植栽されることが多い。日本には江戸時代に渡来し、観賞用に栽培される。強心利尿薬になる。有効成分ジギトキシンを精製する。	和歌山県護国神社森林公園で確認され、県が駆除を行った。カリフォルニアでは、比較的湿った草地等に繁殖し、毒性や在来種との競合で問題視されている。播種後約5か月で開花する。	⑦各県：和歌山、徳島	世雑Ⅱ、有用、園芸事典、POWO、IPCW、便覧、自然毒のリスクプロファイル、
新規	11	定着初期／限定分布	キク	ヤナギバヒメジョオン	<i>Erigeron pseudoannuus</i>					○			○	◎	◎	○						北アメリカ原産。	三重県、佐賀県、鹿児島県に帰化。	越年草または多年草	ヘラバヒメジョオンとヒメジョオンとヘラバヒメジョオンの自然交雑種の一つとされる。	－	無融合生殖をする。ヒメジョオンとヘラバヒメジョオンの自然交雑種の一つとされる。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物
新規(候補)	12	定着初期／限定分布	オモダカ	ミズヒナゲシ(キバナトチカガミ、ミズウチワ、ウォーターボビー)	<i>Hydrocleys nymphoides</i>	温暖地の池沼や湿地	Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	－	－	○	○	－	南アメリカ原産。北アメリカ、オーストラリア、フィジー、ニューカレドニア、ニュージーランドに分布。	昭和初期に導入された。兵庫県、高知県、宮崎県に分布。	浮葉性の多年草	池沼、河川、水路などに生育する。寒さに弱いので、南日本でのみ越冬可能。	ビオトープやアクアリウムで人気が高く、広く流通する。	茎の節から根や葉を出して増殖。種子はあまり作らない。多くの国や地域で侵略的とされる。特に水面を密に覆いつくすことによる沈水植物への影響や、溶存酸素量の低下が問題とされる。	⑦各県：高知	写真図鑑、USDA2021、POWO、水草Ⅲ、角野
新規	13	定着初期／限定分布	コミカンソウ	チュウゴクアカガキ	<i>Bischofia polycarpa</i>					○			○	○	○	○			○	◎	○	中国原産。	高知県に帰化。	落葉高木	植栽地周辺。	街路樹として用いられる。	雌雄異株。液果を生産し、種子は鳥によって散布される。	⑦各県：高知	中岡ら2020
新規	14	定着初期／限定分布	ユリズイセン	ユリズイセン(アロストロメリア)	<i>Alstroemeria pulchella</i>	暖地の森林の林床				○			○	◎	◎	◎				○	○	ブラジル原産。オーストラリア、北アメリカ、ニュージーランドに分布。	高知県、宮崎県、鹿児島県に帰化。	多年草	人家近くの路傍、畑地など。高知県では林床に繁茂し、在来の林床植物と競合・駆逐の危険性が報告されている。自生地ではナンキョクブナ林の林床や崩壊地などに生える。	日本では同属の園芸品種が栽培利用される。原産国では肥大した根のデンプンを利用する。	宮崎県は <i>Alstroemeria</i> sp.。世界的には <i>A. psittacina</i> が使われ、 <i>A. pulchellaha</i> (<i>A. aurea</i>) のシノニムとされる。地下茎で増えて、密生するため注意が必要。	⑦各県：高知・宮崎	有用、鹿児島、POWO、FNA、IPSW、JF
新規	15	定着初期／限定分布	ツユクサ	アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>					○			○	◎	◎			◎			○	東南アジア原産。アメリカ大陸、アフリカ大陸に分布。	高知県、福岡県、鹿児島県に帰化。	一年草	川の土手、芝地、舗装された道路や駐車場 際の隙間などに生育する。	－		⑦各県：高知・鹿児島	福岡、中村2015、POWO
新規	16	定着初期／限定分布	イネ	イトアゼガヤ類似種	－					○			◎	◎	◎						○	中国南部から熱帯アジア、アフリカ原産。	香川県に帰化。	一年草	日当たりのよい草地、畑地に生育する。	－	2019年9月に多度津町奥白方で一帯に数千株以上が群生している事例がある。飼料や厩肥としてに混入したと思われる。	⑦各県：香川	香川
新規	17	定着初期／限定分布	シソ	セイヨウウツボグサ(セルフヒール)	<i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>vulgaris</i>	立山				○					○	○	○					ユーラシア大陸原産、北アメリカ、オーストラリア、ブラジルに分布。	1998年渡来、本州(千葉県、神奈川県、兵庫県)に分布。	0.4m、多年草		草花類として流通、利用される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物5、写真図鑑、便覧、JF
新規	18	分布拡大期～まん延期	タデ	ソバカズラ	<i>Fallopia convolvulus</i>					○	－	－	◎	○	◎	○	－	－	(◎)	－	(◎)	ヨーロッパ原産、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなどの寒帯～暖帯に分布する。	1910年に雑草化していた。北海道～琉球に分布する。北海道に多い。	1m、つる性一年草	市街地の路傍、畑地、樹園地、雑木林、牧草地、荒地、河川敷などに生育する。日当たりの良い肥沃地を好む。	種子のアミノ酸組成がソバに類似し、リジンを多く含むため、穀物類とともに混ぜて飼料にする。食用とするが有毒でもある。	根を深く張るため、乾燥や窒素が不足する土壌の影響を受けにくい。世界的は畑地雑草。種子が穀物と同等の大きさのため収穫時の混入が問題となる。種子生産量が多く、生存期間が長く、遠方まで鳥に運ばれる。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅱ、POWO、CABI
新規	19	分布拡大期～まん延期	ナデシコ	ノハラツメクサ	<i>Spargula arvensis</i> var. <i>arvensis</i>	二次草原				○	×	－	○	◎	○	○	－	－	○	－	○	ヨーロッパ原産。アメリカ大陸、アフリカ大陸、アジア地域など世界的に帰化。	1906年に北海道で採集。北海道～琉球に分布。	0.6m、一年草	路傍、荒地、草地、畑地に生育する。	北ヨーロッパでは古い時代から種子を食用としてきた。	本種は非常に成長が早く、1年に二回発生することもある。種子多産、埋土種子寿命が長い強力な農業雑草である。世界中33か国以上で、様々な作物の農地に侵入し問題となっている	⑦各県：高知	写真図鑑、便覧、世雑Ⅱ、POWO、TWWW、野生植物4
新規	20	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>					○			◎	◎	◎				○	○	○	南アメリカ原産。世界中の熱帯や温帯で広く帰化。	1926年に山口県で確認、北海道～琉球に分布。	1m、一年草	畑地、牧草地、道端、荒地などに生育する。	通販サイトで研究用の種子が販売される。	種子寿命は5年以上。	⑦各県：高知	帰化植物、世雑Ⅱ、POWO、WFO

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	21	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ウラジロアカザ	<i>Oxybasis glauca</i>					○			◎	◎	◎			○	○	○	ヨーロッパからアジアの温帯・冷温帯原産。アフリカ大陸、アメリカ大陸、朝鮮半島などに帰化。	1891年に確認され、北海道～九州に分布。	0.4m、一年草	湖畔、海浜、埋め立て地、河川などに生育する。	—		⑦各県：福岡	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO	
新規	22	分布拡大期～まん延期	マメ	クスダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>					○		○	◎	◎	○				○	○	西アジア～北アフリカ原産。アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1943年に横浜市で確認、北海道～琉球に分布。	0.5m、一年草	河川敷、海岸、市街地、空地、畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	草花類として流通、利用される。		⑦各県：鹿児島	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO、JF	
新規	23	分布拡大期～まん延期	マメ	ベニバナツメクサ(クリムソクローバー)	<i>Trifolium incarnatum</i>					○		○	◎	◎	○			○	○	○	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア原産。アメリカ大陸、オーストラリア、中国などに分布。	明治初年に移入され、北海道～九州に分布。	0.8cm、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	観賞用、牧草、緑化用に導入された。	数年前に一度種子を散布した水路際に生育しつづけ、他市町で農道や水路際等に散布されたものが、当町内の近隣に農道等が無い舗装路際に生育するため、繁殖力が強く在来種の阻害になると考えられる。	⑦各県：鹿児島、 ⑫地方公共団体	帰化植物、写真図鑑、POWO	
新規	24	分布拡大期～まん延期	マメ	ケツルアズキ	<i>Vigna mungo</i>					○	○	○	○	○	○	—	—	—	○	○	インド原産。東南アジア地域、アフリカ大陸、北米の一部地域などに帰化。	1965年頃に渡来、本州、九州、琉球で逸出帰化。	一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	ケツルアズキは、主として南アジアにおいて挽割りにしてダールとして食べられている。また、ブラックマッペともいわれ、もやしにする。		⑦各県：鹿児島	便覧、有用、POWO	
新規	25	分布拡大期～まん延期	マメ	ツルアズキ(タケアズキ)	<i>Vigna umbellata</i>					○	○	○		○	◎	○			○	○	南アジア、東南アジア原産。北アメリカ、アフリカ大陸、オーストラリアなどに分布。	渡来年代不明。本州、四国、九州で逸出帰化。	一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	中国、ラオス、ミャンマーなどで、現在でも比較的良好栽培される。日本でも以前はバカアズキなどと呼ばれ、食用栽培されたが、近年はほとんど栽培されない。	日本在来のササゲ属の希少種と分布が被っているため、交雑の危険性がある。	⑦各県：鹿児島	便覧、有用、POWO、便覧	
新規	26	分布拡大期～まん延期	マメ	ホソバヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> subsp. <i>nigra</i> var. <i>minor</i>					○	○	○	○	◎	○				○	○	ヨーロッパからユーラシア大陸一帯にかけて広く分布する。世界中の大陸に帰化。	本州から琉球に広く分布する。	一年草	道端や野原などの日当たりのよい場所に生える。	—	ヤハズエンドウの葉が細い変種。ヤハズエンドウは在来種との見解もある。日本在来のササゲ属の希少種と分布が被るため、交雑の危険性がある。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO	
新規	27	分布拡大期～まん延期	カタバミ	ベニカタバミ	<i>Oxalis brasiliensis</i>					○			○	○	◎	○		(◎)	○	○	南アメリカ原産。	1924年に渡来、本州、四国、九州に分布。	多年草	庭、畑地、樹園地、空地、路傍などに生育する。	園芸植物として栽培される。		⑦各県：高知	帰化植物、有用	
新規	28	分布拡大期～まん延期	ウリ	オオスズメウリ	<i>Thladiantha dubia</i>					○			○	○	◎	○			○	○	中国、朝鮮原産。北アメリカ、ヨーロッパ、ミャンマーなどに分布。	1969年に札幌市で採集。北海道、本州(福島、群馬、長野)、九州(鹿児島)に分布。	2m、つる性多年草	草地に生える。	薬用植物として栽培される。	雌雄異株の植物で、日本では雄株のみが知られる。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO	
新規	29	分布拡大期～まん延期	キョウチクトウ	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus physocarpus</i>					○			○	○	○	◎		○		○	南アフリカ原産。南アメリカ、インド、中国、オーストラリア、ヨーロッパ南部、北アフリカなどに分布。	高知県、鹿児島県に帰化。	2m、低木	人家近くの路傍、畑地などに生える。	風船状の大きな果実を観賞用にする。アフリカでは、本種の綿毛を枕のクッションにする。	毒性あり。	⑦各県：高知	有用、POWO、WFO	
新規	30	分布拡大期～まん延期	ナス	ホソバフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> var. <i>lanceifolia</i>					◎			◎	◎	◎			○		○	北アメリカ原産。63か国以上の世界中の熱帯から温帯に分布。	まれに帰化している。	一年草	畑地、草地、路傍、水辺など。肥沃な土壌を好む。多少の日隠は耐えられる。	いくつかの国で民間療法に利用される。本種からPhysalinという薬効成分が得られる。	種子生産能力が非常に高く、一個体が3万粒もの種子を生産することもある。	⑦各県：高知	帰化植物、POWO、WWND	
新規	31	分布拡大期～まん延期	ナス	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>					◎			◎	◎	◎			○		○	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ大陸沿岸部、インド、中国、オーストラリアなどに分布。	センナリホオズキ(ヒロハフウリンホオズキ) <i>P. angulata</i> と混同されてきた。	一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、路傍などいたるところに生育する。やや湿ったところを好む。	近縁種のショクヨウホオズキは、日本で栽培され、利用される。	海外の熱帯から亜熱帯地域ではゴムやサトウキビなどのプランテーションで問題となっている。	⑦各県：高知	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO	
新規	32	分布拡大期～まん延期	ナス	トマトダマシ	<i>Solanum rostratum</i>					○			○	○	○			○		○	北アメリカ原産。ヨーロッパ、オーストラリア、アフリカ、アジアに広く分布。	1955年に静岡県御殿場市で見いだされた。関東地方以西で散発的に分布。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍などいたるところに生育する。	1895年から数年間小石川植物園で栽培されていた。	土壌環境に対する適応性が大きいとされる。	⑦各県：滋賀	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅰ、POWO	
新規	33	分布拡大期～まん延期	キク	ヌマツルギク(アクメラレペンス)	<i>Acmella oppositifolia</i> var. <i>repens</i>					◎	×	—	◎	◎	○	○		—	○	○	北アメリカ原産。	1975年に福岡市岡辺で見つかった。本州(千葉県、神奈川県)、九州(福岡県)に帰化。	0.6cm、多年草	河川、水路、水田の畦などに見られる。	アクメラレペンスの名前で、水草として流通、利用される。	茎断片による栄養繁殖が盛んで、草刈りなどの畦畔管理で切断された茎が、水路から分散して分布を拡大する。別学名 <i>Acmella repens</i> 。		⑦各県：福岡	写真図鑑、帰化植物、Ylist
新規	34	分布拡大期～まん延期	キク	コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>	草原				◎			◎	◎	◎			○		○	アメリカ大陸原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパに分布。	江戸時代に渡来し、第二次世界大戦後に急に広がった。本州中部以西に分布。	0.3ー1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、都会の荒地、草原・草地などに群生する。	ビデンスなどの総称で観賞用に流通しているものがある。	コセンダングサ同様の雑草害を及ぼす。	⑦各県：高知	写真図鑑、世雑Ⅰ、POWO、TWWW、IPSW	
新規	35	分布拡大期～まん延期	キク	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	草原				◎			◎	◎	◎			○		○	アメリカ大陸原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパに分布。	江戸時代に渡来し、本州中部以西に分布。	.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、都会の荒地、草原・草地などに群生する。	ビデンスなどの総称で観賞用に流通しているものがある。舌状花にピンク色が入る個体などはまれに栽培される。	コセンダングサ var. <i>pilosa</i> とコシロノセンダングサ var. <i>minor</i> は世界では同種 <i>B. pilosa</i> とされる。様々な作物に雑草害を及ぼす。1個体が1年に生産する種子数は3000-6000個とされ、哺乳類や人々の服に付着して遠距離まで散布される。種子の寿命はある程度長く、野焼きや焼き畑などの火災後いち早く発芽する。	⑦各県：滋賀・高知・愛媛条例	写真図鑑、POWO、世雑Ⅰ、園芸事典、IPSW、TWWW	
新規	36	分布拡大期～まん延期	キク	ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i>					○			○	◎	◎	○				○	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアなどに分布。	日本各地に帰化。	1m、越年草または多年草	比較的乾いた丘陵や河岸の土手などに生える。	—	無融合生殖をする。ヒメジョオンよりもやせた乾いた土地を好む傾向がある。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅱ、POWO	
新規	37	分布拡大期～まん延期	キク	トゲチシャ(アレチチシャ)	<i>Lactuca serriola</i>	レタス畑近く				○	(◎)		○	◎	◎			○	○	○	ヨーロッパ、アフリカ北部原産。アメリカ、アフリカ南部、オーストラリア、アジアに分布。	1949年に北海道で採集され、北海道～九州に分布。	1.5m、一～二年草	市街地や草地に多く、農耕地にはあまり侵入しない。	植物体をサソリや蛇の咬傷に用いる国がある。不眠症に効く薬草として用いられる。	トゲによる人体や家畜への被害が危惧される。農耕地に侵入した場合は、穀物畑で問題となる。また、日本にも在来種の <i>Lactuca</i> 属植物が分布しており、交雑が危惧される。	⑦各県：滋賀条例	写真図鑑、世雑Ⅰ、Uwimana、D'Andrea、POWO、Kaufman	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入										
新規	38	分布拡大期～まん延期	キク	イガトキンソウ(シマトキンソウ、タカサゴトキンソウ)	<i>Soliva anthemifolia</i>						○			◎	◎	◎				○	南アメリカ原産。北アメリカ、マダガスカル、インド、中国、ベトナム、オーストラリアなどに分布。	1910年頃に長崎で採集され、紀伊半島から四国、九州、琉球にかけて分布。	0.1m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生える。	—		⑦各県:鹿児島	写真図鑑、帰化植物、POWO			
新規	39	分布拡大期～まん延期	ツユクサ	カロライナツユクサ	<i>Commelina caroliniana</i>						○			◎	◎			○	○	インド原産。北アメリカ、ブラジル、マレーシア、フィリピン、インドネシアなどに帰化。	2010～2012年にかけて大分県、熊本県、佐賀県、高知県、岡山県、愛知県などで確認された。	一年草	畑地、水田、畦地、河川、水路などに生育する。	—	大分県では、大豆の生育を妨げる被害が確認され、実際に収量や品質が低下している。本種は在来のシマツユクサと酷似する。	⑦各県:香川・高知	写真図鑑、香川、高知、大分、POWO、WFO				
新規	40	分布拡大期～まん延期	シュウカイドウ	シュウカイドウ	<i>Begonia grandis</i>						○	×	—	○	○	○	◎	—	—	○	—	中国南部～東南アジア原産。	1620年頃に渡来、関東地方以西に分布。	0.8m、多年草	湿った日陰。	観賞用に栽培され、暖かい地方では人家の周辺の湿った樹林内などに野生化。	抽出根拠の奄美ではベゴニア <i>Begonia</i> spp.として掲載。ISSGには近縁種のシキザキベゴニア <i>B. cucullata</i> が掲載。	⑦各県:奄美	帰化植物、ISSG、福島		
新規	41	分布拡大期～まん延期	シソ	コショウハッカ(セイヨウハッカ、ペパーミント)	<i>Mentha piperita</i>						○	—	—	○	○	○	○	—	—	○	—	ヨーロッパ原産。	明治年間に導入、1933年頃に野生化、ほぼ全国的に分布。	0.8m、多年草	湖沿岸、湿地などで繁茂する。	本格的にハッカの生産に利用されるには至らず、香辛料やハーブとして栽培される。	福島県では、会津の盆地から山地。特に裏磐梯で顕著で、五色沼湖沼群周辺で継続的な駆除が行われている。	⑦各県:福島	帰化植物、便覧、写真図鑑		
新規	42	分布拡大期～まん延期	スミレ	アメリカスミレサイシン(ピオラ・ソロリア、ウィオラ・ソロリア)	<i>Viola sororia</i>						○		—		○	○	○	—	—	○		北アメリカ原産	1870年以降に渡来、北海道、本州、四国に分布。	多年草	草地、樹林	園芸植物として導入され、花色変種が多い。草花類として流通、利用される。	繁殖力が強く強健であるため、日本各地で逸出している。	⑪その他:外来種取扱事業者	写真図鑑、便覧、JF、園芸大辞典		
新規	43	分布拡大期～まん延期	アヤメ	シャガ	<i>Iris japonica</i>						○		—			○	○	—	—	○		中国、ミャンマーに分布。	本州～九州に分布。古く中国から渡来して野生化したとする説がある。	0.7m、多年草	半日陰のやや乾燥地を好み、生垣の下草などに利用される。人里近くに多く、林下に群生する。	草花類として流通、利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、野生植物1、JF、園芸事典		
新規	44	分布拡大期～まん延期	ヒガンバナ	スイセン(ニホンズイセン)	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>						○		—			○	○	—	—	○		地中海沿岸～アジア中部、中国原産。	古くに中国から海流または人出により渡来し、野生状態になったとされる。本州(関東以西)、九州に分布。	0.4m、多年草	海岸	球根類として流通、利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、野生植物1、JF、園芸事典		
新規	45	分布拡大期～まん延期	ユリ	ルリムスカリ	<i>Muscari botryoides</i>						○					○	○	—	—	○		ヨーロッパ中部～トランス・コーカサス原産	園芸植物として1930年代に渡来、北海道、本州(千葉、東京、神奈川)で逸出。			球根類として流通、利用される。近縁種のアルメニアクム <i>M. armeniacum</i> も広く利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、JF、園芸事典		
新規	46	分布拡大期～まん延期	タデ	アレチエゾノギンギシ	<i>Rumex × abortivus</i>							○														交雑、アレチギンギシ×エゾノギンギシの雑種 <i>R. conglomeratus</i> x <i>R. obtusifolius</i>	⑫地方公共団体	Ylist			
新規	47	分布拡大期～まん延期	バラ	エゾノミツモトソウ	<i>Potentilla norvegica</i>	立山												○				ユーラシア大陸原産、北アメリカに分布。	南千島、北海道、本州、四国に分布。	0.8m、一年草または短命な多年草	沿海地や荒地	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物3、便覧、写真図鑑			
新規	48	小笠原・南西諸島	マメ	ナンバンアカバナアズキ	<i>Macroptilium lathyroides</i>						○		○	○	○	○	○	—	(○)	—	○	熱帯アメリカ原産。アフリカ大陸、アジア地域、オーストラリアなどの熱帯から温帯に広く帰化。	1967年に記録あり、鹿児島県と沖縄県に分布。	1.5m、一年草、時に二年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	特定の地域では食用とする。	海外では大豆や綿などに雑草害を及ぼしている。	⑦各県:鹿児島	写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO		
新規	49	小笠原・南西諸島	サボテン	ドラゴンフルーツ(ピタヤ)	<i>Selenicereus undatus</i>	暖地の砂浜・海岸					○			○	◎	◎	○	○		○	○	北アメリカ、中央アメリカ原産。南アメリカ、南アフリカ、東南アジアなどに分布。	沖縄県に帰化。	15m、つる性木本	日当たりのよい場所を好み、海岸沿いや人家周辺に帰化している。	世界中で栽培される有用植物。果実は食用となる。	日本においても栽培されている。沖縄県では、希少植物の生育する崖地に定着している。	⑦各県:沖縄	Flora of china、POWO、有用、沖縄		
新規	50	小笠原・南西諸島	ベンケイソウ	キンチョウ	<i>Kalanchoe delagoensis</i>						○	×		◎	◎	◎	○	○		○	マダガスカル原産。アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなどに分布。	渡来年代不明、静岡県伊豆半島、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、小笠原諸島に分布。	0.5m、多年草	浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁などに生育する。	園芸植物として栽培される。	葉に不定芽をつける。伊豆須崎では人家から離れた海岸崖地に群落があり、不定芽が流れ着いて定着したと推定される。	⑦各県:高知	写真図鑑、便覧、小笠原固有、POWO、梶田ら2022、			
新規	51	小笠原・南西諸島	マメ	アマクズ(シナクズ、シナノクズ)	<i>Pueraria lobata</i> subsp. <i>thomsonii</i>						◎	○	○	○	◎	◎	○			○	インド、ミャンマー、インドシナ半島、中国、フィリピンに分布。ハワイなどに帰化。	沖縄県に帰化。	10m、つる性半低木	雑木林や疎林、農地などに生育する。	飼料植物として栽培されていたものが沖縄(首里)で逸出帰化。	クズの変種。マメの鞘やぐがクズよりも大きいのが特徴。	⑦各県:沖縄	野生植物2、便覧、Flora of china、POWO、沖縄			
新規	52	小笠原・南西諸島	キントラノオ	アセロラ(バルバドスチーリー)	<i>Malpighia emarginata</i>						○			◎		◎	○	○		○	西インド諸島から熱帯アメリカにかけて分布。	小笠原諸島、沖縄県に帰化。	4m、常緑低木	栽培地からの逸出。	果実が食用になり、世界中で栽培されている。また、生垣に利用されることもある。	<i>Malpighia glabra</i> もアセロラとして栽培されている。	⑦各県:沖縄	琉球の樹木、有用			
新規	53	小笠原・南西諸島	トケイソウ	ヒメトケイソウ	<i>Passiflora suberosa</i> var. <i>minima</i>	暖地の森林の林縁や林内					(◎)			◎	◎	◎	○	○		○	西インド諸島原産。アジア地域、オーストラリア、インド、スリランカ、マレーシア、マダガスカルなどに分布。	渡来年代不明。琉球(徳之島)、沖縄に分布。	10m、つる性一年草または多年草	林縁に生育する。	—	ミスミトケイソウとは変種関係で、本種のほうが大きくなり繁茂する。CABIでは <i>P. suberosa</i> 。耐陰性があり、在来植物を日隠するため注意が必要。	⑦各県:沖縄	写真図鑑、便覧、CABI、POWO			
新規	54	小笠原・南西諸島	トケイソウ	ミスミトケイソウ(スズメトケイソウ、クロミトケイソウ)	<i>Passiflora suberosa</i> var. <i>suberosa</i>	暖地の森林の林縁や林内					○			◎	◎	◎	○	○		○	南アメリカ、中央アメリカから南太平洋諸島原産。熱帯～亜熱帯に広く分布。	1967年渡来、宮古諸島、八重山諸島、沖縄本島に分布。	5m、つる性一年草または多年草	林縁に生育する。	果実は熟すと甘い。	CABIでは <i>P. suberosa</i> 。耐陰性があり、在来植物を日隠するため注意が必要。	⑦各県:沖縄	写真図鑑、園芸事典、CABI、POWO			
新規	55	小笠原・南西諸島	クサスギカズラ	アスパラガス的一种	<i>Asparagus</i> spp.							○								○	—	沖縄県で帰化。	—	—	—	—	⑦各県:沖縄	沖縄			
新規(候補)	56	小笠原・南西諸島	サトイモ	オウゴンカズラ(ポトス)	<i>Epipremnum aureum</i>	暖地の森林	Ⅳ				◎	—	—	×	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	東南アジア原産。世界中の亜熱帯、熱帯域に広く分布。	渡来年代は不明。鹿児島県、沖縄県、小笠原諸島に分布。	12m、つる性多年草	亜熱帯の森林内、林道沿い、林縁などの環境において、他の樹木に絡みついて生育する。	観賞用として多くの国で利用される。別名ポトスは、旧学名 <i>Pothos</i> による。	地面を這った茎が根を張り、クローンで分布を拡大する。ほとんど開花・結実した様子を見ることはない。	⑦各県:鹿児島条例・奄美・沖縄、⑫環境省関東・沖縄奄美、農水省、米倉委員	写真図鑑、便覧、有用、POWO	
新規	57	小笠原・南西諸島	サトイモ	ホウライショウ(モンステラ)	<i>Monstera deliciosa</i>	暖地の森林					◎			○	◎	◎	◎			○	メキシコ、中央アメリカ原産。バングラデッシュ、朝鮮半島などに分布。	明治年間に渡来、小笠原諸島、沖縄県に分布。	10m、つる性多年草	熱帯低地林に生育する。現地ではしばしば着生状態となる。	観葉植物として各国で栽培される。果実は食用となるが、成熟に時間がかかる等で、大量生産にはいたっていない。		⑦各県:沖縄	便覧、琉球の樹木、WFO、POWO			

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	58	小笠原・南西諸島	サトイモ	オオミツバカズラ (シンゴニウム・アウリツム)	<i>Syngonium auritum</i>	暖地の森林				◎	×	—	○	◎	◎	○		—	—	○	—	西インド諸島原産。プエルトリコに分布。	沖縄県で帰化。	5m、つる性多年草		観葉植物として各国で栽培されている。	近縁種のオオミツバカズラ <i>S. podophyllum</i> は侵略的な外来種とされ、西表島に帰化。	⑦各県：沖縄	POWO、CABI、梶田ら2022
新規	59	小笠原・南西諸島	サトイモ	ヤバネイモ(アメリカサトイモ、ココヤム)	<i>Xanthosoma sagittifolium</i>	暖地の森林				◎	×	—	○	◎	◎	◎	○	—	—	○	—	南アメリカ原産。世界の熱帯域でサトイモ科でもっとも普通に栽培される。	沖縄県で帰化。	2m、多年草	畑地から森林内の林床まで様々な環境に適応し、生育する。	イモや葉が、様々な料理に利用される。栽培用に持ち込まれたものが各地で野生化している。	サトイモによく似ているため、地域によっては両種を区別せずにココヤムと呼ぶことがある。寒さに弱い。	⑦各県：沖縄	有用、園芸事典、POWO、CABI
新規(候補)	60	小笠原・南西諸島	キキョウ	ホシアザミ(イソトマ、ヒッポプロマ・ロンギフロラ)	<i>Hippobroma longiflora</i>		Ⅲ			○	—	—	◎	○	○	○	—	◎	(○)	○	—	西インド諸島原産、世界の熱帯に広く帰化。	沖縄県に分布。	0.6m、多年草	牧草地、放牧地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。湿地に多い。日陰地や海岸地帯にもみられる。耐寒性はない。	猛毒があり、できれば栽培しない方がよいとされる。見本的に栽培されることがある。通販サイトで種子が販売される。	有毒植物。茎を切ると乳液を出す。白い汁が1滴目についただけで失明するといわれる。全株にエグミがあり、口にすると炎症を起こす。心臓や神経に作用するアルカロイドを含む。	⑪その他：環境省那覇、⑫沖縄奄美	写真図鑑、園芸事典、世雑Ⅰ
新規(候補)	61	小笠原・南西諸島	ノウゼンカズラ	センダンキササゲ(ステレオスペルマム、ステレオスペルムム、ラデルマケラ・シニカ)	<i>Radermachera sinica</i>		Ⅳ			◎	—	—	◎	○	○	◎	○	—	—	○	—	台湾、中国南部～東南アジア	奄美大島で分布を拡大。	10m、落葉性の小高木	日当たりの良い路傍などに生える。耐寒性は強く、2～3℃で越冬できる。	最近、幼木が観葉植物として利用される。種子、挿木、取木で増殖できる。中国では解熱、止痛の民間薬にする。	小さな種子を大量につける。成長が早い。	⑦各県：奄美、⑫環境省沖縄奄美、米倉委員	園芸事典、有用
新規(候補)	62	小笠原・南西諸島	イネ	ルビーガヤ(ホクチガヤ)	<i>Melinis repens</i>		Ⅱ			○	×	—	◎	○	○	○	○	—	(○)	—	◎	熱帯アフリカ原産、熱帯～温帯に広く分布。	1966年に琉球、1994年に三重県で記録。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	1.5m、一または短命な多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、林縁に生育する。日当たりの良いところを好み、砂質土壌に多く、やせ地や乾いた土壌に適応する。	—	兄島で駆除事業を実施。種子と根茎で繁殖。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。熱帯～亜熱帯の畑地雑草で、乾いた畑地で問題になる。	⑪その他：環境省関東	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅲ、イネ2
新規(候補)	63	小笠原・南西諸島	パパイヤ	パパイヤ(パパイヤ、パパヤ、モッカ、チチウリ)	<i>Carica papaya</i>		Ⅱ			◎	×	—	◎	○	○	○	◎	—	—	◎	—	熱帯アメリカ原産。亜熱帯、熱帯に広く帰化。	小笠原諸島には1830年に持ち込まれた。本州(千葉県)、琉球、小笠原諸島に分布。	8m、草本状常緑小高木	琉球では、鳥やオオコモウリも果実をよく食べ、集落周辺の林縁によく野生化している。	琉球では古くから民家の庭先などで栽培され、未熟果は野菜、完熟果は果物として利用される。	特別保護地区の母島の石門地域の湿性高木林のギャップに先駆種として侵入し、在来植物と競合している。雌雄異株、雌雄同株の品種もある。	⑪その他：環境省関東、⑫農水省	写真図鑑、便覧、琉球樹木、小笠原
新規	64	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ヤバズカズラ(ヤバネカズラ)	<i>Thunbergia alata</i>					○	×	—	○	○	○	○	○	—	—	○	—	熱帯アフリカ原産。熱帯・亜熱帯各地に帰化。	1879年養蜂用に導入された。小笠原諸島には広く分布し、父島では大群生がみられる。	3m、つる性の常緑草本	畑横の防風林の中や林縁地などに植えられたものが野生化した。	小笠原諸島へは蜜源植物として導入されたが、利用されなくなった。熱帯性木本として流通、栽培される。多くの園芸品種がある。	種子を撒いてその年に咲くので一年生草本としても栽培される。	⑪その他：環境省関東	便覧、JF、熱帯花木、小笠原
新規	65	小笠原・南西諸島	キク	コケセンボンギクモドキ	<i>Erigeron belloide</i>					○	×	—	◎	○	○	○	○	—	—	—	—	原産地不明	1980年に沖縄県で確認され分布を拡大、その後、奄美大島、喜界島で確認。	直径は4～6cm、多年草	やや湿り気のある日当たりの良い環境を好むが、乾燥地にも適応して広がる。公園や林道など人為的な攪乱をされた裸地を好む。		絶滅危惧種のコケセンボンギクと誤認されることがある。	⑦各県：奄美、⑫環境省沖縄奄美	写真図鑑、奄美
新規(候補)	66	小笠原・南西諸島	アカバナ	セイヨウミズユキノシタ(ルドウィジア・パルストリス、ルドウィジア・ナタンス)	<i>Ludwigia palustris</i>	湖沼、河川、湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	北半球の温暖部に広く分布。	1984年頃に渡来。	抽水性の多年草	湖沼、水路、湿地などの水辺、時に水中、泥地や湿った林道などでマット状に生育する。	水槽栽培では節間が長く伸び、あまり向かないが、丈夫で育て易い。	種子と千切れた断片から生育する。奄美大島の遺産のコアエリアに侵入し、渓流域の岩上に生育する希少種と競合している。	⑦各県：奄美、⑫環境省沖縄奄美	写真図鑑、水草Ⅰ、便覧、奄美
新規	67	小笠原・南西諸島	ヒルガオ	ヒメコガネヒルガオ	<i>Merremia gemella</i>																				E.Walker, Fl. Okinawa: 872 (1976) は琉球からの記録はコガネヒルガオの誤同定であろうとする。実際に当時知られていてヒメコガネヒルガオと同定されていた沖縄産標本はツタノハヒルガオと同定できるものであった。	⑦各県：沖縄	YList		
新規(候補)	68	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ベニツツバナ(オドントネマ・ストリクツム)	<i>Odontonema strictum</i>		Ⅳ			◎	×	—	◎	◎	◎	○	○	—	—	○	—	メキシコ～中央アメリカ原産。熱帯地方に広く帰化。	沖縄に分布。	3m、低木状多年草	溪流沿いの林内	草花類として流通、利用される。	種子、栄養繁殖の力は非常に強く、耐陰性があるため、沖縄県の各島で溪流沿いの林内に野生化し広がっている。	⑦各県：沖縄、⑫米倉委員	写真図鑑、園芸事典、JF
新規	69	小笠原・南西諸島	キク	ヒマワリカッコウ	<i>Praxelis clematidea</i>															—	南アメリカ原産。アジア、オーストラリアに分布。	西表島に分布。					⑦各県：沖縄	POWO、梶田ら(2022)	
新規(候補)	70	小笠原・南西諸島	マメ	ドクフジ(デリス、トバ)	<i>Derris taiwaniana</i>		Ⅱ			◎	—	○		◎	○	◎	◎	—	—	◎	—	カンボジア～東インド、マレーシアに分布。	1917年に父島と母島に導入され、野生状の群生地がみられるようになった。	20m、落葉藤木	小笠原の森林内で広く見られる。	戦前に根から農薬用殺虫剤を作るため大量に栽培された。	繁殖力が旺盛で、低木類を覆いつくし、高木類に登はんして、枯死に追い込んでいる。	⑫農水省	Ylist、小笠原
新規	71	小笠原・南西諸島	ミソハギ	ネバリミソハギ	<i>Cuphea carthagenensis</i>					○	—	—	○	○	○		○	—	(○)	—		熱帯アメリカ原産、世界の温帯～熱帯に分布。	南西諸島などの暖地に戦後帰化した。	0.6m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、やや湿ったところを好む。		奄美大島ではコアエリアを縦断する奄美中央線にほぼ蔓延状態。森林域の未舗装路に侵入。種子の伝播は風、雨、動物などによる。	⑫環境省沖縄奄美	野生植物3、世雑Ⅱ
新規	72	小笠原・南西諸島	マメ	ハイクサネム(アメリカゴウカン)	<i>Desmanthus illinoensis</i>					○		○			○			—				北アメリカ原産	沖縄では1965年頃、神奈川県では1997年に確認。奄美で分布拡大中。	1m、多年草	道端、野原、公園の草地			⑫環境省沖縄奄美	便覧、写真図鑑
新規(候補)	73	定着初期／限定分布	オモダカ	ヒメウキオモダカ(サジタリア・スプラタ、サジタリア・スプラータ、アメリカウリカワ、チェーンサジタリア、サジタリア)	<i>Sagittaria subulata</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	○	◎	◎	○	○	—	—	○	—	アメリカ合衆国東海岸の諸州	2016年に富山県高岡市の湧水で確認された。	0.5m、沈水～浮葉性の多年草	淡水または塩分を含む湿地	チェーンサジタリアやサジタリアの名で、アクアリウムプラントとして流通、利用される。ヒメオモダカの名で流通、販売されているのは別種。	駆除をしてもすぐに回復する。バイカモなどの在来種の激減が著しい。生育環境により生育形や葉形の変異が著しく、種内変異や別種を分ける見解がある。	⑫角野委員	Ylist、角野2021、水草Ⅱ、園芸事典
新規(候補)	74	分布拡大期～まん延期	マメ	キダチコマツナギ(トウコマツナギ、中国産コマツナギ、外国産コマツナギ)	<i>Indigofera</i> sp.		Ⅰ			○	◎	○	○	—	○	○	—	—	—	◎	—	中国原産	2000年代前半に逸出、野生化し、北海道～沖縄県に分布する。	4m、落葉低木	荒地、河川敷、道端、道路法面、空地、林縁	新たに道路整備した場所の緑化目的で中国などから導入された。	トウコマツナギ <i>I. bungeana</i> にあてたり、コマツナギ <i>I. pseudotinctoria</i> と同種にする見解があり種の扱いには再検討を要する。※リスト作成時には、外国産コマツナギとして国内に分類していた。	⑥専門家：交雑Ⅺ、⑪各県：栃木・滋賀・兵庫・高知・福岡・佐賀・高松・宮崎、⑫勝山委員	写真図鑑、野生植物2、吉田2015
新規(候補)	75	小笠原・南西諸島	ムクロジ	タイワンモクゲンジ(タイワンセンダンボダイジュ)	<i>Koelreuteria henryi</i>		Ⅳ			◎	—	—	◎	○	○	◎	○	—	—	○	—	台湾、中国原産。	小笠原諸島や南西諸島で時に野生化している。	15m、落葉高木	性質は強健、植栽地周辺の林縁などに逸出する。関東の気候で越冬する。日当たりの良い場所を好む。	温帯性木本として流通、販売される。街路樹、公園樹に利用される。	別学名 <i>K. elegans</i> ssp. <i>formosana</i> 。種子は風散布。	⑫米倉委員	Ylist、JF、琉球樹木、小笠原固有、園芸事典
新規(候補)	76	小笠原・南西諸島	ウコギ	ヤドリフカノキ(ホンコンカボック、シェフレ・アルボリコラ、シェフレ・カボック)	<i>Heptapleurum arboricola</i>		Ⅳ			◎	—	—	◎	○	○	◎	○	—	—	○	—	台湾、中国海南島原産。	小笠原諸島、南西諸島に分布する。	7m、半つる性の常緑小高木	岩場や林縁、湿った林内などに逸出している。0℃程度に耐え、乾燥、日照不足にも強い。萌芽力も強い。	変異が多く、観葉植物類としてホンコンカボック等の様々な品種が流通、販売される。生垣、庭木、公園樹、観葉植物に利用される。中国では薬用にされる。	別学名 <i>Schefflera arboricola</i> 。	⑫米倉委員	野生植物5、琉球樹木、JF、Ylist、小笠原固有、有用、園芸事典

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用									付着混入
新規(候補)	77	小笠原・南西諸島	サボテン	モクキリン(ハキリン)	<i>Pereskia aculeata</i>		Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	○	◎	○	○	－	○	－	南アメリカ原産。	小笠原諸島、南西諸島で野生化している。	10m、つる性の常緑低木、刺がある	耐塩性があり、海岸林や低地の林縁などに野生化している。葉の基部や枝の刺で他の植物を覆うように絡む。	多肉・サボテン類として流通、販売される。庭木や台木に利用される。果実や多汁な葉は食用にされる。	繁殖力が強く、耐塩性もあるため、海岸林を中心に沖縄島ではかなり目立つ存在になりつつある。刺もあって厄介である。	⑫米倉委員	JF、琉球樹木、有用
新規(候補)	78	分布拡大期～まん延期	黄藻植物門ハネケイソウ	ミズワタクチビルケイソウ	<i>Cymbella janischii</i>		Ⅴ			○	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	◎	アメリカ合衆国原産、太平洋岸北西部に分布、太平洋岸北東部に移入。	2006年頃に筑後川水系に侵入し、本州、四国、九州に分布する。	380μm、ミズワタ状に群生する	河川付着珪藻で、河床の石が土砂で埋まって動きにくい場所、コンクリートで固められた場所(水叩き)、岩盤が露出した場所等で生育する。	底生の生物群集構造や食物網構造を変化させる。放流したアユが定着し難くなる。漁網や取水施設を目詰まりさせる。ミズワタ(バクテリアの一種)とよく似ていて誤認の可能性がある。	⑫坪井委員(魚類WG)	水産庁2024、麦倉ら2022		
新規	79	未定着	マメ	カマバアカシア(オーリクリフォルミス)	<i>Acacia auriculiformis</i>			○	○	×	○								○		オーストラリア北部～ニューギニア原産。パングラディシュとブラジルに分布。		小高木	日本では、温帯性木本として流通、利用される。マレーシア地域で街路樹や公園樹、パルプ、薪炭材に利用される。熱帯の造林樹種にされる。		⑩海外:ISSG	JF、有用		
新規	80	未定着	マメ	クラシカルパ・アカシア	<i>Acacia crassicarpa</i>				○	×	○										インドネシアに分布。						⑩海外:ISSG		
新規	81	未定着	マメ	アカシア・サイクロプス	<i>Acacia cyclops</i>				○	×	○											南アフリカに分布。						⑩海外:ISSG	
新規	82	定着初期／限定分布	マメ	フサアカシア(ミモザアカシア、ハナアカシア)	<i>Acacia dealbata</i>				○	×	○								○		タスマニアとオーストラリア原産、チリ、南アフリカ、ヨーロッパに分布。	明治初年に渡来、本州(愛知県、大阪府、広島県、岡山県)で逸出	15m、常緑高木	耐寒性がある。	日本では、温帯性木本として流通する。関東地方以西の沿海部で、庭園樹、緑化樹として栽植される。ミモザの名で庭木、切り花にされる。オーストラリアでは樹脂をアラビアゴムとして利用、原住民は食用にした。	別学名 <i>A. decurrens</i> var. <i>dealbata</i>	⑩海外:ISSG	JF、便覧、有用、園芸事典	
新規	83	未定着	マメ	アカシア・デクレンス(ブラックワトル、ミモザアカシア)	<i>Acacia decurrens</i>				○	×	○								○		オーストラリア東部原産、アルジェリア、エチオピア、インドネシアに分布。		18m、常緑の小高木	寒さに少し弱い。	日本では、温帯性木本として流通、利用される。海外ではアラビアゴムに類似した樹脂が採取され、樹皮はタンニン原料になる。	樹齢が短く、日本での栽培は一般には、すすめられない。	⑩海外:ISSG	JF、有用、園芸事典	
新規	84	未定着	マメ	ホロセリセアアカシア	<i>Acacia holosericea</i>				○	×	○										セネガルとブルキナ・ファソに分布						⑩海外:ISSG		
新規	85	未定着	マメ	ゴールドンワトル(ピクナンタ)	<i>Acacia pycnantha</i>				○	×	○								○		オーストラリア原産、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、アフリカ等に分布する。		8m、常緑の小高木	暖地で育つが生長はあまり良くない。	日本では温帯性木本として流通、利用される。海外では観賞用とタンニン原料として栽植される。		⑩海外:ISSG	JF、有用、園芸事典	
新規	86	未定着	マメ		<i>Acacia sclerosperma</i>				○	×	○										サウジアラビアに分布する。						⑩海外:ISSG		
新規	87	未定着	キク	ユーバトリウム・カンナビナム(ヘンブ・アグリモニ、ホーリーローブ)	<i>Eupatorium cannabinum</i>			○	－	◎	－	○	◎	○	○	○		－	(○)	－	ヨーロッパ原産、ヨ北アフリカ、西アジア、北アメリカに分布する。		1.5m、多年草	牧草地、樹園地の周辺、河岸、荒地、林縁などに生育する。肥沃で湿った所を好む。日当たりのよい河川近くに群生する。	かつてヨーロッパで薬用にされた。	土壌の栄養分や水分が変化し、在来植物の生育環境が変化する可能性がある。種子と木質化した地下茎で繁殖する。多数の種子は主に風で散布され、雨、動物、人間なども関わる。牧草地や果樹園の雑草。	⑩海外:ISSG	世雑Ⅰ、有用	
新規	88	未定着	紅藻植物門オゴノリ	オゴノリ属	<i>Gracilaria gracilis</i>														○		地中海と黒海原産に侵入。			海域	貝類とともに持ち込まれた。	⑩海外:ISSG			
新規	89	未定着	イネ	タイハイヨウカモノハシ(チモールカモノハシ)	<i>Ischaemum timorense</i>			○	－	○								－	(○)	－	南アジア原産、熱帯～亜熱帯に分布。		0.6m、多年草	畑地、牧草地、樹園地、芝地、路傍、荒地	畑作物の収量と品質低下	⑩海外:ISSG	Ylist、農研		
新規	90	未定着	フトモモ	カヌカ	<i>Kunzea ericoides</i>			○	－	◎										－	オーストラリア、ニュージーランド原産、アメリカ合衆国に分布		6m、低木または小高木	牧草地、森林、海岸低木林			⑩海外:ISSG		
新規	91	未定着	イグサ	ルズラ・カンベストリス	<i>Luzula campestris</i>			○	－	○										－	ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、西アジアの温帯に分布する。		0.3m、多年草	芝生地、牧草地、路傍に生育する。日当たりの良いところを好む。	種子を食用にしたことがある。	母種の分布域は限られるが、世界的に変種が多く、日本にも数変種がある(Ylistでは別種扱い)。種子と根茎で繁殖する。種子の伝播は風、水、動物、人間等による。	⑩海外:ISSG	Ylist、世雑Ⅲ	
新規	92	未定着	バラ	ナンヨウバライチゴ(トキンイバラ、ポタンイバラ、ロシフォリウス、コマーンニー)	<i>Rubus rosifolius</i>			○	◎	◎			◎		○	◎		○		○	オセアニア原産、アメリカ合衆国、タイ、大西洋と太平洋の島等に分布。		2m、低木、茎に刺がある	林縁、伐採地、峡谷、湿った森林の下層に生育する。日当たりが良く、湿った栄養豊富な土壌を好む。	日本では観賞用に宝永年間(1704～10)に庭に植えられた。現在も温帯果樹として流通、利用される。海外では果実は食用、葉のお茶は薬用にされる。自生地では攪乱された場所の再生に利用される。	果実は鳥やネズミに散布される。	⑩海外:ISSG	園芸事典、JF	
新規	93	未定着	イネ	スポロボルス・アフリカヌス	<i>Sporobolus africanus</i>			○	－	◎								－	(○)	－	○	オーストラリア、北アメリカ、アフリカ、に分布する。		1m、多年草	路傍、草地、牧草地	海外では果実や葉が薬用にされる。	種子は大量に生産され、最長10年間生存する。種子は動物、衣服、車両、機械に付着する。種子は土壌を介して機械や車両に付着して拡散し、汚染された乾草や牧草の種子を介して繁殖する可能性がある。	⑩海外:ISSG	世雑Ⅲ
新規	94	分布拡大期～まん延期	ナデシコ	ノミノコブスマ	<i>Stellaria alsine</i>					○		－	－	○	－		－	○	－	○	ユーラシア原産、温帯に分布する。ヨーロッパ、北アフリカ、アジア、北アメリカ、ニュージーランドに分布する。	1965年ごろ渡来、北海道、本州(東京都、長野県、岡山県)、九州(大分県)に分布。	0.4m、越年草	原野、畑地、路傍、湿地などに生育する。湿ったところを好み、日当たりの良い所～半日陰に適する。肥沃地に多い。熱帯～亜熱帯の高冷地にもみられるようになった。	フランス領南方地域で侵略的。ムギ類の栽培に伴って世界各地に広がった。種子と根茎で繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物、人間などによる。	⑩海外:ISSG	便覧、帰化植物、世雑Ⅱ		

生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会 設置要綱

1. 目的

「生態系被害防止外来種リスト」（平成 27 年 3 月作成）について、最新の科学的知見等を踏まえた見直しを行うため、「生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

2. 構成及び運営

- （1）検討会は別紙に掲げる委員及び関係府省をもって構成する。
- （2）検討会に座長を置き、委員より選出する。
- （3）座長は議事を進行する。
- （4）座長に事故等のやむを得ない事情があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
- （5）座長は、必要に応じ、構成員以外の有識者の参加を求めることができる。
- （6）座長は、必要に応じ、特定の分類群について集中的に検討を行うワーキンググループ会合を設置することができる。
- （7）検討会は、原則公開とし、会議資料及び議事概要は環境省のウェブページ上で公表する。

3. 事務局

本検討会の事務局は環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室が務める。事務運営の一部を、環境省自然環境局から業務を受託した者が行う。

(別紙)

生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会 名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	職 名	備 考
安部 哲人	日本大学 生物資源科学部 教授	植物生態学、島嶼生態系保全
石井 実	大阪府立大学 名誉教授 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長	昆虫学
石橋 徹	いのかしら公園動物病院 院長	両生・爬虫類学、飼育
岩崎 敬二	奈良大学文学部地理学科 教授	海産無脊椎動物学
小林 達明	千葉大学大学院園芸学研究院 教授	再生生態学
川上 和人	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 野生動物研究領域 鳥獣生態研究室 室長	鳥類全般
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員	魚類学、陸産・陸水産無脊椎動物学
西田 智子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 総括執行役 兼 西日本農業研究センター所長	農業雑草、リスク評価
細谷 和海	近畿大学 名誉教授	魚類学、保全生物学
亘 悠哉	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 野生動物研究領域 鳥獣生態研究室 主任研究員	外来種インパクト評価、外来種管理、人獣共通感染症リスク評価

生態系被害防止外来種リスト見直しに係る意向調査結果概要

生態系被害防止リストにおいて追加すべき種や除外すべき種について、地方公共団体を
含め、関係省庁、検討会及びWG 会合の委員に向けて意向調査を実施した。

1. 地方公共団体からの回収状況

1,114 の地方公共団体からアンケートに対しての返事があり、このうち追加要望を記載し
ていたのは 56 の地方公共団体であった。地方公共団体から追加意見のあった種は全部で 83
種であり、そのうち最も多く提案されたのは、植物はナガミヒナゲシ、動物はツヤハダゴマ
ダラカミキリであった。また、現行リストでは掲載していないクサガメについても複数意見
があった。

(1) アンケート回答状況

返答数	1,114
外来種リスト有無に回答した地方公共団体	1,091
外来種リストがある地方公共団体	64
外来種リストがない地方公共団体	1,027
防除対策中の外来種がいる地方公共団体	532
重要視している外来種がいる地方公共団体	400
追加してほしい外来種がいる地方公共団体	56

(2) 追加候補の主な提案種

分類群	種名	地方公共団体数
植物	ナガミヒナゲシ	18
植物	メリケントキンソウ	9
昆虫	ツヤハダゴマダラカミキリ(特定外来生物)	5
爬虫類	クサガメ	3
魚類	コイ	3
鳥類	サンジャク	2
魚類	カムルチー	2
昆虫	サビイロクワカミキリ(特定外来生物)	2
その他無脊椎	チュウゴクスジエビ	2
その他無脊椎	アジアベッコウ	2
植物	ビロードモウズイカ	2

2. 意見照会の結果まとめ

地方公共団体以外に、農林水産省及び環境省外来生物対策室、5つの地方環境事務所（北海道、東北、中四国、九州、沖縄）から提出された。このうち、北海道地方環境事務所については、追加意見はなかった。また、生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会の検討委員及び植物、魚類WG委員からも意見が提出された。

令和5年度時点に外来生物対策室から共有のあったものを含め、追加候補として複数の意見があった種類及び、除外候補として意見のあった種類は下表の通りである。

（1）追加候補として意見のあった種のうち、複数意見があった種

分類群	追加候補種	環境省	農林水産省	地方公共団体 (複数回答を含む)	親検討会・WG委員 (複数回答を含む)
鳥類	サンジャク	外来室、中四国		●	●
爬虫類	クサガメ	外来室		●	
魚類	外来タナゴ類	関東、中四国			●
	カムルチー			●	
	カラドジョウ			●	●
	カラドンコ			●	●
	コイ			●	●
	コウライオヤニラミ	九州			●
	マーレーコッド				●
	メダカ(飼育種)	九州		●	
	ロングイヤーサンフィッシュ				●
昆虫	サビイロクワカミキリ	東北	●	●	
	ツヤハダゴマダラカミキリ	東北、中四国	●	●	
	ツヤオオズアリ	関東、沖縄		●	
	ハヤトゲフシアリ	沖縄		●	
	ヤエヤママドボタル	関東、沖縄		●	
	ムネアカハラビロカマキリ	関東、中四国		●	
	ソテツシロカイガラムシ	外来室、沖縄	●	●	
その他無脊椎	アジアベッコウ	関東、沖縄		●	
	エリマキコウガイビル	関東		●	
	オガサワラリクヒモムシ	沖縄		●	
	カワリヌマエビ属			●	●
	チュウゴクスジエビ	関東		●	●
植物	オウゴンカズラ(ポトス)	関東、沖縄	●		●
	シロツメクサ	沖縄		●	●
	クサヨシ				●
	シンクリノイガ	関東		●	
	センダンキササゲ	沖縄			●
	ナガハグサ				●
	ナガミヒナゲシ	外来室、沖縄		●	●
	ハバパイア	関東	●		
	ビロードモウズイカ			●	
	ブタナ			●	●
	メリケントキンソウ	沖縄		●	●
	ユーカリ属		●		●

(2) 除外候補として意見のあった種

分類群	除外候補種	環境省	農林水産省	地方公共団体	親検討会・WG 委員
植物	ヒイラギナンテン				●
	ナンキンハゼ				●
	ハルガヤ				●
	シマスズメノヒエ				●
	タチスズメノヒエ				●
	ヒロハオモダカ				●
	木本植物の「その他の定着予防外来種」全般				●
	シマトベラ				●
	ハナフカノキ				●

第 1 回魚類 WG 及び植物 WG の議事概要

1. 令和6年度 第1回生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会魚類ワーキンググループ会合 議事概要

日 時：令和 6（2024）年 8 月 7 日（水）15:00～17:50

場 所：オンライン会議

検討委員：

内田 和男	国立研究開発法人水産研究・教育機構 フェロー
鬼倉 徳雄	九州大学農学研究院 教授
加納 光樹	茨城大学 地球・地域環境共創機構 流域圏環境部門 教授
北村 淳一	三重県総合博物館 主幹兼課長代理
立原 一憲	元琉球大学 教授
坪井 潤一	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所 主任研究員
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員
○細谷 和海	近畿大学 名誉教授
松田 征也	元滋賀県立琵琶湖博物館
渡辺 勝敏	京都大学大学院理学研究科 教授

（五十音順、敬称略、○は座長）

環境省：

松本 英昭	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長
藤田 道男	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐
田口 知宏	自然環境局野生生物課外来生物対策室 係長

農林水産省：

古林 五月	大臣官房みどりの食料システム戦略グループ 課長補佐
-------	---------------------------

水産庁：

田中 庸介	増殖推進部研究指導課 研究管理官
松井 恵子	漁場資源課生態系保全室 課長補佐
大野 蒼一郎	漁場資源課生態系保全室 調査第 2 係

【議事概要】

(1) 生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会魚類ワーキンググループの設置

＜資料説明＞

資料1：生態系被害防止外来種リストの見直しについて

＜意見等＞

- ・ワーキンググループの座長として、細谷委員が選出された。
- ・このリストは防除に直接繋がるものではなく、防除検討のための基礎資料となる。

(2) 生態系被害防止外来種リスト見直しの進捗状況等【報告事項】

＜資料説明＞

資料2：生態系被害防止外来種リストの見直しの方向性について

＜意見等＞

- ・カテゴリの枠組みを変更してすっきりしたと考えている。「その他」という曖昧な表現がなくなり、緊急対策外来種と重点対策外来種という、どちらが重要なのか分かりにくい名称が統合されて分かりやすくなった。
- ・緊急と重点は防除手法の有無で分けられていたが、緊急が上、重点が下という序列があるような言葉の印象を与えていた部分に対して、どちらも重要だというカテゴリになるように変更した。
- ・各種のカテゴリ分けについては、今後改めて検討いただきたいと考えている。
(環境省)

(3) 加除対象候補種について

＜資料説明＞

資料3-1：リストの見直しに係る作業方針について

＜意見等＞

- ・資料の p2 に遺伝的攪乱に関する記述があるが、これは、個別の種はリストに掲載しないということか。
→そのとおりである。(環境省)
- ただし、問題となっている改良品種(ヒメダカ、キンギョなど)については検討する。
- ・本リストのカテゴリごとにどのような罰則や規制が設けられるのか。
→このリストは法令に基づき規制をかけるものではない。(普及啓発などの)基礎資料となるデータベースとして用いるもので、規制されるのはこの中の特定外来生物のみである。(環境省)

- ・資料 p2 の「別の遺伝的形質を有する同種」の部分は地域個体群を守るためと
考えてよいか。言葉遣いが分かりにくいので直した方がよい。たとえば「導入」
を「放流」にするなど。
- 地域個体群の保全のためである。公開に際して説明の修文は可能である。（環
境省）
- 「導入」という言葉は環境省の外来種関連の記述でよく使われるが、人が意図
的に持ち込む行為という印象を受けやすく誤解を招きやすい。誤解なく国民
に伝えることを考えていただきたい。
- ・資料 p2 の 4 行目にある属・科等の単位でも指定し得ることに留意していただ
きたい（「サンフィッシュ科」など）。在来種の自然分布域での遺伝的攪乱をも
たらすものについてもご提案いただきたい。また、国内由来の外来種について
も検討が必要である（沖縄のオイカワなど）。

＜資料説明＞

資料 3－2：リスト加除対象の候補種の抽出方法及び選定基準

＜意見等＞

- ・現行リスト作成時、「XX の情報がある」との部分は文献主義で進められており、
文献がない場合に、合理的な推測の下でのリスト掲載がなかなか認められな
いという経緯があった。たとえばサンフィッシュ科の未侵入種は食性や温度
耐性がブルーギルとほぼ同じと推測されるし、既に未判定外来生物となっ
ている。こういうものは予防的観点に立って掲載していただきたい。一方で、基
準を整理しなければ魚食性の種を全て掲載するという話になってしまう。
- その点については、検討委員からの意見が後押しとなる。（事務局）
- ・資料 p1 のフローの侵略性評価で定着と未定着に分けているが、定着は繁殖し
ていることだと思う。繁殖はしないが大きな影響を与えるであろう種（西湖で
クニマス卵を食害するヨーロッパウナギ等）が掲載されない可能性を危惧し
ている。資料 p3 にある「定着可能性」をどう考えたらよいか。
- ヨーロッパウナギの例だと、繁殖はしなくても国内導入の可能性があるため
掲載は可能と考えている。（事務局）
- （※注：実際には基準に照らすと定着可能性が皆無のものはリスト掲載範囲外
だが、本種は別地域への導入や繁殖できない水域からの逸出の可能性もある
ため掲載範囲に含まれる。）
- 定着、未定着を繁殖の有無で評価するとの点については、単純に 1 回の繁殖で
は判断できず、ある程度長い期間で見ないと分からない。たとえば、沖縄では
シルバーアロワナが繁殖していたが、寒い冬に消滅したので未定着であった。
オイカワも増えているが、これまで沖縄に持ち込まれたコイ科魚類は一時的

に増えてもいなくなる例があり、もう少し長く見ないと分からない。ただし、オイカワは北部に飛び火したという情報もあり、アオバラヨシノボリ等への影響を危惧している。

→ソウギョやハクレンは利根川等の長距離河川以外では繁殖できないと考えられているが、魚体が大きく寿命が長いことから長期間にわたり影響を与え続ける。このような種も検討の俎上に乗せるべきである。

＜資料説明＞

資料３－３：リスト加除対象の候補種一覧＜動物（魚類）＞

＜意見等＞

【国外外来種】

- ・種類が多いのでまずは国外外来種から検討する。第一に、候補の中で除外した方がよい種について意見をいただきたい。

- ・ヨーロッパウナギは繁殖しておらず除外でもよいかと思ったが、クニマスへの影響があるので掲載すべきと考え直した。

→本種は30年以上ととても長寿で、導入している業者から逸出したりニホンウナギと間違えて放流される可能性もあり、リストアップは妥当である。

→採れるのは30+、50+（30歳以上、50歳以上）というきわめて高齢の個体ばかりで、再生産をしている可能性は極めて低い。しかし、ニホンウナギが捕れないと業者がヨーロッパウナギを混入・放流させる可能性がある。ただ、リストに掲載することで、現場に防除推進の圧力が加わってしまう可能性があり、山梨県水試への負担の配慮という点からは、リストアップに躊躇する。しかし、最終的には本WG委員のご意見、環境省の判断に従いたい。

- ・次に、国外外来種の中で候補に追加すべき種についてご意見をいただきたい。

- ・ポリプテルス・セネガルスが沖縄で確認され、繁殖は不明ながら越冬している。

→生態系被害の情報があれば教えていただきたい。（事務局）

→定着しているかどうかは不明で、生態系被害も分からない。

→被害等が確認されれば、将来的には属としてひとくくりで掲載予定とすることとしたい。

- ・本来は外来種を日本に入れるべきではないので、入れても大丈夫というお墨付きを与えるようなやり方ではなく、ホワイトリスト的な検討はできないのか。それができないのであれば、なるべく属や科を包括的にリストに載せた方がよいのではないか。

→このリストの作成理由として、特に危険なものについてステータスを整理し、地方自治体などの対策の指針とすることを目指している。何でも入れるのではなく、ある程度絞り込んで順位を付けている。（環境省）

- タナゴ類は外来タナゴ亜科として広く掲載する案が提示されている。一方、プレコ類では、マダラロリカリアはリストに加えセルフインプレコは加えないことになっているが、同じように包括的に加えた方がよいと考える。
- 賛同する。近縁種で同じような生態のものを属や科でまとめるのはよいと考える。
- カムルチー、タイワンドジョウなど、既に定着していて有名な種は、「*Channa* 属全種」などでまとめると普及啓発の点でPRし難いため、あえて種名で掲載した方がよいという案もある。(環境省)
- その辺りの考え方は検討委員に任せていただきたい。渡辺委員、事務局らと個別に話をしていきたい。
- 現在、異なる包含関係のものを候補に加えているが、その中に定着種と未定着のものが含まれている場合、カテゴリを分ける必要がある。また属全体をリストに載せる場合、「*Channa* 属 (カムルチーなど)」というように、括弧書きで個別種を挙げる記述もできる。(環境省)
- 包含関係については、植物などで代表種を括弧書きで記述したものもあるので、属の他に別途種を載せるかどうかというルール作りが必要である。また、特定外来生物が上位分類群で指定されると、それに含まれる種が一見して分からなくなってしまうのが問題である。
- ・マーレーコッドとゴールデンパーチは特定外来生物指定の検討対象となっていたが保留となり、マーレーコッドが管理釣り場に導入されてしまった経緯がある。
- ご意見のとおり、マーレーコッドは管理釣り場に導入されて逸出などの可能性があったので候補種とした。一方、ゴールデンパーチは候補種としていないが、どちらも加えた方がよい。(事務局)
- 両種は原産地のオーストラリアで保全対象となっていることもあり、特定外来生物に指定されなかった経緯があった。しかし、現地では両種とも釣り対象魚であり、日本の釣り人もそれをよく分かっているため、両種とも掲載した方がよい。
- 両種は、過去特定外来生物の指定候補であったことから未判定外来生物から外されていたが、結局、指定されなかったのに、未判定外来生物に含まれないままになっており、手続き不要で輸入が可能な状態であった。そのためにマーレーコッドが導入されてしまった。どちらも候補種とした上で、早く未判定外来生物に指定すべきである。
- ゴールデンパーチも利用がある可能性を考慮して候補種に加える。(事務局)
- ・カワイワシが岡山で定着しているが、検討しなくてもよい。何か知見はないか。(環境省)

- 旭川水系だけではなく岡山平野に広く拡散しており、論文もある。ただし被害状況は不明である。
- カワイワシは象徴的な種なので候補種とした方がよい。
- 伊豆沼の報告書に掲載されている。
- カワイワシの論文は事務局にもあるので共有したい。(環境省)
 - ・国外外来種、国内外来種とも、タナゴ亜科は全てまとめて掲載でよいと考える。啓発目的で象徴的な種を加えるのはよい。スネークヘッドも属 (*Channa*) でまとめてよいと考える。
- 今の段階では外国産タナゴ亜科と各種の掲載に分けてリストアップし、後のカテゴリ区分において検討したい。(事務局)

【国内外来種】

- ・ヤリタナゴ、タイワンキンギョは遺伝的攪乱の観点からの掲載となる。またタカハヤは論文もあり、掲載でよい。
- ・静岡に導入されているヒナモロコは台湾産の種なので国外外来種として掲載すべきである。九州では在来種との交雑により純粋なヒナモロコがいなくなった実例がある。二次的な拡散も懸念される。
- 静岡のものはキクチヒナモロコ *Aphyocypris kikuchii* という国外外来種である。東限のカワバタモロコとの生態的競争の可能性も懸念した方がよい。
- ・沖縄のオイカワについて、現在分布している比謝川では問題は少ないが、沖縄島北部に入るとキバラヨシノボリ、アオバラヨシノボリの仔魚を捕食して大きな被害をもたらす可能性があるので掲載した方がよい。
- 被害の想定があるので候補種とした方がよい。
- ・フクドジョウは本州に広く分布しているので候補種に加えた方がよい。
- ・九州で問題となっているのはコウライモロコとタモロコで、前者は新規候補とした方がよい。タモロコは広がっているが、空きニッチに入り込んでいる可能性があり、影響は不明である。また、オイカワの本州集団が九州に入っており、地域集団への遺伝子攪乱が生じているので候補とした方がよい。また、九州のゼゼラでも遺伝的攪乱が起こっており、九州の固有集団は一水系のみに残されていることから候補とした方がよい。
- タモロコの琵琶湖集団については、元々の状態がよく分からないために問題視し難い。ただし、スワモロコに近いとされる E3 グループの生息地(天竜川水系)に琵琶湖のものが入って交雑の可能性があるため、候補種になると思う。
- ・事前に意見を送ったダントウボウとカラドンコが掲載されており、ともに候補種でよいと思う。分布拡大を止めるなら今であろう。
- ・イトヨは滋賀県米原市醒井のハリヨの生息地に侵入し、遺伝子攪乱を引き起こ

しているので加えていただきたい。

- ・資料 3-3 に掲載した追加候補種は全て掲載とする。それ以外に本日ご意見をいただいた種については、事務局と座長とで見直して共有したい。
- ・本日の WG によって候補種の選定方法が分かったと思う。対象種は多く、もっと多くの情報がありそうなので、各委員に時間をかけてリストを見直していただき、意見をいただいたらどうか。

(4) その他

- ・今後の予定として、12 月に第 2 回 WG を開催する。各委員にもう一度リスト候補を見直していただきご意見をいただければと考えている。(環境省)
- ・本 WG 終了後、各委員に対し再度の意見聴取をした上で、事務局と座長でリストを成形し、第 2 回 WG に向けて、改めて委員に事前確認していただきたい。
- ・今回は追加候補種のスクリーニング作業と思うが、第 2 回 WG ではカテゴリ判定についての作業も行うのか。

→そのように考えている。(環境省)

- ・専門的なリスト作成について特に意見はないが、リストに掲載された種がどのような取扱いとなるのかといった点を注視しつつ、会議に参加させていただきたい。(水産庁)
- ・リストの位置付け及び内容を広く分かりやすく伝えることに注意したい。また、別途、改定に向けて検討している外来種被害防止行動計画において、リストを踏まえた計画内容への反映を通じ、外来種問題の普及啓発や実効性ある外来種対策の更なる推進へ活用を図って行きたい。(環境省)

以上

2. 令和6年度 第1回生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会植物 ワーキンググループ会合 議事概要

日 時：令和6（2024）年8月23日（金）9：30～12：00

場 所：オンライン会議

検討委員：

安部 哲人	日本大学 生物資源科学部 教授 【御欠席】
江川 知花	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域 主任研究員
勝山 輝男	神奈川県立生命の星・地球博物館 名誉館員
角野 康郎	神戸大学 名誉教授
黒川 俊二	京都大学大学院 農学研究科 教授
○小林 達明	千葉大学 名誉教授
小山 明日香	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 主任研究員
藤井 伸二	人間環境大学 環境科学部 准教授
米倉 浩司	一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究所 上席研究員

（五十音順、敬称略、○は座長）

環境省：

松本 英昭	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長
藤田 道男	自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐
田口 知宏	自然環境局野生生物課外来生物対策室 係長

農林水産省：

古林 五月	大臣官房みどりの食料システム戦略グループ 課長補佐
湊谷 陽太	大臣官房みどりの食料システム戦略グループ 係長
信戸 一利	畜産局畜産振興課 課長補佐

林野庁：

津山 藍	森林利用課 花粉発生源対策調整官
藤本 泰樹	森林利用課森林環境保全班 企画係長
日吉 晶子	森林利用課森林環境保全班 推進係長

【議事概要】

(1) 生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会植物ワーキンググループの設置

<資料説明>

資料1：生態系被害防止外来種リストの見直しについて

<意見等>

- ・ワーキンググループの座長として、小林委員が選出された。
- ・本日（第1回）はリストに掲載する種の検討をする。次回（第2回）は、第1回で選出した種について、カテゴリの位置付けや付加情報について検討する予定である。

(2) 生態系被害防止外来種リスト見直しの進捗状況等【報告事項】

<資料説明>

資料2：生態系被害防止外来種リストの見直しの方向性について

<意見等>

- ・現行リストを作成する際には、行動計画と併せて検討していかないと混乱が起きるのでないかという議論があったかと記憶している。今回の見直しでは、行動計画の見直しも含めて検討されたという認識で問題はないか。
- 行動計画の見直しも併せて図っているところである。行動計画の中でも外来種リストのカテゴリの説明についてなど、同時並行で進めている。（環境省）
- 方針は現行リストの時から大きく変わらないという認識でよい。方針が変わった場合は、リストの位置付けやカテゴリは、行動計画に合わせて考え方を変えなければならないのか。
- リストのカテゴリの位置付けなどは、リスト検討会で議論されているので、行動計画の議論を受けて、大きく位置付けが変わることはなく、資料2の説明のとおり。また、リスト親検討会と行動計画の座長および委員には一部共通の委員にご参画いただいております、各検討会で進捗共有を図りながら進めている。行動計画とリストの関係性は従来通りだが、主流化から実践へコンセプトを変えていく中で、リストのカテゴリの見直しや種のリストアップが重要となる。（環境省）
- 従来のリストのカテゴリは分かりにくいという委員の意見から、今回のカテゴリは整理されている。また、「防除」という言葉が明確に入っているが、これは行動計画検討会においてこれまでは導入を主眼としていたが、これからは積極的に防除を進めるという観点が反映された文言である。第2回ワーキンググループではカテゴリの位置付けや付加情報について検討して行きたい。

(3) 加除対象候補種について

<資料説明>

資料3-1：リストの見直しに係る作業方針について

資料3-2：リスト加除対象の候補種の抽出方法及び選定基準

資料3-3：リスト加除対象の候補種一覧<植物>

<意見等>

【資料内容について】

- ・資料3-2のP.1にある選定手順のフロー図にはよく理解できない箇所がある。このフローでは掲載候補種を絞ることができない。
- P.5の内容をフロー図に取り込むことで正しく説明できると思うので、事務局でフロー図を再検討してもらいたい。
- ・海外からの外来種には、全国的に被害が生じるタイプの種と、一部の地域では大きな問題が生じているが、全国的には問題になっていないタイプの種がいる。小笠原諸島や南西諸島等世界遺産に登録されている地域で被害が出た場合、生態系が重要視されているので掲載候補となると思うが、対馬など重要地域として指定されていない地域で一部の外来種が猛威を振るっていた場合はどのように扱うのか。地域的なアンバランスが生じる種に関し、その地域に詳しい委員がいるかないかで判定が変わる場合もある点が懸念される。
- 一部の地域で被害があるような種も掲載対象になると考えている。今回は地域単位の外来種リストや条例などを踏まえてリスト案を作成しているため、地域でのアンバランスはある程度は考慮されると考えている。また、備考欄などに「特に対馬で問題となっている」などの注記を入れることで、リスト内容を充実させていきたい。(環境省)
- 今回のリストには、根拠資料として自治体で作成しているリストが含まれており、現行リストより進展がみられる部分である。

【委員が選出した加除対象種について】

- ・加除対象種の意向調査の依頼が来た際、リスト見直しにあたっての基本方針が不明であったため、どのように回答してよいか分からなかった。現行リストは、リスクのある種を広く掲載する形で作成した。しかし、リストを作成してから8年が経過したことで、リストに掲載したが実際には問題にならない種が見えてきたように感じる。そのため、今回は実際にリスクのある種に候補を絞って、メリハリをつけたほうが良いと考えている。
- ・侵入予防の観点から、未定着の外来種として特に木本類が多く挙げられている。ギョリュウについては、国外の情報から危険性がよく分かるので候補種として問題ないと思うが、その他の種については本当に国内に導入される可能

性があるのか、侵入した場合にどのような影響があるのかについて、再検討した方がよいと考える。また、現行リスト掲載種から再検討を依頼した種としては、街路樹などに利用される種を挙げている（ヒイラギナンテン、ナンキンハゼなど）。これらについては、一部で自然環境下に逸出しているという話は聞いているが、それほど大きな被害が出ているとは聞かないため再検討をするべきと考えている。また、ハルガヤ、シマスズメノヒエ、タチスズメノヒエについても挙げているが、日本の自然環境になじんできている種についても取り上げる必要があるのか疑問がある。無闇に候補種を追加しない方がリストの価値を高められると思われる。

- 追加すべき種として、現行リストでは外来セキショウモ類としてまとめられているが、本当に問題となっているのはオーストラリアセキショウモ、コウガイセキショウモの 2 種である。特にコウガイセキショウモは、在来セキショウモとよく誤同定されている。これらについては正しく認識される必要があり、個別で載せるべきと思う。
- ヒメウキオモダカはまだ分布拡大していないが、流通しており湧き水のある環境に入ると増殖する傾向があるため注意が必要である。
- フランスギク、園芸スイレンはカテゴリをより防除が進むように見直すほうがよい。特に園芸スイレンは平地から高山にまで侵入し、希少種を含め多くの在来種を絶滅に追い込んだ事例が数多くある。
- 南西諸島の最近の外来種の侵入状況を踏まえて、特に木本性種を提案した。街路樹として植えられていたものから種子散布により自然植生に広がってしまった種や、国立公園の溪流・自然林の中にまで侵入が確認されているサトイモ科、キツネノマゴ科など耐陰性がある種を挙げている。これらは、実際に自然植生を侵食していると考えられるものである。
- 追加候補種としてナガハグサを挙げた。本種は国際的に侵略的外来種として扱われており、昨年公表された IPBES のレポートでも生態系サービスに影響を与える種としてリストアップされている。国内の自然公園等生物多様性保全上重要な地域でも侵入報告があることに加え、在来種との競合が報告されている。また、エゾシカの嗜好性が高いなど他の生物相への影響も考えられる。雑草リスク評価においても侵略性のスコアが高く、現行リストに掲載されている種と同等の数値である。
- メスキート (*Prosopis juliflora*) という種も挙げているが、本種も国際的に問題となっている種であり、植物相だけでなく間接的に動物相にも影響を出すなど、広範囲な影響があるため候補として挙げている。ただし、日本への定着可能性については検討の余地がある。

- ・クサヨシについては現在研究しており、DNA 分析の結果、在来のクサヨシと外来のクサヨシは遺伝的にまったく異なる集団であることが判明している。また、これらが交雑している可能性があることも判明している。
- ・ハルガヤについては、北海道の牧草地の難防除雑草として知られており、農業被害が出ている状態である。また、北日本のミズゴケの湿原にも侵入しており、雑草リスク評価を行った結果を見ても侵略性が低いというわけではないと考える。
- ・シロツメクサ、ブタナ、ナガハグサを追加候補種として挙げている。資料 3-1 の「2. リスト見直しの作業手順について」の④現行リスト作成時、「掲載種の候補には上がったものの、議論の結果、非掲載となった種」にあたるが、「新規の情報等がある場合は候補とする」とあり、今回の提案が新規の情報に当たるのかを判断するため、前回の検討でリストから外れた経緯などをご教示いただきたい。
- シロツメクサとブタナについて、現行リストから外された経緯が不明なため、今回もひとまず追加候補種とする。
- ・ナガミヒナゲシ、メリケントキンソウについては、近年地方公共団体の関心が高まってきているようなので、候補種として提案した。
- ・ユーカリ属については、世界的に長らく植林用の樹種として用いられてきたが、近年バイオエタノール生産の産業利用が拡大してきた背景から、追加候補種として挙げた。
- ・キダチコマツナギは引き続き使われているので追加候補種として挙げた。現行リストに関して、予防的観点から広範に掲載したことは良かったと考えている。種によって地域的な被害の大小などもあり、どのような影響が表れるか不明瞭な部分もあるため、今回もなるべく広範に掲載した方が良いと考えている。街路樹などは流行ると大量に輸入されて植栽木などとして利用される傾向もあり、予防的な意味で未定着のものも掲載をした方が良いと考えている。

【選出された候補種の妥当性について】

- ・資料 3-3 で候補となっているものが追加または削除される認識である。この点、ご意見いただきたい。
- ・未定着のものでも危険性の高いものを掲載しておくことに異論はない。再検討が必要というのは、日本に導入して利用する可能性があるかどうかなど、取舍の検討をした方が良いという点で意見させていただいた。ハルガヤについては牧草地や湿原でリスクがあるということなので、除外しないでよいだろう。
- ・現行リストを作成し公表したことによる効果について検証する必要がある、そこから得られた課題なども出した上で、議論を進めるべきと考えている。選出

- する種類を広範にするのか、絞るのかについての方向性を明確にしていきたい。方向性が決まればそれに異論はない。
- 効果検証は、十分に行われていないと感じている。国民にとってリストが分かりにくい面がある点も否めない。しかし、本リストが特定外来生物を指定する上での一つの資料になるという側面もあるため、明確に絞ることができる場合は削除してもいいと思うが、種数が多いから減らすという方向にはしなくてよいと思われる。
- 未定着のものについて、海外で侵略性が担保されているものを掲載するとすれば、リストのスリム化できるのではないか。しかし、現行リスト公開後の未定着種について、リストから外すのは時期尚早だと考える。海外で被害事例があつて国内で被害が確認されていない種について、個々の種についてのデータがなく判断できない。
- ・未定着のものを削除するかについては明確な指針がないため難しいが、木本類の場合、未定着だから外すという考えは危険である。木本類は、仮に侵入して侵略性を発揮した場合、手が付けられなくなるというリスクが草本類より遥かに高い傾向にある。実際に、*Cecropia* や *Ardisia* などは IUCN 世界のワースト 100 に記載があり、海外の例を見ると強い侵略性を示すことが知られているため、国内の重要地域に入った場合の影響が懸念される。国内の気候が合っていない種類であるが、実際に入ってみないと分からない部分が多いため、未定着で国内影響が不明だからといって不用意に外すべきではないだろう。
 - ・事務局にはもう少し情報を整理し、リスト掲載種を再検討いただく。特に木本類については、未定着だから外すという観点ではなく、安全ベースで検討する方向でお願いする。ワーキングの後にももしご意見があれば、事務局へ個別に意見を送付していただきたい。
 - ・クサヨシの系統の話があつたが、在来系統と外来系統は形態的に識別できるのか。
- 両者を形態的に識別することは困難である。ただし、生え方（群生の密度）や生育している場所などに違いがみられそうである。在来系統の生育地はかなり狭い地域に限られており、調べた範囲では関東地方では茨城県の霞ヶ浦周辺など限られた範囲のみで、こういった地域の在来個体群は特に保全対象になりうると考えている。
- 現在、外来のクサヨシは牧草として用いられていないのか。
- パラトンが種子販売されており、山形県や新潟県など一部の地域でもまだ使用されているようであり、また緑化にも使われているようだ。
- クサヨシでなければならないという特段の理由はあるのか。
- 牧草としてのクサヨシは泥炭地などの加湿地で使用された背景がある。北海

道の釧路や道北などの本来は湿地だった場所では、オーチャードグラスなどの牧草が育たなかったため、クサヨシを活用していたようだ。

→掲載する場合、「クサヨシの外来系統」というような表記になると思われる。
引き続き検討する必要がある。

- ・キダチコマツナギはFlora of Chinaや日本の野生植物ではコマツナギと同一種とされているが、別種として掲載して良いものなのか。

→生態的にも違い見られるため、分けて掲載した方が良いと考えている。

→マメ科では木立するタイプと、基部から枝を分ける（這う）タイプが同種として扱われ、形態的な変異に有意差が出てくる場合もあるので、ハビット（一般的な形態）の違いだけで別種にするのは難しい。両種は分けられても変種レベルなのではないかと考えている。

→次回も議論させてほしい。

（４）その他

- ・今後もし何か意見があれば事務局に伝えてよいか。

→問題ない。

- ・昆明・モントリオール生物多様性枠組の個別目標 6 では導入率や定着率など具体的な数値目標が提示されているが、本リストが目標達成に使われるなど関連があるか教えて欲しい。

→リストのカテゴリによって、個別目標 6 に貢献する形である。「侵入・定着防止外来種」については 2030 年まで侵入を阻止することを目標とし、このうち特定外来生物の定着を 0、特定外来生物以外については 50%以下に下げること为目标としている。（環境省）

- ・追加候補として挙がっているナガミヒナゲシについて、5 年前に関東圏で本種のアレロパシーが甚大な被害を与えるというデマが流れた。外来種なので、防除に反対する気はないが、防除するべき種にもっと力が向くように外来種の情報の流し方を戦略的に進めた方が良いだろう。正しい知識と対処方法を広められるようにしたほうが良い。リストに入れる際には、社会の誤った流れを助長しないように注意する必要がある、デマに近い情報が多く流れている種を現在挙げるのは危険なイメージもある。

→リストは外来種に留意しましょうというツールである。そのため、仮にナガミヒナゲシを入れる場合、備考も簡潔に情報を書き込むこともできるので、積極的にご提案いただければと思う。（環境省）

→個人的にはナガミヒナゲシを入れることに疑問は残る。

→資料に農業雑草のような書き方をされているが、日本ではそのような話は聞いたことがない。

- 地方公共団体の関心も高いこともあり候補に挙げたが、他の掲載種に比べて、本種が特筆すべき種ではないため、検討の結果入れる必要がないと思われる場合は、削除で問題ない。
- 事務局で一度検討してほしい。
- 環境省としては、掲載することに否定的というわけではない。(環境省)
 - ・本リストは昆明・モントリオール枠組の 50%削減という目標達成の指標に使われるということだが、特に定着予防外来種について、今回のリストに掲載されることによって輸入検疫や規制など、何らかの法規制がかかることはないという理解で良いか。
- その認識で問題ない。(環境省)
 - ・第 2 回植物ワーキンググループは 12 月の実施を想定している。今年度 1 回目の親検討会は 9 月 17 日に実施予定である。(環境省)

以上